

病院年報
第38号(令和3年度)

令和3年度 第38号

病院年報

桐生地域医療組合

桐生厚生総合病院



巻 頭 言

院 長 加 藤 広 行

皆様、こんにちは。平素より大変お世話になっております。このたび、桐生厚生総合病院の令和3年度の年報を上梓いたしましたので、謹んでお届けいたします。ご笑納いただければ幸甚に存じます。

さて、2021年を振り返りますと、一昨年に引き続き新型コロナウイルスに振り回され、波乱に満ちた1年でした。感染状況は4月から6月までの「第4波」、7月から9月の「第5波」、1月からの「第6波」と3つのピークがありました。そして「第5波」は極めて感染力が強いデルタ株による感染拡大で、史上初の1年延期を経て迎えた東京五輪、パラリンピックの開催と重なってしまいました。両大会共に原則無観客で行われ、日本国民ならびにアスリートにとって寂しい大会となりました。しかしながら多くの感動と勇気を与えてくれましたアスリートには敬意と感謝を表したいと存じます。そして何よりも、オリンピックの舞台を作ってくれた関係者や、大会の開催に尽力したボランティアらには改めて感謝の念に堪えません。



次に「第6波」は、オミクロン株への急速な置き換えによる更なる感染拡大で、全国で初めて10万人を突破し、東京都では初めて2万人を超え、それぞれ過去最多を更新しました。その後ワクチン接種の普及により、徐々に漸減しつつ世界的にも経済活動が復活しております。今後は「第7波」に対する対策整備ならびにウィズコロナの時代に向けて、多くの関係者ならびに医療従事者に全面的なご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

このようなコロナ禍で、2022年2月末にロシアのウクライナ侵攻が勃発しました。これは世界中を巻き添えにしており、まぎれもない世界戦争に類似する侵略行為と考えざるを得ないでしょう。21世紀で世界的には地球温暖化対策、核廃絶、飢餓や貧困などの課題に取り組むSDGsを唱える一方で、軍事侵略を堂々と遂行している国際社会をどのように理解し次世代に伝えるべきでしょう。日本の安全保障や防衛手段などをはじめ、国際社会における立場について熟考を重ねるべきでしょう。

当院は、昨年に引き続き、米国週刊誌「Newsweek」による、世界基準の優良な医療機関を評価したランキング「World's Best Hospitals 2022」の日本版に選出されました。この評価は、当院の職員一人ひとりの尽力の賜物であり、大変光栄なことで心より職員全体に感謝申し上げたいと考えております。

今後も、地域医療に誠心誠意貢献できるように、ウィズコロナ時代に耐えうる診療体制を確立し、群馬県民ならびに桐生みどり両市民のご期待に沿える持続可能な医療を提供したいと考えております。皆様のご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

最後に令和3年度に群馬県医師会、桐生市医師会の皆様方、および群馬大学附属病院をはじめとする県内医療機関の各関係者に格別なるご指導とご支援を頂戴しましたことに衷心より感謝し御礼申し上げます。

目 次

ま え が き

I	病院の現況と沿革	1
1	病院の現況	1
(1)	病院の概況	1
(2)	組合構成団体の地勢と位置	5
2	病院の沿革	6
II	組 織	14
1	組 織 図	14
2	管理職員氏名	15
3	職員数の推移	20
4	年度別職種別職員数	21
5	歴代管理者・副管理者及び院長	22
6	組合議会の現況	23
(1)	議会の開会経過	23
(2)	議会議員氏名等	24
(3)	議会議決事項等	25
7	管理者・副管理者会議	25
8	医療組合各種委員氏名等	26
9	会計監査開催状況	26
10	公平委員会開催状況	26
11	病院倫理委員会開催状況	27
12	医師確保対策事業について	27
III	会 議 等	28
1	委員会組織図	28
IV	教 育 研 修	29
1	病院実習	29
2	医師臨床研修制度	33
V	経 営 状 況	36
1	比較損益計算書	36
2	比較貸借対照表	37
VI	重要な成果	38
1	The World's Best Hospitals 2年連続受賞	38
2	新型コロナウイルス感染症への取り組み	38
3	病院情報システムの更新	39
4	管理者・副管理者との意見交換会	39

VII 業 務 概 要	40
1 診療圏患者受診状況	40
2 入院・外来患者状況	41
3 科別入院患者数	42
4 科別外来患者数	43
5 科別時間外受診患者状況	44
5-1 小児科時間外受診患者状況（再掲）	44
5-2 科別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況	45
5-3 月別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況（再掲）	45
6 科別救急搬送患者状況	46
7 年齢別患者年報（年度別）	46
8 死亡・剖検数の疾病分類	47
退院患者疾病大分類統計	53
9 手術	54
（1）科別・麻酔別手術件数	54
（2）科別・疾患別手術件数	55
10 内視鏡患者数	61
11 分娩件数・内訳	63
12 新生児未熟児センター	63
13 ICU・CCU入室患者数	64
ICU・CCU稼働率	64
14 腎センター	65
（1）慢性透析の概要	65
15 人間ドック・健康診断等	65
（1）人間ドック・健康診断利用者数	65
16 リハビリテーション科	66
（1）理学療法	66
（2）作業療法	66
（3）言語療法	67
17 臨床工学科	68
（1）医療機器管理	68
（2）臨床技術提供	68
①呼吸療法部門	68
②循環器部門	68
③血液浄化部門	69
④高気圧酸素部門	69
⑤手術室部門	69
⑥NICU部門	69

18 放射線科	70
(1) 部門別年度別総件数	70
(2) 一般撮影部門	70
(3) マンモグラフィ部門	70
(4) 出張撮影部門	71
(5) CT部門	71
(6) MRI部門	71
(7) 循環器部門	72
(8) 透視(X-TV)部門	73
(9) RI部門	73
(10) 放射線治療部門	74
(11) 骨密度検査部門(前腕骨)	74
(12) 画像入出力部門	74
19 中央検査部・病理診断科	75
(1) 検査種目別件数の推移	75
(2) 検査種目別件数の構成比	75
(3) 年度別検査項目別件数	76
(4) 剖検件数	77
(5) 細胞診件数	77
(6) 細菌同定検査情報	78
(7) 外部委託検査件数	80
(8) 血液製剤使用状況	80
(9) 血液製剤購入・廃棄状況	81
(10) 自己血採血状況	82
(11) お手軽けんさ	82
20 薬剤部	84
(1) 処方箋枚数と院外処方箋発行率	84
(2) 医薬品使用状況	84
(3) 麻薬施用状況	84
(4) 薬事審議委員会審議医薬品件数	85
(5) DIへの項目別問合せ件数	86
(6) 特殊調剤・特殊製剤	87
(7) 注射薬セット	88
(8) 薬剤管理指導業務	88
(9) 持参薬報告件数	89
(10) 無菌製剤調整	90
21 食養科	91
(1) 患者延食数	91
(2) 個人指導件数	92
(3) 洗濯食延食数	93

(4) お祝い膳延食数	93
22 通院治療センター	93
23 再診電話受付受診件数	94
(1) 診療科別	94
(2) 市町村別	95
24 診断書文書作成件数	95
25 専門外来件数	96
26 医療の質（臨床指標：クリニカルインディケーター）	96
(1) 病院全体のクリニカルインディケーター	96
① 病床利用率、平均在院日数	96
② 救急車搬入患者数	96
③ 退院後6週間以内の緊急入院率	96
④ 24時間以内の再手術率	96
⑤ 年間退院患者に占めるがん患者の割合	97
⑥ 2週間以内の退院サマリー作成率	97
⑦ 剖検率	97
⑧ ワーファリン服用患者における出血傾向モニタリング(INR)	98
⑨ 輸血製剤廃棄率	99
⑩ 意見箱投書(感謝の占める割合)	100
⑪ 褥瘡発生率	100
(2) 感染のクリニカルインディケーター	101
① 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率	101
② 血液培養のボトルが複数提出された患者の割合	102
③ MRSA検出状況	103
(3) 医療安全のクリニカルインディケーター	104
VIII チーム医療	105
1 医療安全対策委員会	105
2 病院感染対策委員会・感染対策室・ICT（・AST）	106
3 褥瘡対策委員会	107
4 クリニカルパス委員会	109
5 NST委員会	110
6 呼吸器サポートチーム(RST)委員会	111
7 医療ホスピタリティ推進委員会	113
8 輸血療法委員会	115
IX 地域医療連携室	116
1 医療相談業務	116
2 科別紹介患者数・入院	118
3 科別紹介患者数・外来	118
4 地域別紹介患者数・入院	119
5 地域別紹介患者数・外来	119

6	科別戻し・逆・新規紹介患者数	120
7	地域別戻し・逆・新規紹介患者数	120
8	科別紹介患者数(当日救急対応分)	121
9	科別事前予約患者数	122
10	オンライン検査予約	122
11	母体搬送・新生児搬送受入れ数	123
12	在宅医療未熟児等一時受入事業	123
13	退院調整患者数	124
X	地域がん診療連携拠点病院	125
1	がん相談支援センター	125
2	院内がん登録	126
3	化学療法委員会	126
4	緩和ケアチーム	127
5	がん患者サロン（サロンあおぞら）	128
6	キャンサーボード	128
XI	地域支援活動	129
1	地域講演会	129
2	地域への情報提供	130
3	母親学級	134
4	職場体験受入	134
5	極低出生体重児の親の会「クラブ・プリミー」	135
6	桐生市堀マラソン大会の支援	135
7	リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2020ぐんま	135
8	令和3年度（第4回）桐生厚生総合病院連携登録医大会	135
XII	研修業績	136
1	学会及び院外研修会	136
2	学会発表・講演・論文	145
3	主な講演会・研修会	159
4	研修実績	162
XIII	災害拠点病院	173
1	指定要件	173
2	群馬県の災害拠点病院	173
3	DMA T	173
XIV	各部署の紹介	174

XV	病院施設及び医療機器	206
1	建設改良工事等	206
2	病院施設設備の概要	207
3	主な医療機器購入一覧表	211
XVI	図 書	212
1	受入図書	212
2	購入雑誌	214
XVII	病院行事	216
1	主な行事	216
2	職員健康管理	216
3	職員共済会	217
XVIII	付属施設等	218
1	群馬県立赤城特別支援学校桐生厚生総合病院内教室	218
2	感染症病床	220
XIX	編集委員・部員名簿	221

《基本理念》

信頼され、心が通う地域医療

《基本方針》

- 1 患者さんの権利を尊重します。
- 2 患者さん自身で治療を選べるよう、わかりやすく十分に説明します。
- 3 地域の急性期医療を担います。
- 4 地域の医療・介護機関と緊密に連携します。
- 5 診療の質を高めるため、研鑽・研修に努めます。
- 6 医療の安全確保に努めます。
- 7 効率的で健全な病院経営を目指します。
- 8 職員が誇りを持って働ける病院を目指します。

《患者さんの権利》

- 1 人間として尊重され、適切な医療を平等に受けられます。
- 2 プライバシー・個人情報が保護されます。
- 3 わかりやすい説明を受ける事ができます。
- 4 検査・治療を納得して自分で決めることができます。
- 5 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます。
- 6 診療記録の開示を請求することができます。

《患者さんの責務》

- 1 自身の健康に関する情報を正確に伝えてください。
- 2 納得できるよう、わからないことは質問してください。
- 3 自身の医療に積極的に参加してください。
- 4 他の患者さんの診療に支障を来さないよう配慮してください。
- 5 教育病院として多くの実習生が研修していますので、ご理解ください。
- 6 診療費は適切にお支払いください。

I 病院の現況と沿革

1 病院の現況（令和4年3月31日現在）

（1）病院の概況

名 称	桐 生 厚 生 総 合 病 院
所 在 地	〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
電話番号	(0277) 44-7171 代表
FAX 番号	(0277) 44-7170
U R L	https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/
E-mail	webmaster@kosei-hospital.kiryu.gunma.jp
開 設 者	桐生地域医療組合（桐生市とみどり市で共同設置）
管 理 者	荒 木 恵 司 （桐生市長）
副 管 理 者	須 藤 昭 男 （みどり市長）
病 院 長	加 藤 広 行
標 榜 科 目	内科、精神科、神経内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、 血管外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓外科、乳腺外科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、 リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、緩和ケア内科、 歯科・歯科口腔外科
施 設	敷地面積 17,220.57 m ² 建物面積 34,088.69 m ² 〔地下1階（一部地下2階）・地上8階・養護学校 582.710 m ² 含む〕
病 床 数	一般病床 429床 感染症病床 4床 計 433床
病院機能評価認定	一般病院2（3rdG:Ver.1.1）
診 療 指 定	保険医療機関 国保療養取扱機関 労災保険指定病院 指定難病指定医療機関 救急告示指定病院 短期人間ドック 生活保護法指定病院 養育医療機関指定病院 群馬県エイズ診療協力病院 第二種感染症指定医療機関 地域がん診療連携拠点病院 災害拠点病院（地域災害医療センター） 災害派遣医療チーム群馬 DMAT 指定病院 群馬県地域周産期母子医療センター 原爆被爆者一般疾患医療取扱病院 指定小児慢性特定疾病医療機関 肝疾患専門医療機関 指定自立支援医療機関（育成・更生医療・精神通院医療） 母体保護法指定医 身体障害者福祉医療指定医 地域医療支援病院
教 育 指 定	臨床研修病院（平成14年4月1日厚生労働省指定） 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設（内科系） 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会基幹施設 日本小児科学会専門医研修施設 日本周産期・新生児医学母体・胎児認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本外科学会専門医制度修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設 日本消化器外科学会専門医制度修練施設

日本整形外科学会専門医制度研修施設
 日本脳神経外科学会専門医認定制度連携施設
 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
 日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設
 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 日本産婦人科内視鏡学会認定研修施設
 日本眼科学会専門医制度研修施設
 日本麻酔科学会麻酔指導病院
 日本ペインクリニック学会指定研修施設
 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
 日本病理学会研修登録施設
 日本臨床細胞学会認定施設
 日本栄養代謝学会 NST 稼働認定施設
 日本口腔外科学会認定准研修施設
 日本輸血・細胞治療学会 I & A 認定施設
 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設
 認定臨床微生物検査技師制度研修施設
 認定輸血検査技師制度指定施設
 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師暫定研修施設
 薬学教育協議会薬学生長期実務受入施設

施設基準

- 基本診療科の施設基準等に関する届出
 - ・急性期一般入院基本料 1 ・入退院支援加算 1 (地域連携診療計画加算・入院時支援加算・総合機能評価加算)
 - ・ハイケアユニット入院医療管理料 1 ・新生児特定集中治療室管理料 2
 - ・小児入院医療管理料 3 ・小児入院医療管理料 4 (保育士加算有)
 - ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 ・歯科外来診療環境体制加算 2
 - ・歯科診療特別対応連携加算 ・臨床研修病院入院診療加算 (基幹型)
 - ・医師事務作業補助体制加算 1 (25 対 1)
 - ・医療安全対策加算 1 (地域連携加算)
 - ・感染防止対策加算 1 (地域連携加算・抗菌薬適正使用加算)
 - ・診療録管理体制加算 1 ・がん診療連携拠点病院加算
 - ・病棟薬剤業務実施加算 1、2 ・後発医薬品使用体制加算 1
 - ・救急医療管理加算 ・超急性期脳卒中加算
 - ・妊産婦緊急搬送入院加算 ・データ提出加算
 - ・患者サポート充実加算 ・急性期看護補助体制加算 (25 対 1)
 - ・療養環境加算 ・重症者等療養環境特別加算
 - ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算
 - ・呼吸ケアチーム加算 ・認知症ケア加算 2
 - ・せん妄ハイリスク患者ケア加算 ・排尿自立支援加算
 - ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ・地域医療体制確保加算
 - ・地域包括ケア病棟入院料 2 ・回復期リハビリテーション病棟入院料 3
- 特掲診療料の施設基準等に関する届出
 - ・薬剤管理指導料
 - ・検体検査管理加算 (I) ・検体検査管理加算 (IV)
 - ・小児科外来診療料 ・小児食物アレルギー負荷検査
 - ・喘息治療管理料 ・糖尿病合併症管理料
 - ・がん性疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
 - ・がん治療連携計画策定料 ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 - ・外来化学療法加算 1 ・連携充実加算 ・無菌製剤処理料
 - ・乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検 (併用)

- ・糖尿病透析予防指導管理料
 - ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
 - ・肝炎インターフェロン治療計画料
 - ・夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
 - ・開放型病院共同指導料
 - ・医療機器安全管理料 1 ・医療機器安全管理料 2
 - ・H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
 - ・遺伝子学的検査 ・神経学的検査
 - ・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
 - ・運動器リハビリテーション料(I)
 - ・呼吸器リハビリテーション料(I)
 - ・がん患者リハビリテーション料
 - ・人工腎臓(慢性維持透析 1)(導入期加算 1)(透析液水質確保加算)
 - ・一酸化窒素吸入療法 ・C A D / C A M 冠
 - ・ニコチン依存症管理料 ・内服・点滴誘発試験
 - ・外来排尿自立指導料 ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
 - ・ヘッドアップティルト試験 ・悪性腫瘍病理組織標本加算
 - ・C T 透視下気管支鏡検査加算
 - ・C T 撮影及びM R I 撮影 ・大腸C T 撮影加算
 - ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
 - ・輸血管理料 I (輸血適正使用加算、貯血式自己血輸血管理体制加算)
 - ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 - ・麻酔管理料(I) ・放射線治療専任加算 ・外来放射線治療加算
 - ・高エネルギー放射線治療 ・経皮的冠動脈形成術
 - ・経皮的冠動脈ステント留置術
 - ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 - ・大動脈バルーンパンピング法(I A B P 法)
 - ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 - ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術 ・人工尿道括約筋植込・置換術
 - ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 - ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 ・病理診断管理加算 1
 - ・歯科疾患管理料の注 11 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
 - ・クラウン・ブリッジ維持管理料 ・地域連携診療計画加算
 - ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
 - ・強度変調放射線治療(I M R T) ・1 回線量増加加算
 - ・画像誘導放射線治療(I G R T) ・体外照射呼吸性移動対策加算
 - ・定位放射線治療
 - ・心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
 - ・婦人科特定疾患治療管理料 ・B R C A 1 / 2 遺伝子検査
 - ・先天性代謝異常症検査 ・小児運動器疾患指導管理料
 - ・椎間板内酵素注入療法
 - ・精密触覚機能検査 ・腹腔鏡下仙骨膿固定術
 - ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
 - ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 ・外来栄養食事指導料の注 2
- 入院時食事療養の基準等の関する届出

診 療 時 間
人 間 ド ッ ク
腎 セ ン タ ー

・入院時食事療法(I)…1 食につき・特別食加算…1 食につき・食堂加算
午前 8 時 45 分から午後 5 時 30 分まで
1 日ドック週 5 回
ベッド数 13 床 定数 25 名

通院治療センター
救急体制
高度医療機器

リハビリテーション科
新生児未熟児施設
特定集中治療室
病理解剖施設
職員数

ベッド数 12 床
救急治療室、救急指定、第二次救急病院群輪番制
ライナック、全身用マルチスライスCT(128 列)2 台、
連続血管撮影装置、MRI(1.5T・3T)2 台
リハビリテーション室、言語療法室、水治療法室
ベッド数 27 床(NICU12 床、GCU15 床)
ベッド数 6 床(ICU3 床、CCU3 床)
病理組織検査室、解剖室、標本室
総数 593 人(令和 4 年 3 月 31 日現在)

(2) 組合構成団体の地勢と位置

当組合の構成市は、関東地方の北西部、群馬県の東端にあり、栃木県と隣接します。中央部を渡良瀬川が流れ県境とほぼ平行するように桐生川が流れています。やがて合流して関東平野へと続いて行きます。平成18年3月27日から桐生市とみどり市の2市から構成されており、人口は約15万人、面積は484km²でその75%以上が山林に占められていて典型的な盆地の地形と気象を呈しています。

医療組合構成団体の地勢



市 名	人口(人)	世帯数
桐生市	103, 739	44, 608
みどり市	49, 069	19, 534
合 計	152, 808	64, 142

令和 4.3.1 現在『群馬県移動人口調査』



交 通 ● J R 桐生駅(南口)から徒歩約10分
● 東武新桐生駅から車で5分

2 病院の沿革

昭和 9 年 2 月 1 1 日	桐生市諏訪町(現東一丁目)881-1 番地において、桐生医療購買利用組合立の「桐生組合病院」として病床数 20 床で発足した (診療科 4 科 医師 4 名 病床 20 床)
昭和 1 6 年 1 2 月 2 6 日	同年 5 月末日にさかのぼって群馬県購買販売利用組合連合会の経営となり、病院の名称も「桐生組合病院」から「桐生厚生病院」となる
昭和 1 8 年 2 月	群馬県購買連は県信連と総合して群馬県信用販売購買利用連合会となる
昭和 1 9 年 1 月	利用組合連合会が群馬県農業会に改組となる
昭和 2 3 年 8 月 1 6 日	県農業会が解散したため群馬県生産農業共同組合連合会に委譲となる
昭和 2 3 年 1 2 月	桐生地方国民健康保険団体連合会が設立され、同年 8 月にさかのぼって生産農業協同組合連合会から一切を譲り受けた
昭和 2 5 年 1 2 月 2 6 日	診療科 7 科、外科・内科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科及び理学診療科
昭和 2 6 年 4 月 5 日	地方自治法第 284 条による地方公共団体の組合として、桐生市外十二箇町村医療事務組合(構成市町村は、桐生市、大間々町、梅田村、相生村、川内村、福岡村、毛里田村、黒保根村、東村、新里村、笠懸村、薮塚本町及び強戸村)が設置され国保連合会から引き継がれた
昭和 2 6 年 1 1 月 1 日	小児科標榜(8 科)
昭和 2 7 年 4 月 2 日	2 箇町村(栃木県小俣町と菱村)加入により桐生市外十四箇町村医療事務組合となる
昭和 2 7 年 8 月 1 8 日	一般病床 100 床、結核病床 60 床、計 160 床
昭和 2 9 年 7 月 2 8 日	一般病床 108 床、結核病床 102 床、計 210 床
昭和 3 0 年 8 月 2 日	梅田・相生・川内村が桐生市に、川内村の一部と福岡村が大間々町にそれぞれ合併になり桐生市外十箇町村医療事務組合となる
昭和 3 2 年度～ 昭和 3 5 年度	4 箇年継続事業として、厚生年金保険積立金還元融資を受け、桐生市織姫町 6 番 3 号に鉄筋コンクリート 6 階建(延 6, 185. 58 m ²)を新築
昭和 3 3 年 9 月 1 6 日	開設許可(群馬県指令医 第 198 号)
昭和 3 4 年 1 1 月 7 日	町村合併(強戸村が太田市に、菱村が桐生市に合併した)により桐生市外八箇町村医療事務組合となる
昭和 3 5 年 6 月 1 4 日	一般病床 216 床(2 類看護)、結核病床 71 床(3 類看護)、計 287 床
昭和 3 5 年 6 月 2 0 日	諏訪町から現在地に移転
昭和 3 5 年 6 月 2 0 日	開設届出(群馬県指令医 第 112 号)
昭和 3 5 年 9 月 3 0 日	「総合病院」として承認され名称も「桐生厚生総合病院」となる 診療科 10 科、内科・小児科・外科・整形外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科及び理学診療科
昭和 3 7 年 1 0 月 6 日	看護婦宿舎 2 階建新築(延 1, 207. 50 m ²)
昭和 3 8 年 7 月 2 9 日	町村合併(坂西町「旧小俣町」が足利市に合併した)により桐生市外七箇町村医療事務組合(昭 39. 3. 19)となる
昭和 3 9 年 9 月 2 8 日	病棟、鉄筋コンクリート 4 階建(延 1, 264. 64 m ²)を増築、この病床数 105 床、全病床数は一部使用変更により一般病床 314 床、結核病床 71 床、計 385 床

昭和40年	1月26日	歯科診療廃止(9科となる)
昭和40年	4月26日	町村合併(毛里田村が太田市に合併した)により桐生市外六箇町村医療事務組合となる
昭和44年	3月24日	新病棟、鉄筋コンクリート2階建(延 918.72 m ²)を増築、この病床にコバルト室・ラジウム病床・手術室4室・リハビリテーション室等を設置した 病床数は377床(うち結核病床71床)となる
昭和44年	6月26日	病床数は383床(うち結核病床71床)となる
昭和45年	8月1日	脳神経外科を新設、診療科は10科となる
昭和46年	1月18日	結核病床を71床から32床減床し、一般病床に振り替えた 病床数は一部使用変更により一般病床348床、結核病床32床、計380床となり、結核病棟は6階から4階に移動した
昭和46年	5月20日	皮膚泌尿器科は皮膚科と泌尿器科に分かれ診療科は11科となる
昭和47年	8月14日	診療棟、3階建(延 844.32 m ²)を増築、小児科・脳神経外科・泌尿器科・皮膚科・眼科検査室・図書室・研究室などが入る 小児病棟、3階建(延 411.42 m ²)を増築、小児病棟は34床増えて一般病床382床、結核病床32床、合わせて414床となる
昭和48年	3月5日	独協医科大学研究室、2階建(延 476.38 m ²)を新築 病床数は一部使用変更により一般病床362床、結核病床32床、計394床
昭和48年	3月10日	一部使用変更により一般病床360床、結核病床32床、計392床となる
昭和48年	12月6日	看護婦宿舎・鉄筋コンクリート6階建(延 2,954.64 m ²)を新築した 定員:170人 所在地:織姫町5番43号
昭和48年	12月10日	看護婦宿舎の一部に院内託児所(桐の子保育所)を開設し、看護婦の幼児の保育を始めた
昭和49年	4月9日	桐生市立昭和小学校病弱学級を旧看護婦宿舎内に開設した
昭和49年	5月29日	伝染病隔離病舎・鉄筋コンクリート2階建(延 669.86 m ²)を病院敷地内に新築、伝染病舎の病床数は30床、一般360床・結核32床、計422床
昭和49年	8月27日	人工腎臓装置・循環器系X線装置等を設置し、小児病棟を10床増床して一般病床は370床となる(結核・伝染病床は変わらず)
昭和49年	9月28日	6階病棟が2床減床となり一般病床368床となる
昭和50年	11月17日	結核病床を15床減床して17床とした一般病床は12床増床して380床となり、合わせて病床数は427床となる(伝染病床数は30床のまま)
昭和53年	5月18日	独協医科大学研究室に3階(238.19 m ²)を増築した
昭和54年	4月1日	病弱学級が群馬県立東毛養護学校桐生厚生総合病院分室となり、小・中学部を設置した
昭和55年	3月22日	中庭に管理・診療棟(223.487 m ²)を増築、ギプス室・水治療室(ハバートタンク)・中央注射室・小会議室などを設置した
昭和55年	4月1日	養護学校分教室が東毛養護学校桐生分校に昇格した
昭和55年	4月7日	放射線科を標榜、診療科は12科となる
昭和56年	10月28日	一般病床380床、結核病床11床、伝染病床30床、合わせて421床となる
昭和58年	6月11日	結核病床を廃止
昭和58年	7月4日	一般病床398床、伝染病床30床、合わせて428床となる
昭和59年	5月23日	桐生厚生総合病院開院50周年記念式典並びに祝賀会を開催(桐生市産業文化会館にて)

昭和59年10月1日	第101回定例議会終了後の全員協議会において病院増改築計画案が原案で了承された
昭和61年3月1日	第105回定例議会で病院増改築事業費(継続費)が承認された
昭和61年6月14日	病院増改築事業のため伝染病床30床の廃止が許可される
昭和61年10月30日	病院増改築第1期工事(病棟工事)に着手
昭和62年5月19日	中国陝西省人民医院と友好病院締結の調印式が行われた
昭和63年8月1日	神経内科を標榜、診療科は13科となる
昭和63年10月28日	病院増改築第1期工事(病棟工事)完成 新病棟は鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階(一部地下2階)地上8階建てで一般病床510床、伝染病床20床となる
昭和63年11月1日	心臓血管外科を標榜、診療科は14科となる
昭和64年1月1日	新病棟完成に伴い、看護基準・基準給食・寝具基準を再申請する
平成2年1月26日	病院増改築第2期工事(外来棟工事)完成
平成2年2月1日	麻酔科及び歯科を標榜、診療科は16科となる
平成2年5月7日	病院増改築第3期工事(外構工事)完成 病院増改築工事竣工
平成2年5月23日	病院増改築落成式
平成3年10月25日	中国陝西省人民医院との「友好病院締結に関する覚書」延長の調印式が行われた(中国西安)
平成6年5月16日	磁気共鳴断層撮影装置(MRI)の運用を開始する
平成6年6月1日	精神科と呼吸器外科を標榜、診療科は18科となる
平成8年7月31日	骨密度測定装置導入
平成8年7月31日	ICUの3床を2床に、NICU・新生児未熟児センターの16床を17床に変更
平成8年10月1日	中国陝西省人民医院との「盟約書及び盟約書に基づく友好病院締結に関する覚書」の調印式が行われた(中国西安)
平成9年3月27日	災害拠点病院として指定
平成9年4月1日	特定療養費に係る療養の提供実施(1,050円)
平成9年4月1日	標榜診療科変更届出(理学療法科からリハビリテーション科、歯科から歯科・歯科口腔外科へ変更)
平成9年8月18日	NICU改修工事着工
平成9年11月30日	NICU改修工事完成
平成11年3月31日	伝染病床20床廃止
平成11年4月1日	一般病床510床、感染症病床4床、合わせて514床となる
平成11年11月1日	オーダーリングシステム導入
平成12年11月1日	診療録等開示を開始
平成13年3月31日	院内保育所及び看護婦宿舎廃止
平成13年5月1日	桐生厚生総合病院のホームページを開設
平成14年4月1日	臨床研修病院として厚生労働省から指定
平成14年6月21日	院外広報誌<ほほえみ>創刊号発刊(以降3ヵ月毎に刊行)
平成14年11月18日	病院機能評価(一般病院種別B)の認定
平成15年1月23日	中国陝西省人民医院との「友好病院締結に伴う調印式」及び「人民医院院長へ名誉顧問称号の贈呈式」を行う

平成15年	2月	3日	感染症病棟の改修工事が完了し、感染症病棟4床及び人間ドック待合室・会議室等の使用を開始する
平成15年	4月	1日	回復期リハビリテーション病棟を6階東病棟に36床設置する
平成15年	4月	1日	地域医療連携室新設
平成15年	5月	1日	地域医療連携室を外来棟2階に移設し、外来棟1階に精神科を移設し、病棟1階に移設した中央注射室にて外来化学療法も開始した
平成15年12月	1日		女性専用外来の開始(毎週月曜日午後、完全予約制)
平成16年	2月	9日	急性期患者への高度医療提供としてMRIを増設し、2基の運用を開始する
平成16年	3月11日		コバルト照射治療を廃止し、放射線発生装置(ライナック)の施設検査の合格を受け運用を開始する
平成16年	5月	1日	循環器科を標榜、診療科は19科となる
平成16年	7月	1日	回復期リハビリテーション病棟を6階西病棟へ移設、11床増床し、43床とした
平成16年	8月	1日	亜急性期入院医療管理料(36床)の施設基準
平成16年	9月	1日	全館禁煙の実施
平成16年10月	1日		放射線発生装置の運用により高エネルギー放射線治療等の施設基準
平成17年	3月28日		藪塚本町が、新設合併により組合を脱退。(構成団体:1市2町3村)
平成17年	3月31日		看護婦宿舎の解体工事により70台分の駐車場が整備された
平成17年	4月	1日	亜急性期入院医療管理料(36床→30床)
平成17年	4月	1日	病院図書室開放
平成17年	6月	1日	お見舞いメールお届けサービス開始
平成17年	6月	1日	群馬県地域周産期母子医療センター
平成17年	6月13日		桐生市、新里村、黒保根村編入合併により桐生市を形成 (構成団体:1市2町1村)
平成17年12月	1日		再診電話当日受付開始
平成18年	3月27日		笠懸町、大間々町、(勢多)東村新設合併によりみどり市を形成 (構成団体:2市)
平成18年	3月27日		組合名称を「桐生地域医療組合」に変更し、2市で運営することとなる
平成18年	4月	1日	医療安全対策室を新設
平成18年	5月	1日	褥瘡対策室を新設
平成18年	6月	1日	敷地内禁煙
平成18年	7月	1日	禁煙外来を開設
平成18年11月	1日		一般病棟入院基本料(7対1)施設基準 (特定集中治療室管理料及び新生児入院医療管理加算取下げ)
平成19年	1月	1日	亜急性期入院医療管理料(30床→24床)
平成19年	1月31日		地域がん診療連携拠点病院として厚生労働省から指定
平成19年	2月	2日	患者さんの権利・責務制定
平成19年	3月	1日	亜急性期入院医療管理料(24床→6床)
平成19年	3月	1日	電子レセプト運用開始
平成19年	4月	1日	NICU病棟(6床→9床)、GCU病棟(11床→12床)に増床した
平成19年	4月	1日	入院基本料等(7対1看護)の施設基準(一般入院)第78号 457床から419床(休床35床+NICU3床)に変更
平成19年	4月	1日	医事システム入れ替え(HOPE WIN)

平成19年	4月	1日	がん相談支援センター開設
平成19年	7月	1日	DPC準備病院認定
平成19年	11月	18日	病院機能評価(Ver. 5.0)の更新認定
平成19年	11月	26日	病院情報システム(含電子カルテ)
平成20年	1月	7日	セカンドオピニオン外来開設
平成20年	4月	1日	臨床工学科設置
平成20年	4月	1日	初診に係る保険外併用療養費の改正(1,580円)
平成20年	6月	9日	地域医療連携室移設拡充工事完了
平成20年	11月	1日	回復期リハビリテーション病棟入院料(6階西病棟43床)を辞退
平成20年	12月	1日	6階西病棟を亜急性期病床37床・一般病床6床に移行 亜急性期入院医療管理料Ⅰ(6階西病棟37床)を取得
平成21年	3月	31日	桐生厚生総合病院改革プラン策定
平成21年	3月	31日	日本輸血・細胞治療学会Ⅰ&Ⅱ認定施設
平成21年	4月	1日	お手軽けんさ開設
平成21年	5月	1日	オンライン検査(CT・MRI)予約システム(C@Rna:カルナ)導入
平成21年	7月	1日	DPC対象病院に移行
平成21年	7月	1日	乳腺外来開設
平成21年	7月	7日	フットケア外来開設
平成21年	10月	1日	バナー広告開設・患者サロン開設
平成22年	1月	6日	助産師外来開設
平成22年	3月	25日	ESCO事業者選定(H23.3.31 工事完了引渡)
平成22年	4月	1日	感染対策室新設
平成22年	6月	1日	亜急性期入院医療管理料Ⅰ(37床→36床)
平成22年	8月	1日	小児時間外受診体制の新たな取組
平成23年	2月	1日	時間外診療費特別料金(3,360円)の徴収
平成23年	4月		群馬県の要請に基づき、医療救護班(医師1名・看護師2名・事務1名)派遣 【宮城県南三陸町・志津川中学校 3日～6日(4日間)】
平成23年	7月	12日	厚生労働省より、災害派遣医療チーム群馬DMAT病院に指定 【医師1名・看護師2名・薬剤師1名・事務1名】
平成23年	10月		地域医療再生基金補助金によるMRI(3.0T)、DSA(多目的血管撮影装置)導入
平成23年	12月		地域医療再生基金補助金による障害者歯科のための外来診療室改修工事等
平成24年	3月		地域医療再生基金補助金による小児周産期医療拡充整備事業 【NICU・GCU各3床増床、母児同室等の施設機器整備】
平成24年	4月	1日	地域再生基金実施に伴い、一般病床502床、感染症病床4床、計506床
平成24年	4月	1日	亜急性期入院医療管理料Ⅰ(36床→35床)
平成24年	4月	1日	感染防止対策加算Ⅰの施設基準
平成24年	7月	1日	亜急性期入院医療管理料Ⅰ(35床→29床)
平成24年	11月		ハッピー健康相談室(新規)
平成24年	11月	1日	病理診断部を中央検査部から分離
平成24年	12月	7日	病院機能評価(Ver. 6.0)の更新認定
平成25年	2月	1日	初診に係る保険外併用療養費の改正(2,100円)
平成25年	3月	1日	1階正面玄関横旧喫茶コーナーを「情報コーナー」として改装

平成25年	3月29日	第2期桐生厚生総合病院改革プラン策定
平成25年	4月1日	臨床研修病院入院診療加算(協力型から基幹型へ変更)
平成25年	7月1日	療養環境加算(75床)の施設基準
平成25年	7月1日	亜急性期入院医療管理料(29床→23床)
平成25年	12月1日	医師事務作業補助体制加算区分(25対1→30対1へ変更)
平成26年	2月1日	地域医療連携室だより「きずな」を発刊する
平成26年	2月1日	透析液水質確保加算(加算1→加算2へ変更)
平成26年	3月31日	桐生厚生総合病院ホームページ リニューアル
平成26年	4月1日	病理診断科を標榜、診療科は20科となる
平成26年	4月1日	循環器科を循環器内科に耳鼻咽喉科を耳鼻いんこう科に名称変更
平成26年	4月1日	消費税率改正に伴う使用料・手数料の料金改定
平成26年	4月1日	小児外来診療料の施設基準
平成26年	4月1日	H P V核酸同定検査(簡易ジェノタイプ)の施設基準
平成26年	4月1日	経皮的冠動脈形成術の施設基準
平成26年	4月1日	経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準
平成26年	4月1日	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術の施設基準
平成26年	4月1日	貯血式自己輸血管理体制加算の施設基準
平成26年	4月1日	腹腔鏡下肝切除術の施設基準の辞退
平成26年	6月18日	地域医療支援病院の承認
平成26年	7月1日	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術の施設基準
平成26年	7月1日	開放型病院共同指導料の施設基準
平成26年	7月1日	C A D / C A M冠の施設基準
平成26年	8月1日	小児食物アレルギーの施設基準
平成26年	8月1日	がん患者指導管理料2・3の施設基準
平成26年	9月1日	ハイケアユニット入院医療管理料1の施設基準
平成26年	9月30日	亜急性期入院医療管理料1(23床)終了
平成26年	10月1日	糖尿病透析予防指導管理料の施設基準
平成26年	10月23日	地域医療勉強会を桐生地域の医療機関等の従事者を対象に開催する
平成26年	12月20日	日本輸血・細胞治療学会I & Aの更新認定
平成27年	1月10日	病院情報システムの更新拡充
平成27年	2月21日	多数傷病者受入訓練の実施
平成27年	3月2日	地域医療再生基金補助金により非常用発電装置拡充更新事業完工
平成27年	4月1日	心臓血管外科を心臓外科に変更し、血管外科、救急科、緩和ケア内科を標榜、診療科は23科となる
平成27年	5月1日	持続血糖測定器加算の施設基準
平成27年	5月1日	皮下連続式グルコース測定の施設基準
平成27年	7月1日	C T透視下気管支鏡検査加算の施設基準
平成27年	12月2日	院外骨塩定量(骨密度)検査の実施
平成28年	3月1日	病棟薬剤業務実施加算1の施設基準
平成28年	4月1日	乳房MR I撮影加算の施設基準
平成28年	7月1日	総合評価加算の施設基準
平成28年	8月1日	病棟薬剤業務実施加算2の施設基準
平成28年	9月1日	下肢末梢動脈疾患指導管理加算の施設基準

平成28年10月	1日	地域包括ケア病棟入院料1の施設基準
平成28年11月	1日	認知症ケア加算2の施設基準
平成29年	1月1日	呼吸ケアチーム加算の施設基準
平成29年11月	18日	病院機能評価 3rdG:Ver1.1 更新認定
平成30年	4月1日	感染防止対策加算1(抗菌薬適正使用支援加算)の施設基準 後発医薬品使用体制加算1の施設基準
平成30年	5月1日	入退院支援加算1(地域連携診療計画加算・入院時支援加算)の施設基準
平成30年	6月1日	悪性腫瘍病理組織標本加算および遺伝子学的検査の施設基準
平成30年	7月1日	強度変調放射線治療 (IMRT) の施設基準 診療録管理体制加算1(加算2→加算1)の施設基準 医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1)の施設基準 夜間休日救急搬送医学管理料(救急搬送看護体制加算)の施設基準
平成30年	8月1日	回復期リハビリテーション病棟を6階西病棟に31床設置する 回復期リハビリテーション病棟入院料6の施設基準 地域包括ケア病棟を6階西病棟から4階東病棟へ移設(44床)
平成30年10月	1日	平成30年4月の診療報酬改定で、紹介状なしで400床以上の地域医療支援病院を受診した患者等へ定額負担を徴収することに伴い次に係る保険外併用療養費の改正を行う 初診に係る保険外併用療養費の改正(2,160円→5,400円) 再診に係る保険外併用療養費の設定(2,700円) 時間外診療費特別料金の改正(3,460円→5,400円)
平成30年11月	1日	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術の施設基準
平成31年	2月1日	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術の施設基準
平成31年	3月1日	回復期リハビリテーション病棟入院料3(入院料6→入院料3)施設基準
平成31年	3月7日	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A)の更新認定
令和元年	9月1日	急性期看護補助体制加算 25対1(50対1→25対1) セカンドオピニオン外来無料化
令和元年10月	1日	消費税率改正に伴う使用料・手数料の料金改定
令和2年	4月1日	一般病床429床、感染症病床4床、合わせて433床となる 通院治療センター(9床)開設 医師事務作業補助体制加算1(30対1→25対1へ変更)の施設基準 せん妄ハイリスク患者ケア加算の施設基準 排尿自立支援加算の施設基準 地域医療体制確保加算の施設基準 入退院支援加算1(総合機能評価加算)の施設基準 心臓ペースメーカー指導管理料 がん患者指導管理料ニの施設基準 婦人科特定疾患治療管理料の施設基準 BRCA1/2 遺伝子検査の施設基準 先天性代謝異常症検査の施設基準
令和2年	5月1日	小児運動器疾患指導管理料の施設基準 椎間板内酸素注入療法の施設基準
令和2年10月	1日	新生児特定集中治療室管理料2(12床→9床)の施設基準

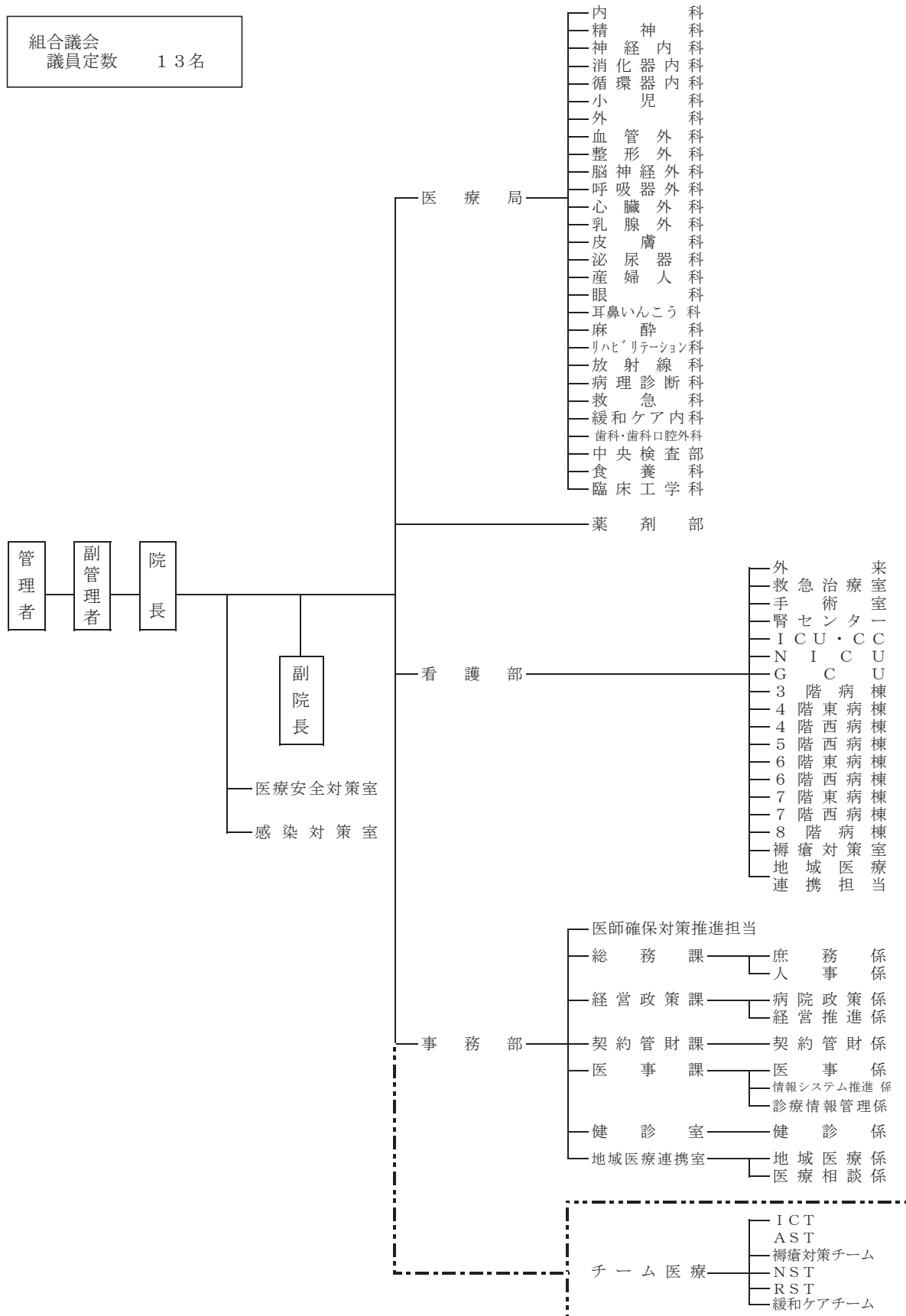
令和	3年	4月	1日	小児入院医療管理料3(管理料2→管理料3)の施設基準 連携充実加算の施設基準 外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準 通院治療センター増床(9床→12床)
令和	3年	8月	1日	小児入院医療管理料3(15床→9床)の施設基準
令和	3年	9月	1日	精密触覚機能検査の施設基準
令和	3年	10月	1日	新生児特定集中治療室管理料2(9床→6床)の施設基準
令和	4年	2月	1日	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術の施設基準 胃瘻造設時嚥下機能評価加算の施設基準
令和	4年	3月	1日	腹腔鏡下仙骨膣固定術の施設基準
令和	4年	3月	14日	電子カルテシステムの更新

II 組 織

1 組織図

桐生地域医療組合
桐生厚生総合病院

(令和4年3月31日現在)



2 管 理 職 員 氏 名

(令和4年3月31日)

管 理 者 荒 木 恵 司 (桐生市長)
副管理者 須 藤 昭 男 (みどり市長)

所 属	役 職 名	氏 名	摘 要
	院 長	加 藤 広 行	兼外科部長兼診療放射線技師統括
	院 長 補 佐	高 橋 満 弘	兼副院長兼放射線科部長兼健診室長
	副 院 長	曲 澤 聡	兼脳神経外科部長兼地域医療連携室長
	〃	森 永 暢 浩	兼外科部長兼感染対策室長
	〃	岡 田 克 之	兼皮膚科部長兼医療安全対策室長 兼食養科部長
	医 療 局 長	飯 田 智 広	兼内科部長
医 療 局 (内 科)	部 長	飯 田 智 広	兼医療局長
	〃	宇津木 光 克	特任内科部長
	〃	加 嶋 耕 二	
	〃	小 野 昭 浩	
	〃	竝 川 昌 司	
	〃	野 中 真 知	
	〃	新 井 洋 佑	
	〃	菅 間 一 乃	
	医 長	大 澤 翔	
	〃	堀 口 英 崇	
(神 経 内 科)	医 員 長	相 川 崇	
(循 環 器 内 科)	部 長	高 田 し の ぶ	
(小 児 科)	部 長	桑 原 渉	兼臨床工学科部長
	〃	針 谷 晃	兼中央検査部長
	〃	大 木 康 史	
	〃	鈴 木 尊 裕 子	
	〃	袖 野 玲 子	
	〃	浦 野 博 央	
	〃	関 根 和 彦	
	医 長	齊 藤 亜 希 子	
	医 員	江 田 陽 一 介	
	〃	八 木 龍 介	
(外 科)	部 長	加 藤 広 行	院長
	〃	森 永 暢 浩	兼副院長兼感染対策室長
	〃	和 田 渉 一	
	〃	緒 方 杏 春	
	〃	木 村 明 隆	
(整 形 外 科)	医 員 長	奥 山 隆 之 祐	
	部 長	斯 波 俊 祐 義	兼リハビリテーション科部長
	〃	片 山 雅 子	
	〃	永 井 彩 子	

所 属	役 職 名	氏 名	摘 要
放 射 線 科	技 師 長 補 佐 〃 〃 係 長 〃	林 克 政 小 林 誠 高 林 啓 司 見 留 豊 久 一 須 永 眞 一	
病 理 診 断 科	部 長	伴 聡	兼中央検査部長
中 央 検 査 部	部 長 〃 技 師 長 技 師 長 補 佐 〃 〃 〃 係 長 〃 〃	伴 聡 針 谷 晃 梶 田 幸 夫 三 田 修 道 金 井 尚 美 鈴 木 晶 子 田 村 典 子 永 井 羊 子 今 泉 智 博 高 田 剛	兼病理診断科部長 兼小児科部長
リハビリテーション科	部 長 〃 科 長 係 長 係 長 代 理	斯 波 俊 祐 有 阪 眞 由 美 勝 山 典 年 飯 塚 史 子 橋 場 聡 志	兼整形外科部長
臨 床 工 学 科	部 長	桑 原 渉	兼循環器内科部長
看 護 部	看 護 部 長 副 看 護 部 長 〃 〃 〃 (救 急 治 療 室) 看 護 師 長 看 護 副 師 長 (外 来) 看 護 師 長 看 護 副 師 長 〃 (手 術 室) 看 護 師 長 看 護 副 師 長 (腎 セ ン タ ー) 看 護 師 長 看 護 副 師 長 (I C U ・ C C U) 看 護 師 長 看 護 副 師 長 (N I C U) 看 護 師 長 看 護 副 師 長 (G C U) 看 護 師 長 看 護 副 師 長 (3 階 病 棟) 看 護 師 長 看 護 副 師 長	村 岡 容 子 鈴 木 由 美 子 堀 越 美 智 代 井 上 由 子 粕 川 由 貴 子 上 原 美 奈 子 奥 村 佳 恵 深 井 昌 美 林 由 里 西 場 里 香 佐 藤 祥 代 高 草 木 綾 深 井 昌 美 山 崎 朱 美 小 澤 裕 美 石 川 典 子 阿 左 美 ま ゆ 美 小 林 孝 子 小 林 葉 子 坂 本 雅 美 鈴 木 ひ ろ 美 鈴 木 久 美	兼8階病棟看護師長事務取扱 兼地域医療連携室主幹兼医療相談 係長事務取扱 兼腎センター看護師長 兼外来看護師長

所 属	役 職 名	氏 名	摘 要
(3 階 病 棟)	看 護 副 師 長	小 林 千 恵	
(4 階 東 病 棟)	看 護 師 長	山 口 景 子	
	看 護 副 師 長	田 村 由美子	
(4 階 西 病 棟)	看 護 師 長	野 村 美菜子	
	看 護 副 師 長	高 山 明 美	
	〃	大 川 里 美	
(5 階 西 病 棟)	看 護 師 長	関 靖 枝	
	看 護 副 師 長	須 永 泰 明	
	〃	小野里 貴 子	
	〃	田 中 愛	
	〃	朽 津 麻 美	
(6 階 東 病 棟)	看 護 師 長	石 関 しのぶ	
	看 護 副 師 長	荒 牧 恵 子	
	〃	瀬 谷 好 美	
(6 階 西 病 棟)	看 護 師 長	秋 間 由 博	
	看 護 副 師 長	小 倉 直 子	
	〃	今 井 恵	
(7 階 東 病 棟)	看 護 師 長	武 田 智 子	
	看 護 副 師 長	金 澤 典 子	
	〃	古 澤 悟	
(7 階 西 病 棟)	看 護 師 長	村 田 絹 代	
	看 護 副 師 長	中 野 理 恵	
	〃	和 田 順 子	
(8 階 病 棟)	看 護 師 長 扱 事 務 取 扱	鈴 木 由美子	兼副看護部長
	看 護 副 師 長	青 山 真由美	
	〃	大 川 三登利	
褥 瘡 対 策 室	看 護 師 長	大谷内 千 恵	
医 療 安 全 対 策 室	室 長	岡 田 克 之	兼副院長兼医療安全対策室長兼食 養科部長
	看 護 師 長	高 橋 紀 子	
感 染 対 策 室	室 長	森 永 暢 浩	兼副院長兼外科部長
	看 護 副 師 長	山 田 あゆり	
事 務 部	事 務 長	関 口 郁 雄	兼総務課長 兼人事係長
(総 務 課)	次 長	関 口 宏	
	課 長 補 佐	石 井 理 彦	兼病院政策係長
	係 長	剣 物 裕 司	
(経 営 政 策 課)	課 長	新 井 教 弘	
	課 長 補 佐	三 澤 奈穂美	
	係 長	藺 田 達 也	兼施設係長事務取扱 兼契約管財係長 兼健診室主幹
(契 約 管 財 課)	課 長	宇津野 貴	
	課 長 補 佐	高草木 有里子	
(医 事 課)	課 長	宮 田 晋 一	
	係 長	本 田 英 之	

所 属	役 職 名	氏 名	摘 要
(医 事 課)	係 長	塩 原 和 久	兼院長補佐兼副院長兼放射線科部長 兼医事課長
(健 診 室)	室 長	高 橋 満 弘	
	主 幹	宮 田 晋 一	
(地域医療連携室)	室 長	曲 澤 聡	兼副院長兼脳神経外科部長 兼副看護部長兼医療相談係長事務取扱 兼地域医療係長
	主 幹	粕 川 由 貴 子	
	課 長 補 佐	金 子 孝 進	
	看 護 副 師 長	岡 田 牧 子	

3 職員数の推移

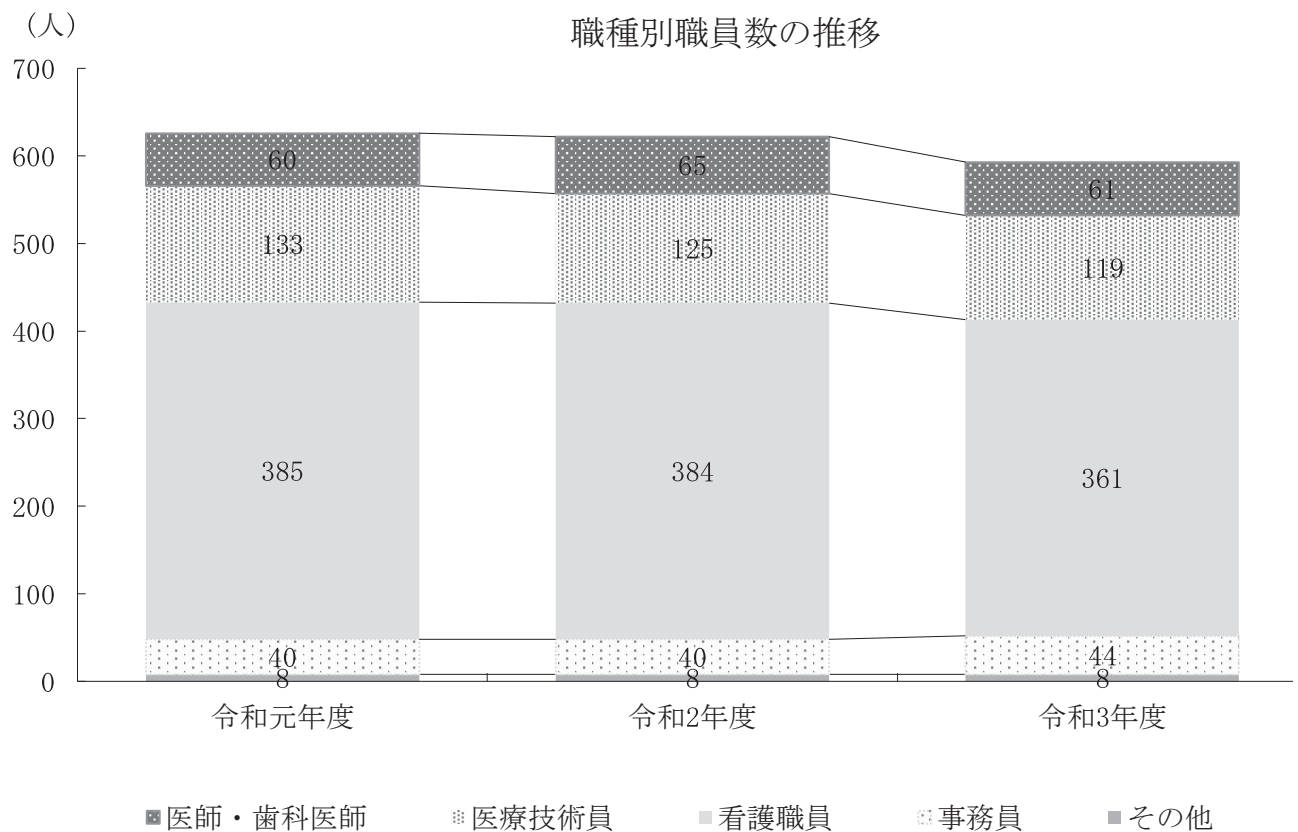
職 種 別		年 度		令和元年度		令和2年度		令和3年度			
		職 員 数		職 員 数		職 員 数		前 年 度 比			
		常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤
医 局	医 師	人	人	人	人	人	人	%	%		
	歯 科 医 師	57	80	62	80	59	69	95.2	86.3		
	臨 床 研 修 医	2	2	2	1	2	1	100.0	100.0		
	計		5		4		9		225.0		
医 療 技 術 部 門	薬 剤 部	59	87	64	85	61	79	95.3	92.9		
	薬 剤 師	22	2	22	2	22		100.0	0.0		
	助 手		3		3		3		100.0		
	食 養 科	8	1	6	2	6	1	100.0	50.0		
	栄 養 士	7		7		7		100.0			
	調 理 師 (員)		1		1		1		100.0		
	事 務 員										
	放 射 線 科	20	3	20	3	20	3	100.0	100.0		
	診 療 放 射 線 技 師	31	2	29	4	27	5	93.1	125.0		
	検 査 部		2								
	看 護 師		2								皆減
	准 看 護 師		2								皆減
	リ ハ ビ リ	23		22		22		100.0			
	理 学 療 法 士	8		7		7		100.0			
	作 業 療 法 士	3		3		3		100.0			
	言 語 聴 覚 士		2		2		2		100.0		
	助 手	3		3		3		100.0			
事 務 部 門	眼 科	1									
	視 能 訓 練 士	1									
	循 環 器 内 科	4		4		3		75.0			
	臨 床 工 学 技 士	10		9		6		66.7			
	歯 科	140	18	132	17	126	15	95.5	88.2		
	計	1				1					
	事 務 長	1									
	医 師 確 保 対 策 担 当	5	1	5	1	5	1	100.0	100.0		
	経 営 政 策 課	9	2	8	3	7	3	87.5	100.0		
	総 務 課		1		1		1		100.0		
	保 育 士	5		5	1	5	1	100.0	皆増		
	契 約 管 財 課		1		1		1		100.0		
	技 師	10	11	13	10	15	11	115.4	110.0		
	医 事 課	1		1				0.0			
	健 診 室	1	1	2	1	1	1	50.0	100.0		
	事 務 員		4		3				0.0		
看 護 部 門	看 護 師		3		2				0.0		
	准 看 護 師	7		6	1	6	1	100.0			
	事 務 員	8	1	10		9		90.0	皆減		
	看 護 師	1	1	1	1	1	1	100.0	100.0		
	臨 床 心 理 士	49	26	51	25	50	21	98.0	84.0		
	計	29	2	30	1	25		83.3	0.0		
	助 産 師	342	27	340	30	323	41	95.0	136.7		
	看 護 師	6	5	4	9	4	7	100.0	77.8		
	准 看 護 師	1	2	1	2	1	2	100.0	100.0		
	看 護 助 手		2		1		1		100.0		
	事 務	378	38	375	43	353	51	94.1	118.6		
	計	626	169	622	170	590	166	94.9	97.6		
	合 計										

注1 職員数は各年度末の人数

4 年度別職種別職員数

年 度 職種別	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
					前年度比	
	人		人		人	%
医 師	60		65		61	93.8
医療技術員	(8) 133		(11) 125		(9) 119	(81.8) 95.2
看護職員	(46) 385		(45) 384		(48) 361	(106.7) 94.0
事務員	(19) 40		(20) 40		(20) 44	(100.0) 110.0
そ の 他	(9) 8		(9) 8		(10) 8	(111.1) 100.0
計	(82) 626		(85) 622		(87) 593	(102.4) 95.3

注 () 内は臨時職員の別掲



5 歴代管理者・副管理者及び院長

(1) 管理者

氏 名	就 任 期 間	備 考
森 正 雄	昭和 9年 2月11日 ～ 昭和23年12月	
前 原 一 治	昭和23年12月 ～ 昭和38年 4月29日	
荒 木 歓一郎	昭和38年 4月30日 ～ 昭和46年 5月 1日	
小 山 利 雄	昭和46年 5月 2日 ～ 昭和63年 5月 1日	
大 澤 善 隆	昭和63年 5月 2日 ～ 平成 3年 5月 1日	
日 野 茂	平成 3年 5月 2日 ～ 平成11年 5月 1日	
大 澤 善 隆	平成11年 5月 2日 ～ 平成19年 5月 1日	
亀 山 豊 文	平成19年 5月 2日 ～ 令和元年 5月 1日	
荒 木 恵 司	令和元年 5月 2日 ～	

(2) 副管理者

氏 名	就 任 期 間	備 考
石 原 条	平成18年 4月23日 ～ 平成30年 4月22日	
須 藤 昭 男	平成30年 4月23日 ～	

(3) 院 長

代	氏 名	就 任 期 間	担当科	備 考
1	生 駒 正 志	昭和 9年 2月11日 ～ 昭和 9年 4月28日	内科	院長心得となる (5代目同) 代理 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈
2	加 藤 三九朗	昭和 9年 4月29日 ～ 昭和12年 8月15日	外科	
3	和 田 義 夫	昭和12年 8月16日 ～ 昭和13年 5月 2日	内科	
4	佐 野 武 四	昭和13年 5月12日 ～ 昭和17年 3月31日	内科	
5	八 木 忠 雄	昭和17年 4月 1日 ～ 昭和19年 3月 6日	外科	
6	竹 下 三男吉	昭和19年 3月31日 ～ 昭和19年 9月16日	内科	
7	福 田 通	昭和19年 9月30日 ～ 昭和21年 3月 5日	外科	
8	八 木 忠 雄	昭和21年 3月 6日 ～ 昭和26年 4月27日	外科	
	(小 口 武 久)	昭和26年 4月28日 ～ 昭和27年 5月26日	眼科	
9	堀 尾 茂 生	昭和27年 5月27日 ～ 昭和56年 3月31日	外科	
10	松 本 芳 郎	昭和56年 4月 1日 ～ 平成 6年 3月31日	小児科	
11	山 田 衛	平成 6年 4月 1日 ～ 平成14年 3月31日	内科	
12	河 野 徳 雄	平成14年 4月 1日 ～ 平成16年 3月31日	脳神経外科	
13	藤 岡 進	平成16年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日	外科	
14	丸 田 栄	平成19年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日	内科	
15	桑 島 信	平成29年 4月 1日 ～ 令和 2年 3月31日	小児科	
16	加 藤 広 行	令和 2年 4月 1日 ～	外科	

6 組 合 議 会 の 現 況

当病院の設立母体である医療事務組合の組合議会は、昭和26年6月8日第1回桐生市外十二箇町村医療事務組合議会として開催されました。以降、構成市町村の合併等を経て、平成18年3月27日桐生地域医療組合と名称を改め、令和3年度末現在で第189回を数えるまでに至っています。

議員定数は13人とし、構成市である桐生市から9人、みどり市から4人の議会から選出された者により組織し、任期はそれぞれが就任した市議会議員の任期としています。

(1) 議会の開会経過

(令和4年3月31日現在)

回 数 (開会年月日)	組 合 議 会 名	議 長
第 1回 (昭和26. 6. 8) ～第 3回	桐生市外十二箇町村医療事務組合議会	森 正 雄
第 4回 (昭和27. 3. 24) ～第 12回	桐生市外十四箇町村医療事務組合議会	〃
第 13回 (昭和31. 9. 26) ～第 23回	桐生市外十箇町村医療事務組合議会	〃
第 24回 (昭和35. 3. 8) ～第 38回	桐生市外八箇町村医療事務組合議会	〃
第 40回 (昭和39. 2. 29) ～第 43回	桐生市外七箇町村医療事務組合議会	〃
第 44回 (昭和40. 9. 29) ～第 89回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	〃
第 90回 (昭和55. 10. 1) ～第 97回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	堀 越 至一郎
第 98回 (昭和58. 9. 3) ～第107回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	加 藤 隆 司
第108回 (昭和62. 9. 25) ～第111回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	笠 井 秋 夫
第112回 (平成元. 10. 31) ～第116回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	飯 田 隆 雄
第117回 (平成 3. 10. 29) ～第120回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	福 田 金次郎
第121回 (平成 5. 10. 25) ～第124回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	中 村 清
第125回 (平成 7. 7. 31) ～第129回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	佐 藤 光 好
第130回 (平成 9. 10. 28) ～第133回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	吉 野 剛 八
第134回 (平成11. 10. 28) ～第137回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	田 島 信 夫
第138回 (平成13. 10. 26) ～第141回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	高 橋 定二郎
第142回 (平成15. 6. 30) ～第146回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	森 下 清 秀
第147回 (平成17. 8. 25) ～第149回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	西 牧 秀 乗
第150回 (平成18. 7. 14) ～第152回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	〃
第153回 (平成19. 7. 13) ～第157回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	石 井 秀 子
第158回 (平成21. 7. 27) ～第162回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	河原井 始
第163回 (平成23. 7. 22) ～第167回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	周 東 照 二
第168回 (平成25. 7. 22) ～第173回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	小 滝 芳 江
第174回 (平成27. 10. 30) ～第178回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	佐 藤 幸 雄
第179回 (平成29. 10. 30) ～	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	河原井 始

※ 第39回組合議会は不詳

(2) 議会議員氏名等

(令和4年3月31日現在)

議席 番号	氏 名	役 職	選出母体	公 職 名	任 期
1	森 壽 作	常任副委員長	桐 生 市	合資会社代表社員	令和 元. 6.10 ~ 令和 5. 5. 1
2	関 口 直 久		桐 生 市	市 議 会 議 員	3. 6. 4 ~ 5. 5. 1
3	高草木 良 江	常任委員	みどり市	市 議 会 議 員	3. 6.14 ~ 5. 4.30
4	辻 正 男	常任委員	桐 生 市	市 議 会 議 員	3. 6. 4 ~ 5. 5. 1
5	宮 崎 武	副議長	みどり市	市 議 会 議 員	3. 6.14 ~ 5. 4.30
6	人 見 武 男	常任委員	桐 生 市	市 議 会 議 員	元. 6.10 ~ 5. 5. 1
7	菊 地 一 真		桐 生 市	桐生市医師会長	2.12.16 ~ 5. 5. 1
8	山之内 肇	常任委員	桐 生 市	市 議 会 議 員	元. 6.10 ~ 5. 5. 1
9	武 井 俊 一	常任委員長	みどり市	市 議 会 議 員	3. 6.14 ~ 5. 4.30
10	佐 藤 幸 雄	議長	桐 生 市	市 議 会 議 員	3. 6. 4 ~ 5. 5. 1
11	柴 崎 訓 佳		みどり市	市 議 会 議 員	3. 6.14 ~ 5. 4.30
12	河原井 始	議長	桐 生 市	市 議 会 議 員	元. 6.10 ~ 5. 5. 1
13	星 野 浩 之	常任委員	桐 生 市	桐生市歯科医師会長	3. 8.26 ~ 5. 5. 1

(3) 議会議決事項等

議会名	開催日時	議 案 名	結 果
第188回定例会	R3. 10. 22	議案第4号 公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて	同 日 同 意
		議案第5号 令和2年度桐生地域医療組合病院事業決算の認定について	同 日 認 定
第189回定例会	R4. 2. 18	議案第1号 職員の住居手当の特例に関する条例案	同日原案可決
		議案第2号 桐生地域医療組合職員の退職手当に関する条例案	同日原案可決
		議案第3号 群馬県市町村総合事務組合規約の変更に関する協議について	同日原案可決
		議案第4号 令和4年度桐生地域医療組合病院事業会計予算	同日原案可決

7 管理者・副管理者会議

会議名	開催日時	議題
第1回管理者・副管理者会議	令和3. 5. 19	(1) 桐生地域医療組合管理者・副管理者会議設置規程の一部改正について (2) 令和2年度業務報告・経営状況報告について (3) 令和3年度新規事業・主要事業について
第2回管理者・副管理者会議	令和3. 10. 1	(1) 第188回桐生地域医療組合議会提出予定議案について (2) 令和3年度上半期の経営状況について (3) 令和3年度各事業の状況について
第3回管理者・副管理者会議	令和4. 2. 4	(1) 第189回桐生地域医療組合議会提出予定議案について (2) 令和3年度事業及び収支の状況について (3) 令和4年度新規事業・主要事業について

8 医療組合各種委員氏名等

名 称	氏 名	任 期	備 考
監 査 委 員	園 田 誠	令和 2. 11. 1～令和 6. 10. 31	識見を有する者 組 合 議 会 選 出
	人 見 武 男	令和元. 10. 25～令和 5. 5. 1	
公平委員会 委 員	横 塚 榮三郎	令和 2. 11. 14～令和 6. 11. 13	委 員 長
	村 田 欽 也	令和 3. 11. 14～令和 7. 11. 13	
	和 泉 直 樹	平成 30. 11. 14～令和 4. 11. 13	委員長職務代理者
情報公開及び個人情報 保護審査会 委 員	押 見 新一郎	令和 3. 4. 1～令和 5. 3. 31	情報公開及び個人情報 保護審査会条 例施行に伴い平成 29 年 4 月 1 日から 設置
	久保田 寿 栄	令和 3. 4. 1～令和 5. 3. 31	

9 会計監査開催状況

監 査 名	開 催 年 月 日	出 席 者
決 算 監 査	令和 3. 8. 4 (水)	監 査 委 員 院 長 事 務 長 他 病 院 職 員
上 半 期 監 査	令和 3. 11. 16 (火)	
第 3 四 半 期 監 査	令和 4. 3. 23 (水)	

10 公平委員会開催状況

委員会名	開催年月日	出 席 者
	非 開 催	

1 1 病院倫理委員会開催状況

委員会名	開催年月日	出席者
	非 開 催	

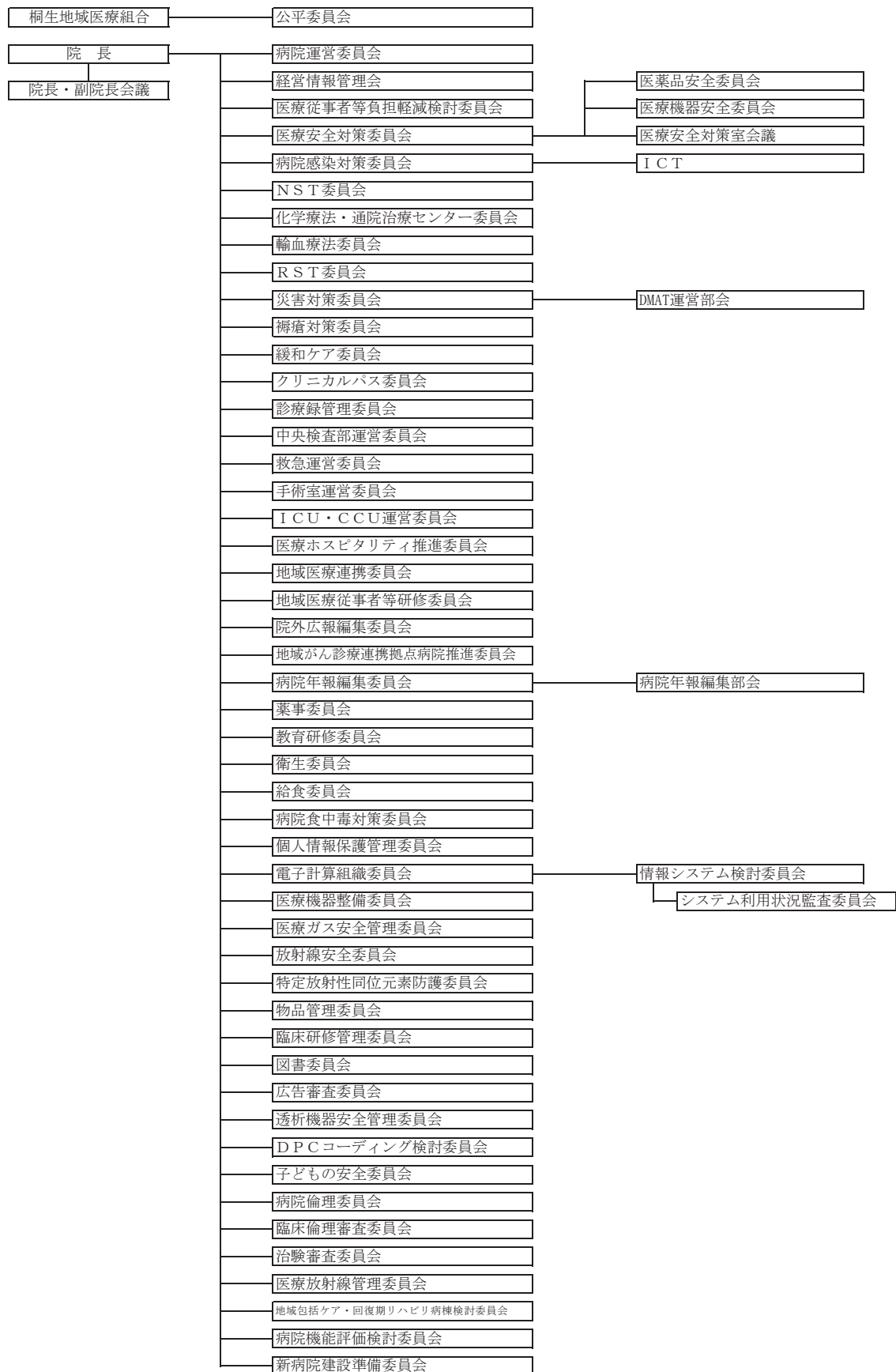
1 2 医師確保対策事業について

桐生地域住民の安心・安全を確保するため、医療の安定的な提供は不可欠です。全国的な医師不足の状況の中、当院においても一部診療科において退職医師を非常勤で補う状況にあるなど、医師確保対策が急務であり、桐生地域医療改善協議会からの提言に基づき、当院の開設者である桐生市・みどり市の支援のもと、独自の医師確保並びに医師の負担軽減を図るため、下記の 11 事業を実施しています。

- ①医師の定住促進として桐生市・みどり市に在住する医師に対して手当の支給
- ②桐生市・みどり市に住所を有する研修医に対し、住居借り上げ支援
- ③市外居住の医師の夜間緊急呼出等通勤負担軽減のために市内ビジネスホテルの宿泊を確保
- ④医師負担軽減のため医療クレークの増員
- ⑤医師の診療補助となる看護師や薬剤師等が高度専門資格を取得する際の経費の一部を支援
- ⑥医師の学会、研修会の参加及び医学書籍等への論文掲載に対する支援
- ⑦研修医の学会参加及び医学図書等研修教材購入支援
- ⑧当直をはじめ、様々な場面で研修医を指導する指導医に対する手当支給
- ⑨医局、休憩室等の勤務環境の改善
- ⑩地域内での講演研修会開催支援
- ⑪医師招聘及び医学研究支援

Ⅲ 会 議 等

1 委員会組織図



IV 教育研修

1 病院実習

(1) 診療部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬大学	学外臨床実習	5人	4/12～4/23 (10日)	小児科、皮膚科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科
〃	学外臨床実習	4	5/10～5/21 (10日)	内科（消化器）、小児科、産婦人科、麻酔科
〃	学外臨床実習	5	5/24～6/4 (10日)	内科（胆膵）、小児科、皮膚科、産婦人科、麻酔科
〃	学外臨床実習	5	6/7～6/18 (10日)	小児科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、麻酔科
〃	学外臨床実習	5	6/21～7/2 (10日)	小児科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、麻酔科
〃	学外臨床実習	3	7/5～7/16 (10日)	小児科、産婦人科、麻酔科
〃	学外臨床実習	1	7/19～7/30 (8日)	麻酔科
〃	学外臨床実習	4	1/17～1/28 (10日)	小児科、整形外科、皮膚科、麻酔科
〃	学外臨床実習	5	1/31～2/10 (9日)	整形外科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科
〃	学外臨床実習	4	2/14～2/25 (9日)	産婦人科、整形外科、泌尿器科、麻酔科
〃	学外臨床実習	4	2/28～3/11 (10日)	小児科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科
群馬大学	病院見学	1	4/5～4/9 (5日)	産婦人科
滋賀医科大学	病院見学	1	4/20 (1日)	内科（消化器）
群馬大学	病院見学	1	6/23 (1日)	泌尿器科
東京女子医科大学	病院見学	1	6/28 (1日)	小児科
滋賀医科大学	病院見学	1	6/28 (1日)	内科（消化器）
群馬大学	病院見学	1	7/7 (1日)	外科
順天堂大学	病院見学	1	7/14 (1日)	小児科
群馬大学	病院見学	1	7/20 (1日)	内科（消化器）
〃	病院見学	1	7/26 (1日)	産婦人科
福島県立医科大学	病院見学	1	7/26～7/27 (2日)	救急科、内科（肝臓）
群馬大学	病院見学	2	7/27 (1日)	外科
〃	病院見学	1	8/2 (1日)	麻酔科
帝京大学	病院見学	1	8/3 (1日)	内科（肝臓）
金沢大学	病院見学	1	8/5～8/6 (2日)	放射線科、救急科
高知大学	病院見学	1	8/16 (1日)	産婦人科

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
新潟大学	病院見学	1人	8/26（1日）	内科（肝臓）
筑波大学	病院見学	1	8/26（1日）	内科（消化器）
群馬大学	病院見学	1	10/21（1日）	脳神経外科
〃	病院見学	1	12/8（1日）	産婦人科
長崎大学	病院見学	1	12/27（1日）	小児科

（２）診療部実習：群馬大学医学部附属病院 群馬県地域医療支援センター

学 校 名	実 習 内 容	人数	期 間	実 習 場 所
	医学部医学科をめざす 高校生の職場体験セミナー 2021夏・2022春 群馬県臨床研修病院等見学 バスツアー	0人	中止	
	医学生のための地域医療体験 セミナー	0	中止	

看護部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
桐生大学 医療保健学部 看護学科	早期体験合同実習	人 18	7/27～7/28	6東/6西/4東
	基礎看護学実習Ⅱ	47	11/15～11/26	7東/7西/6東/6西/5西
	成人看護学実習Ⅰ	45	4/19～10/29	7東/7西
	成人看護学実習Ⅱ	45	4/19～10/8	5西/6東
	高齢期看護学実習	34	4/19～10/22	4東
	小児看護学実習	39	4/27～7/21	3階
	母性看護学実習	5	8/16～8/27	4西
	看護セミナー			実習中止
桐生大学別科 助産専攻	分娩介助実習	2	9/27～12/10	4西
	NICU実習	18	10/5～10/21	NICU
群馬パース大学	小児看護学実習	29	10/19～11/30	NICU
桐生高等 看護学院	基礎看護Ⅰ	23	11/5～11/12	7東/7西/6東/6西/5西
	基礎看護Ⅱ	27	11/30～12/10	7東/7西/6東/6西/5西/4東
	領域別実習	28	4/5～7/20	7東/7西/6東/5西/4西/3階/NICU
	統合実習	16	10/5～10/15	7東/7西/6東/6西
館林高等 看護学院	母性看護学実習	12	7/5～8/26	4西
	小児看護学実習			実習中止
太田医療技術 看護専門学校	成人看護学実習Ⅰ			実習中止
	成人看護学実習Ⅱ			実習中止
	成人看護学実習Ⅲ			実習中止
	小児看護学実習	42	9/27～11/18	3階/N I C U
	老年看護学実習Ⅱ	4	5/31～6/11	4東
深谷大里 看護専門学校	母性看護学実習	15	4/13～11/16	4西/外来
マロニエ 看護専門学校	統合実習	2	10/28～10/29	6東
	小児看護学実習	4	7/29～7/30	3階
	成人看護学実習	2	7/6～7/6	5西
	基礎看護Ⅱ	2	12/15～12/16	4東
桐生准看護学校	基礎実習	26	11/8～12/17	各外来
	臨地実習	25	1/11～11/4	7東西/6東/5西/4東西/3階/NICU

リハビリテーション科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬医療福祉大学	評価実習（P T）	人 1	11/29～12/24	リハビリテーション室
前橋医療福祉専門学校	見学実習（O T）	1	11/29～12/10	〃
〃	評価研修（P T）	1	2/7～3/4	〃

放射線科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床実習	人 3	5/10～7/16	放射線科・他
群馬県民健康科学大学	保健医療チーム連携	6	7/14～7/16	放射線科

中央検査部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床検査臨地実習	人 4	5/17～7/9	中央検査部・他
麻布大学	臨床検査臨地実習	1	1/11～3/4	〃

臨床工学科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	放射線技師 全体見学	人 4	5/19	臨床工学科

食養科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
高崎健康福祉大学	管理栄養士課程履修の 病院臨地実習	人 4	5/31～6/11	食養科
青森県立保健大学	〃	1	6/14～6/25	〃
高崎健康福祉大学	〃	1	10/11～10/22	〃
桐生大学	〃	6	2/14～2/25	〃
東洋大学	〃	6	3/7～3/18	〃
医療法人岩下会 岩下病院	管理栄養士の現場見学	1	7/5～7/6	〃

事務部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
前橋医療福祉専門学校	2年次実務実習（医療秘書）	人 1	6/21～6/25	医事課
高崎健康福祉大学	診療報酬管理業務	1	8/2～8/13	〃
中央情報経理専門学校	〃	2	8/23～9/10	〃
高崎健康福祉大学	〃	2	2/7～2/18	〃

2 医師臨床研修制度

平成 16 年 4 月、厚生労働省は新医師臨床研修制度を導入し、医師が将来専門とする分野に関らず基本的な診療能力を身につけることができるよう必修化しました。当院においては、すでに平成 14 年臨床研修指定病院に認定されておりましたが、新制度になり改めて平成 16 年 4 月に厚生労働省より臨床研修指定病院として認定を受けております。

診療に従事しようとする医師は2年以上臨床研修を受けなければならないとされ、人格の涵養と、基本的な診療能力の修得を基本理念に医学全般の広い知識をもった医師を養成することを目的としました。新制度導入後 5 年を経過した平成 21 年、プログラムの見直しが行われ厚生労働省の省令改正を受け平成 22 年度研修プログラムを変更しました。また、令和 2 年度、新たにプログラムの見直しが行われ、大幅にプログラムを変更しました。

(1) 臨床研修の概要

■研修期間割（標準）

区 分	6 ヲ月		2 ヲ月	1ヵ月	2 ヲ月	1ヵ月
1 年 目	内科		救急	麻酔	外科	小児
	救 急 医 療					

区 分	1ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	9 ヲ月		
2 年 目	地域	産婦	精神	選択		
	救 急 医 療					

- ＜必修＞
- ・内科研修 6 ヶ月
 - ・救急部門研修 3 ヶ月は救急部門と麻酔科において行い、2 年間を通じ、時間外・休日・夜間は地域において日常よく遭遇する様々な症例について副当直として関わり、指導医とともに救急医療も行う。
 - ・地域医療研修 1 ヶ月は、あい太田クリニック、原町赤十字病院、沼田病院の協力を得て行う。
 - ・外科 2 ヶ月、小児科 1 ヶ月、産婦人科 1 ヶ月、精神科 1 ヶ月
 - ・精神科研修については県立精神医療センター、岸病院にて実施。
- ＜選択＞
- ・研修医の希望を考慮し、9 ヶ月を分割し複数科の研修が可能。
 - ・地域保健研修は、桐生保健所で行う。
 - ・群馬大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、県立心臓血管センター、恵愛堂病院、東邦病院の研修も可能。
- ＜院外研修＞
- ・当院以外での研修期間は 2 年間で 4 ヶ月までとする。

■研修協力

当院は、自ら「基幹型臨床研修病院」として医師の初期研修に携わるほか、「協力型臨床研修病院」として群馬大学医学部附属病院、筑波大学附属病院や館林厚生病院に所属する研修医の初期研修も受入れております。

■臨床研修医受け入れ状況

氏 名	年次	期 間	在 籍	修了者	備 考
谷 口 立 樹	1	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31 (2 年)	当 院		
小 林 倫太郎	1	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31 (2 年)	当 院		
吉 川 晟 羽	1	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31 (2 年)	当 院		
倉 島 丈 治	1	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31 (2 年)	当 院		
児 嶋 賢	1	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31 (2 年)	当 院		
土 本 優 源	1	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31 (2 年)	当 院		
西 村 悠 介	2	R2. 4. 1 ～R4. 3. 31 (2 年)	当 院	○	
澤 田 英	2	R2. 4. 1 ～R4. 3. 31 (2 年)	当 院	○	
狩 野 龍之介	2	R3. 6. 1 ～R4. 3. 31 (10 ヲ月)	群 大	○	
山 本 紘 大	1	R3. 11. 1 ～R3. 12. 31 (2 ヲ月)	館 林		
板 垣 由宇也	1	R3. 10. 1 ～R3. 10. 31、 R4. 1. 1 ～R4. 1. 31 (2 ヲ月)	館 林		

■臨床研修勉強会

病院全体で行う C P C や集談会、各診療科で行われるカンファレンス等のほか、毎週水曜日に各科指導医による救急医療に関するテーマを中心にした勉強会（約 45 回/年）を実施。

勉強会では研修医による症例報告も行われています。

また、放射線カンファレンスを(1 回/月)、さらに外部講師による感染症診療講座を年 5 回行っています。

対象を研修医のみに限定せず、他の医師や病院見学・実習中の医学生も参加しております。

(2) 研修医対象 救急に関する勉強会及び研修医症例報告

日 付	名 称	担 当 者
5/19	診療録の記載の仕方	稲 川 茂
5/26	〔研修医症例発表〕 若年女性の尿閉だったはずなのに…	澤 田 英
6/2	画像診断1	小 林 茂
6/9	気管挿管のテクニック	佐 藤 淳
6/16	脳梗塞の治療	橋 場 康 弘
6/23	〔研修医症例発表〕 未受診妊婦	西 村 悠 介
6/30	眼科救急疾患	丸 山 泰 弘
7/7	C Vカテーテルの留置	木 村 明 春
7/14	N S Tについて	飯 田 智 広
7/21	小児の重症度判定	鈴 木 尊 裕
7/28	〔研修医症例発表〕 急性腹症	児 嶋 賢
8/4	産婦人科領域の救急疾患	鏡 一 成
8/12	上肢・肩甲帯の外傷	永 井 彩 子
8/18	急性腹症	森 永 暢 浩
8/25	〔研修医症例発表〕 吐血及び外国人患者の対応について	谷 口 立 樹
9/1	小児科救急〈小児のRed flag〉	大 木 康 史
9/8	画像診断2	小 林 茂
9/15	救急外来でよく遭遇する皮膚科疾患	岡 田 克 之
8/22	歯科口腔外科領域の救急疾患	今 井 正 之
9/29	〔研修医症例発表〕 ルーチンの重要性	倉 島 丈 治
10/6	四肢外傷の応急処置（下肢）	斯 波 俊 祐
10/13	消化管出血について	飯 田 智 広
10/20	泌尿器科的救急疾患	林 拓 磨
10/27	〔研修医症例発表〕 壊疽性膿皮症に合併した超高齢者の無菌性膿瘍症候群の1例	小 林 倫太郎
11/10	Risk Management	高 橋 紀 子
11/17	創処置（縫合）	木 村 明 春
11/24	〔研修医症例発表〕 間質性肺炎合併の気胸	土 本 優 源
12/2	心房細動	桑 原 渉
12/8	画像診断3	小 林 茂
12/15	救急外来で遭遇する呼吸器疾患の診断と治療	小 野 昭 浩
12/22	〔研修医症例発表〕 急性胆管炎後に高カルシウム血症による急性腎障害を発症した1例	吉 川 晟 羽
1/5	血液浄化療法	岡 本 亘 平
1/12	肝性脳症について	竝 川 昌 司
1/19	妊娠時の薬の使い方	鏡 一 成
1/26	熱傷の治療	岡 田 克 之

名 称	担 当 者	実施回数
研修医 放射線科カンファレンス（最終水曜）	小林 茂	10回
研修医 感染症診療講座（年5回）	吉村 章（外部講師）	5回

V 経 営 状 況

1 比較損益計算書

年 度 科 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
		金 額	金 額	金 額	前年比	対医業 収益比
収 益	千円	千円	千円	千円	%	%
	医 業 収 益	8,485,158	8,748,017	9,124,201	104.3	100.0
	入 院 収 益	5,716,652	5,912,729	6,046,278	102.3	66.3
	外 来 収 益	2,517,730	2,586,437	2,821,722	109.1	30.9
	そ の 他 医 業 収 益	250,776	248,851	256,201	103.0	2.8
	医 業 外 収 益	1,274,759	2,552,625	2,305,098	90.3	25.3
	受 取 利 息 及 び 配 当 金	15	10	18	180.0	0.0
	構 成 団 体 負 担 金 補 助 金	785,847	796,068	806,423	101.3	8.8
	補 助 金	139,480	1,457,723	1,222,037	83.8	13.4
	負 担 金 交 付 金	50	0	0	0.0	0.0
	長 期 前 受 金 戻 入	291,192	252,560	234,449	92.8	2.6
	そ の 他 医 業 外 収 益	58,175	46,264	42,171	91.2	0.5
	特 別 利 益	783,104	228,902	43,954	19.2	0.5
	収 益 合 計	10,543,021	11,529,544	11,473,253	99.5	125.7
費 用	医 業 費 用	9,978,925	10,108,403	10,118,053	100.1	110.9
	給 与 費	5,967,013	6,093,315	5,873,838	96.4	64.4
	材 料 費	1,956,044	2,043,126	2,242,972	109.8	24.6
	経 費	1,444,744	1,446,712	1,474,167	101.9	16.2
	減 価 償 却 費	581,452	493,140	458,139	92.9	5.0
	資 産 減 耗 費	6,206	17,221	51,294	297.9	0.6
	研 究 研 修 費	23,466	14,889	17,643	118.5	0.2
	医 業 外 費 用	328,903	371,233	457,990	123.4	5.0
	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	9,875	1,201	750	62.4	0.0
	繰 延 勘 定 償 却	0	0	0	0.0	0.0
	雑 損 失	319,028	370,032	457,240	123.6	5.0
	特 別 損 失	0	191,397	0		
	費 用 合 計	10,307,828	10,671,033	10,576,043	99.1	115.9
	純 損 益	235,193	858,511	897,210	104.5	-

2 比較貸借対照表

年 度 科 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
		金 額	金 額	金 額	前年比	構成比
資 産		千円	千円	千円	%	%
	固 定 資 産	5,504,734	5,270,164	5,787,818	109.8	52.3
	有 形 固 定 資 産	5,502,626	5,268,056	5,785,710	109.8	52.2
	土 地	287,003	287,003	287,003	100.0	2.6
	償 却 資 産	18,314,682	18,294,912	18,315,904	100.1	165.4
	減価償却累計額(△)	13,099,059	13,313,859	12,817,197	96.3	115.7
	建設仮勘定	0	0	0	-	-
	無 形 固 定 資 産	2,108	2,108	2,108	100.0	0.0
	投 資	0	0	0	-	-
	流 動 資 産	2,419,886	3,507,877	5,286,657	150.7	47.7
	現 金 及 び 預 金	925,712	1,308,430	3,297,775	252.0	29.8
	未 収 金	1,502,091	2,196,788	1,979,059	90.1	17.9
	貸倒引当金(未収△)	29,294	29,604	31,441	106.2	0.3
	貯 蔵 品	18,931	29,102	38,136	131.0	0.3
産	前 払 費 用	446	1,161	1,128	97.2	0.0
	そ の 他 流 動 資 産	2,000	2,000	2,000	100.0	0.0
	繰 延 勘 定	0	0	0	-	-
	控 除 対 象 外 消 費 税	0	0	0	-	-
資 産 合 計		7,924,620	8,778,041	11,074,475	126.2	100.0
負 債	固 定 負 債	1,372,796	1,179,014	1,871,831	158.8	16.9
	企 業 債	1,372,796	1,179,014	1,871,831	158.8	16.9
	リ ー ス 債 務	0	0	0	-	-
	流 動 負 債	1,611,298	1,775,981	2,482,694	139.8	22.4
	企 業 債	384,481	382,781	370,183	96.7	3.3
	リ ー ス 債 務	0	0	0	-	-
	未 払 金	802,903	946,491	1,715,249	181.2	15.5
	引 当 金	376,468	393,273	350,659	89.2	3.2
	前 受 金	80	0	0	-	-
	そ の 他 流 動 負 債	47,366	53,436	46,603	87.2	0.4
	繰 延 収 益	1,572,145	1,596,153	1,595,847	100.0	14.4
	長 期 前 受 金	6,512,156	6,823,307	7,070,512	103.6	63.8
	長期前受金収益化累計額	△4,940,011	△5,227,154	△5,474,665	104.7	△49.4
	繰 上 償 却 金	0	0	0	-	-
資 本	資 本 金	7,196,376	7,196,376	7,196,376	100.0	65.0
	資 本 金	7,196,376	7,196,376	7,196,376	100.0	65.0
	借 入 資 本 金	0	0	0	-	-
	剰 余 金	△3,827,995	△2,969,483	△2,072,273	69.8	△18.7
	資 本 剰 余 金	3,400	3,400	3,400	100.0	0.0
負 債 ・ 資 本 合 計		7,924,620	8,778,041	11,074,475	126.2	100.0

※ 平成26年度から新たな地方公営企業会計制度を適用しています。

VI 重要な成果

1 The World's Best Hospitals 2年連続受賞

米国週刊誌「Newsweek」による、世界基準の優良な医療機関を評価したランキング「World's Best Hospitals 2022」の日本版に、昨年に引き続き2年連続で選出されました。今年度は、全国8,193病院※1の中から158位に選出されました。

このランキングは世界27カ国を対象としており、評価は以下の3つの基準のもとに決定されています。

- ・医療従事者からの評価：8万人以上の医師、医療従事者、病院管理者へのオンライン調査の実施
- ・患者からの評価：医療機関を受診した患者さんからの満足度評価
- ・病院のKPI※2：患者満足度、衛生管理の状況、治療の質等

当院は、『信頼され、心が通う地域医療』という理念を掲げ、地域の皆様に良い医療を提供するため、「現状維持は後退である」という気持ちで、既成概念や前例主義の打破に取り組んで参りました。これからも「受動的」でなく、「能動的」な改革を進めることができるような組織づくりを進めたいと考えております。

今後も職員一同、皆様のご期待にお応えできるよう迅速かつ丁寧な医療サポートを全力で実施して参ります。

※1 厚生労働省 医療施設動態調査（令和3年12月末概数）

※2 KPI：Key Performance Indicators（重要業績評価指標）の略で、目標の達成度合いを計るために継続的に計測・監視される定量的な指標のこと。

2 新型コロナウイルス感染症への取り組み

新型コロナウイルスとの戦いも2年半を過ぎ、日々刻々と更新される対策や想定外の事態に翻弄されながらいくつもの波を乗り越えてきました。COVID-19陽性者の受け入れは575名（2022年3月末）となりました。

地域性から外国人感染者が多く、受け入れの際に生活様式の違いや日本語でのコミュニケーションができないなどの多くの課題に難渋しました。日常会話や体調の確認などを多言語で案内するとともにポケトークを駆使し、安心安全に入院生活が送れるよう誠心誠意努めました。また、小児患児や透析患者など特殊な症例を受け入れることのできる機関として、県内他地域からの患者の受け入れも行いました。

2021年8月からの「オミクロン株」による第5波、第6波で、群馬県においても1日の新規感染者数が1,000人を超える日もありました。それに伴い、幼稚園、小中学校、高校などの教育機関で多くのクラスターが発生し、スタッフ周辺での感染拡大で、多くの職員が余儀なく自宅待機となりました。同居家族が濃厚接触者に該当し、職員の就業が難しくなることも多くなりました。そこで、濃厚接触者に該当した職員同居家族が無症状の場合には、院内で検査を実施して陰

性確認後職場復帰できるよう体制を整えました。地域住民に対するワクチン接種についても自治体と協力し体制を整え、速やかな接種に貢献しました。

3 病院情報システムの更新

平成 27 年 1 月に導入した病院情報システムは、院内各部署と診療情報の共有及びオーダ連携ができ、診療上不可欠なシステムとして運用してきましたが、導入後 7 年以上経過しシステムの老朽化のため更新が必要となり、令和元年度から情報システム検討委員会において詳細な導入内容の検討を実施し、病院情報システムの導入範囲の決定・内容等を精査・検討及び電子カルテシステムや部門システムのデモンストレーション等を行い業者選定いたしました。

4 管理者・副管理者との意見交換会

11 月の院内報告会に当組合管理者の荒木恵司桐生市長と副管理者の須藤昭男みどり市長を招いて、管理者・副管理者との意見交換会を実施しました。

この意見交換会は、昨年は病院運営委員会で実施しましたが、今回はより多くの職員が参加できるように院内報告会での開催としました。今回も職員から事前に質問を集め、「新病院の建設について」や「医療機器の共同購入・共同利用及び他病院との合併について」等の質問に対して、管理者と副管理者が返答する形式で行い、有意義な意見交換会でありました。

Ⅶ 業務概要

1 診療圏患者受診状況

市町村名	令和元年度				令和2年度			
	入院	外来	合計	構成比	入院	外来	合計	構成比
	人	人	人	%	人	人	人	%
桐生市	79,858	110,598	190,456	67.6	75,083	103,704	178,787	66.1
(旧桐生市)	71,775	99,827	171,602	60.9	67,208	93,517	160,725	59.5
(旧黒保根村)	1,833	1,650	3,483	1.2	1,169	1,588	2,757	1.0
(旧新里村)	6,250	9,121	15,371	5.5	6,706	8,599	15,305	5.7
みどり市	19,971	33,477	53,448	19.0	20,263	32,151	52,414	19.4
(旧大間々町)	8,106	13,520	21,626	7.7	8,802	13,018	21,820	8.1
(旧勢多東村)	1,183	1,784	2,967	1.1	1,294	1,772	3,066	1.1
(旧笠懸町)	10,682	18,173	28,855	10.2	10,167	17,361	27,528	10.2
太田市 (旧藪塚本町)	3,420	6,930	10,350	3.7	3,849	6,741	10,590	3.9
小計	103,249	151,005	254,254	90.2	99,195	142,596	241,791	89.5
県内	7,723	10,074	17,797	6.3	9,907	10,038	19,945	7.4
県外	4,704	5,098	9,802	3.5	3,760	4,809	8,569	3.2
小計	12,427	15,172	27,599	9.8	13,667	14,847	28,514	10.5
合計	115,676	166,177	281,853	100.0	112,862	157,443	270,305	100.0

市町村名	令和3年度				前年度比			
	入院	外来	合計	構成比	入院	外来	合計	構成比
	人	人	人	%	人	人	人	%
桐生市	74,869	107,134	182,003	65.8	99.7	103.3	101.8	99.5
(旧桐生市)	68,519	96,547	165,066	59.7	102.0	103.2	102.7	100.4
(旧黒保根村)	862	1,697	2,559	0.9	73.7	106.9	92.8	90.7
(旧新里村)	5,488	8,890	14,378	5.2	81.8	103.4	93.9	91.8
みどり市	20,181	34,183	54,364	19.7	99.6	106.3	103.7	101.4
(旧大間々町)	9,008	13,885	22,893	8.3	102.3	106.7	104.9	102.6
(旧勢多東村)	923	1,739	2,662	1.0	71.3	98.1	86.8	84.9
(旧笠懸町)	10,250	18,559	28,809	10.4	100.8	106.9	104.7	102.3
太田市 (旧藪塚本町)	3,787	6,511	10,298	3.7	98.4	96.6	97.2	95.1
小計	98,837	147,828	246,665	89.2	99.6	103.7	102.0	99.7
県内	11,002	9,932	20,934	7.6	111.1	98.9	105.0	102.6
県外	4,056	4,841	8,897	3.2	107.9	100.7	103.8	101.5
小計	15,058	14,773	29,831	10.8	110.2	99.5	104.6	102.3
合計	113,895	162,601	276,496	100.0	100.9	103.3	102.3	100.0

※入院欄患者内訳（在院患者延数＋退院患者数） ※人間ドックは除く

2 入院・外来患者状況

(入院)

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
一般病床数	429床	429床	417床	97.2 %
新入院患者数	7,454人	6,920人	7,602人	109.9 %
退院患者数	7,451人	6,899人	7,602人	110.2 %
延在院患者数	108,225人	105,963人	106,293人	100.3 %
一日平均患者数	296人	290人	291人	100.3 %
平均在院日数	14.5日	15.3日	13.9日	90.8 %
病床利用率	68.9 %	67.7 %	69.8 %	103.2 %
病床回転率	25.2回	23.9回	26.3回	110.1 %

※人間ドックを除く

(外来)

項目 \ 年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
延 外 来 患 者 数		166, 177人	157, 443人	162, 601人	103. 3 %
一 日 平 均 患 者 数		695人	648人	672人	103. 7 %
新 来 患 者 数		16, 736人	15, 039人	15, 465人	102. 8 %
再 来 患 者 数		149, 441人	142, 404人	147, 136人	103. 3 %
一 日 外 来 患 者 数	最 高	846人	825人	863人	104. 6 %
	最 低	481人	395人	447人	113. 2 %
新 来 比		10. 1 %	9. 6 %	9. 5 %	99. 6 %
外 来 ・ 入 院 比		153. 5 %	148. 6 %	153. 0 %	103. 0 %

※女性外来を除く

3 科別入院患者数

科 別	令和元年度		令和2年度		令和3年度		前年度比較	
	患者数	1日 平均	患者数	1日 平均	患者数	1日 平均	比率	1日平均 人数比較
内 科	人 38,725	人 106.1	人 38,114	人 104.4	人 35,582	人 97.5	% 93.4	人 △6.9
精 神 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
神 経 内 科	887	2.4	876	2.4	679	1.9	77.5	△0.5
循 環 器 内 科	3,200	8.8	1,810	5.0	2,051	5.6	113.3	0.6
小 児 科	6,393	17.5	5,574	15.3	6,580	18.0	118.0	2.7
外 科	10,165	27.8	11,655	31.9	13,774	37.7	118.2	5.8
血 管 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
整 形 外 科	20,249	55.5	21,432	58.7	16,248	44.5	75.8	△14.2
脳 神 経 外 科	12,947	35.5	12,964	35.5	10,024	27.5	77.3	△8.0
呼 吸 器 外 科	1,065	2.9	1,114	3.1	0	0.0	皆減	△3.1
心 臓 血 管 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
皮 膚 科	1,389	3.8	1,202	3.3	1,670	4.6	138.9	1.3
泌 尿 器 科	5,236	14.3	5,161	14.1	6,470	17.7	125.4	3.6
産 婦 人 科	6,562	18.0	5,058	13.9	5,479	15.0	108.3	1.1
眼 科	517	1.4	432	1.2	510	1.4	118.1	0.2
耳 鼻 い ん こ う 科	128	0.4	146	0.4	112	0.3	76.7	△0.1
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
リハビリテーション科	－	－	－	－	6,051	0.0	皆増	0.0
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	6	0.0	皆増	0.0
救 急 科	1	0.0	0	0.0	627	1.7	皆増	1.7
緩 和 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
歯 科	761	2.1	425	1.2	430	1.2	101.2	0.0
合 計	108,225	296.5	105,963	290.4	106,293	291.2	100.3	0.8

4 科別外来患者数

科 別	令和元年度		令和2年度		令和3年度		前年度比較	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数比率	1日平均人数比較
内 科	人 35,630	人 146.0	人 33,278	人 136.9	人 33,596	人 138.8	% 101.0	人 1.9
精 神 科	387	1.6	338	1.4	341	1.4	100.9	0.0
神 経 内 科	4,734	19.4	4,551	18.7	4,717	19.5	103.6	0.8
循 環 器 内 科	5,953	24.4	4,873	20.1	5,020	20.7	103.0	0.6
小 児 科	10,500	43.0	8,760	36.0	9,899	40.9	113.0	4.9
外 科	7,204	29.5	8,788	36.2	10,134	41.9	115.3	5.7
血 管 外 科	194	0.8	247	1.0	209	0.9	84.6	△0.1
整 形 外 科	15,353	62.9	15,940	65.6	15,680	64.8	98.4	△0.8
脳 神 経 外 科	6,586	27.0	6,316	26.0	6,171	25.5	97.7	△0.5
呼 吸 器 外 科	1,403	5.8	1,158	4.8	625	2.6	54.0	△2.2
心 臓 血 管 外 科	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0
皮 膚 科	12,379	50.7	10,251	42.2	11,099	45.9	108.3	3.7
泌 尿 器 科	17,727	72.7	17,493	72.0	19,535	80.7	111.7	8.7
産 婦 人 科	12,598	51.6	11,687	48.1	11,557	47.8	98.9	△0.3
眼 科	13,488	55.3	12,591	51.8	13,183	54.5	104.7	2.7
耳 鼻 い ん こ う 科	2,663	10.9	2,590	10.7	2,663	11.0	102.8	0.3
麻 酔 科	1,167	4.8	1,168	4.8	932	3.9	79.8	△0.9
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0
放 射 線 科	4,691	19.2	4,114	16.9	5,025	20.8	122.1	3.9
救 急 科	317	1.3	1,193	4.9	840	3.5	70.4	△1.4
緩 和 内 科	10	0.0	59	0.2	31	0.1	52.5	△0.1
歯 科	13,193	54.1	12,048	49.6	11,344	46.9	94.2	△2.7
合 計	166,177	681.0	157,443	647.9	162,601	672.1	103.3	24.2

5 科別時間外受診患者状況

年度 科別	令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
内科	859	2,164	3,023	681	1,505	2,186	766	1,297	2,063	112.5	86.2	94.4
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
神経内科	1	1	2	0	1	1	0	3	3	0.0	300.0	300.0
循環器内科	25	13	38	10	3	13	8	9	17	80.0	300.0	130.8
小児科	208	872	1,080	87	405	492	130	533	663	149.4	131.6	134.8
外科	94	72	166	110	101	211	159	92	251	144.5	91.1	119.0
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
整形外科	198	870	1,068	173	692	865	149	564	713	86.1	81.5	82.4
脳神経外科	191	415	606	164	360	524	128	293	421	78.0	81.4	80.3
呼吸器外科	16	5	21	7	5	12	0	1	1	皆減	20.0	8.3
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
皮膚科	9	337	346	12	223	235	28	241	269	233.3	108.1	114.5
泌尿器科	64	256	320	58	271	329	69	305	374	119.0	112.5	113.7
産婦人科	223	233	456	168	162	330	172	165	337	102.4	101.9	102.1
眼科	0	42	42	0	26	26	1	27	28	皆増	103.8	107.7
耳鼻いんこう科	9	216	225	6	211	217	0	154	154	皆減	73.0	71.0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0	0	0	0	13	13	0	2	2	0.0	15.4	15.4
救急科	0	100	100	0	138	138	15	110	125	皆増	79.7	90.6
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
歯科	2	50	52	1	60	61	1	42	43	100.0	70.0	70.5
合 計	1,899	5,646	7,545	1,477	4,176	5,653	1,626	3,838	5,464	110.1	91.9	96.7

※ 時間外診療会計を実施した診療科にて集計。

5-1 小児科時間外受診患者状況（再掲）

年度 診療月	令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
4月	22	79	101	6	27	33	9	33	42	150.0	122.2	127.3
5月	21	84	105	10	23	33	12	49	61	120.0	213.0	184.8
6月	12	56	68	7	38	45	10	36	46	142.9	94.7	102.2
7月	16	81	97	11	42	53	14	67	81	127.3	159.5	152.8
8月	19	88	107	9	35	44	19	68	87	211.1	194.3	197.7
9月	22	63	85	10	29	39	11	41	52	110.0	141.4	133.3
10月	23	70	93	4	44	48	5	45	50	125.0	102.3	104.2
11月	12	64	76	4	40	44	9	42	51	225.0	105.0	115.9
12月	21	107	128	4	39	43	16	43	59	400.0	110.3	137.2
1月	14	89	103	7	33	40	10	51	61	142.9	154.5	152.5
2月	10	46	56	6	32	38	2	25	27	33.3	78.1	71.1
3月	16	45	61	9	23	32	13	33	46	144.4	143.5	143.8
合 計	208	872	1,080	87	405	492	130	533	663	149.4	131.6	134.8

※平成22年8月から看護師による「電話相談」などによる小児科時間外診療の新たな取り組みを実施。

5－2 科別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況

年度 科別	令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比		
	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	%	%	ポイント
内科	3,023	1,568	51.9	2,186	982	44.9	2,063	828	40.1	94.4	84.3	△4.8
精神科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
神経内科	2	0	0.0	1	0	0.0	3	0	0.0	300.0	0.0	0.0
循環器内科	38	1	2.6	13	0	0.0	17	2	11.8	130.8	皆増	11.8
小児科	1,080	648	60.0	492	261	53.0	663	385	58.1	134.8	147.5	5.0
外科	166	26	15.7	211	28	13.3	251	20	8.0	119.0	71.4	△5.3
血管外科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科	1,068	355	33.2	865	254	29.4	713	192	26.9	82.4	75.6	△2.4
脳神経外科	606	33	5.4	524	37	7.1	421	17	4.0	80.3	45.9	△3.0
呼吸器外科	21	1	4.8	12	1	8.3	1	0	0.0	8.3	皆減	△8.3
心臓血管外科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
皮膚科	346	107	30.9	235	77	32.8	269	88	32.7	114.5	114.3	△0.1
泌尿器科	320	43	13.4	329	30	9.1	374	39	10.4	113.7	130.0	1.3
産婦人科	456	0	0.0	330	0	0.0	337	0	0.0	102.1	0.0	0.0
眼科	42	2	4.8	26	3	11.5	28	2	7.1	107.7	66.7	△4.4
耳鼻いんこう科	225	132	58.7	217	111	51.2	154	77	50.0	71.0	69.4	△1.2
麻酔科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0	0	0.0	13	0	0.0	2	0	0.0	15.4	0.0	0.0
救急科	100	30	30.0	138	56	40.6	125	68	54.4	90.6	121.4	13.8
緩和内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科	52	0	0.0	61	0	0.0	43	0	0.0	70.5	0.0	0.0
合 計	7,545	2,946	39.0	5,653	1,840	32.5	5,464	1,718	31.4	96.7	93.4	△1.1

※平成23年2月から時間外診察費特別料金の実費徴収開始。

※対象項目については、時間外診察費特別料金を徴収した患者数。

5－3 月別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況（再掲）

年度 診療月	令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比		
	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	%	%	ポイント
4月	590	212	35.9	400	127	31.8	404	117	29.0	101.0	92.1	△2.8
5月	652	253	38.8	556	177	31.8	542	167	30.8	97.5	94.4	△1.0
6月	583	227	38.9	422	152	36.0	429	143	33.3	101.7	94.1	△2.7
7月	657	272	41.4	530	188	35.5	549	199	36.2	103.6	105.9	0.8
8月	778	311	40.0	580	199	34.3	501	187	37.3	86.4	94.0	3.0
9月	651	242	37.2	519	162	31.2	427	143	33.5	82.3	88.3	2.3
10月	658	253	38.4	498	166	33.3	438	148	33.8	88.0	89.2	0.5
11月	557	217	39.0	473	165	34.9	405	121	29.9	85.6	73.3	△5.0
12月	714	304	42.6	484	130	26.9	499	144	28.9	103.1	110.8	2.0
1月	749	334	44.6	470	139	29.6	503	153	30.4	107.0	110.1	0.8
2月	486	156	32.1	360	111	30.8	363	90	24.8	100.8	81.1	△6.0
3月	470	165	35.1	361	124	34.3	404	106	26.2	111.9	85.5	△8.1
合 計	7,545	2,946	39.0	5,653	1,840	32.5	5,464	1,718	31.4	96.7	93.4	△1.1

6 科別救急搬送患者状況

年度 科別	令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
内科	670	569	1,239	709	364	1,073	674	333	1,007	95.1	91.5	93.8
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
神経内科	2	4	6	12	11	23	4	7	11	33.3	63.6	47.8
循環器内科	35	3	38	22	0	22	14	2	16	63.6	皆増	72.7
小児科	86	185	271	54	107	161	56	148	204	103.7	138.3	126.7
外科	54	12	66	65	18	83	86	13	99	132.3	72.2	119.3
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
整形外科	181	221	402	215	183	398	197	160	357	91.6	87.4	89.7
脳神経外科	264	167	431	241	130	371	201	112	313	83.4	86.2	84.4
呼吸器外科	14	2	16	10	3	13	0	0	0	皆減	皆減	0.0
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
皮膚科	8	18	26	10	14	24	7	16	23	70.0	114.3	95.8
泌尿器科	47	40	87	54	41	95	62	39	101	114.8	95.1	106.3
産婦人科	68	19	87	44	11	55	69	19	88	156.8	172.7	160.0
眼科	0	5	5	0	2	2	0	7	7	0.0	350.0	350.0
耳鼻いんこう科	7	57	64	6	57	63	1	44	45	16.7	77.2	71.4
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
救急科	0	194	194	0	324	324	44	330	374	皆増	101.9	115.4
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
歯科	0	5	5	2	6	8	0	7	7	皆減	116.7	87.5
合計	1,436	1,501	2,937	1,444	1,271	2,715	1,415	1,237	2,652	98.0	97.3	97.7
一日平均	3.9	4.1	8.0	4.0	3.5	7.4	3.9	3.4	7.3	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.2

7 年齢別患者年報（年度別）

年度 科別	令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
0～4	6,313	5,936	12,249	5,560	4,321	9,881	6,279	4,901	11,180	112.9	113.4	113.1
5～9	451	2,724	3,175	334	2,532	2,866	285	2,787	3,072	85.3	110.1	107.2
10～19	1,121	6,429	7,550	957	5,448	6,405	1,197	5,476	6,673	125.1	100.5	104.2
20～29	2,106	5,478	7,584	1,742	5,498	7,240	1,727	5,338	7,065	99.1	97.1	97.6
30～39	3,779	8,528	12,307	3,392	8,373	11,765	3,116	7,814	10,930	91.9	93.3	92.9
40～49	3,404	13,584	16,988	3,976	12,852	16,828	3,418	12,803	16,221	86.0	99.6	96.4
50～59	6,385	16,802	23,187	7,424	17,438	24,862	6,714	17,108	23,822	90.4	98.1	95.8
60～69	14,104	27,287	41,391	12,596	24,299	36,895	10,921	23,635	34,556	86.7	97.3	93.7
70～79	31,075	47,944	79,019	29,392	45,851	75,243	31,749	49,275	81,024	108.0	107.5	107.7
80～	39,487	31,465	70,952	40,590	30,832	71,422	40,887	33,464	74,351	100.7	108.5	104.1
合計	108,225	166,177	274,402	105,963	157,444	263,407	106,293	162,601	268,894	100.3	103.3	102.1

8 死亡・剖検数の疫病分類

① 入院（その１）

※ 下段（ ）は剖検数

診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症	9					3		1		
2 新生物	83					57				
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	1			1					1	
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	3									
5 精神および行動の障害	1									
6 神経系の疾患										
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	35			3		1			20	
10 呼吸器系の疾患	81					2			2	
11 消化器系の疾患	26			1		2				
12 皮膚および皮下組織の疾 患	1									
13 筋骨格系の疾患	3								1	
14 尿路性器系の疾患	6			2				2		
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常					3					
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	7									
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響	1							1	1	
20 傷病および死亡の外因										
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
合 計	257			7	3	65		4	25	

① 入院（その２）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症	1 (1)	1								15 (1)
2 新生物		16	2							158
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										3
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										3
5 精神および行動の障害										1
6 神経系の疾患										
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	1							3		63
10 呼吸器系の疾患	2	1	1					2		91
11 消化器系の疾患										29
12 皮膚および皮下組織の疾 患								1		2
13 筋骨格系の疾患										4
14 尿路性器系の疾患		4								14
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										3
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	1							1		9
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響										3
20 傷病および死亡の外因										
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
合 計	5 (1)	22	3					7		398 (1)

② 外来（その１）

※ 下段（ ）は剖検数

診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症	1									
2 新生物	9					1				
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患	1									
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	31			1		1				
10 呼吸器系の疾患	5									
11 消化器系の疾患	1					1				
12 皮膚および皮下組織の疾患										
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患										
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの										
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響	1							1		
20 傷病および死亡の外因	1					1			2	
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
合 計	50			1		4		1	2	

② 外来（その２）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症										1
2 新生物			1							11
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										1
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患								11		44
10 呼吸器系の疾患								2		7
11 消化器系の疾患								3		5
12 皮膚および皮下組織の疾患										
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患										
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染色体異常										
18 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの										
19 損傷、中毒およびその他の外因の影響										2
20 傷病および死亡の外因	1							1		6
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用										
合 計	1		1					17		77

③ 入院＋外来（その１）

※ 下段（ ）は剖検数

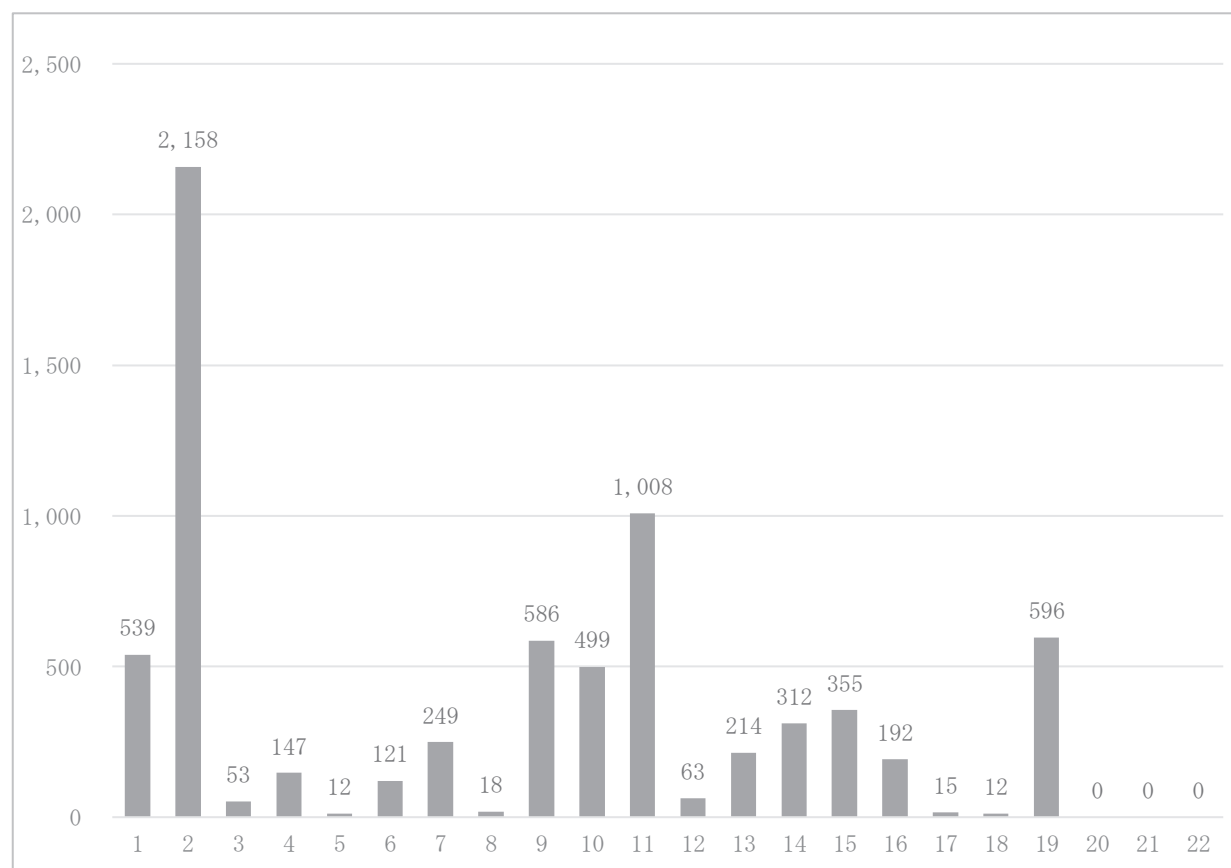
診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症	10					3		1		
2 新生物	92					58				
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	1			1					1	
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	3									
5 精神および行動の障害	1									
6 神経系の疾患	1									
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	66			4		2			20	
10 呼吸器系の疾患	86					2			2	
11 消化器系の疾患	27			1		3				
12 皮膚および皮下組織の疾 患	1									
13 筋骨格系の疾患	3								1	
14 尿路性器系の疾患	6			2				2		
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常					3					
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	7									
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響	2							2	1	
20 傷病および死亡の外因	1					1			2	
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
合 計	307			8	3	69		5	27	

③ 入院＋外来（その２）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症	1 (1)	1								16 (1)
2 新生物		16	3							169
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										3
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										3
5 精神および行動の障害										1
6 神経系の疾患										1
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	1							14		107
10 呼吸器系の疾患	2	1	1					4		98
11 消化器系の疾患								3		34
12 皮膚および皮下組織の疾患								1		2
13 筋骨格系の疾患										4
14 尿路性器系の疾患		4								14
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染色体異常										3
18 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1							1		9
19 損傷、中毒およびその他の外因の影響										5
20 傷病および死亡の外因	1							1		6
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用										
合 計	6 (1)	22	4					24		475 (1)

④退院患者疾病大分類統計

章	ICDコード 分類見出し	人
1	A00-B99 感染症および寄生虫症	539
2	C00-D48 新生物	2,158
3	D50-D89 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	53
4	E00-E90 内分泌, 栄養および代謝疾患	147
5	F00-F99 精神および行動の障害	12
6	G00-G99 神経系の疾患	121
7	H00-H59 眼および付属器の疾患	249
8	H60-H95 耳および乳様突起の疾患	18
9	I00-I99 循環器系の疾患	586
10	J00-J99 呼吸器系の疾患	499
11	K00-K93 消化器系の疾患	1,008
12	L00-L99 皮膚および皮下組織の疾患	63
13	M00-M99 筋骨格系および結合組織の疾患	214
14	N00-N99 尿路性器系の疾患	312
15	O00-O99 妊娠, 分娩および産じょく〈褥〉	355
16	P00-P96 周産期に発生した病態	192
17	Q00-Q99 先天奇形, 変形および染色体異常	15
18	R00-R99 症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12
19	S00-T98 損傷, 中毒およびその他の外因の影響	596
20	V00-Y98 傷病および死亡の外因	0
21	Z00-Z99 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
22	U00-U99 特殊目的コード	0
合 計		7,149



9 手術

(1) 科別・麻酔別手術件数

科別 \ 麻酔別	全麻	腰麻	局麻	硬膜外	静脈	その他	合 計	構成比
	件	件	件	件	件	件	件	%
内 科							0	
精 神 科							0	
神 経 内 科							0	
循 環 器 内 科			36				36	1.6
小 児 科							0	
外 科	371	21	50				442	19.8
血 管 外 科							0	
整 形 外 科	215	139	57			25	436	19.5
脳 神 経 外 科	44		78				122	5.5
呼 吸 器 外 科							0	
心 臓 血 管 外 科							0	
皮 膚 科			76				76	3.4
泌 尿 器 科	63	442	22				527	23.6
産 婦 人 科	144	113			23		280	12.5
眼 科	14		233				247	11.0
耳鼻いんこう科							0	
麻 酔 科							0	
放 射 線 科							0	
救 急 科							0	
緩 和 内 科							0	
歯 科	69		1				70	3.1
合 計	920	715	553	0	23	25	2,236	
構成比	% 41.1	% 32.0	% 24.7	% 0.0	% 1.0	% 1.1		100.0

(2) 科別・疾患別手術件数

科	部 位	病 名	術 名	件 数
循環器 内科	胸部	洞不全症候群	ペースメーカー植え込み術	7
		徐脈頻脈症候群	ペースメーカー植え込み術	3
		房室ブロック	ペースメーカー植え込み術	7
		ペースメーカー電池消耗	ペースメーカー電池交換術	19
	計			36
外科	乳腺	乳癌	乳房切除	62
		乳腺腫瘍	腫瘍摘出	3
		その他		2
	食道	食道癌	根治術（鏡視下）	2 (2)
	胃		胃全摘（ラパロ）	13 (1)
			胃切除（ラパロ）	12 (8)
			胃空腸吻合（ラパロ）	6 (5)
			その他	3 (1)
	十二指腸		十二指腸穿孔	1 (1)
	結腸・直腸	結腸癌	結腸切除（ラパロ）	42 (21)
		直腸癌	直腸切除（ラパロ）	18 (14)
			前方切除（ラパロ）	15 (13)
			人工肛門（ラパロ）	12 (3)
			その他	1
	虫垂	虫垂炎	虫垂切除（ラパロ）	28 (27)
	小腸	腸閉塞	腸閉塞手術（ラパロ）	16 (4)
	肝・胆・膵	肝癌・肝腫瘍	肝切除：肝癌	6
			肝切除：胆道系	4
		転移性肝癌	肝切除	5
		胆石・胆嚢	胆摘（ラパロ）	42 (37)
			胆管切開	1
		膵癌・胆管癌	膵頭十二指腸切除	2
			膵全摘	1
	肛門	肛門疾患	痔核手術	4
			痔瘻手術	1
		直腸脱		3
	ヘルニア	ヘルニア	単径ヘルニア（ラパロ）	62 (40)
			大腿ヘルニア（ラパロ）	2 (1)
			腹壁ヘルニア（ラパロ）	1
			閉鎖孔ヘルニア	2 (2)
	腹部その他		腹膜炎（ラパロ）	5
			その他（ラパロ）	23 (4)
			C V ポート（留置、抜去）	48
	呼吸器	気胸	胸腔鏡下肺部分切除術	3 (3)
		その他	気管切開術	2
	計			453 (187)

科	部 位	病 名	術 名	件 数
整形外科	上肢・肩甲帯	鎖骨骨折	観血の整復固定術	8
		上腕骨頸部骨折	人工骨頭置換術	1
			観血の整復固定術	4
		上腕骨骨幹部骨折	観血の整復固定術	3
		上腕骨顆上骨折	観血の整復固定術	4
		上腕骨顆部骨折	観血の整復固定術	3
		肘関節脱臼骨折	観血の整復固定術	2
		前腕両骨骨折	観血の整復固定術	1
		橈骨頸部骨折	人工骨頭置換術	1
		橈骨下端骨折	観血の整復固定術	27
		尺骨骨折	観血の整復固定術	2
		手関節脱臼骨折	観血の整復固定術	1
		舟状骨骨折	観血の整復固定術	1
		キーンベック病	観血の関節固定術	1
		手指、中手骨骨折	観血の整復固定術	11
		バネ指	腱鞘切開術	11
		母指MP関節脱臼	靱帯縫合術	2
		手根管症候群	手根管開放術	6
		肘部管症候群	神経剥離術	2
		尺骨神経麻痺	神経剥離術	1
		挫滅	腱縫合術	2
			デブリードマン、洗浄	2
		長母指屈筋腱断裂	腱移行術	1
		創感染、潰瘍	搔爬、洗浄	5
		挫滅、ケロイド	創処置	3
		軟部腫瘍	摘出術	2
		異物	異物摘出術	1
		観血の整復固定術後	抜釘術	42
	下肢	大腿骨頸部骨折		
		内側	人工骨頭置換術	25
			観血の整復固定術	19
		転子部、転子下	観血の整復固定術	46
		大腿骨骨幹部～顆部骨折	観血の整復固定術	5
		変形性膝関節症	人工膝関節置換術	9
		半月板損傷、感染など	関節鏡	9
		膝関節拘縮	関節授動術	2
		膝蓋骨骨折	観血の整復固定術	1
		下腿骨骨折		
		近位端	観血の整復固定術	6
		骨幹部	観血の整復固定術	2
		遠位端	観血の整復固定術	4

科	部 位	病 名	術 名	件 数
整形外科	下肢	下腿両骨骨折	観血の整復固定術	1
		足関節脱臼骨折	観血の整復固定術	11
		踵骨骨折	観血の整復固定術	1
		足趾骨折	観血の整復固定術	1
		壊疽	足部切断	3
			皮膚切開	1
		挫滅	神経縫合	1
		足部熱傷	創処置	1
		骨髓炎	搔爬、洗浄	3
		感染、皮膚潰瘍	創処置	2
		異物	異物除去	1
		観血の整復固定術後	抜釘術	23
	脊椎	頸椎症性脊髄症	頸部脊柱管拡大術	17
			頸椎椎弓切除術	1
		頸椎症性脊髄症＋後弯	頸椎後方固定術	1
		頸椎後縦靱帯骨化症	頸部脊柱管拡大術	3
		ＯＰＬＬ＋後弯	頸椎後方固定術	1
		頸椎椎間板ヘルニア	頸部脊柱管拡大術	1
		頸髄腫瘍	腫瘍摘出術	1
		頸椎脱臼骨折	頸椎後方固定術	1
		胸椎後縦靱帯骨化症	胸椎後方固定術	1
			椎弓切除術	1
		胸椎黄色靱帯骨化症	胸椎後方固定術	1
		胸椎転移	胸椎後方固定術	1
		胸椎チャンス骨折	胸腰椎後方固定術	2
		胸椎圧潰脊椎	胸腰椎後方固定術	1
		脊柱変形	胸腰椎骨盤後方固定術	2
			ＯＬＩＦ	2
		破壊性脊椎関節症	胸腰椎骨盤後方固定術	1
			ＯＬＩＦ	1
		腰椎圧迫骨折	胸腰椎後方固定術	1
		腰椎破裂骨折	胸腰椎後方固定術	1
		腰椎チャンス骨折	胸腰椎骨盤後方固定術	1
		馬尾神経腫瘍	腫瘍摘出術	1
		腰部脊柱管狭窄症	腰椎開窓術	9
			内視鏡下椎弓切除術	10
		腰椎椎間孔外狭窄	内視鏡下椎弓切除術	1
		腰椎椎間板ヘルニア	内視鏡下椎間板摘出術	10
			後方椎間板摘出術	1
			ヘルニコア注入	1
		脊椎圧迫骨折、圧潰脊椎	経皮的椎体形成術	13
		術後感染	デブリードマン、洗浄	4

科	部 位	病 名	術 名	件 数
整形外科	脊椎	術後血腫	血腫除去術	2
		脊椎腫瘍、感染	針生検	6
		腸腰筋膿瘍	デブリードマン、洗浄	1
		背部軟部腫瘍	腫瘍摘出術	4
		脊椎後方固定後、感染	抜釘術	4
	計			436
脳神経外科	脳血管障害	破裂脳動脈瘤	クリッピング術	13
			コイル塞栓術	5
	脳血管障害	未破裂脳動脈瘤	クリッピング術	1
		脳内出血	内視鏡下血腫除去術	2
		頸部頸動脈狭窄症	ステント留置術	7
		脳動脈狭窄症	血管形成術	2
		脳動脈閉塞症	血栓回収術	18
		硬膜動静脈瘻	塞栓術	2
	腫瘍	脳腫瘍	開頭腫瘍摘出術	1
			オマヤリザーバー設置	2
			栄養動脈塞栓術	1
		頭蓋骨腫瘍	摘出術	1
	外傷	急性硬膜外血腫	開頭血腫除去術	2
		急性硬膜下血腫	開頭血腫除去術	3
		亜急性硬膜下血腫	穿孔洗浄術	1
		慢性硬膜下血腫	穿孔洗浄術	44
	その他	水頭症	脳室腹腔短絡術	4
			腰椎腹腔短絡術	1
			脳室ドレナージ	3
			シャント再建術	2
		顔面けいれん	微小血管減圧術	2
		その他		5
	計			122
皮膚科	皮膚悪性腫瘍 (20例)	基底細胞癌	切除術	11
		有棘細胞癌	切除術	7
			切除術＋全層植皮術	1
		転移性皮膚癌	切除例	1
	表皮内癌 (10例)	日光角化症	切除例	1
		ボーエン病	切除術	9
	皮膚良性腫瘍 (46例)	粉瘤	切除術	22
		色素細胞母斑	切除術	5
		石灰化上皮腫	切除術	4
		エクリン汗孔腫	切除術	3
		ケラトアkantoma	切除術	3
		脂肪腫	切除術	2
		神経鞘腫	切除術	2

科	部 位	病 名	術 名	件 数
皮膚科	皮膚良性腫瘍	その他	切除術	5
	計			76
泌尿器科	副腎	副腎癌	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	1
	腎臓	腎細胞癌	腹腔鏡下腎悪性腫瘍摘出術	12
			腹腔鏡下腎悪性腫瘍部分切除術	2
	腎盂・尿管	腎盂尿管癌 尿管狭窄など	腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍摘出術	3
			経尿道的尿管ステント留置術	24
	膀胱	膀胱癌	腹腔鏡下膀胱全摘除術	8
			経尿道的膀胱腫瘍切除術	71
			膀胱生検	3
		膀胱結石	経尿道的膀胱結石碎石術	13
	前立腺	前立腺癌	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍摘出術	17
			精巣摘出術	7
			前立腺生検	298
			経会陰的放射線治療用材料局所注入	26
			経尿道的前立腺切除術	26
	陰茎	陰茎癌 包茎	陰茎切断術	1
			環状切除術	4
	陰嚢・精巣	停留精巣	精巣固定術	4
		陰嚢水腫	陰嚢水腫根治術	6
	その他	骨盤臓器脱	腹腔鏡下仙骨固定術	1
		後腹膜腫瘍	後腹膜鏡下腫瘍生検	2
		慢性腎不全	内シャント造設術	14
		尿管狭窄	尿管移植術（ボアリー法）	1
	計			544
産婦人科	子宮（産科）		緊急帝王切開術	42
			選択的帝王切開術	53
			流産手術	23
	子宮（婦人科）	良性子宮疾患	良性子宮疾患円錐切除術	14
			良性子宮疾患子宮鏡下手術	21
			良性子宮疾患腹腔鏡下手術	30
			良性子宮疾患開腹手術	4
		性器脱	性器脱手術	6
		子宮頸癌	円錐切除術	2
		子宮体癌	開腹子宮全摘術	8
		良性卵巣卵管疾患	良性卵巣卵管疾患開腹手術	8
			良性卵巣卵管疾患腹腔鏡下手術	44
		悪性卵巣腫瘍	悪性付属器腫瘍手術	8
		外陰疾患	外陰手術	2
		膣疾患	膣手術	5
		その他	その他の手術	10
	計			280

科	部 位	病 名	術 名	件 数
眼科	水晶体	白内障	水晶体再建術（眼内レンズ挿入あり）	241
		後発白内障	後発白内障切開手術	2
	角膜	翼状片	翼状片手術（弁移植を要するもの）	2
	眼筋	外斜視	前転法及び後転法の併施	2
	計			247
歯科	顎口腔	埋伏歯	埋伏歯摘出術	52
		下顎骨腫瘍	下顎骨腫瘍摘出術	2
		歯根嚢胞	歯根嚢胞摘出術	2
		下顎骨骨折術後	顎骨内異物除去術	1
		下顎骨嚢胞	顎骨嚢胞摘出術	2
		頬粘膜腫瘍	頬粘膜腫瘍摘出術	1
		下顎骨骨髓炎	腐骨除去手術	1
		う 歯（障がい者）	う 歯治療または抜歯	8
		舌腫瘍	舌腫瘍摘出術	1
	計			70
合 計			2,264	

10 内視鏡患者数

検査種別	検 査 名	所在	令和元年度	令和2年度	令和3年度
上部消化管	上部消化管	外来	人 1, 297	人 1, 229	人 1, 267
		入院	387	361	393
	内視鏡の超音波検査	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	内視鏡の注入硬化療法	外来	1	1	2
		入院	25	28	23
	食道静脈瘤結紮術	外来	7	3	4
		入院	7	2	11
	胃瘻造設	外来	0	0	1
		入院	13	17	16
	胃瘻交換	外来	43	48	55
		入院	2	2	3
	上部消化管止血術	外来	21	25	24
		入院	27	27	29
	胃粘膜切除術	外来	0	0	1
		入院	0	9	4
	胃ポリープ切除術	外来	0	0	0
		入院	3	1	1
	胃粘膜下剥離術	外来	0	0	0
		入院	17	17	28
	異物摘出術	外来	6	3	9
		入院	0	1	1
	食道拡張術	外来	1	0	0
		入院	0	8	2
	十二指腸拡張術	外来	0	0	0
		入院	0	0	1
	上部消化管（人間ドック）	外来	247	173	0
		入院	4	0	0
	幽門狭窄拡張	外来	0	0	0
		入院	1	0	0
	上部消化管（健診）	外来	835	983	1, 493
		入院	0	0	0
	上部消化管（健診・経鼻）	外来			374
		入院			0
	上部消化管内視鏡計	外来	2, 458	2, 465	3, 230
		入院	487	473	518
胆膵内視鏡	逆行性膵胆管造影	外来	0	0	1
		入院	125	113	1
	乳頭括約筋切開術	外来	0	0	0
		入院	76	47	1

検査種別	検 査 名	所在	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	胆道結石除去術	外来	人 0	人 0	人 0
		入院	57	35	44
	胆道ステント留置	外来	0	0	1
		入院	85	62	53
	乳頭バルーン拡張術	外来	0	0	0
		入院	1	2	2
	経鼻胆管ドレナージ	外来	0	0	0
		入院	8	2	4
	胆膵超音波	外来	0	0	0
		入院	1	0	0
	胆膵超音波穿刺	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	胆膵内視鏡計	外来	0	0	0
		入院	353	261	235
下部消化管	大腸ファイバー	外来	1, 328	1, 117	1, 216
		入院	193	128	191
	大腸超音波内視鏡	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	大腸ポリープ切除術	外来	317	289	376
		入院	13	8	15
	大腸粘膜切除術	外来	1	3	3
		入院	0	2	1
	大腸粘膜剥離術	外来	0	0	0
		入院	2	2	3
	下部消化管止血術	外来	3	4	4
		入院	14	10	11
	大腸拡張術	外来	1	0	0
		入院	2	0	0
	下部消化管内視鏡計	外来	1, 652	1, 413	1, 599
		入院	224	150	221
気管支	気管支ファイバー	外来	1	1	0
		入院	76	48	67
	経気管支肺生検	外来	0	1	1
		入院	36	38	18
	気管支異物除去術	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	超音波気管支鏡	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	気管支瘻孔閉鎖術	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	気管支肺胞洗浄	外来	0	0	0
		入院	20	2	3
	気管支鏡計	外来	1	2	1
		入院	132	90	89

11 分娩件数・内訳

項目	分娩件数	内訳			児体数	死産	
		単胎	双胎	品胎		22週未満	22週以降
	件	件	件	件	件	件	件
3年度	259	247	12	0	268	8	2
2年度	279	269	9	1	290	11	0
元年度	300	286	14	0	314	13	0

12 新生児未熟児センター

(1) 入院数 (NICU+GCU)

体 重	令和元年度	令和2年度	令和3年度
g	人	人	人
0-999	3	10	10
1000-1499	14	14	13
1500-1999	27	14	16
2000-2499	44	19	43
2500-	94	94	79
計	182	151	161

(2) NICU入院数

体 重	令和元年度	令和2年度	令和3年度
g	人	人	人
0-999	3	10	10
1000-1499	13	13	13
1500-1999	27	14	13
2000-2499	21	7	15
2500-	39	26	17
計	103	70	68

13 ICU・CCU入室患者数

年度 科別	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内科	19人	31人	56人
精神科			
神経内科			
循環器内科	85	29	26
小児科	4	1	10
外科	139	168	192
血管外科			
整形外科	25	20	28
脳神経外科	70	80	102
呼吸器外科	66	66	
心臓外科			
皮膚科	1	1	
泌尿器科	36	45	54
産婦人科	37	30	40
眼科			
耳鼻いんこう科			
麻酔科			
放射線科			
救急科			10
緩和内科			
歯科・口腔外科			
計	482	471	518

ICU・CCU稼働率

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
稼働率	59.4 %	50.5 %	60.7 %

14 腎センター

(1) 慢性透析の概要

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年比
	回	回	回	%
入院患者透析回数	690	869	752	86.5
外来患者透析回数	2,421	2,481	2,148	86.6
計	3,111	3,350	2,900	86.6
透析開始者数	4	5	7	140.0
死者数	2	7	6	85.7
転出者数	53	58	55	94.8
転入者数	51	58	56	96.6
急性透析患者数	49	52	56	107.7

15 人間ドック・健康診断等

(1) 人間ドック・健康診断利用者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年比
	人	人	人	%
短期（1泊2日）人間ドック （8床）	256	183	0	0.0
1日ドック	2,479	2,315	2,643	114.2
健康診断等	4,107	3,769	3,705	98.3
計	6,842	6,267	6,348	101.3

※ 再掲

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年比
	人	人	人	%
脳ドック	140	119	150	126.1
肺がんドック	52	53	31	58.5

16 リハビリテーション科

(1) 理学療法

① 年度別入院・外来患者数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	35,508	37,235	36,043	96.8
外来	3,269	3,880	4,289	110.5
合 計	38,777	41,115	40,332	98.1

② 年度別療法単位数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	2,817	3,375	3,105	92.0
脳血管2単位	4,859	5,918	5,697	96.3
脳血管3単位	3,510	2,808	1,967	70.0
廃用1単位	5,474	4,574	4,284	93.7
廃用2単位	2,657	1,483	1,429	96.4
廃用3単位	392	273	212	77.7
運動器1単位	3,322	2,808	2,997	106.7
運動器2単位	7,997	9,897	11,319	114.4
運動器3単位	5,227	5,018	4,330	86.3
呼吸器1単位	1,384	3,231	3,098	95.9
呼吸器2単位	754	828	1,161	140.2
呼吸器3単位	51	16	120	750.0
がん患者リハ1単位	308	662	473	71.5
がん患者リハ2単位	55	187	134	71.7
がん患者リハ3単位	0	37	6	16.2
消炎鎮痛処置				
合 計	38,807	41,115	40,332	98.1

(2) 作業療法

① 年度別入院・外来患者数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	12,237	12,667	12,477	98.5
外来	2,220	2,118	2,514	118.7
合 計	14,457	14,785	14,991	101.4

② 年度別療法単位数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	1,662	1,773	1,651	93.1
脳血管2単位	3,567	3,628	4,257	117.3
脳血管3単位	2,796	2,349	1,205	51.3
廃用1単位	2,414	2,218	1,670	75.3
廃用2単位	402	187	337	180.2
廃用3単位	73	49	5	10.2
運動器1単位	692	819	796	97.2
運動器2単位	2,116	1,939	3,543	182.7
運動器3単位	482	829	469	56.6
呼吸器2単位	0	0	5	皆増
がん患者リハ1単位	241	906	987	108.9
がん患者リハ2単位	15	85	65	76.5
がん患者リハ3単位	0	3	1	皆増
合 計	14,460	14,785	14,991	101.4

(3) 言語療法

① 年度別入院・外来患者数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	7,060	7,474	7,302	97.7
外来	107	35	92	262.9
合 計	7,167	7,509	7,394	98.5

② 年度別療法単位数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	2,216	2,826	2,267	80.2
脳血管2単位	3,220	3,172	2,812	88.7
脳血管3単位	231	85	86	101.2
廃用1単位	1,296	650	864	132.9
廃用2単位	198	48	158	329.2
廃用3単位	3	0	9	皆増
呼吸器1単位	0	585	950	162.4
呼吸器2単位	0	120	151	125.8
呼吸器3単位	0	0	1	皆増
がん患者リハ1単位	2	22	81	368.2
がん患者リハ2単位	0	1	15	1,500.0
合 計	7,166	7,509	7,394	98.5

17 臨床工学科

(1) 医療機器管理

項 目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
貸出前点検件数	件	5,681	5,182	4,917
定期点検件数	件	887	777	493
故障修理件数	件	269	158	117
院内ME機器勉強会	回	27	22	12

(2) 臨床技術提供

① 呼吸療法部門

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	件	件	件
呼吸器回診	1,071	741	1,085
RST回診患者数	14	6	13
RST回診件数	39	10	31

② 循環器部門

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	件	件	件
心臓カテーテル検査	95	40	18
心臓カテーテル治療	56	17	19
経皮的心肺補助装置	0	0	0
大動脈内バルーンパンピング	3	0	1
血管内超音波診断	49	10	16
下肢動脈カテーテル治療	0	0	0
ペースメーカー植込み・交換	21	17	35
体外式ペースメーカー	10	3	12
ペースメーカー外来（定期）	279	181	138
ペースメーカー病棟点検（不定期）	49	39	55
人工心肺装置使用件数	0	0	0
心筋保護液供給装置使用件数	0	0	0
脳分離体外循環件数	0	0	0
Off pump CABG	0	0	0

③ 血液浄化部門

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	件	件	件
出張血液透析(HD)	17	10	78
出張血液濾過(HF)	0	0	0
出張血液透析濾過(HDF)	0	0	0
持続的腎代替療法(CRRT)	9	0	15
血液吸着(HA)	24	11	5
血漿吸着(PA)	2	9	15
血漿交換(PE)	12	0	6
腹水濾過濃縮(CART)	29	27	36
白血球除去療法(LCAP/GCAP)	0	19	2

④ 高気圧酸素部門

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	件	件	件
減圧症又は空気塞栓に対するもの	0	0	0
その他のもの	289	453	336
合計	289	453	336

⑤ 手術室部門

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	件	件	件
回収式自己血輸血システム	0	0	0
手術用ナビゲーションシステム	21	14	8
手術用内視鏡システム	354	432	343
手術室不具合対応	59	44	48
術中神経モニタリングシステム	-	4	6

⑥ NICU部門

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	件	件	件
新生児呼吸器回診	252	256	583

18 放射線科

(1) 部門別年度別総件数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
一般撮影部門	31,246	28,136	28,204	100.2
マンモグラフィ部門	1,424	1,304	1,472	112.9
出張撮影部門	8,007	7,460	7,773	104.2
CT部門	14,235	15,422	14,497	94.0
MRI部門	6,201	5,816	6,085	104.6
循環器部門	328	216	224	103.7
透視部門	2,367	2,076	1,934	93.2
RI部門	415	472	574	121.6
放射線治療部門	4,217	3,601	4,378	121.6
骨密度検査部門	282	187	259	138.5
画像入出力部門	9,403	9,025	9,209	102.0
合計件数	78,125	73,715	74,609	101.2

(2) 一般撮影部門

項目 \ 年度	令和元年度				令和2年度				令和3年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	%
頭頸部	50	85		135	36	69		105	44	60		104	99.0
脊椎	528	2,042		2,570	507	2,089		2,596	567	1,989		2,556	98.5
胸部・胸郭	2,947	11,936	3,914	18,797	2,363	10,267	3,679	16,309	2,348	10,603	3,725	16,676	102.3
腹部・骨盤	996	2,750		3,746	774	2,156		2,930	861	2,319		3,180	108.5
上肢	206	1,814		2,020	205	1,797		2,002	224	1,718		1,942	97.0
下肢	938	1,856		2,794	1,100	1,959		3,059	805	1,852		2,657	86.9
歯牙	139	1,045		1,184	109	1,026		1,135	119	970		1,089	95.9
合計件数	5,804	21,528	3,914	31,246	5,094	19,363	3,679	28,136	4,968	19,511	3,725	28,204	100.2
合計人数	5,346	19,264	3,914	28,524	4,636	17,217	3,679	25,532	4,240	17,625	3,725	25,590	100.2

(3) マンモグラフィ部門

項目 \ 年度	令和元年度				令和2年度				令和3年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	%
撮影	3	420	1,001	1,424	3	467	827	1,297	3	561	906	1,470	113.3
バイオプシー	0	0		0	0	7		7	0	2		2	28.6
合計件数(人数)	3	420	1,001	1,424	3	474	827	1,304	3	563	906	1,472	112.9

(4) 出張撮影部門

項目 \ 年度	令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭頸部	1	0	1	1	1	2	0	0	0	-
脊椎	185	1	186	177	3	180	204	0	204	113.3
胸部・胸郭	5,068	116	5,184	4,489	72	4,561	4,849	91	4,940	108.3
腹部・骨盤	1,781	24	1,805	1,857	18	1,875	1,935	8	1,943	103.6
上肢	114	17	131	80	4	84	85	10	95	113.1
下肢	295	2	297	329	6	335	263	0	263	78.5
O-arm	27	0	27	27	0	27	23	0	23	85.2
C-arm	333	43	376	380	16	396	281	24	305	77.0
合計件数	7,804	203	8,007	7,340	120	7,460	7,640	133	7,773	104.2
合計人数	6,596	179	6,775	6,082	98	6,180	6,596	147	6,743	109.1

※令和元年度よりC-armの項目を透視部門より移動

(5) CT部門

項目 \ 年度	令和元年度				令和2年度				令和3年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭部	1,179	3,096		4,275	1,102	3,034		4,136	1,051	2,680		3,731	90.2
体幹部	1,393	7,730	70	9,193	1,703	8,620	70	10,393	1,676	8,314	49	10,039	96.6
四肢部	180	522		702	205	631		836	152	487		639	76.4
心臓	10	55		65	5	52		57	10	78		88	154.4
合計件数	2,762	11,403	70	14,235	3,015	12,337	70	15,422	2,889	11,559	49	14,497	94.0
造影数	632	4,025		4,657	637	3,971		4,608	540	4,121		4,661	101.2
造影率 (%)	24.7	38.2		35.4	23.6	37.1		34.2	20.7	40.3		36.1	105.6
合計人数	2,556	10,518	70	13,144	2,697	10,694	70	13,461	2,611	10,238	49	12,898	95.8

(6) MRI部門

項目 \ 年度	令和元年度				令和2年度				令和3年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭部	534	2,703	141	3,378	471	2,534	118	3,123	456	2,539	154	3,149	100.8
頸部	117	300		417	72	300		372	65	294		359	96.5
胸部	1	48		49	1	106		107	2	87		89	83.2
腹部	51	435		486	44	426		470	71	453		524	111.5
骨盤	63	548		611	40	449		489	48	713		761	155.6
脊椎	199	686		885	188	665		853	175	635		810	95.0
四肢部	76	279		355	74	305		379	69	310		379	100.0
軟部・皮膚	0	20		20	0	23		23	0	14		14	60.9
合計件数	1,041	5,019	141	6,201	890	4,808	118	5,816	886	5,045	154	6,085	104.6
造影数	80	928		1,008	100	922		1,022	109	1,123		1,232	120.5
造影率 (%)	8.7	19.6		17.4	12.3	20.4		18.8	13.4	23.6		21.5	114.6
合計人数	924	4,725	141	5,790	812	4,518	118	5,448	812	4,766	154	5,732	105.2

(7) 循環器部門

(a) アンギオ検査室

項目 \ 年度		令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比
		造影	治療	計	造影	治療	計	造影	治療	計	
内科	頭頸部	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
	腹部	6	97	97	7	82	89	3	80	83	93.3
	その他										
	計	6	97	97	7	82	89	3	80	83	93.3
外科	頭頸部										
	腹部										
	四肢	1									
	計	1									
脳神経外科	頭頸部	21	20	20	25	29	54	23	38	61	113.0
	腹部										
	その他										
	計	21	20	20	25	29	54	23	38	61	113.0
泌尿器科	頭頸部										
	腹部										
	その他								6	6	皆増
	計								6	6	皆増
小児科	頭頸部										
	腹部										
	その他										
	計										
合 計		28	117	145	32	111	143	26	124	150	104.9

(b) 心臓カテーテル検査室

項目 \ 年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
C A G		96	40	17	42.5
P C I ・ I V R		57	17	20	117.6
四肢部		3	2	2	100.0
ペースメーカー		27	14	35	250.0
合計件数		183	73	74	101.4
合計人数		137	66	73	110.6

(8) 透視 (X-T V) 部門

項目 \ 年度	令和元年度				令和2年度				令和3年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
食道	32	2		34	48	0		48	27	1		28	58.3
胃	48	27	1,348	1,423	31	29	1,059	1,119	37	39	868	944	84.4
腸	40	38		78	32	32		64	48	45		93	145.3
肝胆膵	246	12		258	223	5		228	182	6		188	82.5
腎膀胱	75	140		215	68	149		217	73	161		234	107.8
脈管	0	0		0	0	0		0	0	0		0	-
ミエロ・ブロック	45	8		53	51	5		56	39	7		46	82.1
気管支	92	0		92	79	0		79	73	0		73	92.4
瘻孔	34	11		45	46	14		60	51	13		64	106.7
整復	2	15		17	11	24		35	5	17		22	62.9
カテ挿入	131	21		152	150	20		170	210	32		242	142.4
合計件数	745	274	1,348	2,367	739	278	1,059	2,076	745	321	868	1,934	93.2
合計人数	745	274	1,348	2,367	739	277	1,059	2,075	745	321	868	1,934	93.2

(9) R I 部門

項目 \ 年度	令和元年度			令和2年度			令和3年度			前年度比
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
脳・脳血流	11	95	106	10	102	112	11	98	109	97.3
腎	1	1	2		7	7	0	6	6	85.7
甲状腺・唾液腺		4	4		6	6	0	6	6	100.0
心筋		24	24	12	25	37	33	22	55	148.6
骨	19	253	272	18	228	246	10	323	333	135.4
腫瘍	2	2	4	5	1	6	2	1	3	50.0
センチネルリンパ節				36		36	26	22	48	133.3
その他	1	2	3	3	3	6	2	1	3	50.0
RI内用療法					16	16	0	11	11	68.8
合計件数(合計人数)	34	381	415	84	388	472	84	490	574	121.6

(10) 放射線治療部門

部位 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
中枢神経	3	4	2	50.0
頭頸部	5	6	2	33.3
食道	1	7	6	85.7
肺・縦隔	31	42	35	83.3
乳腺	62	44	47	106.8
肝・胆・膵	2	5	4	80.0
消化器	1	8	8	100.0
造血リンパ	2	3	3	100.0
婦人生殖	4	3	10	333.3
泌尿生殖	41	37	51	137.8
皮膚・軟部	4	0	0	-
その他	1	1	12	1,200.0
合計件数	157	160	180	112.5
延べ件数	4,217	3,601	4,378	121.6
延べ治療患者数	3,668	3,356	4,063	121.1

※ ただし、転移病巣を治療しても原発病巣をカウント

(11) 骨密度検査部門（前腕骨）

部位 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
前腕部	282	187		皆減
腰椎			7	皆増
大腿骨			4	皆増
腰椎+大腿骨			248	皆増
合計件数（人数）	282	187	259	138.5

（故障のため、令和2年11月2日から令和3年10月10日まで検査施行できず）

(12) 画像入出力部門

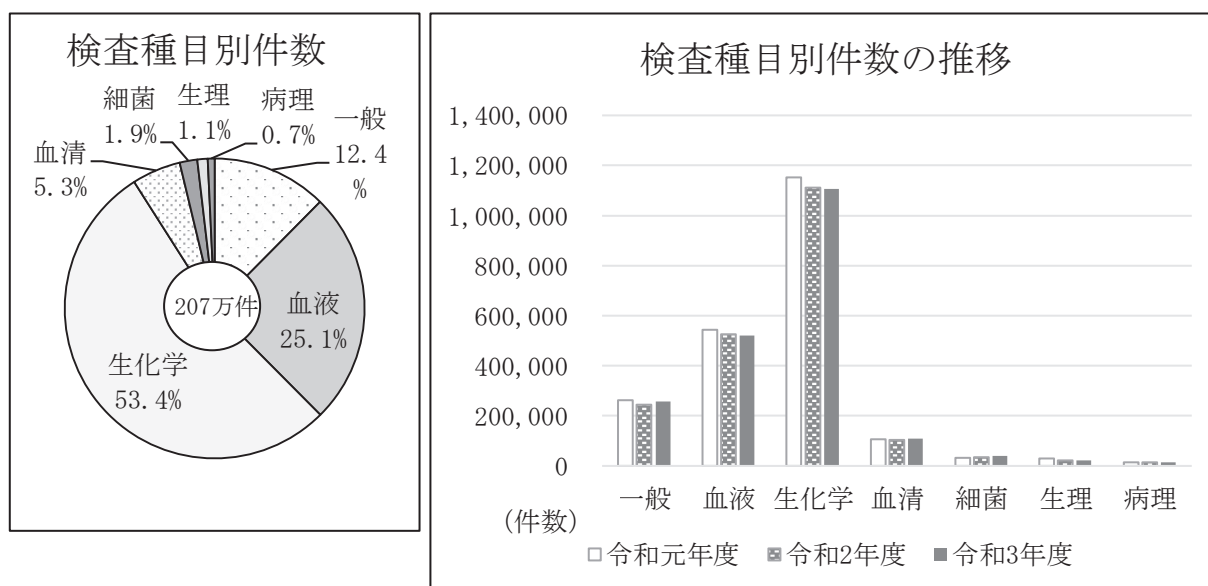
項目 \ 年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
画像取り込み		件	件	件	%
	C D取り込み	4,948	5,151	5,441	105.6
	フィルム取り込み	86	59	36	61.0
	他媒体取り込み	4	1	0	0.0
	合計件数	5,038	5,211	5,477	105.1
画像出力	C D出力件数	4,365	3,814	3,732	97.9
合計件数		9,403	9,025	9,209	102.0

19 中央検査部・病理診断科

(1) 検査種目別件数の推移

種目	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
一 般		262,761	245,766	257,127	104.6
血 液		544,456	524,864	520,611	99.2
生 化 学		1,153,144	1,111,306	1,106,662	99.6
血 清		107,310	103,419	109,097	105.5
細 菌		31,566	34,766	39,185	112.7
生 理		29,578	23,191	23,158	99.9
病 理		13,534	15,190	15,316	100.8
外 来 採 血 者 数		43,323	41,478	42,597	102.7
合 計		2,185,672	2,099,980	2,113,753	100.7

(2) 検査種目別件数の構成比



(3) 年度別検査項目別件数

種 別	検査項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
					%
尿検査	尿中一般物質検査（定性・半定量）	212,236	197,676	203,256	102.8
	尿中一般物質検査（定量）	5,449	4,933	7,324	148.5
	沈渣・潜血反応検査	33,596	31,130	33,423	107.4
	その他	1,600	2,137	2,898	135.6
	計	252,881	235,876	246,901	104.7
糞便検査	潜血反応	5,535	5,096	5,375	105.5
	虫卵検査	10	3	7	233.3
	その他	0	0	4	-
	計	5,545	5,099	5,386	105.6
血液一般検査	血液細胞学的検査	505,919	484,368	478,584	98.8
	凝固機能検査	34,279	36,422	38,089	104.6
	血液型検査	4,258	4,074	3,938	96.7
	その他	0	0	0	-
	計	544,456	524,864	520,611	99.2
髄液・穿刺液・ 胃・十二指腸液 検査	脳脊髄一般検査	1,063	1,056	872	82.6
	穿刺液・精液一般検査	3,272	3,735	3,968	106.2
	計	4,335	4,791	4,840	101.0
生化学検査	蛋白代謝検査	404,662	391,149	391,728	100.1
	酵素・アイソザイム検査	368,644	358,661	353,541	98.6
	無機成分検査	205,227	197,329	197,829	100.3
	脂肪代謝検査	90,055	85,064	83,634	98.3
	糖代謝検査	61,965	60,389	59,577	98.7
	内分泌学的検査	16,447	15,208	16,944	111.4
	血中薬物濃度測定検査	506	535	445	83.2
	血液ガス分析検査	5,211	2,619	2,529	96.6
	その他	427	352	435	123.6
	計	1,153,144	1,111,306	1,106,662	99.6
血清検査	感染症血清学的検査	54,427	52,645	52,733	100.2
	ウイルス抗原抗体検査	3,652	2,070	2,689	129.9
	交差適合試験他検査	5,634	5,587	5,379	96.3
	免疫グロブリンと補体検査	3,085	2,988	4,108	137.5
	腫瘍マーカー検査	25,412	25,104	28,076	111.8
	肝炎ウイルス検査	15,100	15,025	16,112	107.2
	計	107,310	103,419	109,097	105.5
細菌検査	一般細菌検査	26,104	26,771	27,602	103.1
	結核菌検査	2,304	1,754	1,607	91.6
	真菌検査	2,148	2,379	2,033	85.5
	その他	1,010	3,862	7,943	205.7
	計	31,566	34,766	39,185	112.7
生理検査	心電図・心音図検査	14,870	13,290	13,486	101.5
	脳波・筋電図脳幹反応検査	743	699	625	89.4
	超音波診断検査	7,631	7,182	7,331	102.1
	肺機能検査	5,188	786	582	74.0
	耳鼻科関連検査	646	832	728	87.5
	その他	500	402	406	101.0
	計	29,578	23,191	23,158	99.9
病理検査	病理組織検査	2,655	2,662	2,954	111.0
	細胞診検査	4,757	4,526	4,601	101.7
	特殊染色	6,122	8,002	7,761	97.0
	計	13,534	15,190	15,316	100.8
外来採血実施数		43,323	41,478	42,597	102.7
合 計		2,185,672	2,099,980	2,113,753	100.7

(4) 剖検件数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
死 亡 件 数	373	484	475	98.1
剖 検 件 数	2	2	1	50.0
剖 検 率 (%)	0.5	0.4	0.2	50.9

	皮膚科
死 亡 件 数	6
剖 検 件 数	1
剖 検 率 (%)	16.7

(5) 細胞診件数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
婦 人 科	3,151	2,872	2,925	101.8
喀 痰	195	171	162	94.7
胸 水	112	116	90	77.6
腹 水	135	136	114	83.8
尿	936	979	1,061	108.4
膀 液 ・ 胆 汁	42	40	31	77.5
髄 液	23	12	12	100.0
乳房穿刺吸引	10	11	12	109.1
リンパ節	9	9	17	188.9
甲状腺穿刺吸引	16	12	14	116.7
気管支擦過	112	83	85	102.4
そ の 他	16	85	78	91.8
合 計	4,757	4,526	4,601	101.7

(6) 細菌同定検査情報

重複株を除外（月毎）にて抽出

菌 名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	40	7.8	0	0.0	9	1.1	8	4.2	18	8.5
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	78	15.1	2	2.6	18	2.2	12	6.3	40	18.9
<i>Coagulase-negative Staphylococcus</i>	79	15.3	11	14.3	8	1.0	12	6.3	21	9.9
<i>Staphylococcus lugdunensis</i>	3	0.6	1	1.3	1	0.1	1	0.5	3	1.4
<i>Streptococcus pyogenes</i>	0	0.0	0	0.0	4	0.5	0	0.0	0	0.0
<i>Streptococcus agalactiae</i>	21	4.1	2	2.6	83	10.3	5	2.6	3	1.4
Group F <i>Streptococcus</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	1	0.5
Group G <i>Streptococcus</i>	2	0.4	1	1.3	8	1.0	2	1.1	5	2.4
<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	4.2	1	0.5
<i>Streptococcus anginosus</i> group	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Streptococcus constellatus</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Streptococcus milleri</i> group	1	0.2	2	2.6	4	0.5	6	3.2	6	2.8
<i>Viridans Streptococcus</i>	8	1.6	2	2.6	21	2.6	3	1.6	3	1.4
<i>S. pneumoniae</i> PSSP	33	6.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus faecalis</i>	2	0.4	6	7.8	81	10.0	4	2.1	11	5.2
<i>Enterococcus faecium</i>	0	0.0	2	2.6	20	2.5	3	1.6	3	1.4
<i>Enterococcus casseliflavus</i>	0	0.0	1	1.3	0	0.0	2	1.1	1	0.5
<i>Enterococcus raffinosus</i>	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus avium</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus gallinarum</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	1	0.5	0	0.0
<i>Enterococcus</i> species	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Escherichia coli</i> (ESBLを除く)	18	3.5	9	11.7	204	25.3	35	18.5	4	1.9
<i>Escherichia coli</i> ESBL	4	0.8	4	5.2	49	6.1	4	2.1	6	2.8
<i>Escherichia coli</i> EHEC	0	0.0	4	5.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Klebsiella pneumoniae</i> (ESBLを除く)	45	8.7	7	9.1	34	4.2	11	5.8	3	1.4
<i>Klebsiella pneumoniae</i> ESBL	4	0.8	0	0.0	7	0.9	1	0.5	0	0.0
<i>Klebsiella oxytoca</i>	10	1.9	0	0.0	26	3.2	5	2.6	2	0.9
<i>Citrobacter freundii</i>	2	0.4	1	1.3	8	1.0	0	0.0	3	1.4
<i>Citrobacter koseri</i>	3	0.6	0	0.0	8	1.0	1	0.5	1	0.5
<i>Citrobacter farmeri</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Citrobacter youngae</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Proteus mirabilis</i>	2	0.4	0	0.0	22	2.7	4	2.1	4	1.9
<i>Proteus vulgaris</i>	0	0.0	0	0.0	9	1.1	1	0.5	1	0.5
<i>Providencia rettgeri</i>	0	0.0	0	0.0	6	0.7	0	0.0	0	0.0
<i>Providencia stuartii</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	1	0.5
<i>Enterobacter cloacae</i>	13	2.5	1	1.3	14	1.7	2	1.1	1	0.5
<i>Enterobacter aerogenes</i>	5	1.0	0	0.0	9	1.1	4	2.1	4	1.9
<i>Enterobacter aerogenes</i> CRE	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Enterobacter hormaechei</i> CRE	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Pantoea agglomerans</i>	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Edwardsiella tarda</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0
<i>Morganella morganii</i>	0	0.0	0	0.0	12	1.5	0	0.0	4	1.9
<i>Serratia marcescens</i>	9	1.7	0	0.0	7	0.9	2	1.1	5	2.4
<i>Shewanella putrefaciens</i>	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0

菌名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
<i>Campylobacter</i> species	0	0.0	9	11.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus influenzae</i>	21	4.1	0	0.0	1	0.1	1	0.5	0	0.0
<i>Haemophilus parahaemolyticus</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus parainfluenzae</i>	2	0.4	1	1.3	2	0.2	0	0.0	0	0.0
<i>Moraxella catarrhalis</i>	18	3.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Alcaligenes faecalis</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Pasteurella multocida</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	2.4
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	29	5.6	2	2.6	52	6.4	3	1.6	14	6.6
<i>Pseudomonas fluorescens/putida</i>	2	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Pseudomonas</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Acinetobacter baumannii</i>	7	1.4	1	1.3	3	0.4	2	1.1	3	1.4
<i>Acinetobacter lwoffii</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	0	0.0
<i>Burkholderia cepacia</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	2	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Salmonella</i> species	0	0.0	3	3.9	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Yersinia enterocolitica</i> group	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Bacillus</i> species	0	0.0	1	1.3	0	0.0	9	4.8	0	0.0
<i>Corynebacterium</i> species	4	0.8	1	1.3	3	0.4	7	3.7	7	3.3
<i>Bacteroides fragilis</i> group	0	0.0	0	0.0	1	0.1	5	2.6	8	3.8
<i>Bacteroides</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.6	2	0.9
<i>Clostridium perfringens</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	2.6	0	0.0
<i>Clostridium sordellii</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Fusobacterium</i> species	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Parvimonas micra</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Peptostreptococcus</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.6	3	1.4
<i>Prevotella (B.)</i> species	0	0.0	0	0.0	2	0.2	5	2.6	9	4.2
<i>Propionibacterium acnes</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.6	0	0.0
<i>Gemella</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Aspergillus fumigatus</i>	2	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aspergillus niger</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Aspergillus</i> species	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Candida</i> species	42	8.1	0	0.0	59	7.3	1	0.5	0	0.0
計	516	100.0	77	100.0	807	100.0	189	100.0	212	100.0

前年度（令和2年度）株数	728		97		912		166		276	
前年度比(%)	70.9		79.4		88.5		113.9		76.8	

(7) 外部委託検査件数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
				%
血液学的検査	91件	98件	111件	113.3
生化学的検査	7,184	7,441	7,651	102.8
免疫学的検査	8,282	7,861	7,791	99.1
微生物学的検査	819	1,089	1,210	111.1
病理学的検査	270	325	249	76.6
尿・糞便等検査	58	101	132	130.7
遺伝子・染色体検査	126	1,638	1,658	101.2
その他	793	880	1,018	115.7
合計	17,623	19,433	19,820	102.0

(8) 血液製剤使用状況

製剤種類		単位	令和2年度	令和3年度	前年度比
赤血球製剤	照射赤血球液	1単位	3	1	%
		2単位	1,127	1,035	
		合計	1,130	1,036	
		合計（単位数）	2,257	2,071	91.8
血小板製剤	照射濃厚血小板	10単位	54	38	%
		20単位	0	0	
		合計	54	38	
		合計（単位数）	540	380	70.4
血漿製剤	新鮮凍結血漿	1単位	0	0	%
		2単位	80	128	
		4単位	0	19	
		合計	80	147	
		合計（単位数）	160	332	207.5

(9) 血液製剤購入・廃棄状況

①納品状況

製剤種類		単位	令和2年度		令和3年度		前年度比 (金額)
			Bag数	円	Bag数	円	%
赤血球 製剤	照射赤血球 液	1単位	3	27,201	1	9,067	92.9
		2単位	1,134	20,561,688	1,054	19,111,128	
		合計	1,137	20,588,889	1,055	19,120,195	
血小板 製剤	照射濃厚血 小板	10単位	54	4,414,176	38	3,106,272	70.4
		20単位	0	0	0	0	
		合計	54	4,414,176	38	3,106,272	
血漿製 剤	新鮮凍結血 漿	1単位	0	0	0	0	177.0
		2単位	91	1,667,302	136	2,491,792	
		4単位	0	0	19	459,990	
		合計	91	1,667,302	155	2,951,782	

②廃棄状況

製剤種類		単位	令和2年度		令和3年度		前年度比 (金額)
			Bag数	円	Bag数	円	%
赤血球 製剤	照射赤血球 液	1単位	0	0	0	0	300.0
		2単位	8	108,792	18	326,376	
		合計	8	108,792	18	326,376	
血小板 製剤	照射濃厚血 小板	10単位	0	0	0	0	0.0
		20単位	0	0	0	0	
		合計	0	0	0	0	
血漿製 剤	新鮮凍結血 漿	1単位	0	0	0	0	72.7
		2単位	17	201,542	17	146,576	
		4単位	0	0	0	0	
		合計	17	201,542	17	146,576	

(10) 自己血採血状況

	採血件数		患者実数・構成比	
	200mL	400mL	患者実数	構成比
	件	件	人	%
外科	0	0	0	0.0
整形外科	10	12	8	21.1
泌尿器科	0	40	24	63.2
産婦人科	2	8	5	13.2
血管外科	0	0	0	0.0
脳外科	2	0	1	0.8
合計	14	60	38	100.0
前年度合計	6	55	31	
前年度比(%)	233.3	109.1	122.6	

(11) お手軽けんさ

① 受験者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				前年度比
	人	人	人	%
男性	44	34	57	167.6
女性	42	42	48	114.3
計	86	76	105	138.2

② 項目別件数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	人	人	人	%
標準セット	26	10	19	190.0
糖脂質セット	9	5	4	80.0
貧血セット	2	1	1	100.0
肝機能セット	4	2	2	100.0
肝炎セット	1	1	0	0.0
血液型検査	1	3	0	0.0
前立腺検査	4	3	1	33.3
甲状腺検査	10	5	4	80.0
腫瘍マーカー	81	66	93	140.9
アレルギー1種類	1	0	0	-
アレルギー3種類	1	0	0	-
アレルギー5種類	0	0	0	-
便潜血検査	4	1	2	200.0
骨密度検査	0	3	0	0.0
頸部血管エコー検査	3	5	13	260.0
A B I 検査	4	1	12	1,200.0
ピロリ検査	2	2	3	150.0
ウイルス抗体1種	-	0	2	-
ウイルス抗体2種	-	1	1	100.0
ウイルス抗体3種	-	0	0	-
ウイルス抗体4種	-	8	6	75.0
B型肝炎ワクチン	-	2	1	50.0
合計	153	119	164	137.8

20 薬剤部

(1) 処方箋枚数と院外処方箋発行率

年度 項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
入院処方箋	枚数	34,690	33,647	34,806	% 103.4
	件数	71,583	67,021	71,583	106.8
外来院内処方箋	枚数	4,982	3,597	3,847	107.0
	件数	6,639	4,666	6,639	142.3
外来院外処方箋	枚数	84,116	78,539	79,489	101.2
	発行率%	94.4	95.6	95.4	99.8

(2) 医薬品使用状況

年度 医薬品		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		千円	千円	千円	%
内用剤		136,380	99,134	100,972	101.9
外用剤		23,615	19,656	21,545	109.6
注射剤		971,099	1,081,515	1,244,348	115.1
その他		41,740	47,383	44,336	93.6
合計		1,172,834	1,247,688	1,411,201	113.1

(3) 麻薬施用状況

種類	製剤名	単位	平成30.10.1 ～ 令和元.9.30	令和元.10.1 ～ 令和2.9.30	令和2.10.1 ～ 令和3.9.30	前年度比
注射	オキファスト注10mg	Amp	383	340		%
	オキファスト注50mg	Amp	67	200		
	フェンタニル注射液0.1mg	Amp	458	398	422	106.0
	フェンタニル注射液0.5mg	Amp	387	352	389	110.5
	モルヒネ塩酸塩注射液10mg	Amp	310	235	350	148.9
	モルヒネ塩酸塩注射液50mg	Amp	7	5	135	2,700.0
	ケタラール静注用50mg	Amp	107	103	117	113.6
	アルチバ静注用2mg	V	808	777	835	107.5
	レミフェンタニル静注用2mg	V			60	
	レミフェンタニル静注用5mg	V	105	82	82	100.0
	ペチジン塩酸塩注射液35mg	Amp	167	249	235	94.4
	オキシコドン注射液10mg	Amp		188	141	75.0
	オキシコドン注射液50mg	Amp		324	125	38.6
	ナルペイン注2mg	Amp		11	390	3,545.5
	ナルペイン注20mg	Amp			287	

種類	製 剤 名	単位	平成30. 10. 1 ～ 令和元. 9. 30	令和元. 10. 1 ～ 令和2. 9. 30	令和2. 10. 1 ～ 令和3. 9. 30	前年度比
						%
内用	コデインリン酸塩散10%	g				
	コデインリン酸塩錠20mg	錠	728	304	489	160. 9
	MS コンチン錠10mg	錠	558	769	527	68. 5
	MS コンチン錠30mg	錠	26	142	208	146. 5
	オキシコドン徐放錠5mg	錠	4, 876	6, 869		
	オキシコドン徐放錠20mg	錠	1, 738	1, 020	242	23. 7
	オキノーム散2. 5mg	包	2, 155	2, 962	2, 969	100. 2
	オキノーム散5mg	包	2, 496	3, 714	4, 584	123. 4
	オキノーム散20mg	包	215	190	160	84. 2
	アヘンチンキ	mL				
	オプソ内服液5mg	包	344	546	803	147. 1
	オプソ内服液10mg	包	157	285	764	268. 1
	オキシコドン徐放錠5mgNX	錠		847	7, 287	860. 3
	オキシコドン徐放錠20mgNX	錠			1, 389	
	ナルサス錠2mg	錠		94	689	733. 0
	ナルサス錠6mg	錠		139	474	341. 0
	ナルサス錠12mg	錠		22	269	1, 222. 7
	ナルラピド錠1mg	錠		70	104	148. 6
	ナルラピド錠2mg	錠			305	
	メサペイン錠5mg	錠			57	
	メサペイン錠10mg	錠			276	
外用	アンベック坐剤10mg	個	711	424	297	70. 0
	フェンタニルクエン酸塩 1 日用テープ 1mg	枚	828	778	511	65. 7
	フェンタニルクエン酸塩 1 日用テープ 2mg	枚	1, 564	989	1, 253	126. 7
	フェンタニルクエン酸塩 1 日用テープ 8mg	枚	210	43	12	27. 9
	フェントステープ 1mg	枚				
	フェントステープ 2mg	枚	116			
	フェントステープ 8mg	枚				

(4) 薬事審議委員会審議医薬品件数

年度 医薬品	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
				%
採用医薬品	170	126	187	148. 4
削除医薬品	64	40	95	237. 5

※ 採用医薬品(申請)医薬品：臨時採用品、製造中止による代替品などを含みます。

※ 削除医薬品：不変動による中止医薬品、製造中止品などを含みます。

(5) D I への項目別問合せ件数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
使用上の注意・副作用	34	35	44	125.7
薬 剤 の 安 定 性	40	50	34	68.0
商 品 照 合	13	6	9	150.0
疾 患 と 使 用 薬 剤	14	17	13	76.5
用 法 ・ 用 量	28	34	26	76.5
薬 理 作 用	18	18	16	88.9
処 方 ・ 調 製 法	9	27	8	29.6
中 毒 関 係	1		1	
注 射 剤 配 合 変 化	1	1	1	100.0
含 量 ・ 単 位	1	6	2	33.3
文 献 提 供	3	8	3	37.5
消 毒 関 係			1	
新 薬 関 係	8	2	6	300.0
薬 物 相 互 作 用	6	5	7	140.0
麻 薬 関 係	4	3		
長 期 投 与	2	2		
薬 価 関 連	2	1		
オーダリング関係				
T D M	2	1	1	100.0
が ん 化 学 療 法	38		15	
そ の 他	1		1	
計	225	216	188	87.0

(6) 特殊調剤・特殊製剤

品 目	年度	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
						%
点眼剤・眼軟膏剤						
アトピノン点眼液0.5% 5mL		本	4	6	6	100.0
caputo点眼液 2mL		本	260	300	280	93.3
外用液剤						
安息香チンキ分注 50mL		本	2	2	2	100.0
塩化アルミニウム液20% 100mL		本	28	25	26	104.0
吸入液A		m L	1,319	1,170	720	61.5
トラマゾリン分注 5mL		本	33	37	41	110.8
プリビナ分注 5mL		本	50	116	178	153.4
ホスミン液5000倍 25mL		m L	180	130	133	102.3
滅菌グリセリン分注 10mL		本	374	450	378	84.0
滅菌ビオクタニン1% 5mL		本	88	129	131	101.6
消毒剤・洗浄・保存剤						
キシトール液2倍 500mL		本	42	40	32	80.0
酢酸溶液3% 300mL		本	27	27		
複方ヨードグリセリン分注 50mL		本	5	4	5	125.0
検査・診用剤						
パッチテスト		件			4	
BTB溶液0.1% 30mL		本	8	8	10	125.0
BTB溶液0.1% 40mL		本	4	4	5	125.0
ブリアントブルー-G液 5mL		本	133	102	119	116.7
ルコール液 2.5% 40mL		本		3	3	100.0
ルコール液 2.5% 20mL		本	2	3	3	100.0
滅菌墨汁 4mL		本	46	50	50	100.0
その他						
硝酸銀溶液20% 5mL		本	26	36	39	108.3
硝酸銀溶液20% 10mL		本	13	3		
硝酸銀溶液20% 20mL		本	13	3		
硝酸銀溶液20% 25mL		本		10	13	130.0

(7) 注射薬セット

① 入院注射 (TPN含む) 件数

病棟 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	10,895	12,205	15,448	126.6
3 階 病 棟	12,234	13,904	13,990	100.6
4 階 東 病 棟	2,500	4,114	3,680	89.5
4 階 西 病 棟	6,809	8,443	9,918	117.5
5 階 西 病 棟	29,115	35,177	35,642	101.3
6 階 東 病 棟	13,080	20,106	16,633	82.7
6 階 西 病 棟	477	565	964	170.6
7 階 東 病 棟	24,810	32,207	29,641	92.0
7 階 西 病 棟	29,189	30,596	27,775	90.8
8 階 病 棟	15,425	2,944	4,152	141.0
合 計	144,534	160,261	157,843	98.5

② がん化学療法件数

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
入 院	3,876	4,545	5,074	111.6
外 来	5,594	9,252	10,812	116.9
合 計	9,470	13,797	15,886	115.1

(8) 薬剤管理指導業務

① 服薬指導件数

病棟 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	201	180	206	114.4
N I C U	86	54	70	129.6
3 階 病 棟	1,356	1,458	1,454	99.7
4 階 東 病 棟				
4 階 西 病 棟	1,078	1,351	1,507	111.5
5 階 西 病 棟	2,533	3,093	2,947	95.3
6 階 東 病 棟	1,464	1,960	1,852	94.5
6 階 西 病 棟				
7 階 東 病 棟	2,516	2,698	2,641	97.9
7 階 西 病 棟	2,714	2,823	2,637	93.4
8 階 病 棟	2,049	75		
合 計	13,997	13,692	13,314	97.2

② 退院指導件数

病棟	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
3 階 病 棟		415	373	568	152.3
4 階 東 病 棟					
4 階 西 病 棟		239	319	477	149.5
5 階 西 病 棟		230	666	582	87.4
6 階 東 病 棟		237	378	351	92.9
6 階 西 病 棟					
7 階 東 病 棟		462	538	582	108.2
7 階 西 病 棟		476	629	712	113.2
8 階 病 棟		552	22		
合 計		2,611	2,925	3,272	111.9

③ 病棟業務実施加算1

病棟	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		31	32	43	134.4
N I C U					
3 階 病 棟		1,154	1,383	1,425	103.0
4 階 東 病 棟					
4 階 西 病 棟		1,417	1,607	1,855	115.4
5 階 西 病 棟		2,999	3,159	3,051	96.6
6 階 東 病 棟		1,756	2,042	1,991	97.5
6 階 西 病 棟					
7 階 東 病 棟		2,721	2,826	2,809	99.4
7 階 西 病 棟		2,740	2,832	2,831	100.0
8 階 病 棟		2,262	70		
合 計		15,080	13,951	14,005	100.4

④ 病棟業務実施加算2

病棟	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
N I C U		2,289	1,986	1,683	84.7

(9) 持参薬報告件数

	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
入 院 前 持 参 薬		1,326	1,296	1,573	121.4
入 院 時 持 参 薬		4,642	4,358	4,945	113.5
合 計		5,968	5,654	6,518	115.3

注) 平成28年10月より持参薬システム導入

(10) 無菌製剤調製

① 病棟別T P N件数

年度 病棟	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	365	273	382	139.9
3 階 病 棟	6	32	10	31.3
4 階 東 病 棟	15	10	41	410.0
4 階 西 病 棟	3	7		
5 階 西 病 棟	362	267	646	241.9
6 階 東 病 棟	17	7	79	1,128.6
6 階 西 病 棟				
7 階 東 病 棟	255	561	436	77.7
7 階 西 病 棟	86	54	139	257.4
8 階 病 棟	15	50		
合 計	1,124	1,261	1,733	137.4

② 診療科別入院がん化学療法件数

年度 診療科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
内 科	382	673	541	80.4
外 科	495	527	893	169.4
脳 神 経 外 科	6		5	
呼 吸 器 外 科	18	8		
泌 尿 器 科	139	139	80	57.6
産 婦 人 科	210	128	302	235.9
整 形 外 科		3		
合 計	1,250	1,478	1,821	123.2

③ 診療科別外来がん化学療法件数

年度 診療科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
内 科	533	1,094	1,431	130.8
外 科	832	1,225	1,247	101.8
脳 神 経 外 科	31	41	37	90.2
呼 吸 器 外 科	116	64		
泌 尿 器 科	111	233	192	82.4
産 婦 人 科	129	144	184	127.8
整 形 外 科		10	12	120.0
皮 膚 科		12	30	250.0
合 計	1,752	2,823	3,133	111.0

21 食養科

(1) 患者延食数

① 総食数

内容 \ 年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	前年度比
一般食	食	食	食	食	食	食	%
一般食(嚥下調整食)	148,375	405.4	122,857	335.7	114,763	314.4	120.2
特別食	675	1.8	29,242	79.9	32,946	90.3	
経腸栄養剤 (濃厚流動食)	123,289	336.9	115,406	315.3	141,387	387.4	122.5
人間ドック食	13,803	37.7	13,975	38.2	12,042	33.0	86.2
合計	489	4.0	301	4.0			
	286,631	785.3	281,781	769.9	301,138	825.0	106.9

※人間ドック食は稼働日1日あたりの平均。令和3年度より人間ドック食の提供を終了。

※平成30年・令和元年度は半固形食のみ、令和2年5月より摂食嚥下リハビリテーション学会・学会分類表記で集計。

② 特別食食数

内容 \ 年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	前年度比
肝臓病食	食	食	食	食	食	食	%
胆管食	7,296	19.9	7,508	20.6	8,330	22.8	110.9
膵臓病食	5,832	15.9	5,031	13.8	3,990	10.9	79.3
腎臓病食	1,090	3.0	793	2.2	815	2.2	102.8
糖尿病食	9,056	24.7	9,609	26.3	7,861	21.5	81.8
減塩食(心臓病含む)	34,445	94.1	36,455	101.0	34,282	93.9	94.0
潰瘍食	29,600	80.9	26,573	72.8	27,698	75.9	104.2
胃腸炎食	3,259	8.9	3,563	9.8	2,427	6.6	68.1
炎症性腸疾患 (低残渣食含む)	767	2.1	947	2.6	686	1.9	72.4
脂質異常症食	3,126	8.5	3,519	9.6	3,589	9.8	102.0
痛風食	179	0.5	419	1.1	1,098	3.0	262.1
アレルギー食	296	0.8	99	0.3	183	0.5	184.8
貧血食	3,583	9.8	1,327	3.6	1,166	3.2	87.9
術後食	3,351	9.2	3,652	10.0	2,677	7.3	73.3
特別食	7,152	19.5	8,478	23.2	7,541	20.7	88.9
合計	14,257	39.0	7,435	20.4	6,098	16.7	82.0
	123,289	337.8	115,408	315.3	108,441	297.1	94.0

③ 経腸栄養剤食数

内容 \ 年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	前年度比
濃厚流動食	食	食	食	食	食	食	%
	13,803	37.8	13,975	38.3	12,042	33.0	86.2

(2) 個人指導件数

※()は算定なし：合計に含む

品目	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
糖 尿 病 食	148 (15)	238 (2)	386 (17)	117 (27)	182 (1)	299 (28)	117 (24)	125	242 (24)
妊 娠 糖 尿 病	2	21	23 (0)	1	30	31 (0)		22	22 (0)
Eコントロール 食 (肥 満)	2	14 (4)	16 (4)		16 (1)	16 (1)	2	17 (4)	19 (4)
糖尿性腎症食	6	10	16 (0)	4 (1)	5	9 (1)	3 (2)	10	13 (2)
脂質異常症食	46 (1)	28	74 (1)	22 (3)	27	49 (3)	11	28	39 (0)
肝 臓 病 食	8 (1)		8 (1)	10	9	19 (0)	18 (1)	4	22 (1)
膵 臓 病 食	14	2	16 (0)	5		5 (0)	5		5 (0)
胆 嚢 炎 ・ 胆 石 症 食	23		23 (0)	11	2	13 (0)	12	2 (1)	14 (1)
術 後 食	106 (4)	20	126 (4)	122 (6)	32	154 (6)	124 (3)	52	176 (3)
術前栄養相談	4	91	95 (0)	5	128	133 (0)	8	80	88 (0)
胃 十 二 指 腸 潰 瘍 食	11 (2)		11 (2)	7		7 (0)	19	1	20 (0)
心 不 全 食	3		3 (0)	6		6 (0)	3 (2)		3 (2)
心 筋 梗 塞 食	1		1 (0)			0 (0)	2		2 (0)
塩 分 制 限 食	47 (1)	4	51 (1)	54 (3)	11	65 (3)	39 (3)	11	50 (3)
腎 臓 病 食 ・ 透 析 食	42 (3)	187	229 (3)	27 (4)	208	235 (4)	21 (1)	251	272 (1)
高尿酸血症食	5	2	7 (0)	2 (1)	4	6 (1)		3	3 (0)
炎症性腸疾患食	7	6	13 (0)	5	6	11 (0)	3	4	7 (0)
アレルギー食		3	3 (0)		3	3 (0)			0 (0)
消化器疾患食	4 (2)		4 (2)	6 (3)	2	8 (3)	8 (5)	1	9 (5)
ワーファリン食			0 (0)			0 (0)	2		2 (0)
栄 養 相 談	1 (5)	(3)	1 (8)	2 (4)	(1)	2 (5)	2 (6)	2 (2)	4 (8)
貧 血 食	4	3	7 (0)	1	2 (1)	3 (1)	3		3 (0)
フ ェ ニ ー ル ケ ト ン 尿 症		9	9 (0)		8 (2)	8 (2)		1	1 (0)
低 栄 養	6 (4)	5	11 (4)	15 (14)	6	21 (14)	14 (10)	1 (2)	15 (12)
摂食嚥下障害	4	1	5 (0)	6 (3)		6 (3)	9 (1)		9 (1)
ESD後	15		15 (0)	21		21 (0)	16		16 (0)
低 体 重	2 (1)	2 (3)	4 (4)	1	2	3 (0)	1 (4)	1	2 (4)
便 秘			0 (0)	(1)		0 (1)			0 (0)
食 欲 不 振		2	2 (0)	(1)	(1)	0 (2)			0 (0)
が ん	7 (1)	3	10 (1)	32 (2)	18	50 (2)	12 (1)	15	27 (1)
慢 性 閉 塞 性 呼 吸 器 疾 患	7 (1)	5	12 (1)	10 (5)	2	12 (5)	10 (2)	17	27 (2)
腸内環境整備							13	18	31
透 析 予 防		41	41 (0)		24	24 (0)		12	12 (0)
そ の 他			0 (0)			0 (0)	1	(1)	1 (1)
合 計	525 (41)	697 (12)	1,222 (53)	492 (78)	727 (7)	1,219 (85)	465 (65)	660 (10)	1,125 (75)

(3) 選択食延食数

項目 \ 年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	年間総数	月平均	年間総数	月平均	年間総数	月平均	前年度比
延食数	食 13,848	食 1,154	食 14,886	食 1,241	食 12,892	食 1,074	% 86.6

※ 対象：常食・小児科・産科食

(4) お祝い膳延食数

項目 \ 年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	年間総数	月平均	年間総数	月平均	年間総数	月平均	前年度比
延食数	食 301	食 25	食 273	食 23	食 252	食 21	% 92.3

※ 対象：産科食

22 通院治療センター

(ケモ・ICI)

科別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年比
	人	人	人	%
内科		665	847	127.4
外科		636	702	110.4
婦人科		109	119	109.2
呼吸器外科		43	1	2.3
皮膚科			69	
泌尿器科		230	177	77.0
脳外科		39	38	97.4
合計		1,722	1,953	113.4

(レミケード・インフリキシマブ)

科別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年比
	人	人	人	%
内科		278	280	100.7
皮膚科		12	13	108.3
整形外科		11	12	109.1
合計		301	305	101.3

23 再診電話受付受診件数

(1) 診療科別

内容 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	人	人	人	%
内 科	17	23	26	113.0
神 経 内 科				
循 環 器 内 科			1	皆増
精 神 科				
小 児 科	22	12	22	183.3
外 科	2	4	3	75.0
呼 吸 器 外 科			1	皆増
心 臓 血 管 外 科				
整 形 外 科	2	5	5	100.0
脳 神 経 外 科	1	1	3	300.0
皮 膚 科	14	11	18	163.6
泌 尿 器 科	2	4	11	275.0
産 婦 人 科	17	21	11	52.4
眼 科		1	6	600.0
耳 鼻 い ん こ う 科	1	1		皆減
歯 科 ・ 口 腔 外 科	2			
放 射 線 科				
麻 酔 科				
受 診 件 数	80	83	107	128.9
電 話 件 数	79	84	107	127.4

※ 受診件数と電話件数の相違は、複数科の受診及びキャンセルのため

(2) 市町村別

内容	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		人	人	人	%
桐生市		31	43	60	139.5
新里町		8	8	6	75.0
黒保根町		0	0	0	
みどり市		0	1	0	皆減
東町		0	1	0	皆減
大間々町		6	9	6	66.7
笠懸町		18	7	8	114.3
太田市		1	2	5	250.0
旧薮塚本町		9	4	9	225.0
前橋市		0	1	2	200.0
伊勢崎市		1	2	4	200.0
館林市		0	2	0	皆減
県内（その他）		1	1	2	200.0
足利市		4	0	4	皆増
県外		1	3	1	33.3
合 計		80	83	107	128.9

24 診断書文書作成件数

内容	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		人	人	人	%
内 科		1,813	1,654	1,747	105.6
精 神 科		22	12	22	183.3
神 経 内 科		501	355	573	161.4
循 環 器 内 科		260	152	183	120.4
小 児 科		356	237	346	146.0
外 科		462	675	714	105.8
血 管 外 科		11	8	8	100.0
整 形 外 科		1,570	1,581	1,562	98.8
脳 神 経 外 科		890	794	880	110.8
呼 吸 器 外 科		100	101	25	24.8
皮 膚 科		141	119	193	162.2
泌 尿 器 科		475	415	488	117.6
産 婦 人 科		515	441	389	88.2
眼 科		191	150	132	88.0
耳 鼻 い ん こ う 科		44	56	31	55.4
麻 酔 科		9	6	0	皆減
リハビリテーション科				49	皆増
放 射 線 科		51	45	39	86.7
救 急 科		2	3	15	500.0
歯 科 ・ 口 腔 外 科		87	56	80	142.9
計		7,500	6,860	7,476	109.0

※ 診断書類内訳：生命保険・生活保護者の意見書・訪問看護指示書・傷病手当金請求書等

25 専門外来件数

内容	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		人	人	人	%
助産師外来		328	411	250	60.8
フットケア外来		163	163	145	89.0
リンパ浮腫外来		43	50	39	78.0
ストーマ外来		249	295	282	95.6

※ 助産師外来：H29年度から産後検診を含む。

26 医療の質（臨床指標：クリニカル・インジケータ）

（1）病院全体のクリニカル・インジケータ

① 病床利用率、平均在院日数

項 目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入 院 延 患 者 数 (A)	人	108,225	105,963	106,293
一 日 平 均 患 者 数 (B)	人	296	290	291
病 床 数 (C)	床	429	429	417
病 床 利 用 率 (B/C)	%	68.9	67.7	69.8
入 院 (D)	人	7,454	6,920	7,602
退 院 (E)	人	7,451	6,899	7,602
平 均 在 院 日 数 (A/((D+E)/2))	日	14.5	15.3	14.0

② 救急車搬入患者数

項 目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入 院	人	1,436	1,444	1,415
外 来	人	1,501	1,271	1,237
計	人	2,937	2,715	2,652

③ 退院後6週間以内の緊急入院率

項 目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年 間 入 院 患 者 数	人	7,454	6,920	7,602
緊 急 再 入 院 患 者 数	人	466	453	486
緊 急 入 院 率	%	6.3	6.5	6.4

※ 緊急入院とは、再発・悪化して再入院した患者をカウントしています。

④ 24時間以内の再手術率

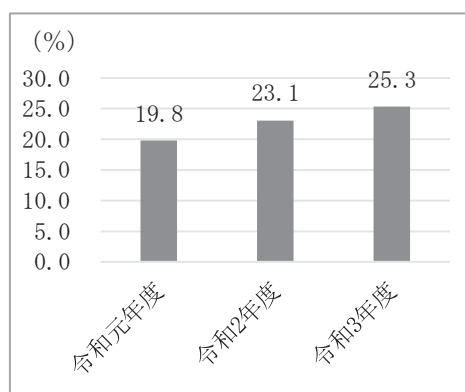
項 目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年 間 手 術 件 数	件	884	940	920
再 手 術 件 数	件	4	4	6
再 手 術 率	%	0.5	0.4	0.7

※ 手術件数は全身麻酔患者を基準にしています。

⑤ 年間退院患者に占めるがん患者の割合

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	人	人	人
がん病名のある患者数	1,408	1,528	1,809
退 院 患 者 数	7,127	6,618	7,149
	%	%	%
占 有 率	19.8	23.1	25.3

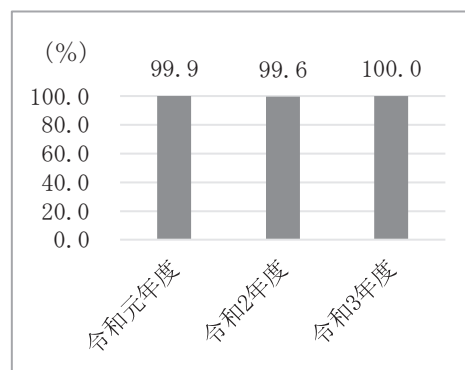
※ 退院患者数は転科を除いています。



⑥ 2週間以内の退院サマリー作成率

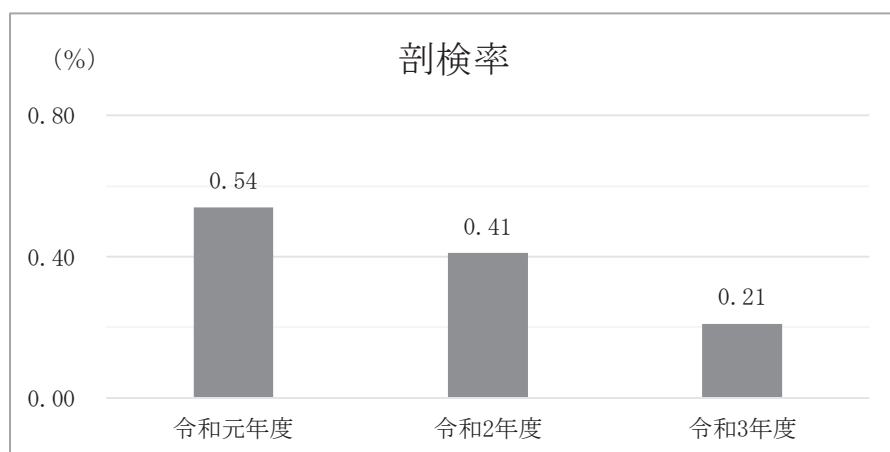
項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	件	件	件
退院後2週間以内のサマリー完成件数	7,126	6,593	7,149
年 間 退 院 患 者 数	7,127	6,618	7,149
	%	%	%
作 成 率	99.9	99.6	100.0

※ 退院患者数は転科を除いています。



⑦ 剖検率

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
剖 検 率 (%)	0.54	0.41	0.21	51.2
剖 検 数 (人)	2	2	1	50.0
死 亡 患 者 数 (人)	373	484	475	98.1



病院の医学教育・研究の評価を示す指標です。剖検率は全国的に減少傾向にあり、画像診断などの検査の進歩により、正確な病状把握が可能になったことが理由と考えられています。

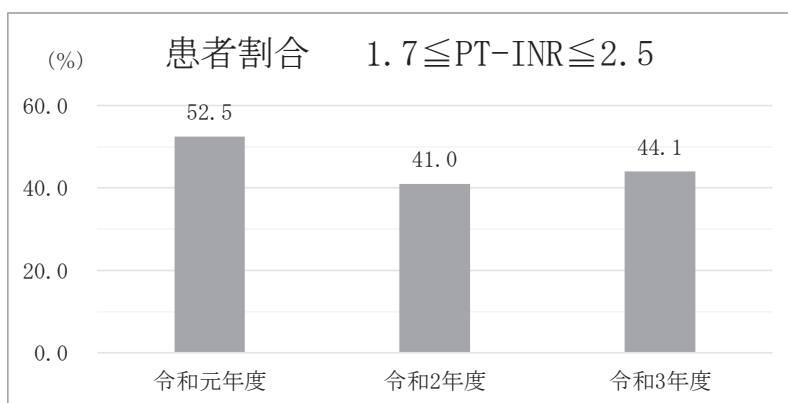
⑧ ワーファリン服用患者における出血傾向モニタリング（I N R）

ワーファリンによる血栓予防薬は、効果がなければ血栓が形成され、効きすぎれば出血傾向となります。

安全かつ有効なワーファリン血中指標として、P T-I N Rが1.7以上2.5以下を維持している割合、また、効きすぎた状態のP T-I N Rが5以上の割合を抑えることが指標となります。

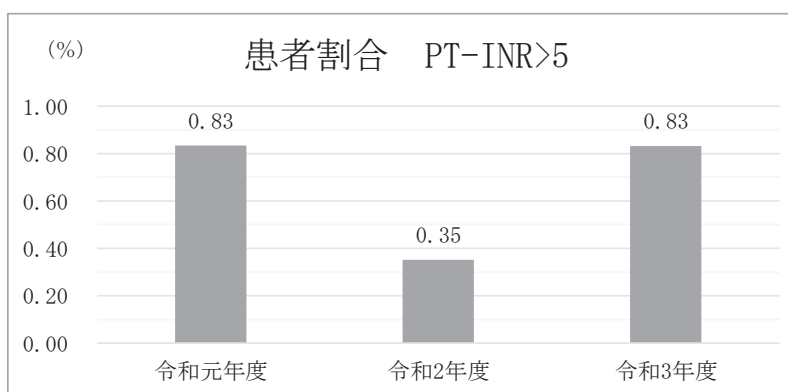
（ア）外来でのワーファリン服用患者を対象としたP T-I N R 値評価

1.7 ≤ P T-I N R ≤ 2.5			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
のべ患者数 (検査回数)	709	452	427
ワーファリンのべ 服用患者 (処方回数)	1,350	1,103	969
患者割合 (%)	52.5	41.0	44.1



（イ）入院・外来でのワーファリン服用患者を対象としたP T-I N R 値評価

P T-I N R > 5			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
のべ患者数 (検査回数)	15	5	10
ワーファリンのべ 服用患者 (処方回数)	1,799	1,421	1,201
患者割合 (%)	0.83	0.35	0.83



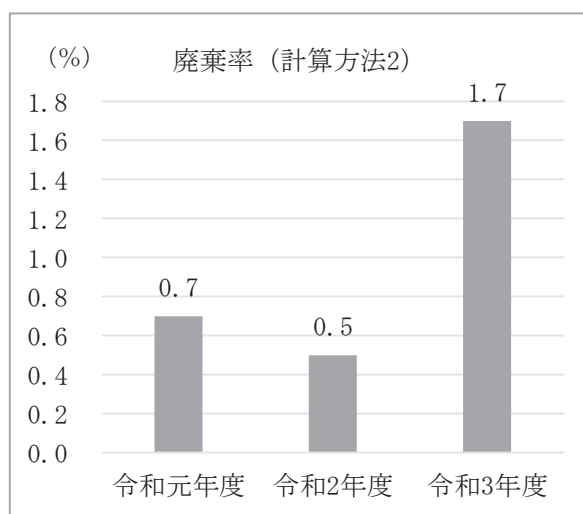
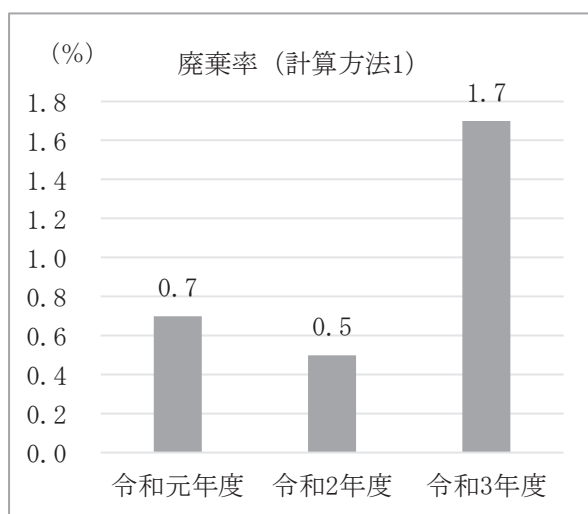
⑨ 輸血製剤廃棄率

計算方法 1：廃棄赤血球製剤単位数／（輸血赤血球製剤単位数＋廃棄赤血球製剤単位数）

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比(%)
輸血製剤廃棄率(%)	0.7	0.5	1.7	340.0
廃棄赤血球製剤単位数	18	12	36	300.0
輸血赤血球製剤単位数＋廃棄赤血球製剤単位数	2,317	2,269	2,107	92.9

計算方法 2：廃棄量（廃棄血液＋日本赤十字社への返品血液）／購入量（購入血液）

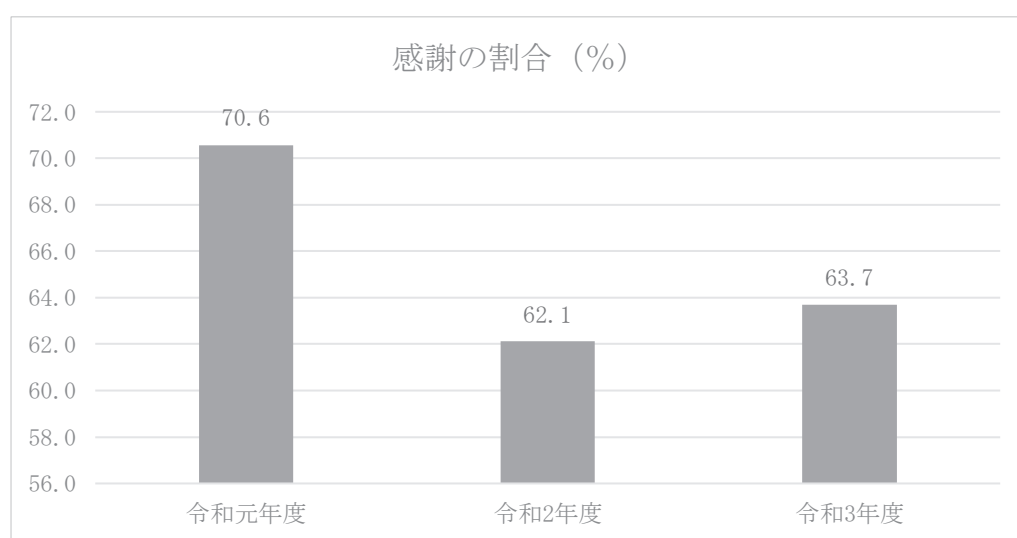
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比(%)
輸血製剤廃棄率(%)	0.7	0.5	1.7	340.0
廃棄量（廃棄+日赤返品）赤血球製剤単位数	16	12	36	300.0
購入量（単位）	2,319	2,271	2,109	92.9



輸血用血液製剤の廃棄率は、提供された血液が無駄なく適切に使用されているかどうかを示すよい指標となります。

⑩意見箱投書(感謝の占める割合)

	感謝の割合	感謝件数	苦情件数	その他	投書件数合計
	%	件	件	件	件
令和元年度	70.6	199	54	29	282
令和2年度	62.1	100	39	22	161
令和3年度	63.7	121	51	18	190



⑪褥瘡発生率

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
発生率 { (ア) / (イ) }	1.00%	1.47%	1.07%	72.8%
患者数 (ア)	71	69	76	110.1%
入院患者数 (イ)	7,129	6,537	7,080	108.3%

※患者数は、入院中に発生した褥瘡患者数。

※入院患者数は、転科を含む患者数。

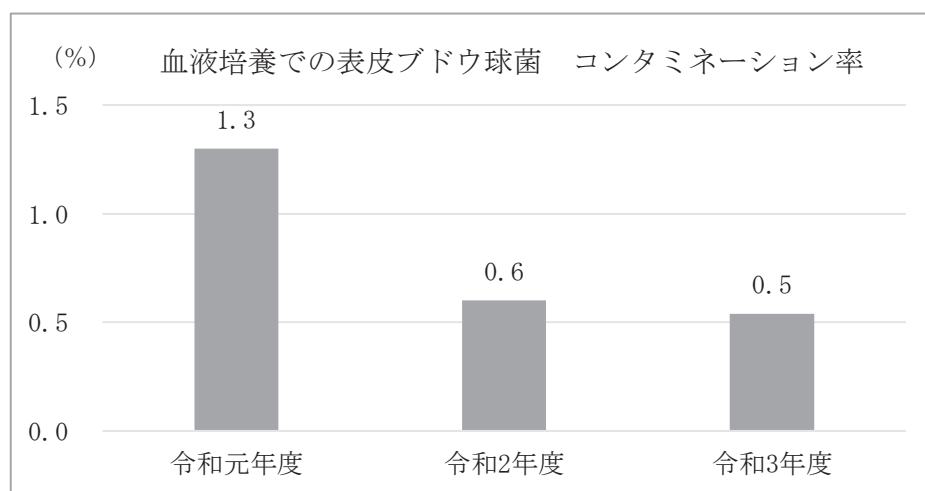
（２）感染のクリニカルインディケーター

① 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比(%)
血液培養での表皮ブドウ球菌 コンタミネーション率(%)	1.3	0.6	0.5	90.0
表皮ブドウ球菌による コンタミネーションの採血回数	20	11	11	100.0
血液培養ボトルが出された 患者の延べ採血回数	1,578	1,742	2,052	117.8

血液培養のコンタミネーション率

▶ 表皮ブドウ球菌によるコンタミネーションの採血回数／血液培養ボトルが出された患者の延べ採血回数



血液培養は、いろいろな感染症の原因となる菌を検出したり、菌血症（血液中に細菌がいる状態）の診断のために重要な検査です。血液培養検査の際に問題となるのは、皮膚の常在菌が混入し、検出されることで、起因菌（感染の原因となっている菌）との判別が必要になることです。

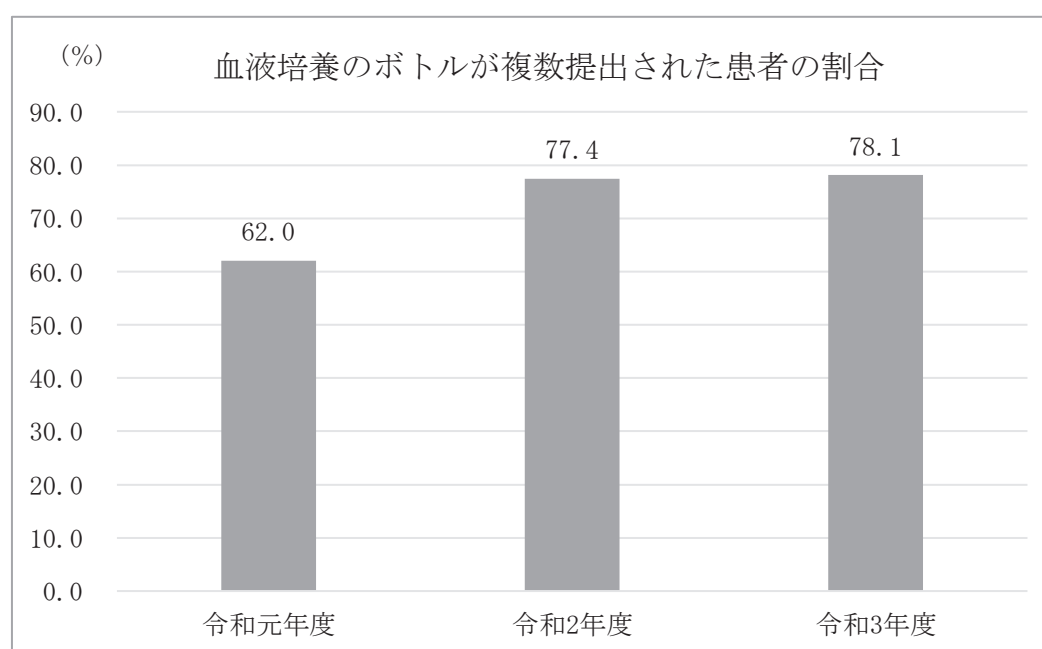
血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率が低いほど起因菌との判別が容易となります。

② 血液培養のボトルが複数提出された患者の割合

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比(%)
血液培養のボトルが複数提出された患者の割合(%)	62.0	77.4	78.1	100.9
複数の培養ボトルが出された延患者数(人)	604	760	900	118.4
血液培養検査が行われた延患者数(人)	974	982	1,152	117.3

血液培養ボトルの複数提出率

▶ 複数の培養ボトルが出された延患者数／血液培養検査が行われた延患者数

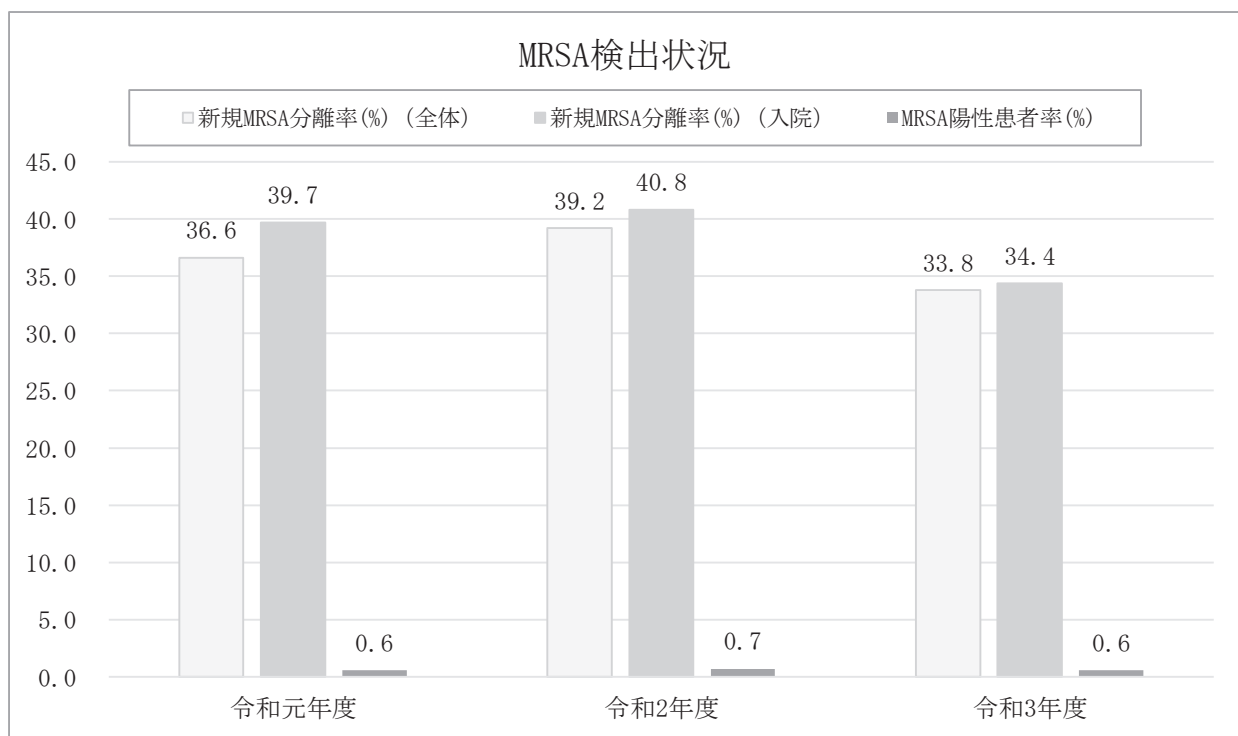


重症感染症の患者さんは、菌血症（血液中に細菌がいる状態）を伴うことが少なくありません。菌血症の原因菌を特定するためには、血液培養検査が必要であり、その精度（菌血症の原因菌検出率）を高めるためには、複数採取したボトルの提出が望まれます。

血液培養ボトルの複数提出は重症感染症の早期発見につながる指標となります。

③ MRSA検出状況

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比(%)
新規MRSA分離率(%) (全体)	36.6	39.2	33.8	86.2
新規MRSA分離率(%) (入院)	39.7	40.8	34.4	84.3
MRSA陽性患者率(%)	0.6	0.7	0.6	85.7
新規MRSA患者数(人) (全体)	71	76	76	100.0
ブドウ球菌検出患者総数(人) (全体)	194	194	225	116.0
新規MRSA患者数(人) (入院)	46	49	44	89.8
ブドウ球菌検出患者総数(人) (入院)	116	120	128	106.7
MRSA入院患者数(人)	46	51	46	90.2
入院実患者数(人)	7,454	6,920	7,602	109.9



MSSA：メチシリン感受性黄色ブドウ球菌
MRSA：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

- ▶ MRSA陽性入院患者／入院患者数
- ▶ MRSA（新規：入院）／（MRSA入院＋MSSA入院）
- ▶ MRSA（新規：全体）／（MRSA全体＋MSSA全体）

MRSAは、院内感染の原因菌として有名であり、検出状況を把握し、予防対策を講じることが重要です。

(3) 医療安全のクリニカルインディケーター

※ 転倒・転落発生率＝(転倒・転落件数/入院延べ患者数)×100

	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
					%
入院延べ患者数	人	108,225	105,963	106,293	100.3
転倒・転落発生件数	件	338	309	303	98.1
転倒・転落発生率	%	0.31	0.29	0.28	96.6
骨折件数	件	7	8	7	
骨折率	%	0.006	0.007	0.006	
頭蓋内出血件数	件	0	0	0	
頭蓋内出血率	%	0.00	0.00	0.00	
手術が必要になった件数	件	5	3	2	
手術率	%	0.005	0.003	0.002	

VIII チーム医療

1 医療安全対策委員会

(1) 目的

桐生厚生総合病院における医療事故・紛争の予防対策等の推進を図る。

(2) あゆみ

2000 年 4 月に設置されました。また、2006 年からは下部組織として医療安全対策室を設置し、専従の医療安全管理者を配置しました。現在は、医療安全対策室の他、医薬品安全委員会・医療機器安全委員会の 3 つの下部組織がそれぞれの専門分野での問題点を検討し、安全管理の強化に努めています。

(3) 活動実績（令和 3 年度）

① 医療安全対策委員会の開催（月 1 回）

下部組織の委員会で検討された内容の検証及び承認

② 事例検討会の開催（週 1 回）

インシデント・アクシデント事例の検討

③ 地域連携病院との相互チェック

公立富岡総合病院・群馬大学医学部附属病院：医療安全対策加算 1 取得病院同士の相互訪問
チェック

西毛病院：医療安全対策加算 2 取得病院への訪問チェック

④ インスリン注射リキャップ防止

⑤ 相互接続防止コネクタに係る国際規格導入

⑥ 職員研修会開催（年 2 回）

1 回目：苦情対応のポイント e-ラーニング

2 回目：裁判例に学ぶ「説明義務」 e-ラーニング

⑦ 広報活動

院内広報への医療安全ニュース掲載

院内報告会での報告（月 1 回）

(4) 今後の課題

多職種で構成されるチーム医療において、組織・体制・医薬品・医療機器・環境等、システム全体の安全性を高め、より質の向上に努めていきます。

2 病院感染対策委員会・感染対策室・ICT（・AST）

（１）目的

桐生厚生総合病院における外来および入院患者、職員の感染防止を図る。

（２）あゆみ

意思決定機関として院長を委員長とする病院感染対策委員会は月１回、その下部組織で感染対策の立案と実行を担当する ICT（インфекションコントロールチーム）は月２回の会議を行っています。また、各部署のリンクナースは、現場での感染対策の実行に努めています。感染対策室では専従の感染管理認定看護師が感染対策の実務にあたっています。

（３）活動実績

令和３年度は以下の活動を行いました。

①病院感染の実態把握

（ア）感染情報レポート

耐性菌感染症の発生状況、無菌部位からの病原菌検出状況・抗菌薬使用状況

（イ）サーベイランス

全病棟で CV カテーテル関連血流感染・消化器外科手術での手術部位感染

（ウ）厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業

手術部位感染部門・ICU 部門・NICU 部門・検査部門の４部門

（エ）感染徴候届出書などによる病院感染対策上問題となる患者の把握

（オ）針刺し事故集計ソフト(Epinet)による実態把握・分析

（カ）新入職者に対する流行性４疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）のワクチン接種歴と抗体保持の調査およびワクチン接種の推進

②感染対策の立案と実行

（ア）感染制御チーム(ICT)による感染対策に関する相談と指導（原則として平日毎日）

（イ）抗菌薬適正使用支援チーム(AST)による抗菌薬適正使用を目的とした抗菌薬選択の相談と提言（原則として平日毎日）

（ウ）注意すべき感染症発生時の対策協議・指導

③職員研修

（ア）感染対策講演会は、COVID-19 感染症流行に伴い、集合研修は中止としました。そのため、各部署に CD を配布し、聴講後確認テストの提出を以って参加としました。「抗菌薬適正使用」、「標準予防策～感染対策の基本」

（イ）新規採用職員に対する講習会を実施

④感染防止対策加算の対応

（ア）週１回の２職種以上が参加した ICT 環境ラウンドの実施

（イ）地域連携のための合同カンファレンスを恵愛堂病院と年４回開催

（ウ）感染防止対策加算１算定医療機関との相互チェックを公立富岡総合病院・東邦病院と実施

⑤院外の活動

新型コロナウイルス感染症クラスター発生施設（医療機関も含む）へ C-MAT として出動、感染対策の現地指導を実施しました。（出動回数：12 回）

⑥その他

新型コロナウイルス感染症対策として前年度の対策を継続、さらに追加・修正を実施しました。同居家族の検査、結果判明までの期間を短縮、自宅待機職員を減らし、人員を確保するために職員家族の検査体制を整備しました。

(4) 今後の目標と課題

新型コロナウイルス感染症対策の実施は継続することが必要であり、追加・修正を続けていきます。今回、医療・介護施設でのクラスターを経験し、地域において感染対策の向上を推進することが必要であり、その役割を果たさなければなりません。

また、新型コロナウイルス感染症への対応を継続するとともに今後も発生し得る新規感染症に対しても速やかに対応できるように定期的な隔離予防策（標準予防策・感染経路別予防策）の訓練を行い、定着に向け努めていきます。さらに、必要な知識・技術、最新の知見を提供し、院内感染対策を進めていきます。

3 褥瘡対策委員会

(1) 目的

“委員会規程 第1条 院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、褥瘡対策委員会を設置する”すなわち、多職種の協働により適切な褥瘡対策を行える総合的な病院環境を整える。

当院の基本理念「信頼され、心が通う地域医療」を実践する医療チームとして、患者QOL向上に寄与すべく、創傷治癒理論、看護技術などの基本的事項と最新の知見を学び、全スタッフに対し教育活動を行います。そして地域の中で褥瘡ケアの中心的役割を担う。

(2) あゆみ

2002年8月、褥瘡対策未実施減算の施行を機に、褥瘡対策委員会を組織しました。専門担当医師、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）、全病棟や部署の看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、作業療法士、事務方など多職種で構成されています。月1回の褥瘡対策委員会で、褥瘡発生の現況、症例検討、勉強会など、電子カルテシステムで、褥瘡危険因子評価、基本的看護計画、褥瘡発生報告、褥瘡経過表などを管理しています。

① 褥瘡チーム回診 2004年2月に開始、第1火曜14時、コアスタッフと看護師2名が交代で参加。

② 褥瘡対策室 2006年5月より、大谷内千恵 WOCN を専従の褥瘡管理者として設置。「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」の施設認定を受け、ハイリスク患者に個別の看護計画を立案。

(3) 活動実績

【定例会】

毎月第3水曜16時。褥瘡対策に関わる諸事項を討議。なお、回診はコロナ禍のため不定期となりました。

【褥瘡対策マニュアル】

日本褥瘡学会の褥瘡予防・管理ガイドライン、DESIGN-R®、MDRPU（医療関連機器圧迫創

傷) ベストプラクティスなどを踏まえ、電子カルテ上でマニュアルを共有。

【褥瘡発生の現況】

院内発生 76 件 (発生率 1.07%、月平均 6.3 件)、持ち込み褥瘡 84 件。

【体圧分散寝具】

高機能マットレスを中央管理化して適正使用を図り、購入や管理法を検討。

【2021 年度学術活動】

- ・ 第 7 回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 (在宅協) 学術集会 (7/10 オンライン)

岡田克之:「床ずれ危険度チェック表」を用いた在宅褥瘡予防プログラムの開発 (第 1 報)

- ・ 令和 3 年度新潟県訪問リハビリ実務者研修会 (11/6 オンライン)

岡田克之:在宅褥瘡って何?〜どう見て、どう診て、どう看るか〜

- ・ 日本在宅医療連合学会 第 11 回褥瘡・創傷管理オンライン研修会 (1/22)

岡田克之:在宅褥瘡にアセスメントの光を

- ・ WOC Nursing 9(6):42-53, 2021

岡田克之:急性期褥瘡の発生機序と栄養について

(4) 今後の課題

- ① 褥瘡発生動向の把握・解析に努め、有用な褥瘡予防策を図る。
- ② 栄養サポート、緩和ケア、感染制御、医療安全などのチーム医療と協働する。
- ③ 転院先への情報提供や指導を行い、地域医療連携室と協働して褥瘡ネットワーク「褥瘡のひろば」の構築をめざしたい。
- ④ 中央管理化した高機能体圧分散マットレスを有効に利用できる体制を継続。
- ⑤ 各種外用薬、創傷被覆材を適正に使用し、最新の創傷治癒理論を実践できる環境整備。
- ⑥ 電子カルテの更新に合わせ、褥瘡関連システムを改善。
- ⑦ 褥瘡関連の学会や講演会へ積極的に参加し、活動実績や研究成果を発表、院内にフィードバックする。
- ⑧ 地域向け褥瘡勉強会を開催する。
- ⑨ PUT メンバー、コアスタッフを育成。
- ⑩ 日本褥瘡学会・褥瘡認定師を取得できるよう指導。

4 クリニカルパス委員会

(1) 目的

医療サービスの質の向上と標準化、インフォームド・コンセントの充実およびチーム医療の推進、およびクリニカルパスとDPCの調節・適正化を目的とします。

(2) あゆみ

2002年6月、第1回のクリニカルパス委員会が全職種参加で開催されました。2003年5月からは専門小委員会として、評価、承認、作成の3つの小委員会にわかれて日常的な活動を行うようになりました。また同時期より院内クリニカルパス大会を定期的に行い、新規作成パスを院内で発表し、パスの推進を図ってきました。

2007年11月より電子カルテが導入されたが、パスの電子化が遅れたこともあり、一時活動が停滞しました。クリニカルパスを積極的に推進するため2017年度からはパス委員会を毎月開催（3か月毎に全体会議、それ以外の月はパスの当該科を含めた小委員会）とし、電子カルテ上でのパス見直し、新規パスの作成、承認を行っています。

現在の委員会は、医師7名、看護師5名、薬剤師1名、リハビリ・放射線技師・検査技師・管理栄養士が各1名、事務3名で構成しています。

(3) 活動実績（令和3年度）

産婦人科手術パス（帝王切開、開腹手術）、外科手術パス（胃切除、胃全摘、腹腔鏡下胆嚢摘出術）、癌性疼痛パス、眼科白内障パスの見直しを行いました。

COVID-19 小児用パス、ロナプリーブパス、脳外科tPAパス、手術室パス（単径ヘルニア、CVポート造設）、泌尿器科手術パス（ゲルスパーサー留置、ボツリヌス療法）、乳腺外科PAXMAN（頭皮冷却装置）パス、外来日帰り手術用パス（歯科、整形外科、皮膚科）、救急外来アンギオパス、外科肝切除術パス、循環器科パス（経皮的冠動脈形成術、ペースメーカー埋め込み術、ペースメーカー電池交換術、心臓カテーテル検査）を新規に作成しました。

パス適応率の目標を40%としていたが、2021年度前期で適応率は44.4%となり目標を達成できています。

院内のクリニカルパス大会開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症の影響のためやむを得ず中止としました。

2021年11月26、27日に山形で開催された第21回日本クリニカルパス学会学術集会に参加し、8階病棟から『COVID-19パスの作成と運用』のタイトルで演題を発表しました。

(4) 今後の課題

利用されていないパスの見直し、より利用しやすいパスへの修正、パスの周知・利用の工夫、DPCとマッチングしたパスの作成を引き続き行うこと。

院内のクリニカルパス大会を開催すること。

パスの適応率をさらに向上、維持させること。

群馬クリニカルパス研究会、日本クリニカルパス学会学術集会への参加および演題発表も行うこと。

5 NST 委員会

(1) 目的

栄養サポートを必要とする患者に対し、栄養専門チームによる適切な栄養アセスメントと栄養指導を行い、栄養状態ならびに治療成績の改善、およびチーム医療の推進と医療の質の向上を図ることを目的とします。(NST 委員会設置規定)

(2) あゆみ

2005 年 4 月に NST 委員会を設置、月 1 回の定例会を開催。A・B・C の 3 チームで構成され、全病棟型の NST 回診を実施しています。

【栄養サポートシステム】

入院時に『SGA シート』で栄養評価を行い、栄養サポートが必要なら NST 介入依頼となります。NST 回診の結果は職種ごとに『アセスメント・回診記録』に記載する電子カルテ・システムを運用。

【栄養管理計画】

医師の指示の下、管理栄養士、看護師、薬剤師等のスタッフが協働して『栄養管理計画書』を作成し、患者・家族に概要を説明。

【摂食嚥下チーム】

NST 内でチーム編成し、摂食嚥下フローチャートを作成、スクリーニングから食形態の決定、嚥下リハビリ、耳鼻科受診に繋がるシステムを構築。

【構成メンバー】

院長直轄、医師・歯科医師 10 名、看護師 29 名、管理栄養士 4 名、理学療法士 1 名・言語聴覚士 3 名、薬剤師 3 名、臨床検査技師 3 名、歯科衛生士 4 名、放射線技師 2 名、臨床工学士 1 名、事務方 2 名、計 62 名。

【施設認定】

NST 稼働施設 (JSPEN : 日本臨床栄養代謝学会、JCNT : 日本栄養療法推進協議会)、JSPEN 認定 NST 専門療法士教育施設。

(3) 活動実績

① NST 回診 (週 1 回)

A・B・C のチームごとに実施、主治医へ報告書を作成。2021 年度介入患者は、A : 84 名 (平均 75.3 歳)、B : 42 名 (77.5 歳) C : 43 名 (78.2 歳)。

② NST 全体会 (第 4 水曜)

ディレクター会議に続けて開催。諸事項の討議、チームの現状報告や学会発表に準じた症例検討会、TNT 受講医師による講義など。

③ ランチタイムミーティング (月 1 回)

知識とスキルの習得と共有を目指し、症例報告や講義・実習。しかしコロナ禍で開催できませんでした。

④ 学会活動

- ・岡田克之ほか : NST15 周年、たどり着けばコロナ禍 : 第 8 回日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会 (2021. 10. 10、オンライン)
- ・岡田克之 : 急性期褥瘡の発生機序と栄養について : WOC Nursing 9(6) : 42-53, 2021

(4) 今後の課題

- ①入院時栄養アセスメントの重要性を啓発し、適切な栄養療法を速やかに開始できる体制を強化。
- ②高齢者の栄養管理。介入患者が高齢化してきている。
- ③NST 回診を再構築し、栄養サポートチーム加算を算定できるような体制とする。
- ④摂食嚥下チームをさらに明確な形で組織して、医師と多職種で協働して回診を行い、誤嚥性肺炎の予防、食形態の向上に繋げる。
- ⑤他のチーム医療（褥瘡対策、感染制御、緩和、医療安全など）と協働。
- ⑥基幹病院として栄養療法に関わる地域連携をさらに強化する。
- ⑦がん拠点病院としての栄養サポート活動への取り組み。
- ⑧栄養関連学会に積極的に参加・発表し、知識・スキルを習得して向上心を維持。
- ⑨NST 専門療法士の育成と、院外に向けた実地修練教育カリキュラムを開催。
- ⑩院外（医療従事者および一般市民）へ向けた NST 講演会をひき続き開催。

6 呼吸器サポートチーム（R S T）委員会

(1) 目的

- ① 呼吸に関する知識を深め、診療・看護・リハビリテーションなどの質を向上させる。
- ② 人工呼吸器に関する機能・知識・構造などを理解し、より安全な人工呼吸管理を行う。
- ③ 呼吸に問題のある患者や呼吸不全患者に対するチーム医療を確立。
- ④ 呼吸・人工呼吸に関する各種マニュアルの整備、人工呼吸器の中央管理化の実現。

(2) あゆみ

呼吸器サポートチームは平成 17 年に設立され、設立当初は医師 4 名、看護師 7 名をコアメンバーとして活動を開始。現在は医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、歯科衛生士、栄養管理士を含む約 40 名の大所帯となっています。

(3) 活動実績

メンバーは 4 つのワーキンググループ（安全チーム、患者教育チーム、呼吸教育チーム、感染チーム）に分かれて具体的な活動を行いました。各職種から選出したコアメンバーは各グループに配属され、グループ内の中心的な役割を担いました。新型コロナウイルス感染症蔓延のため、定期総会開催の制限、レクチャーや出張勉強会の開催断念など、活動に制限がありました。しかしその中でも、呼吸不全が進行した新型コロナ肺炎患者の気管挿管手順、携帯型人工呼吸器管理による搬送手順などを、マニュアルとしてまとめ、当該部署のスタッフとシミュレーターを用いた実習も行いました。

他にも下記活動を通して、院内職員の意識と知識の向上を図っています。

- ・各病棟へのベンチュリーマスクの配置と使用方法の周知
- ・新規人工呼吸器導入時に必要な安全講習会の e-learning による実施
- ・COPD セルフコントロール指導導入職種連携パスの作成
- ・呼吸器感染症予防を目的とした禁食患者における病棟スタッフに対する口腔ケアの意識づけ
- ・人工呼吸器使用患者に対する呼吸器離脱を目的としたラウンド（件数は別記）

次年度も上記の活動を継続することで、呼吸器ケア、リハビリテーションに対する意識が高まり、

より質の高い医療を提供できると考えます。

(4) 今後の目標

院内の呼吸ケアに対する意識向上とリスクマネジメントの実践

RST 認定施設として、呼吸器ケアチーム加算を踏まえたラウンド実績をさらに積み重ね、呼吸管理のレベルアップを図っていきます。

R S T回診件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
回診人数	14	6	13

診療科別 内訳

内科	30	7	13
外科	0	0	18
循環器内科	1	0	0
脳外科	4	3	0
整形外科	0	0	0
神経内科	0	0	0
小児科	4	0	0
合計回診件数	39	10	31

令和3年度 RST レクチャー活動実績

日時	内容	参加人数	担当者
11月11日	RST 委員向け勉強会：NPPV 患者と気管挿管患者における 口腔ケアリーフレットの活用	31	感染チーム
12月9日	RST 委員向け勉強会：コーチ II パンフレットの活用	27	術前術後チーム
1月13日	RST 委員向け勉強会： 人工呼吸器関連マニュアルとチェックリストの活用	32	安全チーム

7 医療ホスピタリティ推進委員会

(1) 目的

桐生厚生総合病院の基本理念である、「信頼され、心が通う地域医療」の実践を行う手段の一つとして、『患者さんから選ばれる病院』を目指し、患者ニーズ、患者さんとの信頼関係、情報提供等に積極的に取り組み、当院がいかに地域住民に親しまれ信頼されるかを検討、協議し、その対策を講じるとともにホスピタリティの向上を図ることを目的としています。

(2) あゆみ

平成 14 年 4 月に設置要綱を作成し、第 1 回患者サービス向上委員会を 5 月に開催し、平成 29 年 6 月からは医療ホスピタリティ推進委員会と名称及び設置要綱の変更を行い活動しています。令和 3 年度の構成は、歯科・歯科口腔外科診療部長を委員長、副院長兼皮膚科診療部長と副看護部長を副委員長、医師 3 名(小児科、外科、産婦人科)、リハビリテーション科 1 名、放射線科 1 名、中央検査科 1 名、栄養管理科 1 名、臨床工学科 1 名、薬剤科 1 名、看護師 3 名、事務部 6 名(事務局 1 名含む)の 21 名となっています。

(3) 活動実績

① 定例委員会開催実施 (毎月第 4 火曜日)

「意見箱」1 階医療費自動支払機横・各病棟に設置。

回収したご意見を関連部署毎に原因分析し回答、毎月の委員会で検討後、結果を院内に掲示。重要案件については担当部署に改善の進捗状況や結果を確認。

② 患者満足度アンケート

(ア) 外来満足度アンケートの実施

i) 実施期間 令和 3 年 9 月 13 日～令和 3 年 9 月 30 日(1282 枚配布)

ii) 内容

① 職員の接遇 ② 待ち時間 ③ 前年度比較 ④ 当院への要望のアンケートを実施しました。

iii) 結果

① 職員の接遇について

院内スタッフの接遇に関して、医師、看護師、受付事務の順に高い関心がみられました。

② 待ち時間について

待ち時間に関して、診察時及び会計時に待ち時間が長いとの結果になりました。

(イ) 入院患者アンケートの実施

i) 実施期間 令和 3 年 9 月 13 日～令和 3 年 9 月 30 日実施(175 枚回収)

ii) 結果

① 職員の接遇について

② 診療と療養について

③ 入院生活の環境面について

全項目において、前年度と比べ満足度が向上しました。

今後もホスピタリティの向上に病院全体で多面的に取り組んでいきたい所存です。

(ウ) 清掃ボランティア活動

職員によるホスピタリティの一環として年に3回、就業前に、病院敷地内、外周、歩道、植え込み等の一斉清掃を定期的に行っております。(令和3年度については中止)

(エ) フロアマネージャー活動

平成12年度から接遇研修や病院職員としての自覚を持って患者さんへホスピタリティを提供する事を目的として実施しています。

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、午前中を各部署(リハビリテーション科・放射線科・中央検査部・食養科・臨床工学科・薬剤部・事務部)、午後を看護部が担当する体制で正面入り口にて来院者への検温の担当も兼ねての活動となりました。

今後は医療ホスピタリティの観点から、フロアマネージャーから医療コンシェルジュへの専門職の配置を検討しています。

(4) 今後の課題

- ① 病院建物、設備の老朽化に対応し、院内の美化や敷地の緑地設備等、環境面の向上に努める。
- ② 患者さんに気配り・目配りすることや、常に問題意識をもって患者さんと接し、職員同士で連携を図る等、接遇の強化を行う。

8 輸血療法委員会

(1) 目的

院内における輸血業務を円滑かつ適正に行うための総合的、具体的な対策を検討、実施することを目的とします。

(2) あゆみ

目的を達成するため、平成 9 年 7 月薬剤部を事務局として発足、第 1 回輸血療法委員会が開催されました。平成 12 年 2 月輸血用血液製剤の検査部一元化に伴い事務局を検査部に移動、年間 6 回の委員会が行われています。委員会の構成メンバーは院長、医療局（内科・外科・産婦人科・麻酔科医師）4 名、看護部 2 名、薬剤部 1 名、事務部 1 名、検査部 3 名より組織されています。

(3) 活動実績

各月第 3（4）木曜日に委員会を開催。血液製剤・分画製剤の使用状況、症例検討、輸血に伴う事故・副作用・合併症の把握と対策、輸血関連情報の伝達等、輸血療法の適応と安全対策について検討を行っています。

令和 3 年度は 2 回（第 5、第 6）の委員会が新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、書面開催となりました。

主な活動実績

- ① 輸血管理料 I と輸血適正使用加算施設基準の取得
- ② 院内監査・ラウンドを実施
- ③ 大量輸血及び異型適合血輸血患者等の検証
- ④ 輸血認証実施調査
- ⑤ アルブミン投与時のロット入力漏れ等に対して、病棟レクチャーを行う
- ⑥ T&S の院内確保製剤単位数の変更
- ⑦ 輸血実施手順の一部変更とそれに伴う輸血マニュアルの改訂
- ⑧ 群馬県輸血研究会の幹事病院として講演会を Web 配信にて開催
- ⑨ 群馬県合同輸血療法委員会への参加

(4) 今後の課題

輸血用血液製剤・血漿分画製剤の適正使用を推進し、輸血管理料 I と輸血適正使用加算施設基準を維持する。

安全で適正な輸血医療を提供するため、輸血に関する研修会（輸血手順、輸血副作用など）を開催する。

令和 4 年度受審予定の病院機能評価に向けて、院内運用（輸血前後の感染症検査等）およびマニュアルの改訂等を実施する。

IX 地域医療連携室

1 医療相談業務

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
区分		件	件	件	%
	新規	1,050	1,083	1,191	110.0
	継続	3,552	4,042	3,270	80.9
	合計	4,602	5,125	4,461	87.0
	入院	4,415	4,922	4,147	84.3
	外来	187	203	314	154.7
	合計	4,602	5,125	4,461	87.0
援助方法	面接	2,300	2,069	1,840	88.9
	電話	2,283	3,028	2,564	84.7
	訪問	11	12	17	141.7
	文書	2	0	5	皆増
	その他	6	16	35	218.8
	合計	4,602	5,125	4,461	87.0
相談者	個別（本人）	491	628	543	86.5
	家族	1,864	1,955	1,664	85.1
	合同面接	20	28	22	78.6
	院内スタッフ	102	98	93	94.9
	関係機関	1,968	2,355	1,980	84.1
	その他	157	61	159	260.7
	合計	4,602	5,125	4,461	87.0
相談・援助内容	転院・施設	2,246	2,546	2,194	86.2
	受診・入院	34	42	45	107.1
	在宅ケア	645	1,012	814	80.4
	入院療養生活	41	92	32	34.8
	心理・情緒	0	3	2	66.7
	家族関係	3	18	17	94.4
	虐待・暴力	4	22	12	54.5
	復職・復学	1	1	4	400.0
	情報提供	526	468	566	120.9
	医療費	8	15	14	93.3
	経済的問題	54	82	62	75.6
	理解促進	281	357	351	98.3
	住居	4	5	12	240.0
	退院	414	307	226	73.6
	がん相談	91	17	13	76.5
	遺族	0	3	1	33.3
	その他	250	135	96	71.1
	合計	4,602	5,125	4,461	87.0

病棟・外来別相談件数

年 度		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
病 棟					
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		45	15	55	366.7
N I C U		42	12	14	116.7
G C U		47	42	62	147.6
3 階 病 棟		451	231	265	114.7
4 階 東 病 棟		484	369	181	49.1
4 階 西 病 棟		103	109	232	212.8
5 階 西 病 棟		399	539	500	92.8
6 階 東 病 棟		797	1,089	821	75.4
6 階 西 病 棟		311	484	426	88.0
7 階 東 病 棟		597	1,277	673	52.7
7 階 西 病 棟		675	691	854	123.6
8 階 病 棟		453	43	41	95.3
外 来		187	203	314	154.7
そ の 他		11	21	23	109.5
合 計		4,602	5,125	4,461	87.0

科別相談件数

区 分 ・ 年 度 科 別	入 院				外 来			
	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	前年度比	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	前年度比
内 科	1,934 件	2,330 件	1,758 件	75.5 %	17 件	38 件	81 件	213.2 %
精 神 科	0	0	0	-	0	8	0	皆減
神 経 内 科	69	61	28	45.9	4	10	45	450.0
循 環 器 内 科	78	59	84	142.4	0	0	3	皆増
小 児 科	162	86	100	116.3	52	41	27	65.9
外 科	155	215	300	139.5	6	3	10	333.3
血 管 外 科	0	0	0	-	0	0	0	-
整 形 外 科	713	861	629	73.1	1	3	12	400.0
脳 神 経 外 科	689	953	671	70.4	6	0	0	-
呼 吸 器 外 科	8	14	0	皆減	0	10	0	皆減
皮 膚 科	54	78	86	110.3	1	0	2	皆増
泌 尿 器 科	439	199	245	123.1	37	10	10	100.0
産 婦 人 科	110	46	90	195.7	59	69	101	146.4
眼 科	0	0	0	-	3	4	3	75.0
耳 鼻 い ん こ う 科	0	17	0	皆減	0	1	12	1,200.0
麻 酔 科	0	0	0	-	0	3	1	33.3
リハビリテーション科	-	-	115	皆増	-	-	0	-
放 射 線 科	0	0	0	-	0	0	0	-
救 急 科	3	0	36	皆増	0	0	2	皆増
歯科・歯科口腔外科	1	0	0	-	0	0	1	皆増
そ の 他	0	3	5	166.7	1	3	4	133.3
合 計	4,415	4,922	4,147	84.3	187	203	314	154.7

2 科別紹介患者数・入院

科 別	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
内 科		658	593	586	98.8
精 神 科		0	0	0	－
神 経 内 科		4	7	4	57.1
循 環 器 内 科		44	36	34	94.4
小 児 科		165	89	132	148.3
外 科		96	108	122	113.0
血 管 外 科		0	0	0	－
整 形 外 科		157	154	131	85.1
脳 神 経 外 科		131	146	109	74.7
呼 吸 器 外 科		23	28	0	皆減
皮 膚 科		10	13	24	184.6
泌 尿 器 科		71	71	87	122.5
産 婦 人 科		104	65	90	138.5
眼 科		4	0	2	皆増
耳 鼻 い ん こ う 科		8	5	5	100.0
麻 酔 科		0	0	0	－
放 射 線 科		0	0	0	－
救 急 科		0	4	25	625.0
歯科・歯科口腔外科		17	4	3	75.0
合 計		1,492	1,323	1,354	102.3

3 科別紹介患者数・外来

科 別	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
内 科		2,593	2,252	2,282	101.3
精 神 科		0	2	1	50.0
神 経 内 科		380	348	389	111.8
循 環 器 内 科		284	227	281	123.8
小 児 科		907	836	1,042	124.6
外 科		358	526	647	123.0
血 管 外 科		22	40	28	70.0
整 形 外 科		675	645	645	100.0
脳 神 経 外 科		326	239	285	119.2
呼 吸 器 外 科		51	57	48	84.2
皮 膚 科		681	571	570	99.8
泌 尿 器 科		877	734	955	130.1
産 婦 人 科		779	676	700	103.6
眼 科		696	658	745	113.2
耳 鼻 い ん こ う 科		260	306	382	124.8
麻 酔 科		18	12	10	83.3
放 射 線 科		1,071	866	727	83.9
病 理 診 断 科		0	0	0	－
救 急 科		17	430	88	20.5
歯科・歯科口腔外科		1,131	1,025	933	91.0
女 性 専 用 外 来		0	0	0	－
合 計		11,126	10,450	10,758	102.9

4 地域別紹介患者数・入院

地域別 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
桐 生 市	1,007	896	850	94.9
み ど り 市	264	218	237	108.7
前 橋 市	10	10	15	150.0
伊 勢 崎 市	35	26	35	134.6
太 田 市	106	104	119	114.4
そ の 他 県 内	22	21	27	128.6
足 利 市	25	15	33	220.0
そ の 他 県 外	23	33	38	115.2
合 計	1,492	1,323	1,354	102.3

5 地域別紹介患者数・外来

地域別 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
桐 生 市	7,546	7,054	7,238	102.6
み ど り 市	2,169	2,127	2,257	106.1
前 橋 市	116	92	77	83.7
伊 勢 崎 市	249	202	219	108.4
太 田 市	623	595	613	103.0
そ の 他 県 内	101	106	86	81.1
足 利 市	140	136	131	96.3
そ の 他 県 外	182	138	137	99.3
合 計	11,126	10,450	10,758	102.9

6 科別戻し・逆・新規紹介患者数

年度 科別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
内科	3,262	2,942	3,262	110.9
精神科	17	13	20	153.8
神経内科	371	443	446	100.7
循環器内科	620	272	290	106.6
小児科	1,118	1,023	1,060	103.6
外科	815	696	805	115.7
血管外科	42	53	31	58.5
整形外科	790	832	771	92.7
脳神経外科	671	588	549	93.4
呼吸器外科	163	216	99	45.8
皮膚科	213	197	280	142.1
泌尿器科	1,500	1,161	1,164	100.3
産婦人科	449	320	410	128.1
眼科	482	332	422	127.1
耳鼻いんこう科	120	161	106	65.8
麻酔科	6	2	2	100.0
放射線科	1,162	935	1,039	111.1
救急科	140	386	278	72.0
緩和ケア内科	0	0	0	-
歯科・歯科口腔外科	1,839	1,811	1,690	93.3
合計	13,780	12,383	12,732	102.8

7 地域別戻し・逆・新規紹介患者数

年度 地域別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
桐生市	7,605	6,482	6,581	101.5
みどり市	2,297	2,294	2,165	94.4
前橋市	1,189	1,213	1,310	108.0
伊勢崎市	417	380	515	135.5
太田市	873	883	1,021	115.6
その他の県内	327	268	305	113.8
足利市	254	188	175	93.1
その他の県外	303	252	271	107.5
その他	515	421	389	92.4
合計	13,780	12,381	12,732	102.8

8 科別紹介患者数（当日救急対応分）

科別	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
内科		782	375	301	80.3
精神科		0	0	0	-
神経内科		21	20	7	35.0
循環器内科		23	15	15	100.0
小児科		246	328	554	168.9
外科		84	86	102	118.6
血管外科		1	3	0	皆減
整形外科		115	128	124	96.9
脳神経外科		162	114	112	98.2
呼吸器外科		22	27	1	3.7
皮膚科		66	82	67	81.7
泌尿器科		102	98	109	111.2
産婦人科		94	53	53	100.0
眼科		4	3	15	500.0
耳鼻いんこう科		36	33	111	336.4
麻酔科		2	0	0	-
放射線科		3	20	1	5.0
救急科		4	661	314	47.5
歯科・歯科口腔外科		3	3	4	133.3
合計		1,770	2,049	1,890	92.2

区分（再掲）	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
新患		286	365	366	100.3
再来		1,484	1,684	1,525	90.6
救急室対応患者数		745	1,341	1,111	82.8
救急搬送数		307	316	298	94.3
入院患者数（再掲）		818	732	730	99.7

9 科別事前予約患者数

年度 科別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
内科	783	810	912	112.6
精神科	0	0	0	-
神経内科	294	272	323	118.8
循環器内科	135	102	134	131.4
小児科	129	217	192	88.5
外科	165	286	322	112.6
血管外科	17	31	19	61.3
整形外科	402	370	393	106.2
脳神経外科	155	121	148	122.3
呼吸器外科	29	33	15	45.5
皮膚科	248	228	217	95.2
泌尿器科	313	260	327	125.8
産婦人科	461	408	452	110.8
眼科	1	1	9	900.0
耳鼻いんこう科	170	146	204	139.7
麻酔科	9	8	5	62.5
放射線科	1,026	873	682	78.1
救急科	0	113	4	3.5
歯科・歯科口腔外科	0	0	0	-
女性専用外来	0	0	0	-
合計	4,337	4,279	4,358	101.8

10 オンライン検査予約

桐生おりひめネット

年度 科別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
C T	148	125	131	104.8
M R I	131	98	144	146.9
合計	279	223	275	123.3

11 母体搬送・新生児搬送受入れ数

(母体搬送)

年度 地域別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
桐 生 市	9	1	0	0.0
み ど り 市	5	6	6	100.0
前 橋 市	1	1	6	600.0
高 崎 市	0	0	0	-
伊 勢 崎 市	8	3	5	166.7
太 田 市	11	11	9	81.8
館 林 市	1	2	0	0.0
渋 川 市	0	2	3	150.0
藤 岡 市	0	0	0	-
そ の 他 県 内	0	0	0	-
栃 木 県	2	3	0	0.0
埼 玉 県	2	0	0	-
そ の 他 県 外	0	0	0	-
合 計	39	29	29	100.0

(新生児搬送)

年度 地域別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
桐 生 市	4	0	1	皆増
み ど り 市	3	1	2	200.0
前 橋 市	2	3	3	100.0
伊 勢 崎 市	3	11	9	81.8
太 田 市	3	1	0	0.0
渋 川 市	0	1	0	0.0
そ の 他 県 外	0	0	0	-
合 計	15	17	15	88.2

12 在宅医療未熟児等一時受入事業

年度 項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
登 録 件 数	4	4	0	0.0
利 用 件 数	1	12	0	0.0

13 退院調整患者数

項目 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	件	件	件	%
退 院 調 整 件 数	554	623	555	89.1
調 整 加 算 算 定	2,344	2,007	2,320	115.6
連携指導料算定	113	69	50	72.5
共同指導料算定	－	19	21	110.5
入院時支援加算算定	－	387	615	158.9
患者サポート体制充実加算	－	5,682	6,021	106.0

X 地域がん診療連携拠点病院

1 がん相談支援センター

当院は、国からがん診療連携拠点病院の指定を受けているため、その指定要件の一つであるがん相談支援センターを地域医療連携室内に設置しています。

がん相談支援センターでは、治療に関する一般的な医療の情報提供、セカンドオピニオンが受けられる医療機関の紹介、緩和ケアや在宅医療、就労、妊孕、アビアランスケア、医療費の相談など、幅広い相談を無料に対応しています。相談の内容に応じて、適切な部署や職種と連携しています。

地域医療連携室前には、群馬県が発行している「がんサポートブック」をはじめ、医療福祉やがんに関するパンフレット等を自由にお持ちいただけるコーナーを設置し、情報提供しています。

(1) 相談対応スタッフ

がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、看護師、臨床心理士、社会福祉士が対応しています。相談員は、国立がんセンターの相談員研修を修了しています。

(2) 年度報告

令和3年度は、電話・面談・メールを合わせて261件となりました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、面談による相談よりも電話相談が増加しています。5大がんの相談に加え、近年注目が高まっている遺伝子検査や助成が開始となったアビアランスケアに関する相談、在宅療養に関する相談が増加しています。

(3) 今後の目標

- ① がん患者さん及びそのご家族の気持ちに寄り添い、適切な情報提供を行う
- ② 相談の質の維持向上を行い、相談者のニーズに合わせた相談対応ができる。

2 院内がん登録

(1) スタッフ

院内がん登録実務者研修を修了した有資格者（診療情報管理士 2 名）でおこなっています。地域がん診療連携拠点病院では、がん登録中級有資格者配置が必須事項です。

(2) 年度報告

2020 年データ 665 件を国立がん研究センターに提出し、そのデータを元に地域がん登録にも登録データを送付しています。また、平成 25 年度から実施されている「予後情報付き集計」へデータ提出の協力をしています。

(3) 今後の目標

より正確なデータ提出を目標に、予後調査を含め一層の精度向上を目指します。

3 化学療法・通院治療センター委員会

(1) スタッフ

化学療法通院治療センター委員会は、化学療法と生物学的製剤に関連する診療科医師、薬剤師（がん薬物療法認定薬剤師含む）、看護師（がん看護認定看護師含む）、検査技師、臨床工学技士、管理栄養士（がん病態栄養専門管理栄養士）、事務員（診療情報管理士）の計 18 名で構成され、原則月に 1 回の会合を開いています。

(2) 年度報告

令和 3 年度の実績（内服抗がん剤のみの治療は除く）は、延べ人数で外来化学療法が 1953 名（+13.4%）と前年度よりさらに増加しました。がん種別の人数では入院外来合計（内服抗がん剤のみの使用者は除く）373 名（+4%）、多かった順に肺がん（107）、尿路上皮がん（54）、大腸がん（46）、乳がん（42）、胃がん（28）、卵巣がん（21）、肝臓がん（18）、前立腺がん（14）、腎臓がん、膵臓がん（各 9）、子宮がん、食道がん（各 7）、胆道がん、脳腫瘍、皮膚がん（各 3）でした。免疫チェックポイント阻害薬使用患者はこのうち 96 名（+18.5%）と増加傾向です。生物学的製剤（インフリキシマブ／レミケード）の点滴の患者数は延べ 305 人（+1.3%）でした。12 床で運用しているベッドの稼働率は、平均で 77.1%となっています。化学療法についての説明・同意時に算定されるがん患者指導管理料の算定件数については周知徹底が進んだこともあり、年間 322 件（+117%）と前年度の倍以上となりました。また頭皮冷却システム PAXMAN を導入し、乳癌患者を中心として脱毛予防に効果をあげています。

令和 3 年度の委員会の活動としては、新規レジメンの承認、委員会主催の講演会の年 2 回開催（COVID19 の影響で ZOOM 併用ハイブリッド開催）、免疫チェックポイント阻害薬に伴う免疫関連有害事象の報告・啓発などを行いました。がん患者指導管理料算定の啓発、がん患者への栄養指導、化学療法レジメンの整理と病院ホームページへの掲載も施行しました。4 月からの通院治療センター開設に伴い、患者数が増えたこともあり、設備の拡充などを施行しました。

(3) 今後の目標

令和3年4月より通院治療センターは3床増床し12床まで拡大しました。①免疫関連有害事象やその他副作用への注意啓発、②患者が快適に過ごせる環境作り、③化学療法講演会の開催などを目標としています。

4 緩和ケアチーム

(1) 目的

がんなどの疾患を持つ患者やその家族の全人的な（身体的、心理的、社会的、スピリチュアルペインなど）痛みを緩和し、生活の質の維持向上を目的として活動しています。緩和ケアの提供には、医師、看護師、薬剤師、栄養士など多職種が協働し、チーム医療を通してそれぞれの専門性を活かしながら行っています。

(2) あゆみ

厚生労働省による「がん診療連携拠点病院の整備指針」に従い、チームによる早期からの緩和医療の提供を実現するため、平成17年6月に緩和ケア勉強会を開催しました。平成18年6月に緩和ケア委員会を設置し、同7月には緩和ケアチームとしての活動を開始しました。現在は、チーム医療として週1回の回診とカンファレンスが定期的に行われており、医師4名（外科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科）、看護師15名（うち1名はがん看護専門看護師、1名は緩和ケア認定看護師）、薬剤師2名、理学療法士1名、作業療法士1名、管理栄養士1名、事務局1名、計25名で活動しています。

(3) 活動実績

緩和チームはコンサルテーション型で運用され、緩和ケア病棟やベッドを有していませんが、3ヶ月に1回の委員会、週1回の回診、カンファレンスを行うとともに、週1回緩和ケア外来を実施し、主治医や看護師から依頼のあった患者に対する疼痛や苦痛の緩和、精神的ケア、在宅療養への支援などを行っています。

また、医師、歯科医師、多職種を対象に、緩和ケアの基本的な知識・技術の習得を目指した緩和ケア研修会を年1回開催するほか、院内職員や地域の医療従事者向けの勉強会や一般市民を対象とした「市民公開講演」で講演するなど、院内・外を問わず緩和医療普及に努めています。

(4) 今後の課題

- ① 緩和ケアチーム回診の充実
- ② カンファレンスの充実
- ③ 院内外の啓蒙活動
- ④ 非がん患者への介入

5 がん患者サロン（サロンあおぞら）

◇ 桐生厚生総合病院では、「地域がん診療連携拠点病院」として、『がん患者サロン』を開設しています。

○『がん患者サロン』（サロンあおぞら） 開催日時

毎月第1金曜日 午後1時30分～3時30分（休日の場合は、翌週の金曜日）

同じ悩みを持つ患者さん、ご家族のみなさんを対象に集い、気軽に語り合う交流の場を提供し、ご自由に参加していただいております。治療過程での体験「不安・痛み・つらさ」を、どのように向かい合い克服してきたかを語り合い、共感し、「少し気持ちが楽になった」「つらいのは自分ひとりではない」と、前向きに少しでも心の負担を軽くしていただければと思います。

サロンでは、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士等が講師となり、がんの治療や日常生活に関する内容を取り上げて「ミニレクチャー」なども開催しています。

また、がん患者サロンにはがん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師、臨床心理士に加え、毎月がんピアサポーターの方々にも参加していただいております。参加者の方々の体験談をはじめ気持ちの落ち込みや不安など、心の問題についてお話を聴くことを通して、患者さんやご家族のサポートを行っています。

※ 令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、全日程中止となりました。

6 キャンサーボード

キャンサーボードとは、専門的な知識・技能を有して手術や放射線療法、化学療法などの集学的治療に携わる医師と、他の分野を専門とする医師等が、様々ながんに対して、がん患者さんの症状、状態及び治療方針等を検討・確認するためのカンファレンスをいいます。

医師を中心に薬剤師、看護師、診療情報管理士等が集まり、あらゆる側面からがん治療を検討し、緩和ケアチームとも協同し患者さん中心の医療を目指しています。

「地域がん診療連携拠点病院」の必須機能として平成20年9月9日に開始され、毎月2回開催しています。

XI 地域支援活動

1 地域講演会

(1) 市民公開講演

開催日	講演内容	講師	会場
新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期	第1部 市民公開講演 正しく知ろう！乳がんのこと ～乳がん専門医・放射線科医・ 認定看護師がお答えします～	乳腺外科部長 森下 亜希子 放射線科部長 村松 博之 がん化学療法認定看護師 西場 里香 乳がん看護認定看護師 塩谷 智恵	桐生市市民文化 会館スカイホール
	第2部 特別講演 「地域包括ケアシステムの推進」	群馬県健康福祉部 健康 長寿社会づくり推進課長 神山 智子	
	シンポジウム 「桐生・みどり地域の医療の 未来を市民とともに考える」	シンポジスト 群馬県健康福祉部 健康 長寿社会づくり推進課長 神山 智子 桐生市医師会 会長 菊地 一真 桐生市健康長寿課 課長 高草木 陸 みどり市介護高齢課 課長 金子 真紀子 桐生厚生総合病院 院長 加藤 広行	

(2) 地域医療勉強会

開催日	演題	演者	会場
令和 3. 12. 8	「アドバンスケアプランニング」	がん看護専門看護師 荒川 浩	桐生厚生総合病院 2階講堂

(3) ハッピー健康相談室

令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。

(4) 認定看護師出前講座

令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。

2 地域への情報提供

(1) TOWNわたらせ紙への掲載 (桐生タイムス社発行)

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 3. 4. 3	高橋 満弘 副院長兼放射線科診療部長	医師の働き方改革～時間外労働について～
3. 4. 17	小林 誠 食養科長	食物繊維について
3. 5. 1	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	似て非なるもの
3. 5. 15	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞ タービン
3. 6. 5	上井 崇智 泌尿器科診療部長	尿路感染症～これからの時期注意が必要～
3. 6. 12	緒方 杏一 外科診療部長	苦痛の少ない鼻からの胃カメラはご存じですか？経鼻内視鏡について
3. 6. 19	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞マンテル医師と1本の歯
3. 7. 3	五十嵐 千代子 緩和ケア認定看護師	「がん相談支援センター」をご存じですか？
3. 7. 10	今泉 智博 臨床検査技師	病理検査標本作製から診断について
3. 7. 17	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞はたらくくるま―献血バスその2―設備・機能編
3. 8. 7	丸山 泰弘 眼科診療部長	新型コロナウイルス感染症流行と近視進行～進行をとめるにはどうしたら？～
3. 8. 21	針谷 晃 中央検査部長兼小児科診療部長	〈小児の救急〉子どもの嘔吐・下痢
3. 9. 4	磯 昌宏 放射線科技師長	自然放射線
3. 9. 18	森下 亜希子 乳腺外科診療部長	乳がん治療について
3. 10. 2	永井 彩子 整形外科診療部長	へバーデン結節～指の痛みを感じていませんか？～
3. 10. 16	青木 真美 歯科衛生士	当院歯科口腔外科での障がい者歯科治療の取り組み
3. 11. 6	小池 淳 薬剤師	骨粗鬆症とビタミンD
3. 11. 13	塩谷 智恵 乳がん看護認定看護師	正しく知ろう！乳がんのこと
3. 11. 20	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞まつかぜ
3. 12. 4	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	汗のこと

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 3. 12. 18	加藤 広行 院長	胸や胃がムカムカしませんか？「逆流性 食道炎」の原因・症状・治療を解説
4. 1. 15	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞桐生にもトラがいた
4. 1. 29	勝山 典年 リハビリテーション科長	骨盤の動きを意識していますか？
4. 2. 5	曲澤 聡 副院長兼脳神経外科診療部長	一過性脳虚血発作について
4. 2. 12	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞三毒を断つ
4. 2. 19	森永 暢浩 副院長兼外科診療部長	おしりの話
4. 3. 5	定方 久延 産婦人科診療部長	女性の骨盤の進化？
4. 3. 12	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞露の臺
4. 3. 19	高橋 満弘 副院長兼放射線科診療部長	電子カルテの更新とこれから

(2) 院外広報 ほほえみ

発行年月日	トピックス
令和 3. 4. 10	部門紹介 回復期リハビリテーション 秋間 由博 看護師長 新任医師紹介 有坂 眞由美 リハビリテーション科診療部長 一泊ドックの休止について 感謝のメッセージ 総合受付ご利用の方へ 食養科の人気メニュー紹介
令和 3. 7. 1	副院長就任挨拶 曲澤 聡 副院長 森永 暢浩 副院長 事務長就任挨拶 関口 郁雄 事務長 献血のお知らせ 認定看護師の活躍 五十嵐 千代子 緩和ケア認定看護師 「Newsweek」掲載報告 The World's Best Hospitals 2021選出
令和 3. 10. 1	新しい診療の紹介 「乳がん患者の抗がん剤による脱毛対策について」 森下 亜希子 乳腺外科診療部長 新しい診療の紹介 「前立腺がん局所放射線治療による直腸障害軽減のためのスペーサー留置術」 上井 崇智 泌尿器科診療部長 薬剤部からのお知らせ 河井 利恵子 薬剤課長 認定看護師の活躍 赤石 洋子 新生児集中ケア認定看護師 中井 美和子 新生児集中ケア認定看護師 テレビ褥瘡（床ずれ）について
令和 4. 1. 1	新年の挨拶2022年 加藤 広行 院長 新しい診療の紹介 「過活動膀胱に対するボトックス注入療法」 上井 崇智 泌尿器科診療部長 新しい診療の紹介 「X線透視診断装置の導入」 林 克政 放射線科技師長補佐 研修医の紹介 患者満足度調査結果報告

(3) 地域医療連携室だより きずな

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 3. 4. 1	高田 しのぶ 神経内科診療部長	認知症とRI検査 -認知症に関する画像診断-
	中島 悠介 診療放射線技師	神経内科領域における核医学検査と診療 放射線技師の役割
3. 7. 1	橋場 康弘 脳神経外科診療部長	脳神経外科のご紹介
	曲澤 聡 副院長兼脳神経外科診療部長	地域医療連携室長を拝命して
3. 10. 1	和田 渉 外科診療部長	消化器外科のご紹介 -肝胆膵外科-
	伊藤 さやか 摂食・嚥下障害看護認定看護師	摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割
4. 1. 1	緒方 杏一 外科診療部長	全国統計を上回る胃がん治療の実践と3D 内視鏡を用いた最先端手術
	村松 博之 放射線科診療部長	放射線治療 現状と今後の展望

3 母親学級

(1) 母親学級開催日時・内容

開催日時	内 容	講 師
第1水曜日 妊娠21週頃までの方 14：00～16：00	妊娠中の栄養 妊娠中の生活（妊娠初期） 妊婦体操 おっぱいのお手入れ SMC	管理栄養士 助産師
第2水曜日 妊娠22週から27週頃までの方 14：00～16：00	赤ちゃんの育て方 妊娠中の上手なお薬との つきあい方 妊娠中の生活（妊娠中期～後期）	小児科医師 薬剤師 助産師
第3水曜日 妊娠28週から34週頃までの方 14：00～16：00	産後の生活 赤ちゃんの生活 お産の準備	助産師
第4水曜日 妊娠32週からの方 14：00～16：00	お産の経過と呼吸法 産後の生活 入院案内	助産師

(2) 母親学級開催回数との延べ人数

開催回数	参加者数					
	妊婦	夫	子	母	父	計
45 回	人 256	人 0	人 0	人 0	人 0	人 256

(3) 産後退院指導

開催日時	内 容	講 師
毎週火曜日 13：30～14：00 毎週金曜日 15：30～16：00	産褥期の日常生活 育児 家族計画 服薬指導	助産師 看護師 薬剤師
毎週水・金曜日 13：00～13：30	人工栄養（ミルク）の調乳法 消毒法	管理栄養士
毎週月・木曜日 13：30～14：00	沐浴指導	助産師 看護師

4 職場体験受入

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、今年度は受け入れを中止いたしました。

5 極低出生体重児の親の会「クラブ・プリミー」

(1) 第43回

- ① 開催日 令和3年11月7日（日）
- ② 参加家族 3人の児と5人の家族（3家族）
- ③ スタッフ 医師 2人
看護師 6人 （計）8人

※令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、WEB開催としました。

6 桐生市堀マラソン大会の支援

当院は、大会実行委員会委員長（事務局 桐生市教育委員会）から、不慮の事故への迅速な対応など安全な大会に向けて、救急医療体制の充実を図ることを目的に、医師・看護職の大会参加の協力依頼があり、ドクター・ナースランナーとして参加しています。

令和3年度は、2月13日（日）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止となりました。

7 リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2021 ぐんま

リレー・フォー・ライフとは、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らがリレー形式で24時間にわたって歩き、勇気と希望をかち合うチャリティーイベントです。

当院は、地域がん診療連携拠点病院の取り組みの一環としてイベント趣旨に賛同し、チーム及び後援団体として参加しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により後援のみとさせていただきました。

8 令和3年度（第4回）桐生厚生総合病院連携登録医大会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期となりました。

XII 研修業績

1 学会及び院外研修会

(1) 医師

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
内科	月			人
	4	第118回日本内科学会講演会	WEB開催	2
	4	第61回日本呼吸器学会学術講演会	WEB開催	1
	5	第101回日本消化器内視鏡学会総会	WEB開催	2
	5	第64回日本糖尿病学会年次学術集会	WEB開催	1
	6	American Diabetes Association 81st Scientific Sessions	WEB開催	2
	6	第57回日本肝臓学会総会	WEB開催	1
	9	第57回EASD（欧州糖尿病学会）	WEB開催	1
	10	第45回日本消化器内科学会セミナー	WEB開催	2
	10	第70回日本アレルギー学会学術大会	神奈川	2
	10	日本消化器内視鏡学会第45回日本消化器内視鏡セミナー	WEB開催	2
	11	第29回日本消化器関連学会週間（JDDW2021）	WEB開催	5
	11	日本内科学会関東支部主催 第673回 関東地方会	WEB開催	2
	3	第30回日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会学術総会	WEB開催	1
神経内科	4	第118回日本内科学会総会	WEB開催	1
	5	第62回日本神経学会学術総会	WEB開催	1
	7	第15回パーキンソン病運動障害疾患コンgres	WEB開催	1
小児科	4	第124回日本小児科学会学術総会	WEB開催	3
	5	第59回日本アレルギー学会専門医認定教育セミナー	WEB開催	1
	5	第65回日本新生児成育医学会学術総会	WEB開催	1
	5	発達障害オンラインワークショップ ADHD臨床	WEB開催	1
	6	第7回総合アレルギー講習会	WEB開催	1
	10	第17回日本小児科医会 生涯研修セミナー	WEB開催	1
	10	第53回日本小児感染症学会総会・学術総会	WEB開催	1
	10	第60回日本アレルギー学会専門医認定教育セミナー	WEB開催	1
	10	第70回日本アレルギー学会学術大会	WEB開催	1
	11	第15回小児神経放射線研究会	WEB開催	1
	11	第6回日本アレルギー学会関東大会	WEB開催	1
	12	日本LD学会第30回大会	WEB開催	1
	1	日本周産期・新生児医学会 第40回周産期シンポジウム	WEB開催	1
	2	第19回小児放射線学会教育セミナー	WEB開催	1
	3	第76回日本小児神経学会関東地方大会	WEB開催	1
外科	4	第121回日本外科学会定期学術集会	WEB開催	1
	4	第57回日本腹部救急医学会総会	WEB開催	1
	5	第101回日本消化器内視鏡学会総会	WEB開催	1
	7	第76回日本消化器外科学会総会	WEB開催	2
	9	第75回日本食道学会学術総会	WEB開催	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
外科	月			人
	11	第29回日本消化器関連学会	WEB開催	1
	11	第72回日本気管食道科学会総会	WEB開催	2
	11	第83回日本臨床外科学会総会	WEB開催	1
	12	第34回日本内視鏡外科学会総会	兵庫	3
	12	第34回日本内視鏡外科学会総会	WEB開催	1
	2	第18回日本消化管学会総会学術集会	WEB開催	2
	3	第58回日本腹部救急医学学会総会	東京	1
整形外科	3	第94回日本胃がん学会総会	WEB開催	2
	4	第50回日本脊椎脊髄病学会学術総会	WEB開催	1
	4	第65回日本リウマチ学会総会・学術総会	WEB開催	1
	5	第64回日本手外科学会学術総会	WEB開催	1
	6	第94回日本整形外科学会学術総会	WEB開催	2
	11	第24回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会	WEB開催	1
脳神経外科	11	第55回日本側髻症学会	WEB開催	1
	5	第41回日本脳神経外科コンgres総会	WEB開催	2
	10	第80回日本脳神経外科学会学術総会	WEB開催	1
	11	第37回日本脳神経血管内治療学会学術集会	WEB開催	1
	3	STROKE2021	WEB開催	2
	3	STROKE2022	WEB開催	1
皮膚科	5	第37回日本臨床皮膚科医会総会	WEB開催	1
	6	2021年度医療安全管理者養成課程講習会	WEB開催	1
	6	第120回日本皮膚科学会総会	WEB開催	2
	6	第77回群馬実地皮膚科医会	WEB開催	1
	7	第36回日本臨床栄養代謝学会学術総会	WEB開催	1
	7	第7回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 総会・学術総会	WEB開催	1
	8	第107回日本皮膚科学会群馬地方会・石川治教授退官記念大会	群馬県	2
	8	第23回日本褥瘡学会学術総会	群馬県	1
	9	第36回日本環境感染学会総会・学術集会	WEB開催	1
	9	第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会	WEB開催	1
	9	ぐんま足人の会 第3回あしたの足セミナー	WEB開催	1
	10	第8回日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会	WEB開催	1
	10	第3回日本在宅医療連合学会大会	WEB開催	1
	11	第78回群馬実地皮膚科医会	WEB開催	1
	12	第108回日本皮膚科学会群馬地方大会	群馬県	2
	12	第2回日本フットケア・足病医学界・学次学術集会	群馬県	1
	12	第30回群馬NST研究会	神奈川	1
	1	第109回日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	1
	3	第120回日本皮膚科学会総会	群馬県	2
泌尿器科	4	第15回日本骨盤脱手術学会学術集会	神奈川県	2
	6	第66回日本透析医学会	WEB開催	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
泌尿器科	9月	第86回日本泌尿器科学会東部総会	WEB開催	2人
	10	日本泌尿器腫瘍学会第7回学術集会	WEB開催	1
	12	第109回日本泌尿器科学会総会	神奈川県	4
産婦人科	4	第73回日本産婦人科学術講演会	新潟県	1
	6	第4回ロボット支援下手術研修会	東京都	1
	7	第141回関東連合産婦人科学会・総会・学術総会	WEB開催	1
	7	第23回日本女性骨盤底医学会	栃木県	1
	7	第57回日本周産期新生児医学会学術集会	WEB開催	1
	7	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講習会	WEB開催	1
	9	第44回日本産婦人科手術学会	WEB開催	1
	9	第61回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会	WEB開催	1
	9	第8回surgical education summit	WEB開催	1
	9	日本産婦人科内視鏡学会 第27回学術研修会	WEB開催	1
	9	令和3年度群馬県母体保護法指定医師研修会	WEB開催	1
	10	第40回日本性科学学術集会	WEB開催	1
	11	第142回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会	横浜	1
	11	第36回日本女性医学学会学術集会	WEB開催	1
	11	第4回骨盤解剖を紐解く会	北海道	1
	11	第66回日本生殖医学会学術講演会・総会	WEB開催	1
	12	第34回日本内視鏡外科学会総会	WEB開催	1
	1	第10回日本婦人科ロボット手術学会	WEB開催	1
	1	第43回日本エンドメトリクス学会	東京都	2
	2	第5回日本子宮鏡研究会	WEB開催	1
	2	第7回日本外科教育研究会学術集会	WEB開催	1
	3	第14回日本骨盤臓器脱手術学会学術総会	WEB開催	1
	3	第27回日本女性医学学会ワークショップ	WEB開催	1
眼科	4	第125回日本眼科学会総会	WEB開催	2
	11	第75回日本臨床眼科学会	WEB開催	2
	11	第62回日本視能矯正学会	WEB開催	3
麻酔科	6	日本麻酔科学会第68回学術集会	WEB開催	4
	7	日本ペインクリニック学会 第55回学術総会集会	WEB開催	1
放射線科	4	第80回日本医学放射線学会総会	WEB開催	2
	9	第57回日本医学放射線学会秋季臨床大会	WEB開催	2
	11	第21回日本クリニカルパス学会学術集会	WEB開催	1
	11	日本放射線腫瘍学会第34回学術集会	WEB開催	2
	3	第457回日本医学放射線学会 関東地方定期大会	WEB開催	1
歯科・ 歯科口腔外科	7	日本口腔顔面痛学会ベーシックセミナー2021	WEB開催	1
	11	第26回日本口腔顔面痛学会学術大会	WEB開催	1
	11	第66回日本口腔外科学会総会・学術総会	WEB開催	2
	3	神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム 2022	WEB開催	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
臨床研修医室	月			人
	6	第81回米国糖尿病学会	WEB開催	1
	9	第6回皮膚科サマースクール	WEB開催	1

(2) 眼科（視能訓練士）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
眼科	月			人
	11	第62回日本視能矯正学会	WEB開催	2

(3) リハビリテーション科（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
リハビリテーション科	月			人
	4	脳と臨床とのマッチング	WEB開催	1
	7	臨床実習指導者講習会	前橋	1
	7	第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会	WEB開催	1
	10	臨床実習指導者講習会	WEB開催	1
	11	セラピストのための運動器画像の診かた（下肢の読影とリハへの応用）	WEB開催	1
	11	群馬県言語聴覚士学会主催第5回学術研究発表会	WEB開催	1
	11	群馬PFN勉強会	WEB開催	1

(4) 放射線科（診療放射線技師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
放射線科	月			人
	4	第34回高精度放射線外部照射部会学術大会	WEB開催	1
	4	日本放射線技術学会第77回総会学術大会	WEB開催	1
	4	第60回日本消化器がん検診学会総会	WEB開催	3
	9	令和3年度第1回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会	WEB開催	20
	10	第80回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会	WEB開催	2
	10	第49回日本放射線技術学会秋季学術大会	WEB開催	5
	11	日本放射線腫瘍学会第34回学術大会	WEB開催	1
	2	診療放射線技師法改正に伴う告示研修（実技）	前橋市	3
	3	令和3年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会	WEB開催	19
	3	第35回高精度放射線外部照射部会学術大会	WEB開催	1

(5) 中央検査部（臨床検査技師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央検査部	月			人
	4	2022年度 精度管理調査報告会 生理部門	WEB開催	1
	4	群馬県病理・細胞診検査セミナー	WEB開催	2
	4	2021年度4月 輸血検査研究班研修会	WEB開催	5
	5	第70回日本医学検査学会	WEB開催	2
	5	2021年度5月 輸血検査研究班研修会	WEB開催	5
	5	第46回日本超音波検査学会学術集会	WEB開催	4
	5	日本超音波医学会第94回学術集会	WEB開催	1
	6	第69回日本輸血・細胞治療学会学術総会	WEB開催	3
	6	第62回日本臨床細胞学会総会（春期大会）	WEB開催	2
	6	新型コロナウイルス感染症のワクチン接種基礎研修（座学）	WEB開催	18
	6	新型コロナワクチン接種のための実技研修会	高崎市	11
	7	第10回ゲノム病理標準化講習会	WEB開催	1
	7	第9回群馬県輸血研究会	前橋市 (WEB開催)	9
	7	第74回群馬臨床細胞学会学術集会	高崎市 (WEB開催)	2
	7	2021年度7月 臨床化学検査研究班研修会	WEB開催	1
	7	2021年度7月 臨床化学検査研究班研修会②	WEB開催	1
	7	第2回新型コロナワクチン接種のための実技研修会	高崎市	7
	7	2021年度7月 病理細胞診検査研究班研修会	前橋市	1
	7	2021年度7月 病理細胞診検査研究班研修会②	WEB開催	2
	7	令和3年度群馬県感染症対策連絡協議会 総会・特別講演会	WEB開催	1
	7	2021年度7月 微生物検査研究班研修会	WEB開催	1
	7	2021年度7月 輸血検査研究班研修会	WEB開催	3
	8	令和3年度新型コロナウイルス遺伝子検査に係る精度管理事業における研修会	藤岡市	1
	8	2021年度 認定救急検査技師制度 指定講習会	WEB開催	1
	8	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（基礎研修）	WEB開催	14
	8	2021年度8月 病理細胞診検査研究班研修会	WEB開催	1
	8	2021年度8月 病理細胞診検査研究班研修会②	WEB開催	1
	8	2021年度8月 臨床化学検査研究班研修会	WEB開催	1
	8	2021年度8月 微生物検査研究班研修会	WEB開催	3
	8	2021年度8月 輸血検査研究班研修会	WEB開催	2
	9	令和3年度認定病理検査技師特定講習会	WEB開催	2
	9	第36回群馬血液疾患研究会	WEB開催	4
	9	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実務委員対象）	WEB開催	2
	9	臨地実習指導者講習会	WEB開催	1
	9	2021年度9月 微生物検査研究班研修会	WEB開催	1

所属	開催 月	学会及び研修会名	開催地	出席 人数
中央検査部	月			人
	9	2021年度9月 輸血検査研究班研修会	WEB開催	1
	10	2021年二級臨床検査士資格認定試験「血液学」	東京都	1
	10	第54回細胞検査士資格認定試験第1次試験	大阪府	1
	10	JACLaS EXPO2021	神奈川県	2
	10	令和3年度認定一般検査技師資格更新研修会	WEB開催	1
	10	令和3年度 日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第57回) in つくば	WEB開催	5
	10	令和3年度 群臨技新人研修会	前橋市	1
	10	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（日臨技003）	高崎市	1
	10	第3回 臨床検査技師臨地実習指導者講習会（中央講習会）	WEB開催	1
	11	第61回日本臨床化学会年次学術集会	WEB開催	1
	11	第36回超音波検査士認定試験	東京都	1
	11	第33回首都圏支部・関甲信支部微生物検査研修会	WEB開催	3
	11	細胞検査士2次試験対策 1回目	前橋市	1
	11	細胞検査士2次試験対策 2回目	前橋市	1
	11	細胞検査士2次試験対策 3回目	前橋市	1
	11	全国 検査と健康展 in 群馬	WEB開催	1
	11	令和3年度 中部圏支部 生物化学分析部門研修会	WEB開催	1
	11	第66回群馬県医学検査学会	前橋市 (WEB開催)	17
	12	第54回細胞検査士資格認定試験第2次試験	東京都	1
	12	2021年度12月 臨床化学検査研究班研修会	WEB開催	1
	12	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（群馬県001）	前橋市	4
	1	JSS関西第36回地方会研修会	WEB開催	2
	1	第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会	誌上	2
	1	群馬県感染症対策連絡協議会合同カンファレンス	WEB開催	1
	1	第16回群馬県合同輸血療法委員会	WEB開催	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央検査部	月			人
	1	令和4年新春講演会	前橋市	7
	2	2021年度 精度管理調査報告会 生理部門	WEB開催	1
	2	令和3年度 群馬県合同輸血療法委員会 講演会	WEB開催	2
	2	検査室管理運営研修会	WEB開催	1
	3	令和3年度 群馬県臨床検査精度管理調査報告会	前橋市 (WEB開催)	11
	3	第75回群馬臨床細胞学会学術集会	WEB開催	2
	3	第1回群馬県臨床検査技師会災害対策研修会	前橋市	2
	3	日本医療マネジメント学会群馬県支部2021年度特別講演会	WEB開催	2
	3	令和3年度学術講演会・情勢報告会	前橋市	2
	3	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（群馬県004）	WEB開催	4
	3	令和4年度診療報酬改定に伴う説明会	WEB開催	1

(6) 管理栄養士・調理師

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
食養科	月			人
	5	MEDぐんま2021 いのちの場から社会を良くする	前橋市	2
	7	第7回 日本褥瘡学会 在宅ケア指針協会総会・学術集会	WEB開催	1
	9	給食関係者講習会Ⅱ	桐生市	42
	12	令和3年度 桐生栄養士会研修会	桐生市	2

(7) 臨床工学技士

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
臨床工学科	月			人
	6	第20回 日本高気圧環境・潜水医学会 関東地方会学術集会（Web参加）	東京都	1
	8	群馬県COVID-19講習会 ECMO基礎コース	前橋市	1
	11	第31回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会	WEB開催	1
	10	第一回関東甲信越臨床工学会	WEB開催	1
	12	2021年度支部 周術期管理チームセミナー	WEB開催	1
	12	急性血液浄化療法WEBセミナー「Sepsisに対する急性血液浄化療法の位置づけ-COVID19に対する知見も含め」	WEB開催	1
	1	循環の生理学から考えるショックの蘇生	WEB開催	1

(8) 薬剤師

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
薬剤部	月			人
	5	第4回群馬県薬学大会	WEB開催	15

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
薬剤部	月			人
	6	桐生・みどり地区アレルギーセミナー	WEB開催	5
	7	群馬HBV Webカンファレンス	WEB開催	1
	7	AMR対策臨床セミナーin群馬	WEB開催	1
	7	令和3年度群馬県感染対策連絡協議会総会・特別講演	WEB開催	1
	9	PD&DLB Baton Lecture	WEB開催	1
	10	Gunma Infection Seminar2021	WEB開催	1
	11	令和3年度群馬病院薬学研修会	高崎市	4
	11	PD&DLB Baton Lecture	WEB開催	1
	11	Breast Cancer Meeting in Gunma	WEB開催	2
	12	第20回桐生オンコロジーファーマシスト研究会	桐生市	2
	2	パーキンソン病 WEB Seminar in北関東	WEB開催	1
	2	第21回桐生オンコロジーファーマシスト研究会	桐生市	2
	3	診療報酬改定Live Webセミナー	WEB開催	2
	3	災害対策セミナーin群馬	WEB開催	1
	3	2022年度診療報酬改定に関する学術講演会	WEB開催	1

(9) 看護部（助産師・看護師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	5	群馬県保健師助産師看護師実習指導者講習会	群馬県	2
	5	第17回群馬がん看護フォーラム	WEB開催	2
	5	第64回糖尿病学会学術総会	WEB開催	1
	5	認定看護管理者教育課程サードレベル研修	東京都	1
	6	2021年度がん相談支援センター相談員 指導者研修	WEB開催	2
	6	コロナ禍における退院支援 医療・介護・ヘルスケア戦略特別セミナー	WEB開催	3
	6	群馬県看護師長協議会 第1回研究会	WEB開催	1
	6	第26回日本緩和医療学会学術総会	WEB開催	1
	7	2021全国自治体病院協議会主催 看護管理オンラインセミナー	WEB開催	1
	7	感染対策者の為のセミナー 第1クール	WEB開催	1
	7	看護管理 看護ミドルマネージャーコース	WEB開催	3
	7	緩和ケア研修会	群馬県	3
	7	第29回日本乳癌学会学術総会	WEB開催	1
	7	第36回日本臨床栄養代謝学会学術総会	WEB開催	2
	7	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	群馬県	2
	8	「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	WEB開催	3
	8	看護職員認知症対応力向上研修	群馬県	3
	8	日本看護教育学学会第30回学術集会	群馬県	1
	8	令和3年度透析療法従事職員研修	WEB開催	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	9	2021年度医療福祉連携講習会	群馬県	1
	9	第22回日本認知症ケア学会大会	WEB開催	2
	9	第23回日本褥瘡学会学術総会	WEB開催	2
	9	第36回日本環境感染学会総会・学術総会	WEB開催	1
	9	認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修	群馬県	3
	9	臨床倫理認定士（臨床倫理アドバイザー）コース 2021年度	WEB開催	1
	10	周産期看護研修会B（産科）	東京都	1
	10	第37回群馬周産期研究会	WEB開催	1
	11	医療リハビリーター養成講座 基礎編	東京都	1
	11	心電図研修～苦手意識をなくそう～	群馬県	1
	11	第16回医療の質・安全学会学術集会	WEB開催	1
	11	第21回日本クリニカルパス学会学術集会	WEB開催	4
	11	第23回救急看護学会学術集会	WEB開催	1
	11	第25回群馬県看護学会	WEB開催	20
	11	第28回がん看護公開講座「これからのがん看護」～withコロナ時代の今～	WEB開催	4
	12	群馬大学医学部附属病院看護部キャリア専門コース「がん看護基礎講座」	群馬県	8
	12	周産期看護研修会	WEB開催	1
	1	感染対策担当者のためのセミナー 第3クール	WEB開催	1
	2	コロナ禍における看護と倫理	WEB開催	11
	2	第36回日本がん看護学会学術集会	WEB開催	4
	3	看護師長協議会 第3回研究会	WEB開催	1

(10) 事務

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
医事課	月			人
	10	がん登録実務初級者認定試験	WEB開催	1
地域医療連携室	12	社会福祉士実習指導者講習会	WEB開催	1
契約管財課	1	エネルギー管理講習（資質向上公衆）	WEB開催	2
地域医療連携室	1	群馬県予防のための子ども死亡研修（CDR）体制整備モデル事業グリーフサポート研修会	WEB開催	1

2 学会発表・講演・論文

◇内科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
原著論文	間質性肺炎に合併した先天性門脈体循環シャントによる肝肺症候群の1例	宇津木光克 大澤翔 竝川昌司 井上照基 新井洋佑 菅間一乃 村上立真 小野昭浩 加嶋耕二 飯田智広	日本内科学会雑誌, 110巻6号, 1163-1168, 2021. 6
原著論文	維持透析中にペムブロリズマブを投与し奏功をみた高悪性度肺粘表皮癌の1例	宇津木光克 大澤翔 小野昭浩	日本呼吸器学会誌, 10巻5号, 407-410, 2021. 9
原著論文	気管支喘息診断における呼気中一酸化窒素濃度と喀痰好酸球の同時測定の意味	宇津木光克 岩下広志 松崎晋一 大澤翔 小野昭浩	日本呼吸器学会誌, 11巻1号, 1-6, 2022. 1

◇内科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口演	Liraglutide plus SGLT2 inhibitors might be synergistically beneficial to reduce progression to end stage renal disease in rapidly progressive diabetes kidney disease	Koji K Hiroyuki S Masanobu Y	57th ANNUAL MEETING of the EUROPEAN ASSOCIATION FOR STUDY OF DIABETES, Virtual Meeting, EUROPE, 2020. 9
口述発表	経口ステロイド使用中にもかかわらず喀痰中好酸球陽性の気管支喘息患者に対するBenralizumabの使用経験	宇津木光克 大澤翔 小野昭浩 前野敏孝 久田剛志	第61回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2021. 4
ポスター	ネフローゼ症候群を呈した糖尿病腎症にLiraglutide、Empagliflozinを用いてeGFR、尿蛋白の改善を認めた39歳2型糖尿病女性	加嶋耕二 清水弘行	第64回日本糖尿病学会年次学術集会, WEB開催, 2021. 5
ポスター	Individualized Estimated GFR Slope Analysis Is Needed To Preserve Renal Function By SGLT2 Inhibitors In Patients With DKD	Koji K Hiroyuki S Masanobu Y	American Diabetes Association 81th Scientific Sessions, VIRTUAL MEETING, USA, 2021. 6
ポスター	Liraglutide Might Have synergistic Renal Protection Effect With SGLT2 Inhibitors In Rapidly Progressive DKD	Koji K Hiroyuki S Masanobu Y	American Diabetes Association 81th Scientific Sessions, VIRTUAL MEETING, USA, 2021. 6
口述発表	Benralizumab使用中に発症した好酸球性筋膜炎の1例	宇津木光克 宮川真梨江 岡田克之 前野敏孝 久田剛志	第70回日本アレルギー学会学術集会, 横浜(WEB開催), 2021. 10
口述発表	壊疽性膿皮症に合併した超高齢者のaseptic abscess syndromeの1例	小林倫太郎 竝川昌司 宇津木光克 相川崇 堀口英 新井洋佑 菅間一乃 野中真知 飯田智広	日本内科学会第673回関東地方会, 東京, 2021. 11

◇内科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口述発表	発熱と腹膜刺激症状を伴う回腸末端炎を繰り返した非定型家族性地中海熱の1例	相川崇 飯田智広	第674回日本内科学会関東地方会, 東京(WEB開催), 2021. 12

◇小児科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
分担執筆	新生児の病態と最新医療技術 高度医療に潜む感染リスク	大木康史	感染対策ICTジャーナル(4), 270-274, ヴァンメディカル, 2021. 4
分担執筆	周産期医学必修知識(第9版) 日和見感染症	大木康史	周産期医学51(増刊), 671-673, 東京医学社, 2021. 12
分担執筆	小児疾患診療のための病態生理2 改訂第6版 新生児疾患 新生児敗血症	大木康史	小児内科 53(増刊) 161-165, 東京医学社, 2021. 12

◇小児科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口述発表	アトピー性皮膚炎の増悪に伴い溶連菌感染後急性糸球体腎炎を繰り返した1例	田端洋太 小林靖子 池内由果 高木陽子 武井麻里子 山田諭 関根和彦 石北悦子 大木康史 生方公子 滝沢琢己	第215回日本小児科学会群馬地方会, WEB開催, 2021. 3
ポスター発表	ファイルメーカーPROランタイム版を用いた在宅患者データベース作成の試み	大木康史 斎藤亜希子 浦野博央 桑島信	第65回日本新生児成育医学会, WEB開催, 2021. 5
口述発表	当院における血液培養の実態調査	江田陽一 八木龍介 斎藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 鈴木尊裕 大木康史	第216回日本小児科学会群馬地方会, WEB開催, 2021. 7
口述発表	肝機能障害の経過観察中にShwachman-Diamond症候群(SDS)と診断した1例	永井裕介 五十嵐淑子 原勇介 西澤拓哉 川島淳 飯島真由子 奥野はるな 石毛崇 大木康史 生方公子 滝沢琢己	第216回日本小児科学会群馬地方会, WEB開催, 2021. 7
口述発表	当院における施設外分娩例の検討	八木龍介 江田陽一 斎藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 鈴木尊裕 大木康史	令和3年度群馬県小児保健会研究集会, WEB開催, 2021. 9

◇小児科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口述発表	巨脳症・多指症・多少脳回・水頭症 (Megalencephaly with polymicrogyria, polydactyly and hydrocephalus; MPPH) 症候群の1例	大木康史 田口未菜 島田正晴 浦野博央 鈴木尊裕 桑島信 加藤光広 桑島成子	第15回小児神経放射線研究会, WEB開催, 2021. 11
口述発表	抗トリコスポロン抗体測定が診断に有効だった夏型過敏性肺臓炎の13歳男児例	斎藤亜希子 八木龍介 江田陽一 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 鈴木尊裕 大木康史 針谷晃	第217回日本小児科学会群馬地方会, WEB開催, 2021. 12

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
論文	Risk Factors for Postoperative Liver Enzyme Elevation After Laparoscopic Gastrectomy for Gastric Cancer.	Sano A Saito K Kuriyama K Kanazawa N Ubukata Y Hara K Sakai M Ogata K Fukasawa T Sohda M Fukuchi M Naitoh H Shirabe K Saeki H	In Vivo. 2021 Mar-Apr, 35(2):1227-1234
論文	Thyroid hormone activated upper gastrointestinal motility without mediating gastrointestinal hormones in conscious dogs.	Nakazawa N Sohda M Ogata K Baatar S Ubukata Y Kuriyama K Hara K Suzuki M Yanoma T Kimura A Kogure N Sano A Sakai M Yokobori T Oue A Mochiki E Kuвано H Shirabe K Koibuchi N Saeki H	Sci Rep. 2021 May 11;11(1):9975
論文	Role of PD-L1 Expression during the Progression of Submucosal Gastric Cancer.	Ubukata Y Ogata K Sohda M Yokobori T Shimoda Y Handa T Nakazawa N Kimura A Kogure N Sano A Sakai M Ogawa H Kuвано H Shirabe K Oyama T Saeki H	Onocology. 2021;99(1):15-22

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
論文	Impact of neutrophil-lymphocyte ratio, Glasgow Prognostic Score, and postoperative decrease in psoas muscle index on recurrence after curative gastrectomy.	Nakazawa N Sohda M Ogata K Sano A Sakai M Ogawa H Kobayashi K Iwanami K Maemura M Shirabe K Saeki H	J Med Invest, 2021;68(1.2):119-124
共同論文	COVID-19感染拡大下における群馬県がん手術症例数の減少 2020年1～9月の集計	調憲 佐伯浩司 宮崎達也 小川哲史 蒔田富士雄 設楽芳範 町田昌巳 保田尚邦 加藤広行 尾島仁 細内康男 内藤浩 龍城宏典 内田信之 岩波弘太郎 郡隆之 林浩二 岩崎茂 小山洋	日本外科学会雑誌, 122 巻3号: 352-358, 2021. 5
共同論文	Colon angiolipoma with intussusception resected by laparoscopy-assisted surgery: a case report	Kimura A Morinaga N Tajima K Ogata K Kato H Sohda M Shirabe K Saeki H	J Surg Case Rep. 2021 Aug 10;2021(8):rjab329.
論文	Large retroperitoneal leiomyoma developed from the pelvic floor to the buttocks.	Motegi Y Ogawa H Tateno K Suga K Okada T Osone K Katoh R Ogata k Sakai M Sohda M Makiguchi T Shirabe K Saeki H	Clin Gastroenterol. 2021 Aug;14(4):1169-1174
共同論文	Patient with gastric cancer who underwent distal gastrectomy after treatment of COVID-19 infection diagnosed by preoperative PCR screening	Kimura A Morinaga N Wada W Ogata K Okuyama T Kato H Sohda M Shirabe K Saeki H	Surg Case Rep. 2022 Jan 17;8(1):12

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
共同論文	Fruit and vegetable consumption and risk of esophageal cancer in the Asian region: a systematic review and meta-analysis	Sakai M Kitagawa Y Saeki H Miyazaki T Yamaji T Nemoto K Oyama T Muto M Takeuchi H Toh Y Matsubara H Mano M Kono K Kato K Yoshida M Kawakubo H Booka E Yamatsuji T Kato H Ito Y Ishikawa H Ishihara R Tsushima T Kawachi H Oyama T Kojima T Kuribayashi S Makino T Matsuda S Sohda M Kubo Y Doki Y	Esophageal Cancer Practice Guidelines Preparation Committee, Esophagus; 2022 Jan;19(1):27-38
共同論文	The potential for reducing alcohol consumption to prevent esophageal cancer morbidity in Asian heavy drinkers: a systematic review and meta-analysis	Kubo Y Kitagawa Y Miyazaki T Sohda M Yamaji T Saeki H Nemoto K Oyama T Muto M Takeuchi H Toh Y Matsubara H Mano M Kono K Kato K Yoshida M Kawakubo H Booka E Yamatsuji T Kato H Ito Y Ishikawa H Ishihara R Tsushima T Kawachi H Oyama T Kojima T Makino T Kuribayashi S Matsuda S Doki Y	Esophageal Cancer Practice Guidelines Preparation Committee, Esophagus; 2022 Jan;19(1):36-46
論文	Clinical features as potential prognostic factors in patients treated with nivolumab for highly pretreated metastatic gastric cancer: a multicenter retrospective study.	Sano A Sohda M Nakazawa N Ubukata Y Kuriyama K Kimura A Kogure N Hosaka H Naganuma A Sekiguchi M Saito K Ogata K Sakai M Ogawa H Shirabe K Saeki H	BMC Cancer. 2022 Jan 3;22(1):22

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
共同論文	Decreased numbers of gastric, colorectal, lung, and breast cancer surgeries performed in 17 cancer-designated hospitals in Gunma Prefecture of Japan during the COVID-19 pandemic	Saeki H Shirabe K Miyazaki T Ogawa T Makita F Shitara Y Machida M Yasuda N Kato H Ojima H Hosouchi Y Tatsuki H Uchida N Iwanami K Kohri T Hayashi K Iwasaki S Koyama H	Surg Case Rep. 2022 Apr 15:1-7
共同論文	Endoscopic imaging modalities for diagnosing the invasion depth of superficial esophageal squamous cell carcinoma: a systematic review	Inoue T Ishihara R Shibata T Suzuki K Kitagawa Y Miyazaki T Yamaji T Nemoto K Oyama T Muto M Kono K Kato K Yoshida M Kawakubo H Booka E Yamasuji T Kato H Ito Y Ishikawa H Tsushima T Kawachi H Oyama T Kohjima T Nmakino T Kuribayashi S Matsuda S Doki Y	Esophagus. 2022 Jul;19(3):375-383

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
講演	乳癌も診断方法～早期発見・早期治療のために～	森下亜希子	桐生市医師会セミナー, (WEB開催), 2021. 5
司会	【食道】高齢者食道癌患者に対する治療戦略	加藤広行	第76回日本消化器外科学会総会, 京都(WEB開催), 2021. 7
示説	パルボシクリブ投与中に膿胸を発生した1例	森下亜希子	第29回日本乳癌学会学術総会, 神奈川(WEB開催), 2021. 7
司会	嚥下障害に対するチーム医療	加藤広行 原浩貴	第72回日本気管食道科学会総会, WEB開催, 2021. 11
口演	腹腔鏡下虫垂切除術における逆行性切除の検討	森永暢浩 木村明春 緒方杏一 和田渉 加藤広行	第34回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, 2021. 12

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	再発鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術の検討	奥山隆之 森永暢浩 木村明春 緒方杏一 和田渉 加藤広行	第6回群馬ヘルニア研究会, 前橋, 2021.12
講演	緩和ケアの薬剤の使い方	森下亜希子	第20回桐生オンコロジーファーマシスト研究会, 桐生, 2021.12
口演	難治性消化性潰瘍に対する最新の外科治療 パネルディスカッション2ー治療適応; 内科・外科の立場からー難治性胃十二指腸潰瘍	緒方杏一 木村明春 奥山隆之 和田渉 森永暢浩 加藤広行 調憲 佐伯浩司	第18回日本消化器学会総会学術集会, 東京(WEB開催), 2022.2
症例報告	A case of gastric cancer in which we performed distal gastrectomy after COVID-19 infection	Akiharu K Nobuhiro M Wataru W Kyoichi O Takayuki O Hiroyuki K Hiroshi S Ken S	第94回日本胃癌学会総会, 横浜(WEB開催), 2022.3
司会	ポスター55 周術期管理/その他	緒方杏一 村岡篤	第94回日本胃癌学会総会, 横浜(WEB開催), 2022.3
示説	A case of gastric cancer in which we performed distal gastrectomy after COVID-19 infection	Kimura A Morinaga N Wada W Ogata K Okuyama T Kato H Saeki H Shirabe K	第94回胃癌学会総会, 横浜(WEB開催), 2022.3
司会	治療適応: 内科・外科の立場からー難治性胃十二指腸潰瘍	加藤広行 沖本忠義	第18回日本消化器学会総会学術集会, 新宿(WEB開催), 2022.4

◇整形外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演	桐生地区の骨粗鬆症における現状と連携	斯波俊祐	桐生地区骨粗鬆症連携の会, WEB開催, 2021.11

◇脳神経外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	CAS後の急性閉塞に対して血栓回収術を行った1例	橋場康弘 矢島翼 曲澤聡 中澤尚彦 内藤功	第66回北関東頭頸部血管内手術懇談会, 前橋, 2021.11

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
分担執筆	急性期褥瘡の発生機序と栄養について	岡田克之	WOC Nursing 9(6) : 42-53, 2021, 医学出版, 2021. 6. 1
分担執筆	高齢者の带状疱疹と蜂窩織炎の扱い方	岡田克之	MB. Derma No.316 : 59-68, 2021, 全日本病院出版会, 2021. 12. 15
連載	健康設計図：第4回 マムシに注意 ～咬まれたら急いで受診～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 071号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 4. 22
連載	健康設計図：第5回 紫外線に良いことなし ～皮膚がんのおそれも～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 090号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 5. 26
連載	健康設計図：第6回 危険な熱中症 ～油断なく予防を～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 115号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 6. 30
連載	健康設計図：第7回 さまざまな「足病」 ～水虫のみならず～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 130号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 7. 21
連載	健康設計図：第8回 かぶれたことありませんか？ ～生活の中に思わぬ原因～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 149号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 8. 25
連載	健康設計図：第9回 带状疱疹 ～つらい痛みを残さぬように～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 169号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 9. 23
連載	健康設計図：第10回 爪との生活 ～なにげなく大事なもの～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 192号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 10. 27
連載	健康設計図：第11回 秋から冬のスキンケア ～いい皮膚をめざしましょう～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 206号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 11. 17
連載	健康設計図：第12回 フレイルに陥らない ～貯めるべきは筋肉～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 230号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2021. 12. 22
連載	健康設計図：第13回 サルコペニアは病名です ～十分なたんぱく質を～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 249号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2022. 1. 25
連載	健康設計図：第14回 冬のお風呂を気持ちよく ～入浴関連事故にご用心～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 272号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2022. 3. 1

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
連載	健康設計図：第15回 アトピー性皮膚炎 ～すべての年代でご注意を～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 291号, 日本工業経済新聞前橋支局, 2022. 3. 29
雑報	似て非なるもの	岡田克之	タウンわたらせ 第896号「健康カルテ」, 桐生タイムス社, 2021. 5. 1
雑報	汗のこと	岡田克之	タウンわたらせ 第921号「健康カルテ」, 桐生タイムス社, 2021. 12. 4
雑報	編集後記	岡田克之	群馬県医師会報 第875号：pp64, 群馬県医師会, 2021. 6. 25
雑報	皮膚科医からみたオンライン診療	岡田克之	群馬県医師会報 第878号：pp29-30, 群馬県医師会, 2021. 9. 25
雑報	病院勤務医だより：「電子化」とともに歩む	岡田克之	日本臨床皮膚科医会雑誌：39(1), 96-97, 2022. 1. 15

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	筆者	学会名, 開催地, 年月日
講演	一緒にことば聴きませんか？Part4	岡田克之	MEDぐんま2021, 前橋 (WEB開催), 2021. 5
講演	在宅で皮膚をみる ～褥瘡そして皮膚疾患いろいろ～	岡田克之	第4回群馬県薬学会, WEB開催, 2021. 5
講演	外用療法を長く続けるポイント ～乾癬における最近の話題～	岡田克之	皮膚科WEBセミナー, WEB開催, 2021. 6
講演	スキリージを投与した乾癬4例	岡田克之	皮膚科関連バイオ製剤の適正使用を考える会, WEB開催, 2021. 6
講演	桐生・みどり地区における地域医療連携	岡田克之	桐生・みどり地区アレルギーセミナー, WEB開催, 2021. 6
講演	ケアマネジャーは床ずれをどう予防すべきか	岡田克之	第7回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会学術集会, WEB開催, 2021. 7

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	筆者		学会名, 開催地, 年月日
講演	「地方都市」で深めるフットケア連携の7W1H	岡田克之		第27回東京フットケア協会オンラインセミナー, WEB開催, 2021. 9
講演	外用薬の選び方 ～迷い迷わされて～	岡田克之		ぐんま足人の会 第3回 あしたの足セミナー, WEB開催, 2021. 10
講演	在宅褥瘡って何? ～どう見て、どう診て、どう看るか～	岡田克之		令和3年度新潟県訪問リハビリ実務者研修会, WEB開催, 2021. 11
講演	いかに塗るかの乾癬治療 ～ドボベツト®フォームへの期待～	岡田克之		ドボベツト®フォームWebセミナーin東毛, WEB開催, 2021. 11
講演	GUNMAフットケアの現在・過去・未来～あしたの足を健やかに～	岡田克之		第2回SHIGAフットケア連携セミナー, WEB開催, 2021. 11
講演	在宅褥瘡にアセスメントの光を	岡田克之		日本在宅医療連合学会 第11回褥瘡・創傷管理オンライン研修会, WEB開催, 2022. 1
講演	皮膚からみたQOL	岡田克之		桐生厚生総合病院 化学療法勉強会, 桐生市(WEB開催), 2022. 3
ポスター	CMLに対するダサチニブ投与後に多発し、中止により退縮傾向を示したケイトアカントーマの1例	小坂啓寿 金滋仁 上原顕仁 茂木精一郎	安田正人 齋藤晋太郎 半田寛	第120回日本皮膚科学会総会, 横浜(WEB開催), 2021. 6
口述発表 (共同)	境界型糖尿病患者に生じたりポイド類壊死症の1例	小坂啓寿	岡田克之	第108回日本皮膚科学会群馬地方会, 前橋, 2021. 12
口述発表 (筆頭)	「床ずれ危険度チェック表」を用いた在宅褥瘡予防プログラムの開発(第1報)	岡田克之 木下幹雄 熊谷英子 助川未枝保 真井睦子 光田益士	塚田邦夫 戸原玄 大内淑子 播磨孝司 亀田悠樹	第7回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会学術集会, WEB開催, 2021. 7
口述発表 (筆頭)	皮膚科外来の初診患者を振り返る～コロナ渦の影響は?～	岡田克之		第107回日本皮膚科学会群馬地方会 石川治教授退官記念大会, 前橋(WEB開催), 2021. 8
口述発表 (筆頭)	フットケア啓発へのひとつの取り組み～いかに足をみてもらうか～	岡田克之		第109回日本皮膚科学会群馬地方会, 前橋(WEB開催), 2022. 3

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	筆者	学会名, 開催地, 年月日
口述発表 (筆頭)	NST15周年、たどり着けばコロナ禍	岡田克之 佐々木杏奈 西尾香奈 畑中有理 細谷弥生 平野浩司 根岸弥生 鈴木雄真 伊藤さやか 飯田智広 上井崇智 長沼篤	第8回日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会, WEB開催, 2021. 10
口述発表 (共同)	教育講演 創傷・褥瘡・熱傷 ～専門医に欠かせないガイドラインの知識～ ～：皮膚創傷一般に関する近年の動向	倉繁祐太 藤田英樹 辻田淳 茂木精一郎 加納宏行 金子栄 澄川靖之 岡田克之 玉城善史郎 高橋秀典 徳山道生 植田郁子 波部幸司 有馬豪 長谷川稔	第120回日本皮膚科学会総会, 横浜(WEB開催), 2021. 6
口述発表 (共同)	「床ずれ危険度チェック表」と既存の褥瘡リスクアセスメントスケールとの相関性に関する多施設共同研究	光田益士 大浦武彦 岡田克之 中村善徳 熊谷英子	第23回日本褥瘡学会学術集会, WEB開催, 2021. 9
展示発表 (筆頭)	「ぐんま足人の会」を立ち上げて ～足をみる あしたをみる～	岡田克之 木嶋千枝	第2回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 横浜(WEB開催), 2021. 12
展示発表 (共同)	Benralizumab使用中に発症した好酸球性筋膜炎の1例	宇津木光克 宮川真梨江 岡田克之 前野敏孝 久田剛久	第70回日本アレルギー学会学術大会, 横浜(WEB開催), 2021. 10

◇泌尿器科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
症例報告	膀胱 MALT リンパ腫の1例	中澤峻 林拓磨 岡本亘平 上井崇智	第87回日本泌尿器科学会群馬地方会, WEB開催, 2021. 6
症例報告	当院での免疫チェックポイント阻害薬の使用経験	中澤峻 林拓磨 岡本亘平 上井崇智	第14回日本泌尿器科学会群馬・栃木合同地方会, 前橋, 2021. 11
症例報告	排尿障害を契機に発見されたIgG4関連後腹膜線維症の1例	中澤峻 林拓磨 岡本亘平 上井崇智	第89回日本泌尿器科学会群馬地方会, 2022. 2

◇産婦人科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
ポスター	子宮筋腫との鑑別が困難であったGISTの一例	小松央憲 松本晃菜 上原理紗 内田加奈子 鏡一成	須藤亜紀子 長谷川祐子 似内敦志 定方久延	第73回日本産科婦人科学会学術講演会, WEB開催, 2021. 4
口演	子宮鏡下手術において安全・確実・容易・目視下にバズプレッションを局注するシンプルな方法	小松央憲 西村悠介 松田知子 須藤亜紀子 定方久延	津久井優美 長谷川祐子 矢崎千春 内田加奈子 鏡一成	第61回日本産科婦人科内視鏡学会, WEB開催, 2021. 9
発表	糖代謝異常妊娠の既往のある正常耐糖能妊婦の検討	定方久延	小浜智子	第37回日本糖尿病・妊娠学会, WEB開催, 2021. 11
症例報告	比較的サイズの大きい内膜症性術後に開腹手術となった一例	小松央憲 西村祐介 鏡一成	津久井由美子 定方久延	第43回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会, 東京, 2022. 1
症例報告	当院でのTCRis後に妊娠した2症例	小松央憲 定方久延	西村悠介 鏡一成	第5回日本子宮鏡研究会学術集会, 福岡(WEB開催), 2022. 2

◇薬剤部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
発表	0410対応に対する当院の取り組み	大野瑞恵 河井利恵子	根岸由美	第4回群馬県薬学大会, WEB開催, 2021. 5
発表	COVID-19による0410対応の当院の取り組みについて	大野瑞恵 河井利恵子	根岸由美	日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会, WEB開催, 2021. 8
発表	当院における「がん患者指導管理料ハ」に関する取り組み	細谷潤 河井利恵子	山崎成基 岡本亘平	日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会, WEB開催, 2021. 8

◇放射線科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
講演	MR専門技術者認定試験過去問を実験で読み解く	藤生敦哉		群馬県立県民健康科学大学MRI技師講習会, 前橋(WEB開催), 2021. 9
口述	Quantitative susceptibility mappingによる人体血中の酸素飽和度の測定	藤生敦哉	須永眞一	第49回日本放射線技術学会秋季学術大会, 熊本(WEB開催), 2021. 10

◇放射線科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口述	放射線被ばく管理に関するアンケート調査	磯昌宏	群馬放射線部門責任会議, WEB開催, 2022. 1
講演	就職対策講座	磯昌宏	群馬パース大学, 高崎, 2022. 2
口述	DISCOVERY NM830の使用経験	中島悠介	令和3年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会, 桐生(WEB開催), 2022. 3
口述	桐生厚生総合病院 放射線科内ミニカンファレンスの紹介	須永眞一	令和3年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会, 桐生(WEB開催), 2022. 3
口述	症例報告：脳卒中患者の頭部MRI	藤生敦哉	令和3年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会, 桐生(WEB開催), 2022. 3
口述	放射線科から見た前立腺癌	小野祐輔	令和3年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会, 桐生(WEB開催), 2022. 3

◇中央検査部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
発表	3度目の胸水細胞診にて異型細胞を認めた肺扁平上皮癌の1症例	今泉智博 鈴木晶子 伴聡 瀬川篤記 小山徹也 吉田カツ江 城下尚	第74回群馬臨床細胞学会学術集会・総会, 高崎市(WEB開催), 2021. 6

◇呼吸器サポートチーム・RST（著者・論文）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
論文	気管支喘息診断における吸気中一酸化窒素と喀痰中好酸球の同時測定の意味	宇津木光克 岩下広志 松崎晋一 大澤翔 小野昭浩	日本呼吸器学会誌11巻1号, 日本呼吸器学会, 2022. 1

◇看護部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	コロナ禍における面会制限が影響した 終末期がん患者、家族の退院支援	五十嵐千代子 岡田牧子 粕川由貴子 岡村美幸 荒川浩	日本マネジメント学会学 術総会,大阪,2021.7
口演	A病院における看護労働環境に関する 研究～NWI-Rを用いたA病院とC病院の 比較調査～	杉本奈穂 青山美佐子	群馬県看護学会,前橋 市,2021.11
口演	A病院看護師のスピーチロックに対す る意識調査	菊地佑季 野澤真穂 武美穂	群馬県看護学会,前橋 市,2021.11
口演	内科スタッフにおける身体拘束マニ ュアルに対しての意識調査	石原渉太	群馬県看護学会,前橋 市,2021.11
口演	急変時の家族看護においてみられる経 験の差～ラダーレベル新人、レベル Ⅰ、レベルⅢ取得者の比較～	白井結佳	群馬県看護学会,前橋 市,2021.11
口演	地域連携室看護師の退院支援業務に対 する思い	森田香菜 周藤礼紗	群馬県看護学会,前橋 市,2021.11

3 主な講演会・研修会

(1) 医薬品安全委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
6月30日	医療品安全研修会	医療用麻薬の取り扱いについて	講堂	森田由香利	100人

(2) 医療安全対策委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
4月1日	新入職者研修	医療安全の基礎知識 患者認証の基本 薬剤について	講堂	高橋 紀子 中野 理恵 森田由香利	16人
5月25日	新人研修	K Y Tについて	講堂	橋本 綾子	3
5月27日	医療安全研修 レベルⅠ①	事故分析の基礎知識 KYTについて	講堂	橋本 綾子	47
5月28日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成	講堂	小林 洋子	15
6月4日	医療安全研修 レベルⅠ②	事故分析の基礎知識 KYTについて	講堂	橋本 綾子	43
6月10日	パース大学 医療安全研修	病院の医療安全	放射線 技師室	高橋 紀子	3
6月25日	新人研修	新人の起こしやすい事故	講堂	高橋 紀子	3
7月2日	静脈注射院内認定 看護師育成	静脈注射に関する 安全管理について	講堂	高橋 紀子	4
7/12～ 7/30	医療安全研修	苦情対応のポイント	e-ラー ニング	SOMPOジャパン	648
10月4日	医療安全研修 レベルⅡ①	SBARとは 事例を使って報告する	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員会	26
10月5日	桐生高等看護学校 統合実習	医療安全の基礎知識	講堂	高橋 紀子	28
10月5日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 中間評価	講堂	高橋 紀子	43
10月28日	上尾看護専門学校 統合実習	医療安全管理について	講堂	高橋 紀子	2
11月10日	研修医勉強会	医療安全管理	講堂	高橋 紀子	13

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
11月11日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 中間評価	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員会	24人
12月1日	医療安全研修 レベルⅡ	SBARとは 事例を使って報告する	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員会	44
12月13日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 最終評価	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員会	24
2/7～ 2/28	医療安全研修	裁判例に学ぶ 「説明義務」	e-ラーニ ング	SOMPOジャパン	642

(3) 感染対策委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
4月2日	新人研修	感染対策の基礎知識	講堂	山田あゆり	10人
5月26日	看護部現任教育委員会研修会	針刺し切創・皮膚粘膜汚 染	講堂	山田あゆり	15
6月10日	パース大学放射線 科講義	放射線科における感染管 理	放射線科 休憩室	山田あゆり	7
6月22日	群馬県看護協会研 修	新型コロナウイルス感染 症の基礎知識とワクチン 接種に対する基礎知識及 び筋肉注射の演習	群馬県看 護協会	山田あゆり	10
6月28日	群馬県看護協会研 修	新型コロナウイルス感染 症の基礎知識とワクチン 接種に対する基礎知識及 び筋肉注射の演習	群馬県看 護協会	山田あゆり	10
7月1日	静脈注射院内認定 看護師レベルⅡ研 修	点滴に関する感染管理留 置針の留置期間 静脈血液培養について	講堂	山田あゆり	10
7月5日～ 7月31日	第1回感染対策 研修会	「COVID-19の対応につい て」	オンライ ン映像視 聴	講師：本田仁 先生 (東京都立多 摩総合医療セ ンター 感染症 科 医師)	30
7月16日	群馬県看護協会研 修	現場で活かす感染管理の 基礎知識	群馬県看 護協会	山田あゆり	80

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
10月4日	群馬県看護協会研修	新型コロナウイルス感染症の基礎知識とワクチン接種に対する基礎知識及び筋肉注射の演習	群馬県看護協会	山田あゆり	10人
10月6日	桐生高等看護学院講義	感染管理の取り組み	桐生高等看護学院	山田あゆり	30
10月6日	障害者支援施設桐花園	新型コロナウイルス感染症予防と対策	桐花園	山田あゆり	25
11月5日 ～11月12日	桐生高等看護学院講義	小児看護方法論	桐生高等看護学院	山田あゆり	30
11月25日	看護部認定委員会	尿道留置カテーテル管理	講堂	山田あゆり	20
12月1日	看護助手研修	インフルエンザ・MRSA・ESBL産生菌感染対策	会議室	山田あゆり	15
3月14日 ～3月25日	第2回感染対策研修会	新型コロナウイルス感染症の薬物治療薬について	オンライン映像視聴	薬剤科 千吉良啓介	595

4 研修実績

(1) 院内学術集談会

	開催日	内 容
第 回 329	令和 3. 12. 21 (火)	1 当院泌尿器科での免疫チェックポイント阻害薬の使用経験 泌尿器科 中澤峻 岡本亘平 林拓磨 上井崇智 2 抗トリコスポロン抗体測定が診断に有効だった 夏型過敏性肺炎の13歳男児例 小児科 齊藤亜希子 袖野玲子 江田陽一 鈴木尊裕 八木龍介 大木康史 関根和彦 針谷晃 浦野博央

(2) C. P. C (臨床病理検討会)

	開催日	内 容
第 回 177	令和 3. 10. 26 (火)	《主病変》 S状結腸穿孔(非閉塞性腸間膜虚血による), 腹膜炎 S状結腸、全層性壊死、出血 リンパ管拡張 腹水(2000ml 混濁) 気腫症(腸管、脾、肝門脈、脾) 《副病変》 1 心筋の線維化(350g) 冠状動脈硬化(高度) 心嚢液(50ml 血性) 2 肺うっ血水腫、出血(左600g:右750g) 血栓(-) 両側胸水(左200ml:右200ml) 3 肝うっ血(1250g) 軽度脂肪化、壊死(死後変化) 4 腎うっ血、動脈硬化性変化(左200g:右180g) 5 脾うっ血(70g) 6 脾脂肪化と壊死(死後変化)、脾十二指腸周囲リンパ管拡張 7 赤血球貪食組織球(骨髓、リンパ節) 8 逆流性食道炎、食道周囲に異所性腺組織(+) 9 大動脈弓部外膜外腫瘍3cm大 結晶性異物肉芽腫 《考察》 腎機能低下、代謝性アシドーシスがみられ、非閉塞性腸間膜虚血が起こり、S状結腸の拡張およびS状結腸穿孔が起こり、 腹膜炎、敗血症、DIC が生じて、さらに強い肺うっ血水腫による呼吸不全によって亡くなったと考えられます。 《死因》 敗血症、DIC、肺うっ血水腫による呼吸不全

(3) 剖検状況

剖検No. 月日	年齢	性別	科名	臨床診断	病理解剖学的診断
1031 12月16 日	77才	F	皮膚科	汎発性白癬	1. 陳旧性心筋梗塞 2. 冠状動脈硬化症 3. 肝うつ血 4. 動脈硬化性腎症 5. 脳梗塞治療後

(4) 院内勉強会・研修会

① リハビリテーション科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
6	栄養アセスメントとリハ介入の考え方	臼田	5
7	起立性低血圧について	広木	5
7	肩関節の治療について	黒澤	6
8	慢性腎臓病とは	勝山	5
9	膝蓋靭帯断裂	小林華	8
9	心不全について	橋場	5
9	ネーザルハイフローについて	田端	5
11	アナトミートレイン	佐藤	8
11	血液データについて	山本	5
11	呼吸病態の基礎的な診方	黒澤	5
12	HOTについて	飯塚	5
1	人工呼吸器管理下におけるリハビリ	橋場	5
1	股関節障害の評価と解釈	山本	7
1	症例検討（骨転移、予後予測）	吉田	6
2	症例検討	黒澤	8
2	物理療法	今泉	8
3	足関節の評価	橋場	7

② 放射線科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
5	放射線業務従事者教育訓練	放射線安全委員会	8
6	フジフィルムメディカル 治療RIS説明会	外部講師	6
7	DualEnergyCTの各社特徴について	外部講師	7
7	MRI装置の最新技術情報提供	外部講師	8
10	フジフィルムメディカル PACS説明会	外部講師	18
3	看護師による静脈注射の実施（レベルRI）	中島 悠介	25

③ 薬剤部 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
7	肺癌診療ガイドラインについて	外部講師	20
8	輸液関連のQ&A、ビーフリードの容器変更	外部講師	18
12	リベルサス錠について	外部講師	19

1	パドセブ点滴静注用30mgについて	外部講師	20
2	フェインジェクト静注500mgについて	外部講師	20
3	エドルミズ錠について	外部講師	16
3	MONITAROについて	外部講師	19

④ 中央検査部 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
5月	学校心臓検診について	繁田 尚香	14人
5月	オンライン『SEKISUI塾』	積水メディカル主催	6人
6月	薬物中毒検出用キットSIGNIFY ERの基礎的評価	茅野 勝義	17人
7月	臨地実習報告会	臨地実習生4名（群馬パース大学）内山莉奈・大出 深理・金井 菜摘・橋本 茉奈実	17人
7月	肝硬度測定	今泉 智美	13人
8月	SDGsと病院の取り組み	中島 美紀	12人
9月	血糖変動の「見える化」が可能となるFreeStyleリブレ	落合 美紀	14人
10月	ミルクティーエコー	大川 恭平	12人
11月	ブレイクスルー感染とは	藤生 恵津子	14人
1月	Shear Wave Elastographyについて	中野 桜子	17人
2月	患者さん介助による腰痛の予防と対策	根岸 早紀	17人
3月	腸内フローラについて	小森谷 勇人	10人

⑤ 臨床工学科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
4月	テルモ 輸液ポンプ TE-281 メンテナンス講習	院外講師	2人
4月	テルモ 輸液ポンプ TE-281 メンテナンス講習	院内講師	3人
6月	ドレーゲル Oxylog3000plus納入時勉強会	院内講師	5人
7月	ドレーゲル Oxylog3000plus使用者向け説明会1	加藤	15人
7月	ドレーゲル Oxylog3000plus使用者向け説明会2	三木	17人
8月	ボストン ペースメーカー3300プログラマ勉強会	院外講師	4人
8月	フクダ電子サーボU/N NAVA勉強会	院外講師	4人
8月	3D先端湾曲ビデオスコープ(LTF-S300-10-3D)について説明会	院外講師	4人
1月	メドトロニック加温加湿器VHB200勉強会	院外講師	3人
11月	SJM 体外式ペースメーカー 3077勉強会	院内講師	41人

11	群馬県主催 人工呼吸器臨床実地研修	黒尾	20
3	先端湾曲ビデオスコープ故障予防方法	黒尾	20

⑥ 事務部 院内勉強会

開催 月	名称	担当課	参加 人数
月			人
4	日本ホスピタルアライアンス（NHA） 病院による病院のための共同購入について	契約管財課	49
5	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
6	〃		
7	〃		
8	〃		
9	臨床研修医採用について	経営政策課	42
10	介護保険制度について	地域医療連 携室	30
11	重症度、医療・看護必要度	医事課	40
12	桐生厚生総合病院におけるハラスメント対策	総務課	44
1	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
2	災害避難訓練について	契約管財課	40
3	病院機能評価の受審について	経営政策課	47

⑦看護部

・看護研究発表会

演題名	部署	発表者
救急外来における問診看護師への意識調査	救急外来	辻口有紀 奥村佳恵 田澤博枝
A病棟の継続看護に対する外来看護師の認識の実態調査	外来	林由里 須田佳恵 山口容子 鈴木利江 下境春美
術前外来で得た情報のアセスメントが術前看護カンファレンスに活かされていない原因の検討	手術室	石井企美子 豊岡正幸 竹澤真澄 田村彩子
ICUにおける急性期型終末期の捉え方と看護ケアについての実態調査	I C U	久保結美 小林久美 斎藤亜紀 小保方真岐
NICUからGCUへ転棟した児の母親の不安に対する看護師の認識	G C U	中井美和子 坂本雅美 杉本奈穂 鶴谷明恵 町田真理
緊急帝王切開術時のNCRP実施における不安～NICU版クリニカルラダー各レベルの比較～	N I C U	森田愛有美 遠田里美 末次由貴子 阿左美まゆ美
泌尿器科病棟看護師の退院支援に関する問題の明確化～病棟看護師の退院支援に関するアンケート調査を用いて～	3階病棟	津久井直衣 茂木裕美 小林千恵 島山晴子
地域包括ケア病棟と急性期病棟の臨死期の看護についてアンケート～アンケートを用いた比較検討～	4階東病棟	星野あゆみ 本間真弓 清水理江子 持明明美
産科混合病棟で周産期ケアと認知症ケアを両立するために必要だと思うこと	4階西病棟	山根謡子 大川里美 高橋樹理 星野茉実 保泉敦子
ストーマ造設患者の在院日数長期化の要因～インタビューを通して看護師側の要因分析～	5階西病棟	竹澤教人 鹿沼愛 桐生諭子 須田優志 町田由紀江
身体拘束日数短縮への取り組み～夜間の状態を情報共有により解除判断を行う～	6階東病棟	木村宏美 阿部麻美 荒牧恵子 中村純子 高橋ゆかり 中輝代
回復期リハビリテーション病棟と急性期病棟の看護師の退院支援に関する実態調査～看護師にインタビューし現状と課題を明らかにする～	6階西病棟	戸谷瑠美香 浅井眞夕美 河原和枝 小林ひろみ 松井賢司
育児部分休業を利用している看護師がクリニカルラダーを取得した背景を知る～インタビューから実態を明らかにする～	7階東病棟	澤田広美 清水綾子 尾崎恵子 高橋千鶴 清水映理香

A病棟看護師のストレスとワークモチベーションの関係性に関する実態調査	7階西病棟	石原渉太 小島佐知子 中野理恵	中村裕美 松井紗輝
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する看護師のストレスの実態	8階病棟	関沢圭祐 井原昌利 國松由希子	豊島瞳 鎗木恵美 武井彩子
難聴がある患者の血液透析導入期指導～ペプロウの人間関係論を用いて看護を振り返る～	腎センター	高柳直美 曲沢舞美 須永直子 伊藤佳子	山崎朱美 小久保美穂 井野文

・教育研修

（ア）現任教育委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日	
新人研修	卒後1年目 看護師	職業人としての自覚を養うと共に、患者への安全・安楽な看護実践ができる	接遇、組織の一員としての役割、看護実践、感染、医療安全、記録、倫理、スキンケア、多重課題等。	4月 5月 6月 10月 12月 2月	1、2、5 25 25 26 20 24
看護論	レベルⅡを目指す 看護師	理論的知識と臨床経験を患者家族のケアの場面で統合できる	看護論について。看護論を用いての課題事例討議。	7月 8月 12月 1月	16 26 17 17
メンバーシップ	レベルⅡを目指す 看護師	自分の持てる力を十分発揮しながらチームの一員として行動できる	メンバーシップの役割を理解する。コミュニケーション技法を学び活かす。グループワークを通してメンバーとしての役割を見出す。	5月 6月 9月 1月	14 29 17 21
プリセプター	2021年度プリセプター予定の人及びレベルⅡ以上を目指す 看護師	プリセプターシップを発揮して現場で活かせる	プリセプターとしての役割を理解する。自己のプリセプターを振り返る。事例検討	4月 5月 7月 10月 2月	19 17 12 18 7
リーダー	レベルⅢを目指す 看護師	日替わりリーダーとしての役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	リーダーの役割を学ぶ。自己の行動パターンを分析し弱点を知り、問題の解決策を立てる。	5月 6月 10月 2月	10 14 1 14
チームリーダー	レベルⅢを取得し、レベルⅣを目指す 看護師	社会情勢と病院経営を理解し、病院組織の一員としてリーダーシップを発揮できる	病院経営の視点で問題を明確化し具体化していく。職場で抱える問題の解決に向けた目標発、意見交換。	6月 7月 10月 2月	2 12 18 14

看護助手	看護助手	看護助手としての必要な知識・技術を習得し業務を円滑に行なうことが出来る	医療倫理・個人情報保護とは組織の一員としての看護補助業務の理解。 安全な食事介助のポイント 安全な移乗、介助時のポイント 感染から患者と自分を守るポイント。	5月 30 6月 29 7月 29 8月 29
フィジカルアセスメントⅠ	レベルⅡを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	フィジカルアセスメントの基本的事項を学ぶ	8月 2
フィジカルアセスメントⅡ	レベルⅢを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	各器官系のフィジカルイグザミネーションの方法を学ぶ	8月 10、16
フィジカルアセスメントⅢ	レベルⅣを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	各症例を、フィジカルアセスメントを用いて検討し、関連づけることができる	8月 20

(イ) 在宅療養支援委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
在宅療養支援研修レベルⅠ	レベルⅡ以上を目指す人	在宅療養に関する知識を習得し、指導を受けながら退院支援を実践することができる	退院支援概論 病床の分類と入院の流れ。退院調整が求められる背景。退院支援マニュアル。 事例検討	8月 1 9月 6 11月 8 12月 6
在宅療養支援研修レベルⅡ	レベルⅢ以上を目指す人	自ら患者・家族の問題を捉えた在宅療養支援ができ、退院支援における指導的役割を果たすことができる	医療社会福祉制度 退院に関わる診療報酬体系 訪問看護の実際 事例検討	9月 29 11月 26 1月 7
在宅療養支援研修レベルⅢ	レベルⅣ以上を目指す人	当該部署の中心的役割として地域と連携した在宅療養支援が実践できる	地域包括ケアシステムの実践 ケアマネジャーの役割 地域包括支援センターの役割 合同事例検討会	11月 4 2月 24 3月 4

(ウ) 倫理委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
倫理Ⅰ	ラダーⅢを目指す看護師	患者の抱える倫理問題に気づき、自部署で活用ができる	倫理問題について 倫理問題の事例をJonsenの症例検討シートを活用し分析する 倫理綱領と倫理原則について	6月 2 7月 7
倫理Ⅱ	ラダーⅣを目指す看護師	現場の抱える倫理問題を解決することができる	事例を基に倫理問題を検討する 倫理綱領や倫理原則から倫理問題を導くためには 倫理問題を解決するための行動について	6月 14 7月 19

(エ) 記録委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
看護記録Ⅰ	レベルⅠ以上	看護診断への理解を深め、看護実践に活用できる	看護診断について 看護診断（事例検討）	6月 24 7月 19
看護記録Ⅱ	レベルⅡ以上	看護記録について理解を深め、看護実践に活用できる	記録監査について 看護記録（事例検討）	8月 4、30

(オ) 看護研究委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
看護研究	卒後3年目（必須） 及びラダーレベルⅡ～Ⅳの希望者	看護研究の基本的な知識を学び研究的な視点で看護を見直すことができる	研究計画書について 文献について 統計について 論文とは プレゼンテーションとは 看護研究発表会	4月 26 5月 31 6月 28 7月 26 11月 22 3月 8

(カ) セーフティマネジメント委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
医療安全Ⅰ	ラダーⅡを目指す看護師	看護師個々のリスク感性を高める ヒューマンエラー発生のメカニズムを知り、日常的に事故防止に努めた行動がとれる	ヒューマンエラーとは エラー防止を図るには 事例分析	5月 27 6月 4
医療安全Ⅱ	ラダーⅡを取得し、レベルⅢを目指す看護師	患者急変及び事故発生時の報告ができ、その後の対応がとれる	SBARとは 事例を使って、報告する 事故後の観察・記録の書き方	10月 4 12月 1

医療安全Ⅲ	ラダーⅢを取得し、レベルⅣを目指す看護師	「医療安全文化の醸成を図るとは」を理解することができる	安全文化の醸成を図るということは、どのようなことか 自部署の問題を解決するには	5月 28 10月 5 12月 13
-------	----------------------	-----------------------------	--	--------------------------

(キ) 認定看護師委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
認定看護師 専門	レベルⅡ以上の全看護師	各分野における専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	認知症看護	8/6、12/23
			救急看護・集中ケア	7/6、8/3
			皮膚・排泄ケア	6/7、18
			脳卒中リハビリテーション看護	9/24、12/7
			感染看護	11/25
			乳がん看護	11/15、29
			がん化学療法	11/2、5
			緩和ケア	10/6、11
			摂食嚥下	12/20

(ク) 糖尿病サポート委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
糖尿病 フットケア	レベルⅠ以上の看護師	糖尿病足病変の知識を深め、患者のケアに役立てる	糖尿病足病変について 初回アセスメント フットケア（爪切り） アロママッサージの実践	10月 6

(ケ) トピックス研修

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
糖尿病看護	全看護師	専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	糖尿病の基礎	4月 2
新生児集中 ケア	全看護師	専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	タッチケア	11月 19

(コ) 専門看護師

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
がん分野	全看護師	がん分野における専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	がん患者のアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を考える	12月 3

(サ) 静脈注射院内認定看護師養成研修

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
レベルⅠ	新人	静脈注射において、医師の指示内容が自分の能力・責任で実施できる範囲かどうかの判断も含めた、高い倫理性と高度な知識、判断、技術の向上。	看護実践 (皮下注射・筋肉注射・静脈注射・採血・DIVラインの取り扱い・IVH・輸液ポンプ・シリンジポンプ)	4月 4
レベルⅡ①	全職員		薬剤の知識 安全管理 感染管理	7月 1
レベルⅡ②			CVポートおよび化学療法固定法・皮膚ケア 急変時の対応	7月 2
レベルⅡ③			造影剤について	7月 5
レベルⅡ④			輸血療法 生物学的製剤	8月 5
レベルⅡ実技			血管確保技術の評価	10月 21
レベルC	レベルⅢを取得した者		CVポートおよび化学療法	1月 21

XⅢ 災害拠点病院

1 指定要件

災害拠点病院とは、災害が発生し、通常の医療体制では適切な医療の提供が困難な場合に各都道府県知事の要請に対して傷病者の受入れや医療救護班の派遣等を行う病院であり、当院は、平成 9 年 3 月 27 日に災害拠点病院の指定を受け、平成 31 年 3 月末現在では、群馬県内に 1 つの基幹災害拠点病院と 16 の災害拠点病院があります。

平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災を契機として、災害拠点病院の整備、広域災害・救急医療情報システム（EMIS）の整備、災害派遣医療チーム（DMAT）の養成等が行われ、平成 23 年 3 月の東日本大震災後においては、災害指定病院の指定要件が見直しされ、災害時における一層の医療体制の充実が図られています。

2 群馬県の災害拠点病院

基幹災害拠点病院	前橋赤十字病院
災害拠点病院	群馬大学医学部附属病院、群馬県済生会前橋病院、群馬中央病院 高崎総合医療センター、日高病院、桐生厚生総合病院、太田記念病院、 公立館林厚生病院、伊勢崎市民病院、伊勢崎佐波医師会病院、 沼田病院、利根中央病院、渋川医療センター、公立藤岡総合病院、 公立富岡総合病院、原町赤十字病院

3 DMAT

（1）設置目的

DMAT（Disaster Medical Assistance Team）とは、災害の超急性期（概ね 48 時間以内）に活動できる機動性を持った専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームであり、災害拠点病院には設置が義務付けられていて、医師、看護師、業務調整員（医師、看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されています。

当院は、医師 1 名、看護師 7 名、業務調整員 4 名が隊員として活動しています。

（2）活動の概要

① 研修等

年 月 日	訓 練 名 称	場 所
新型コロナウイルス感染症の影響により、全て中止もしくは延期		

年間を通じて災害医療研修等を行い、病院全体が災害医療活動の重要性を認知し、取り組んでいくよう活動していきたいと考えます。

XIV 各部署の紹介

1 内科

(1) スタッフ

令和3年度の内科常勤医は11名です。

専門分野別では、呼吸器3名、大腸3名、消化器1名、肝臓3名、糖尿病・内分泌1名で勤務しております。

主に群馬大学医学部附属病院からの派遣で、非常勤医師にも外来診療・検査等を担当して頂きました。

(2) 年度報告

肺炎、尿路感染症、脱水症といった Common disease から各専門分野の疾患まで、幅広く診療しております。

また、収束することのない新型コロナウイルス感染症ですが、入院治療を要する感染者を受け入れ、他診療科にも助けていただきながら診療に当たりました。

(3) 今後の目標

医師不足や働き方改革、高齢化社会といった問題に新型コロナウイルス感染症も新たに加わり、それらの対応に頭を悩ませながら日々診療に当たっています。そのような状況においても桐生・みどり市地域の患者さんの健康に貢献するべく、群馬大学医学部と連携を取りながら、努力して参ります。

診療部長 菅間 一乃

2 神経内科

(1) スタッフ

令和3年度常勤医師は1名（高田）です。

非常勤医師3名（伊勢崎福島病院 近藤進先生 群馬大学医学部附属病院 牧岡幸樹先生 笠原浩生先生 岡大典先生）と診療にあたりました。

(2) 年度報告

外来診療が主軸で変性疾患、筋疾患、末梢神経障害、認知症の診断加療と脳血管障害の治療相談を行いました。

入院は少数ではありますが脳炎・髄膜炎などの感染性疾患やてんかん、脱髄疾患、神経筋接合部疾患の患者を診ました。

(3) 今後の目標

東毛地域の患者さんが同地域内で安心して療養できるよう、外来においては神経疾患の診断を適切に行い入院においては専門知識を持って内科支援に努めたいと思います。引き続き常勤医師増員を大学病院へ依頼していきます。

診療部長 高田 しのぶ

3 循環器科

(1) スタッフ

常勤医師 桑原 渉 (1名)
非常勤医師 3名

(2) 年次報告

令和3年度主な診療実績

心臓カテーテル検査	17件	経皮的冠動脈形成術	20件
ペースメーカー植え込み術	17件	下大静脈フィルター留置	2件

(3) 総括

他科・他院・地域開業医の先生方と連携をはかり、マンパワーが不足しておりますが可能な範囲で地域医療に貢献できるよう努力してまいります。

診療部長 桑原 渉

4 小児科

(1) スタッフ (8名)

大木康史、鈴木尊裕、袖野玲子、浦野博央、齊藤亜希子 (時短勤務)、関根和彦、*江田陽一、*八木龍介 (*: 新任)

(2) 年度報告

- ① 新生児未熟児センター：総入院数 161名。超低出生体重児 10名、極低出生体重児 13名、NCPAPを含む呼吸管理数 42でした。
- ② 一般病棟：総入院数 323名とCOVID-19流行前より少ない状態が続いています。主な内訳は、呼吸器疾患 140 (疑似症を含むCOVID-19 57)、消化器感染症 18、感染症以外の消化器疾患 8、川崎病 21、神経 35、腎尿路 20、アレルギー 32、内分泌・代謝 14、循環器 5、小児精神 3、平均在院日数は7.8日でした。
- ③ 本島総合病院小児科医との神経検討会(月1回)、新生児蘇生法講習会 (県主催1回、院内2回の計3回) を継続しました。
- ④ 地域貢献として、桐生市乳幼児健診、桐生市特別支援教育委員会、桐生・みどり市の要保護児童対策協議会等に協力しました。

(3) 今後の目標

少子化の傾向は続くが、東毛地域の小児科、周産期医療における中核施設として必要な機能や地域との連携は可能な範囲で維持したい。

診療部長 大木 康史

5 外科

(1) スタッフ

常勤医 一般外科 6 名（加藤広行、森永暢浩、和田 渉、緒方杏一、木村明春、奥山隆之）
乳腺外科 1 名（森下亜希子）

非常勤医

群馬大学総合外科後期研修医：火曜日（日勤、当直）

心臓血管外来 阿部知伸教授：第 2、4 水曜日

令和 3 年度から、一般外科として群馬大学から 1 名増員となりました。一方、呼吸器外科の常勤医が不在となり、呼吸器外科領域の入院患者を担当することとなりました。

(2) 年度報告

令和 3 年度の外来患者数は延 10, 134(+1, 346) 人、入院患者数は延 13, 774(+2, 119) 人でした。手術件数は 453 症例で、鏡視下手術が 185 件と増加しました。悪性腫瘍手術は 183 件、緊急手術は 50 件でした。乳癌・大腸癌の手術が増加しました。呼吸器外科常勤医不在により呼吸器外科領域手術を 5 件行いました。

また、令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症患者入院の受け持ちについて 100 名を担当いたしました。

(3) 今後の目標

一般外科常勤医 6 名で引き続き診療を行います。乳腺外科が診療科として独立しますが、今後も外来・入院診療において協力体制は変わりありません。良性疾患、悪性疾患とも、安全で合併症のない手術を行い、各々の患者さんに最善の治療を提供します。多職種との連携をさらに深め、より良い医療の提供に努めます。

令和 4 年度も呼吸器外科外来は群馬大学から派遣をいただいております。入院診療につきましては、一般外科で対応していきます。

診療部長 森永 暢浩

6 整形外科

(1) スタッフ

常勤医 5 名 : 斯波俊祐、片山雅義、永井彩子、中澤拓郎、高橋佑

非常勤医 2 名 : 小林裕樹 (木曜日隔週)、神山真考 (火曜日隔週)

(2) 年度報告

常勤 5 人と火曜日、木曜日の非常勤で診療を行いました。非常勤は 2 人で股関節と肩関節の専門外来を行いました。一般外傷を中心に、脊椎外科、膝関節外科、手の外科などの専門分野の診療を行っています。

新型コロナウイルスが一向に収まらず、手術患者に行っていた遺伝子検査を入院患者全員に行うようになりました。緊急入院の場合は救急室で、予定入院の場合は整形外科外来のパーティションにて遺伝子検査を行っています。第 6 波では急激にコロナ患者が増え、症状のない手術予定の患者さんからも数人陽性が出てしまい手術が延期になることがありましたが、幸いクラスターにはなりませんでした。

令和 3 年度の手術件数は 436 件 (425 例) でした。手術は一般外傷や変性疾患など多岐にわたり、最も多いのが例年同様高齢者に多い大腿骨近位の骨折で約 90 件でした。脊椎手術は約 100 件でした。脊椎手術は内視鏡下手術や経皮的椎体形成術などの低侵襲手術が中心ですが、除圧術で対処できない症例は固定術を行い、脊柱変形などの広範囲固定を要する症例も 4 例ありました。人工膝関節置換術は 9 件でした。

(3) 今後の目標

新型コロナウイルスがなかなか収まらない状況ですが、今後も予防に努めながら、リハビリテーションや看護師、連携室などの多職種のスタッフと協力して急性期の治療とリハビリテーションを安全にスムーズに行っていきたいと思います。

O-アーム (ポータブル CT)、ナビゲーションシステムや術中神経モニタリングシステムを駆使して、難易度の高い脊椎手術も安全に行えるよう努力したいと思います。

また、臨床研修医や群大の学生さんへの指導も、地域医療に興味を持ってもらえるよう引き続き行っていきたいと思います。

診療部長 斯波 俊祐

7 脳神経外科

(1) スタッフ

令和3年度は常勤脳神経外科医師3名（曲澤 聡、橋場康弘、山根庸弘）で診療にあたりました。

また、火曜日と金曜日の午後に群馬大学から非常勤医師3名（高橋健太郎、中澤尚彦、中村俊介）に手術の手伝いに来ていただきました。

しかし、7月半ばで山根先生が退職し、約2か月半、常勤医師2人で診療を行いました。10月より矢島 翼先生が赴任し、常勤医3人体制に戻りました。

(2) 年度報告

外来患者数は704人、入院患者は脳血管障害204人（くも膜下出血22人、脳出血69人、脳梗塞94人、その他19人）、脳腫瘍13人、頭部外傷90人、その他24人の計331人でした。

手術件数は122件で、主要な手術件数は下記の如くでした。

脳動脈瘤クリッピング術	14 件
脳腫瘍摘出術	5 件
血管内手術	35 件

(3) 今後の目標

令和3年度は2か月半にわたり、常勤医師2人体制となつてしまい、診療を縮小させるを得ませんでした。その間、患者様や他の病院スタッフに多大なご迷惑をかけてしまいました。

矢島先生にピンチヒッターとして来ていただき、令和4年度からは石井希和先生が赴任され、常勤医3人体制が維持されました。

今後もスタッフの健康維持等に注意を払いつつ、桐生・みどり地域の脳神経系の救急患者、重症患者の診療を安定的に行ってまいりたいと思います。

診療部長 曲澤 聡

8 皮膚科

(1) スタッフ

常勤医 2 名（岡田克之、小坂啓寿）

非常勤医 3 名（4～7 月 栗原 梓、8～11 月 石崎真由、12～3 月 荒木 健）

(2) 年度報告

- ① 外来 患者数 11,099 人（うち新患 926 人）、一日平均 45.9 人。
稼働している医療機器：紫外線照射装置（UVA/B、エキシマライト）、炭酸ガスレーザー装置
- ② 入院 6 階東病棟 7 床。新規入院 94 人、一日平均 4.6 人、平均在院日数 17.7 日
- ③ 手術 中央手術室で 76 例（良性腫瘍 46 例、表皮内癌 10 例、悪性腫瘍 20 例）
外来での施術 97 例（皮膚生検 77 例、腫瘍切除 17 例、陥入爪手術 2 例、皮膚切開術 1 例）
- ④ 地域連携 他院からの診療情報提供書 472 通
- ⑤ 研修 日本皮膚科学会認定「専門医」研修指定病院

(3) 今後の目標

- ① 専門性 地域の皮膚科診療の中核として、診療所や病院、老人介護施設などと有機的な連携を図り、皮膚科の専門性を発揮する。
- ② 医療機器 ターゲット型紫外線照射装置（エキシマライト）を、各種の皮膚疾患に導入していく。
- ③ 生物学的製剤 乾癬に対する生物学的製剤の投与症例数は、県内で群馬大学皮膚科に次ぐ。臨床的、学術的に乾癬治療をリードしたい。
また、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹に対する生物学的製剤も導入しており、皮膚科の地域連携で症例を重ねたい。
- ④ 患者サービス 紹介患者の診療体制を充実させ、患者さんの声を聞き、地域のニーズに応える医療を実践する。
- ⑥ 褥瘡対策 皮膚科専門医として褥瘡の予防と治療をリードし、皮膚排泄ケア認定看護師（WOCN）と協働して全職員の啓発を図る。
さらに近隣の訪問看護師やケアマネージャーと共同して「褥瘡のひろば」の構築をめざし、地域の褥瘡対策のレベルアップを図る。
- ⑦ フットケア 「足外来」を通じて、糖尿病患者や透析患者の足病変に関わる。多科・多職種との連携したフットケアチームを構築する。
- ⑧ チーム医療 褥瘡対策、栄養サポート、フットケア、感染制御、医療安全などに皮膚科の専門性を生かし、積極的に協力していく。

診療部長 岡田 克之

9 泌尿器科

(1) スタッフ

常勤医 4 名（上井 崇智、岡本 亘平、林 拓磨、中澤 峻）

非常勤医 2 名（栗原 聡太、杉野 陽彦）

(2) 年度報告、今後の目標

① 泌尿器科部門

癌治療（手術、化学療法、緩和）、排尿障害治療、急性尿路感染治療を中心に治療を施行しました。人員が 3 人から 4 人に増員になったこともあり、手術件数は 527 例と例年と比較し著明に増加しています。癌手術治療においては腹腔鏡手術治療が中心になり、腎臓癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、膀胱癌などに対し計 44 例の腹腔鏡手術を施行しました。また昨年度から新たに産婦人科と共同し、骨盤臓器脱に対し腹腔鏡下仙骨固定術を導入、前立腺癌局所放射線治療に対してのゲルスパーサー留置術も開始しました。今後難治性過活動膀胱に対してのボトックス注入療法も導入も準備しています。他に経尿道的膀胱腫瘍切除術 71 例、経尿道的前立腺切除術 26 例、前立腺生検 298 例を施行しました。最近では腎癌に対して薬物療法である分子標的薬治療、免疫チェックポイント阻害薬治療を行う症例も急激に増加しています。

桐生地区は高齢化が進んでおり、健康志向が高まった現在も進行癌が見つかる割合が多い上、複雑性尿路感染症が増加している印象があります。検診受診等の啓発、介護サービスの介入など活動が必要と思われます。

② 血液浄化部門

維持血液透析患者は 15 名で、月水金 2 クール、火木土 1 クールで施行しています。

急性期病院の特徴として臨時、急性血液浄化が多く、新規維持血液浄化導入は難しい状況が続いています。維持血液透析患者は多くはないが、他院維持血液透析患者の当院入院や、エンドトキシン血症、神経疾患などの臨時血液浄化は 56 名に施行しており、バリエーションに富んでいます。

診療部長 上井 崇智

10 耳鼻いんこう科

(1) スタッフ

令和 3 年度の耳鼻いんこう科常勤医師は 1 名です。

非常勤医師 2 名（月曜日：常見先生（獨協医科大学病院）、木曜日：多田先生（群馬大学医学部付属病院））と診察にあたりました。

(2) 年度報告

主に外来診療を行い、耳鼻いんこう科全般的疾患を診療しています。突発性難聴は麻酔科と連携し、高気圧酸素治療、星状神経節ブロックも通院治療を行っています。急性炎症、めまい急性期は、病状により入院点滴治療も行っています。

(3) 今後の目標

総合病院の特性を活かし、地域医療機関、当院各科と連携し、群馬大学医学部付属病院、足利日赤病院とも連携を取りながら、地域医療に貢献できるように努力して参ります。

診療部長 梅村 崇

11 産婦人科

(1) スタッフ

令和3年度は前年度に引き続き産婦人科常勤医は定方先生、小松先生、鏡の3名でした。非常勤の先生方の御尽力ではじめて運営可能な状況です。須藤先生が産休に入られ、無事に元気な御子様が生まれました。矢崎千春先生、たかのす診療所より内田先生、群大病院より長谷川先生に引き続きいらしていただきました。加えて、岩宿クリニックより松田先生に、新たに群大病院より津久井先生に、各々週一回勤務していただけることになりました。

(2) 診療実績

分娩件数は269件と、減少傾向が続いております。COVID-19蔓延が拍車をかける県全体の出生数減少のなか、それでも産んでいただける方たちを大事に診療していきたいと思います。婦人科手術件数もCOVID-19の影響を受けながらも162件と微減にとどまりました。当院コロナ病棟に妊婦さんの受け入れを少数ながらも開始しました。

(3) 今後の目標

正常分娩件数の減少が全体に影響しておりますが、母体搬送受け入れ体制は小児科の先生方のおかげで十分機能しており、地域周産期母子医療センターとしての役割をはたしていきたいと思います。

診療部長 鏡 一成

12 眼科

(1) スタッフ

常勤医 2 名 丸山泰弘、田村明洋

非常勤医（水曜外来担当と手術担当）1 名、視能訓練士 3 名

(2) 年度報告

外来患者数は、延べ 13,126 人、初診患者は 458 人でした。

外来手術は、網膜光凝固術（裂孔原性網膜剥離、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症など）が 78 件、後発白内障手術（ヤグレーザー）は 41 件でした。入院手術の詳細は、科別手術件数の項目を御参照ください。

糖尿病網膜症や加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 抗体（ルセンティス®、アイリーア®）硝子体内注射は 173 件でした。

当院は東毛地域の周産期医療の中核施設なので、未熟児網膜症への対応もおこなっています。重症網膜症に対するレーザー治療や抗 VEGF 抗体（ルセンティス®）の硝子体内注射（本年度は 3 件）も対応しています。

(3) 今後の目標

新型コロナウイルス感染症流行により令和 2 年には診療実績（外来患者数、手術件数）が大きく減少してしまいましたが、令和 3 年度はそれ以前の患者数に戻りました。ところが本稿執筆中の令和 4 年 7 月下旬には、一日当たりの新規感染症患者在群馬県で 2000 人超、全国で 20 万人超とこれまでにないペースで感染が再拡大しはじめ、第 7 波の流行期が始まっています。感染を恐れた患者の受診控え・受診中断が心配されます。眼科は慢性疾患（緑内障や糖尿病網膜症など）の管理が診療の中心であり、患者の皆様が安心して受診できることが非常に大切です。桐生市みどり市地域の眼科診療の要としての責任が果たせるよう、感染予防に特に注意して診療に当たります。

最近では、内科などの眼科以外の開業医の先生方から当科に直接患者を紹介していただくことが多くなっています。緑内障発作を発見していただいて早期治療ができた例などもあり、感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。

診療部長 丸山 泰弘

13 麻酔科

(1) スタッフ

手術室での業務は、佐藤淳、塚越裕、入内島伸尚、高瀬友彰の4名の常勤医師と5名の非常勤医師。そのうち麻酔標榜医は、常勤4名、非常勤4名。麻酔専門医は、常勤4名、非常勤4名。麻酔指導医は、常勤4名、非常勤2名。また、院内の研修医6名の麻酔研修を受け入れ、合計594件の麻酔の指導を行いました。ペインクリニックでは、4名の常勤医師が交替で診療を行っています。

(2) 年度報告

手術件数は、前年度より7.6%増加して2364件。そのうち麻酔科管理症例は1630件で、全身麻酔905件、脊椎麻酔724件、硬膜外麻酔1件。患者全体の年齢構成を見ると、70歳以上の症例が1416名(59.9%)で半数以上、90歳以上の症例が82名(3.4%)であり、高齢者の割合が多いです。

ICU・CCU室は、麻酔科、外科、循環器科が分担して常時、専任の医師が勤務しています。前年と同様に重症患者が多く入室しています。

ペインクリニックでは、突発性難聴、顔面神経麻痺に対する星状神経節ブロックや、腰下肢痛、肩こり、頸部痛、三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛、糖尿病性神経障害などの多様な痛みに多種の神経ブロック療法や近赤外線的光線治療、超短波の照射、薬物治療を行っています。また、ボツリヌス毒素注射では片側顔面痙攣や眼瞼痙攣の治療を行っています。

高気圧酸素治療は、突発性難聴、末梢循環障害、脳外科的疾患、四肢の難治性潰瘍、放射線照射後障害、腸閉塞、一酸化炭素中毒などを対象として治療を行っています。なるべく初診当日から治療を開始できるように、また、緊急時にも対応できるように努力しています。

(3) 今後の目標

より安全な麻酔を行うとともに、チームでの周術期管理をさらに向上させる。麻酔科関連分野である、ペインクリニックや集中治療を充実させる。また、医師臨床研修において呼吸・循環管理を習得させることです。

診療部長 佐藤 淳

14 放射線科

(1) スタッフ

常勤医は診断専門医が1名、治療専門医が2名の常勤3名体制ですが、1名は病院管理職で、放射線科医としての実務は週2日半（診療業務1日と治療外来業務午後2時までを2回）であり実質2.5名です。月に2回、半日（土曜日）非常勤の診断医に来てもらっています。診断業務の補助として群大のベンチャーである遠隔画像診断システムに協力していただいています。

診療放射線技師は20名、非常勤3名の体制です。事務は診断、治療に各1名、看護師は診断部門に常在1名、血管造影などに適宜1名、治療部1名。看護助手の配置はありません。

(2) 年度報告

令和3年度の放射線部門の業績については、別に資料が掲載されていますので御参照ください。放射線治療部門では左乳癌治療時の心臓線量低減のための深吸氣息止め照射などの新規治療技術を導入、定着させました。

診療部門では勤務時間帯の緊急検査へのレポート作成件数は増加しています。また、他科連携を強化すべく消化器カンファレンスにも参加するようになりました。

技師法の改正により、検査薬剤の投与用の静脈確保が技師業務として追加され、技師は順次研修を受け対応している状況です。

(3) 今後の目標

今年度から診療科としての放射線科と、医療技術部門としての放射線技術科が別組織となりましたので、診療科としての目標を記載します。

常勤3名体制は維持していますが、1名は管理職業務の増加から放射線科実務への関与がさらに減り他2名への負担が増加しています。中央部門としての機能を果たすためには業務縮小は望ましくなく、持続可能な体制整備をすべく関係機関と連携し尽力していく所存です。

診療部長 村松 博之

15 救急科

(1) スタッフ

令和3年度の救急科常勤医は1名。

非常勤医として群馬大学救急医学 福島一憲先生に毎週木曜日診療していただきました。

(2) 年度報告

令和3年度は救急外来および入院の診療を行いました。

(3) 今後の目標

当院は桐生市・みどり市の中核を担う医療機関ではあるが、3次医療機関ではなく、地域にも3次医療機関はありません。だが両市に3次医療を行えば救命できる患者がいけない訳ではありません。当科の目標は救急搬送受け入れ率を上げることではなく、桐生市民・みどり市民の生存率を上げることです。そのためには必要な患者を選別し、適切な3次医療機関に送り届け、また当院で対応可能な患者の域外搬送を極力減らすように努力していきたいです。

診療部長 萩原 周一

16 歯科・歯科口腔外科

(1) スタッフ

常勤歯科医師 2 名、 非常勤歯科医師 1 名、 看護師 1 名、 歯科衛生士 4 名

(2) 年度報告

令和 3 年度の 1 日平均外来受診患者数は 46.9 人、年間外来新患者数は 2,343 人、再来受診患者数は延べ 9,001 人である。年間の手術室使用件数は 70 件、年間入院患者数は延べ 430 人であり、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う患者減少の影響が現れました。

(3) 今後の目標

総合病院の中での当科の役割は、①口腔外科医療、②有病者（障害者、要介護老人を含む）に対する歯科医療、③救急医療があげられます。

①に関しては、学会参加や積極的なセミナー聴講を行い、スタッフのスキルアップと患者への最新の口腔外科医療の提供をはかりたいです。

②全身疾患を有する患者の歯科治療（主に抜歯などの観血処置）を病院歯科で行うことは、患者にとっても、また一次医療機関である地域の歯科医院にとっても望ましいことです。また、平成 24 年より稼働した桐生市歯科医師会と共同で行われる三次障害者歯科治療は歯科医師会登録医とともに手術室を使用し、集約的な歯科治療を行っています。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全身麻酔による障害者の歯科治療は 8 件のみでした。周術期口腔機能管理については周術期の口腔ケアが必要な患者の増加に対応し、かかりつけである一次医療機関と連携を図り、誤嚥性肺炎等の周術期の合併症の予防、患者の QOL の向上に努めていきたいです。さらに今後は地域の高齢化に伴い、摂食、嚥下の分野のニーズも増加することから、当院のリハビリテーション科との連携を強化していきたいです。

③の救急医療は、当科ではオンコール態勢をとり、顎骨骨折などの外傷、抜歯後出血、急性歯性感染症など、一次医療機関や当直医の要請にはすべて対応しています。

今後も最良の歯科医療を提供すべく病院の機能を生かし、他科との連携をスムーズに行い、総合的な歯科診療に取り組む所存です。

診療部長 今井 正之

17 中央検査部・病理診断科

(1) スタッフ

医師 2 名、臨床検査技師 27 名、非常勤医師 5 名、非常勤臨床検査技師 4 名

(2) 年度報告

- ① 新型コロナウイルスワクチン集団接種会場（群馬県・桐生市）での臨床検査技師によるワクチン接種へ協力派遣（新型コロナウイルスワクチン接種研修会修了者 17 名）
「群馬県接種会場（G メッセ群馬）：派遣数 63 回」
「桐生市接種会場（地場産業振興センター・総合福祉センター）：派遣数 55 回」
- ② 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設認証制度を更新
認定期間：令和 3 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日（2 年間）
- ③ 外部団体による臨床検査精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、群馬県精度管理調査協議会）へ参加
- ④ 超音波検査士消化器領域の資格認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑤ 超音波検査士循環器領域の資格認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑥ 二級臨床検査士「血液学」の資格認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑦ 新規導入、更新した主な臨床検査機器
「自動採血管準備装置：テクノメディカ BC・ROBO-8001RFID/T4162PP」
「心電計：日本光電 ECG-2550」
「黄疸計：トーイツ BL-300」
- ⑧ 更新した病院情報システム（検査関連）
「検査システム」、「病理システム」、「輸血システム」、「心電図情報システム」、
「技師支援システム」、「画像管理システム」、「採血受付認証システム」
- ⑨ 院内新規導入検査
「百日咳菌抗原検査：イムノクロマト法」
- ⑩ 臨地実習生の受入れ
群馬パース大学保健科学部検査技術学科 4 年 4 名
実習期間：令和 3 年 5 月 17 日～7 月 9 日（8 週間）
麻布大学生命環境科学部臨床検査技術学科 3 年 1 名
実習期間：令和 4 年 1 月 11 日～3 月 4 日（8 週間）
- ⑪ 臨床検査情報誌「四つ葉のクローバー」を 3 号発行
4 月発行 第 55 号「検査の基準値と測定意義について」
8 月発行 第 56 号「新しくなった生化学・免疫学検査の分析装置について」
1 月発行 第 57 号「新型コロナウイルスの医療用検査キットの注意点について」

(3) 理念・目標

- ① 理念 「臨床検査の質的向上と信頼性の確保」
- ② 目標
(ア) スキルアップを目指し患者サービスとチーム医療に貢献する
(イ) 業務の改善意識を高め効率化・省力化を推進する
(ウ) 地域住民の健康管理に貢献する
- ③ 年目標 「確認不足によるミスをなくす」

診療部長 伴 聡

18 薬剤部

(1) スタッフ

薬剤師 22 名、助手（パート） 3 名、SPD 1 名

(2) 年度報告

- ① 院外処方せん発行率は、95.4%で前年比-0.2%になりました。
- ② 薬剤管理指導件数は 13,341 件、退院指導件数 3,272 件となりました。
- ③ 患者さん向け情報誌「くすり箱」の発行
 - (ア) 第 56 号（令和 3 年 6 月発行） ◇糖尿病治療に使用する注射薬
 - (イ) 第 57 号（令和 3 年 9 月発行） ◇病院薬剤師の業務について
 - (ウ) 第 58 号（令和 3 年 12 月発行） ◇潰瘍性大腸炎について
 - (エ) 第 59 号（令和 4 年 3 月発行） ◇子ども対象の予防接種について

④ 薬・薬連携

桐生薬薬連携検討委員会に参画し、桐生薬剤師会、東邦病院、恵愛堂病院の薬剤師と月に 1 回の情報交換を続けております。ヒヤリハットなどの事例を共有して医療安全に努めております。3 月の開催で 186 回を数えています。

令和 3 年度は前年より引き続き、対面の会議の他、web(Google Meet)を使用し、会議を開催しています。退院時薬剤情報管理指導などを活用し、薬薬連携を深めていくことを目標にしています。また、継続してお薬手帳を常に携帯する様に働きかけていきます。

(3) 今後の目標

- ① 病棟業務の更なる充実
 - (ア) 退院時薬剤情報管理指導を積極的に行い、患者と保険薬局への情報提供を行う
 - (イ) 効果的で安全な薬物療法が持続されるよう、退院後を見据えた薬剤業務を行う
- ② 医薬品の適正使用
 - (ア) ポリファーマシーを意識し、入院時持参薬評価と減薬を実施、患者さんのアドヒアランスの向上を目指す
 - (イ) 迅速な情報収集に基づき、適正な在庫管理を行う
- ③ 医師の業務軽減のためのプロトコールの充実
- ④ 薬薬連携の強化
 - (ア) プロトコール及びトレーニングレポートの活用を推進する
- ⑤ 効率的な業務の遂行

課長 河井 利恵子

19 リハビリテーション科

(1) スタッフ

医師 2 名、理学療法士 22 名（内 育休 1 名）、作業療法士 7 名、言語聴覚士 3 名、助手 2 名の合計 36 名。

(2) 年度報告

- ① 年間総単位数は 110, 623 単位-前年比 2.8%減（理学 73, 343 作業 26, 558 言語 10, 722）
- ② 延べ患者件数は、外来 6, 895 件（一日平均 28.5）、入院 55, 822 件（一日平均 183.6）
- ③ 新患者数は 2, 233 人（外来 251 人、入院 1, 982 人）
- ④ 疾患別リハビリ割合は、脳血管リハ 36.7%、廃用症候群リハ 14.3%、運動器リハ 37.4%、呼吸器リハ 8.8%、がんリハ 2.8%。
- ⑤ コロナ禍 2 年目であり、より一層感染防止対策を講じ、リハビリの質と量を確保するよう努めてきました。特に、外来・入院患者さんのリハビリの時間帯を区分したことやリハビリ回数の維持及び自主トレ指導を更に徹底しました。

(3) 今後の目標

「建設的に取り組む、生産性を上げる、感染対策の徹底」を目標の柱として、

1. 専門性を高め、臨床に活かす（教育、実績作り、啓発、リスク管理等）
2. 業務効率の向上（弾力的 且つ 柔軟な対応）
3. 各自が意識して感染対策に取り込む（職員側・患者側の対応、環境面の対応等）

科長 勝山 典年

20 臨床工学科

(1) スタッフ

循環器内科診療部長兼任部長医師 1 名、常勤臨床工学技士 6 名（うち 2 名産休、育休）で構成（令和 3 年度末 現在）

(2) 年度報告

基本理念：「最新の知識と技術の習得に励み、安全で信頼性の高い医療技術を提供する」

部門目標：「1. 機器管理部門として医療機器の効率的運用と一元管理を推進する」「2. 業務の情報共有強化を行う」を基に下記の業務にあたっています。

業務件数については業務概要の項を参照ください。

① 呼吸療法業務

人工呼吸器の操作・保守および管理する業務。呼吸器サポートチーム（RST）の一員として事故防止対策、職員教育、RST 回診にも参加しています。

② 心臓カテーテル業務

検査・治療中のバイタルモニタリング、血行動態検査、血管内超音波検査、補助循環装置等を操作・保守管理をしています。

③ ペースメーカ関連業務

体内式ペースメーカデバイス管理と外来業務。植え込み患者の手術立ち会い、外来でのフォローアップ、MRI 撮影や手術前後の立ち会いをしています。

④ 血液浄化業務

一般透析は腎センターへ技術提供を行っています。重症透析については ICU や病棟での出張透析を実施。その他、持続的腎代替療法、血液・血漿吸着療法、腹水濾過濃縮再静注療法など特殊血液浄化療法を担っています。

⑤ 高気圧酸素業務

麻酔科に配置されている一人用治療装置（第一種高気圧酸素治療装置）1 台を運用。一酸化炭素中毒・腸閉塞・突発性難聴・網膜動脈分岐閉塞症 などの治療をしています。

⑥ 手術室業務

手術用ナビゲーションシステム、自己血回収返血装置、内視鏡システム業務、術中神経モニタリングシステム、麻酔器やフットポンプの管理のほか、手術にまつわる機器のトラブル対応を行っています。

⑦ 医療機器管理業務

人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置などの生命維持管理装置や、血液ガス分析装置、セントラルモニターなどの高度医療機器の保守管理を行っています。

また、輸液ポンプ、シリンジポンプ、超音波ネブライザ、低圧持続吸引器等、使用箇所が多岐に渡る ME 機器の中央管理を行う事により、院内医療機器の効率的かつ安全な運用を図っています。

⑧ 教育業務

ME 機器使用者への安全情報配信、研修を行うことにより ME 機器に対する関心と知識と技術の向上を図っています。特に、新機種導入時には研修会を開催。診療部・看護部を始め、医療機器に関する研修会の講師派遣を行っています。

(3) 今後の目標

地域中核総合病院の臨床工学技士として呼吸・循環・代謝といった生命を代行する装置を手広く扱っています。必要な時に必要な知識・技術・機器を提供できるよう、臨床工学科基本理念の基、ゼネラルに活躍できる臨床工学技士を目指しています。

係長 三木 康正

21 食養科

(1) スタッフ

令和3年4月～：医師1名（副院長兼皮膚科部長）、管理栄養士7名、臨時管理栄養士1名、調理師6名、調理員1名、臨時事務1名、合計17名

令和2年10月：管理栄養士1名が普通退職

(2) 年度報告

① 栄養食事指導

- ・入院栄養食事指導465件、外来栄養食事指導660件、合計1,125件、前年度比92.3%
- ・管理栄養士8名が担当し1枠1時間、午前3枠・午後4枠、各枠2件。当日予約、当日臨時枠も対応。

② 給食管理業務

- ・令和3年8月1日より富士産業株式会社に労務委託（委託先の変更）。

労務委託における業務区分

病院側 …献立作成、食材の発注及び検収、食事後の下膳、食器の洗浄消毒

受託側 …食材管理、下処理、仕込み、食数管理、調理、配膳（病棟配送まで）

- ・常食系喫食者を対象に食事アンケート調査を実施（5月、11月）

調査結果「病院食の満足度…5（良い）～1（悪い）とした5段階評価」

5月実施 5点30.2% 4点39.5% 3点25.6% 2点2.4% 1点2.4%

11月実施 5点33.3% 4点25.3% 3点32.0% 2点9.4% 1点0.0%

- ・令和2年4月より提供している嚥下調整食を、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食分類2021により合わせるため献立の見直しを実施。

(3) 今後の目標

① 衛生的で安心・安全な、患者さんによるこんでもらえる食事の提供

- ・患者さんの側に立って委託業者との間の橋渡しをしていく
- ・季節が感じられる食材、地元で生産される食材等を積極的に取り入れる
- ・絶対に食中毒を発生させない、徹底した衛生管理

② 患者さん個々の病態や生活に合わせた栄養食事指導、栄養相談の実施

- ・多様化する食生活に合わせた、具体的で継続しやすい内容の指導を心掛ける
- ・症例検討会等を実施し栄養食事指導における技術の向上を図る

③ 入院患者さんの栄養管理における質と技術の向上

- ・患者さんの声を傾聴し、他職種との連携を図る
- ・院内院外の勉強会に積極的に参加し知識を広げる

科長 小林 誠

22 看護部

(1) 看護部の配置状況

令和4年3月31日現在 看護職員 412人

	助産師	看護師	准看護師	看護助手	合計
	人	人	人	人	人
正職員	25	332	4	1	362
非常勤	0	40	8	2	50
合計	25	372	12	3	412

(2) 年度報告

【令和3年度の看護部目標】

- ① 患者さんの生活を重視した看護を提供する
- ② 患者さんに安心安全な看護を提供する
- ③ 働きやすい職場環境を整備する

目標①に対し、在宅療養支援および継続看護を強化することを目的として、外来と病棟の連携を図るための仕組みづくりを行いました。外来・病棟合同カンファレンスを開催し患者情報を共有することで、退院後も切れ目のない看護を提供することができたと考えます。また、優しさと思いやりのある接遇を心掛け、対象が安心できる療養環境の提供に努めました。目標②に対しては、クリニカルラダーシステムや人事評価による人材育成を強化することで、看護の質の底上げを図りました。師長が自ら人事管理についての学びを深め、部署管理に取り組むことができました。その結果、多くの看護職員がレベルアップに取り組み、承認されました。目標③については、今年度勤怠管理システムが導入となり労務管理が電子化されたことで、全体の把握が容易になりました。部署内での業務改善、部署間でのタスクシェアやリリーフ体制の実践による時間外労働の短縮に取り組みましたが、目標はわずかに達成されませんでした。しかしながら、職場環境改善の意識改革につながったと考えます。

急性期看護の提供とともに回復期・慢性期看護を提供し、さらに手厚い感染症看護を求められ邁進してまいりました。引き続き専門性を発揮し、チーム医療に貢献していく所存です。

(3) 今後の目標

特定行為看護師の育成に取り組み、医師の負担軽減の一役を担うとともに、地域の訪問看護師と協働し地域医療に貢献していきます。また、今後も地域住民のニーズに応えられるよう、看護の質の向上に努めてまいります。

部長 粕川 由貴子

22-1 外来

(1) スタッフ

看護師 20 名、准看護師 1 名、非常勤看護師 18 名 計 39 名

(2) 年度報告

令和 3 年度より外来部門は救急外来と別れ、各診療科、注射室、通院治療センターの部門になりました。外来看護の質の向上を目指して目標に挙げ取り組みました。発熱患者の対応、COVID-19 の対応を統一して行えるように勉強会を行い、全スタッフに周知徹底しました。継続看護では、外来受診時、検査時、退院後の療養支援にわたり記録、カンファレンスが行えるように外来会議で話し合い、全員で取り組みました。

(3) 今後の目標

今後は感染防止に努め、外来看護の充実が図れるよう取り組んでいきます。

師長 深井 昌美

22-2 救急外来

(1) スタッフ

看護師 23 名(救急看護認定看護師 1 名含む) 非常勤准看護師 5 名 非常勤事務 1 名 計 28 名

(2) 年度報告

令和 3 年度より外来部門を救急部門と外来部門に分け、救急部門は救急外来、内視鏡室、検診室、採血室を含めた部門となりました。より専門性が高められること、前年度より看護師の人数が少なくなったことを踏まえ、令和 3 年度は、

- ① 専門性の高い看護を提供する
 - ② 協力体制を強化し、働きやすい職場環境を整える
- を目標に掲げ取り組みました。

COVID-19 が猛威を振るう中、安全チームや感染チームでは、救急外来内のゾーニングの見直し、対応方法を掲示したことで、統一した感染対策が行え、感染対策を強化することができました。また、救急外来看護の質の向上を図るため、救急外来に受診した患者に対し統一した問診とトリアージが行えるよう、看護研究に取り組みました。記録チームでは、救急外来、アンギオ、内視鏡等記録基準を作成し、記録の充実を図りました。少ない人数でも、朝のミーティングで各部署の状況を把握し、お互いのリーダーが声を掛け合い、協力し合いながら業務を遂行しました。

(3) 今後の目標

今後も救急外来看護の質の向上を図るとともに、スタッフ同士が気持ちよく働ける、魅力ある職場となることを目標として取り組んでいきます。

そして、出口の見えない COVID-19 の対応に関しては、引き続き適切な対応、感染防止策が行えるよう努めていきます。

師長 堀越 美智代

22-3 手術室

(1) スタッフ

看護師 18 名 准看護師 1 名 看護助手 1 名 計 20 名

(2) 年度報告

令和 3 年度は、「患者・家族の思いを尊重し、術後回復機能を促進させる周術期看護の提供」を目指し、5 つのチームで 8 つの目標を掲げ活動してきました。倫理面においては、患者・家族の思いや希望を取り入れたカンファレンスを行い思いやりのある看護を提供しました。安全・安心な看護の提供では、患者入室時の標準予防策の徹底を行い感染制御に努めました。働きやすい環境作りでは、環境整備を強化することで、迅速に医療器具を提供することができました。看護の質評価では、監査面接を全員実施し術後回復機能に向けた看護の振り返りができ課題を明確にすることができました。専門的知識を養うために、自己学習した内容を勉強会として資料を作成しプレゼンテーションすることで効果的な知識の共有を行い研鑽に励んでいます。

専門的知識と技術の向上に向け、手術看護実践指導看護師 3 名が在籍し、周術期管理チーム看護師は 1 名が合格し 8 名となりました。術前外来を通して術後回復機能促進に向けた関わりを行い活躍の場を広げています。

(3) 今後の目標

専門知識を活用し患者の持つ力をサポートする。また、患者が望む看護を提供できるよう研鑽を重ねて行きます。高い倫理観を持ち地域貢献できるようにスタッフ一丸となり、質の高い周術期看護の提供を目指していきます。

師長 佐藤 祥代

22-4 ICU

(1) スタッフ

看護師 19 名 (集中治療認定看護師、脳卒中リハビリテーション認定看護師 1 名を含む)

(2) 年度報告

令和 3 年度病棟目標として、

- ① クリティカルケアの質の向上
- ② 患者、家族に寄り添う丁寧な看護の提供
- ③ 前向きに働ける職場づくり

の 3 つを目標に掲げ取り組みました。

クリティカルケアの質の向上を図るため、新しい医療機器の勉強会実施、マニュアルの作成など行い知識、技術の習得に努めました。また患者、家族に寄り添う看護が提供できるよう情報収集を強化し、入院時からの関わりを大切に看護の提供を行いました。スタッフが前向きに働くことでより良い看護の提供ができると考え、スローガンを活用し日々の看護に望んでいます。

(3) 今後の目標

今後も地域のニーズに答えられるよう、患者、家族に寄り添い、質の高いクリティカルケ

アの提供を目指し、スタッフ全員で取り組んでいきたいと思っています。

師長 小澤 裕美

22-5 腎センター

(1) スタッフ

看護師 8 名 臨床工学技士（交替で勤務）

(2) 年度報告

外来患者透析 2148 回、入院患者透析 752 回実施しました。緊急透析患者数は 56 名でした。令和 3 年度は、透析看護の質の向上を目標に掲げ活動しました。災害対策マニュアルの見直し・改定を行い、災害に備えてのシミュレーションを行うことができました。また出張透析マニュアルや透析中のリハビリマニュアルを見直し緊急時の対応や統一した看護を行う事ができました。COVID-19 患者に対してもマニュアルを作成し、対応することができました。

(3) 今後の目標

今後は透析看護の質の向上と感染管理の強化とともに、緊急透析や COVID-19 にも対応していきます。

師長 深井 昌美

22-6 N I C U

(1) スタッフ

看護師 16 名（新生児集中ケア認定看護師 1 名含む）

(2) 年度報告

令和 3 年度は、

- ① 患者さんの生活を重視した看護を提供する
- ② 患者さんに安全・安心な看護を提供する
- ③ 働きやすい職場環境を作るため 業務の効率化を図る

の 3 つを目標に取り組みました。

患者さんの生活を重視した看護では、退院支援カンファレンスの入院後 1 週間以内実施率 100%を達成する事が出来ました。安全・安心な看護の提供では、KYT 対策の継続に向けた注意喚起メールの発信や、看護記録の質向上を目指し、記録ファイルの完成、記録の相互チェックも開始しました。さらに、感染予防における家族指導として、正しい手洗い方法、正しい擦式消毒方法について、パンフレット作成し活用しています。COVID-19 関連の 3 症例を経験し、再度 COVID-19 マニュアルの修正を開始しました。

また、8 月から 6 床稼働、2 人夜勤体制になり、スタッフ一丸となって業務改善に取り組み、緊急入院に対応できる体制づくりを行いました。

(3) 今後の目標

今後も専門性を発揮し、児と家族に寄り添い、安全で良質な看護を提供することを目指し、知識・技術の向上に努めていきます。

師長 阿左美 まゆ美

22-7 GCU

(1) スタッフ

看護師 16 名（新生児集中ケア認定看護師 1 名含む）

(2) 年度報告

令和 3 年度は、

- ① 退院支援を充実させ患者家族を中心に考えた看護を提供する
- ② 職場環境を整え安全な看護が提供できる
- ③ 勉強会を開催しスタッフの知識を高め質の高い看護を提供する

の 3 つをあげ、取り組みました。

退院支援については児が入院中から MSW と連携を図り、退院後の地域のサポートが得られるよう各種のカンファレンスを活発に実施しました。また退院指導マニュアルの見直しを行い改訂することが出来ました。日々の業務に対して改善事例をスタッフから募ったことで 5 事例の業務改善を行いました。また勉強会を定期的の実施し、スタッフの知識向上を図りました。

(3) 今後の目標

今後もスタッフと協働し魅力ある職場づくりを目指すと共に、患者にとって充実した退院支援が受けられるよう取り組んでいきたいと思ひます。

師長 小林 葉子

22-8 3 階病棟

(1) スタッフ

看護師 20 名 准看護師 1 名 非常勤看護助手 1 名 非常勤保育士 1 名

(2) 年度報告

令和 3 年度の目標は、

- ① 安心、安全な看護を提供する
- ② 患者・家族の視点に立った看護を提供する
- ③ 働きやすい職場環境を整える

とし、各チームで活動をしてきました。

泌尿器科・小児科・神経内科の混合病棟であり安全な看護が提供できるように業務内容の見直しや新しく導入された手術に対しての知識技術の向上に努めました。

また、コロナ禍のため面会制限がある中で家族との関りやコミュニケーションの工夫等行いました。小児科では、七夕、夏祭り、クリスマス会など季節の行事を行っていますが、密にならないような工夫をして入院中の患児や患者様にも楽しむことができるようなイベントを行いました。

(3) 今後の目標

感染予防の徹底と患者・家族の視点に立った温かい看護を提供できるように取り組んでいきます。

師長 鈴木 ひろ美

22-9 4階東病棟

(1) スタッフ

看護師 24 名 看護助手 2 名

(2) 年報報告

令和 3 年度病棟目標は、

- ① 多職種と連携を図り、退院後の生活を考えた看護を提供する
- ② 患者・家族が安心できる療養環境を提供する
- ③ 誤薬に対する意識を高め、安全な看護を提供する
- ④ モチベーション上昇を意識した環境改善をする

を掲げ活動しました。

在宅療養支援では退院指導マニュアル・在宅療養支援マニュアルを積極的に活用し退院指導を行いました。環境改善では病棟内の物品の整理や入院準備をチェックリスト化したことでプロセスの円滑化を図ることができました。

(3) 今後の目標

患者・家族の思いに寄り添い、多職種との連携を図りながら質の高い看護の提供に努めていきます。

師長 山口 景子

22-10 4階西病棟

(1) スタッフ

助産師 18 名 看護師 8 名（乳がん看護認定看護師 1 名含む）非常勤看護師 1 名
非常勤看護助手 1 名

(2) 年度報告

令和 3 年度の病棟目標は、

- ① 専門的知識を高め、患者のニーズにあった看護の提供を図る
- ② 顧客満足と看護サービスの充実を図る
- ③ 安心して安全な看護の提供ができる
- ④ 働きやすい職場環境を整える

を掲げ 1 年間活動してきました。

年度は、入院が増えてきている、外科・整形外科看護の知識の向上に努めました。新たにリハビリカンファレンスを開始し、また、妊婦のサービス向上のため、保健指導マニュアルを作成し、妊婦全例に外来で保健指導を開始しました。

(3) 今後の目標

今後も地域の保健師や他部門と連携を図り、妊娠中から退院後まで継続した看護が提供できるように取り組んでいきます。

師長 野村 美菜子

22-11 5階西病棟

(1) スタッフ

看護師 32 名 非常勤看護助手 2 名

(2) 年度報告

令和3年度は、

- ① 安全な療養環境の提供
- ② 感染対策意識・行動の強化
- ③ 看護記録の充実
- ④ 患者・職員満足度の向上
- ⑤ 災害対策意識・実践力の向上
- ⑥ 退院支援の充実

の6つを目標に掲げ、1年間取り組みました。

チーム毎の勉強会を開催し知識の向上・意識の強化に努め、安全な療養環境の整備、感染症の対応について学び、机上シミュレーションによる防災意識向上、患者家族の希望を取り入れた退院支援の実践に努めました。

(3) 今後の目標

今後も専門的知識・技術を習得し、看護の質を向上させ、安全で安心な看護が提供できるように努めていきます。

師長 関 靖枝

22-12 6階東病棟

(1) スタッフ

看護師 25 名 非常勤看護助手 3 名

(2) 年度報告

令和3年度は、

- ① 患者の視点に立った看護サービスの提供ができる
- ② 専門職として自律し安全・安心な質の高い看護を提供する
- ③ 働きやすい職場環境を整える

を目標に上げ、目標達成に向け1年間活動しました。

安全・安心に治療・看護を行えるよう勉強会を開催し、専門的知識の向上に努めてきました。感染予防策を徹底により擦式消毒使用量も増え、手洗いマイスターも増えました。また、安全対策にも取り組み、安全な療養環境を提供できるよう努めました。多職種と連携しカンファレンスを充実させ患者さん・ご家族の意向を考慮した上で退院支援を行っています。

(3) 今後の目標

患者さん・ご家族の意向を聞きながら、多職種との連携を図り、質の高い看護の提供に努めていきたいと思ひます。

師長 石関 しのぶ

22-13 6 階西病棟

(1) スタッフ

看護師 16 名 非常勤看護助手 2 名

(2) 年度報告

令和 3 年度の病棟目標は、

- ① 患者さんの退院後の生活を重視した看護を提供する
- ② 療養環境を整え安全安心な看護を提供する
- ③ 働きやすい職場環境を整える

の 3 つの目標を掲げ全員で取り組みました。

当病棟は回復期リハビリ病棟であり、急性期の治療が終了し、家庭復帰を視野に入れ、医師、理学療法士、多職種と連携を図り、患者・家族の希望に添えるようにリハビリテーションを行い、日常生活動作能力の向上を図りました。また、入院中の療養環境に対しても、転倒事故等を未然に防ぐための取り組みを行い、安全・安心な入院生活が送れるように努めました。

(3) 今後の目標

患者個々の希望に添えるように、多職種と連携し情報共有を図り、早期から日常生活動作獲得へ向けてリハビリテーション、看護援助を行っていきます。

師長 秋間 由博

22-14 7 階東病棟

(1) スタッフ

看護師 26 名 派遣看護助手 3 名

(2) 年度報告

令和 3 年度病棟目標は、

- ① 看護の質の向上する
- ② 安全な療養、心地よい接遇により患者満足度の向上を図る
- ③ 働きやすい職場風土を整備する

を目標に掲げ、活動しました。

急変に対応できる力を強化し、また看取りの看護に真摯に向き合えるよう研鑽しました。そして、患者様に医療職者として適切な態度で接することができるよう、職場風土の見直しを行いました。長引く COVID-19 により面会制限が繰り返される中で、心配されるご家族様に安心していただける対応ができるよう取り組んでいます。

(3) 今後の目標

呼吸器、消化器内科としての専門性を高め、入院時から退院後を見据えた療養支援を展開していきます。

師長 武田 智子

22-15 7 階西病棟

(1) スタッフ

看護師 25 名 派遣看護助手 2 名

(2) 年度報告

令和 3 年度病棟目標は、

- ① 安全・安心な看護を提供する
- ② 看護記録の質の向上を図る
- ③ 質の高い、患者に喜ばれる看護を提供する
- ④ 職場環境を整備し、モチベーションの向上を図る

と掲げ、チームで取り組みました。

感染対策では、手指消毒の徹底を図り、消毒液の使用量が増加しました。看護記録については、記録監査を行いフィードバックを繰り返すことで、質の向上につながりました。また、働きやすい職場環境の整備、患者満足の向上のためのベッド周囲の環境整備にも取り組みました。看護研究では、当病棟看護師のストレスとモチベーションの関係性について調査しました。調査結果を今後の職場の活性化に活かしていきます。

(3) 今後の目標

更に専門的知識・技術の質向上に努め、患者さん、ご家族に寄り添う、温かい看護を提供できるように努めていきます。

師長 村田 絹代

22-16 8 階病棟

(1) スタッフ

看護師 24 名 助産師 2 名 看護助手 1 名

(2) 年度報告

令和 3 年度病棟目標は、

- ① 病棟内感染の防止
- ② 知識・技術の向上
- ③ 内服事故件数の減少
- ④ 安全な療養環境を整える
- ⑤ 記録の充実を図る

の 5 つを掲げ、感染症看護が充実し、様々な年代の患者様に対応できるよう、活動しました。

年間の新入院患者数は、388 名でした。常にマニュアルを見直し、新しい治療に対応できるよう学びを深めました。

(3) 今後の目標

様々な基礎疾患を持った感染症患者様の看護が実践できるよう、広く知識・技術の向上に努力していきます。

師長 鈴木 由美子

23 事務部

23-1 総務課

(1) スタッフ

総務課長以下庶務係2名、人事係4名、臨時職員5名（一般事務2名、医局助手1名、医局事務1名、保育士1名）の計12名です。

(2) 年度報告

「働き方改革推進検討部会」にて、医師の負担軽減及び看護師の負担軽減を中心に協議するとともに、6月から勤怠管理システムの本稼働を行い、ペーパーレス化による業務の効率化及び出退勤時間管理（時間外勤務の定義等の設定）が出来るようになったことから、今後、医師の働き方改革における宿日直許可も含めた時間外勤務を把握し、医師の勤務時間短縮計画の策定に向け検討していきます。

組合議会の開催については、令和3年10月22日に令和2年度病院事業会計決算を中心とした審議を行い、令和4年2月18日には、令和4年度病院事業会計予算を中心とした審議を行いました。

議会とは別に、昨年度に引き続き「桐生地域医療組合 管理者・副管理者会議」を開催し、院長、管理者（桐生市長）、副管理者（みどり市長）が直接意見交換を行いました。当院を取り巻く課題等の情報を共有するとともに、運営の基本方針や重要施設など将来的に目指すべき方向性について協議を行いました。この会議は令和3年度中に3回開催され、次年度以降も定期的に開催する予定となっております。また、11月30日に「管理者・副管理者との意見交換会」を開催し、管理者・副管理者と当院職員による意見交換を行いました。

令和3年度も、群馬県自治体病院開設者協議会の幹事を務めました。新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度と同様に総会等は書面開催となっています。

課長補佐 石井 理彦

23-2 経営政策課

(1) スタッフ

課長1名、病院政策係2名、経営推進係2名、会計年度職員1名が配置。

(2) 年度報告

病院政策係では、当院は群馬大学医学部附属病院・公立館林厚生病院の協力病院となっているため、群馬大学医学部附属病院から1名、公立館林厚生病院から産婦人科、小児科研修に2名受入れました。当院研修医と併せて11名の臨床研修医が当院で研修を行い、様々な支援や調整を行いました。その他臨床研修に関する医学生対象のガイダンスや様々な情報提供を行うなど、初期研修医確保に努めています。また、病院見学・実習では、随時医学生の受入を行っています。

このほか、「院内広報」を毎月、「院外広報（ほほえみ）」を年4回発行するほか、医療と健康に関する市民向け情報紙への原稿提供なども行っています。

経営推進係では、出納管理に加え、企業債の申請、議会の議決対象である決算、予算の調整、構成団体からの繰越金の請求、会計監査等を行いました。会計監査は年3回実施し、監査委員の了承を得ました。

(3) 今後の目標

オンラインPR動画の作成や、オンラインガイダンスなどに積極的に参加するほか、情報発信に努め、構成団体の医師確保事業を活かし、初期研修医の一層の確保を支援します。

健全な病院運営のため院内全体での取組みに積極的にに関わり、今後とも構成団体との連携を強化しながら、経営の安定・効率化をすすめていきます。

課長補佐 藺田 達也

23-3 契約管財課

(1) スタッフ

令和3年度のスタッフは、課長、契約管財係3名、施設係1名、会計年度任用職員2名の計7名で、物品管理、施設設備管理、清掃、洗濯、滅菌業務等で多くの委託職員を抱えています。

(2) 年度報告

医療機器整備委員会で購入の承認を得て予算措置された循環器内科の体外式ペースメーカ、手術室で使用する3D先端湾曲ビデオスコープ、乳腺外科や整形外科で使用する超音波画像診断装置を始めとした13種14台、そのほか修理不能や診療上必要な機器などで搬送用人工呼吸器やOAEスクリーナーなどを始めとした臨時的購入10種10台、計23種24台の医療機器を購入しました。さらに、医療用備品についても、シリンジポンプ、輸液ポンプ、ハイローストレッチャー、ビデオ咽頭鏡、薬品保冷庫などを始めとした29種52台を購入しました。

購入整備のほかにも、既存機器や備品類の点検や修繕手配、加えて薬品、診療材料、給食材料、印刷物、消耗品などの調達管理を行い、価格交渉などについての対応も行いました。

さらに、大規模な建設改良工事として、新サーバー室のサーバー更新に伴う電源及び空調機の増設工事を行いました。

この他にも、消防設備、医療ガス設備、電気設備等の点検や修繕、火災や地震、洪水時における避難訓練の計画、実施等、幅広い範囲で病院運営に貢献いたしました。

当課は省エネにも取り組んでおり、令和3年度の温室効果ガス排出量3,904tであり、令和2年度の温室効果ガス排出量3,957tに対して1.3%の削減となっております。今後も導入機器の選定や、空調の運用方法の見直しなどを継続的に行い、温室効果ガスの削減を図っていきます。

(3) 今後の目標

今後も病院維持のための建設改良工事計画、必要となる医療機器等購入計画など、継続となる事業や物品購入の調査・調整等、限られた予算をどう生かしていくか、状況の変化を察知し「最小の経費で最大の効果」を念頭に、患者さんには「安心、安全で最良の療養環境の提供」を、また、職員には「より働きやすく効率的な職場環境づくり」を考え、取り組んでまいります。

係長 石原 孝泰

23-4 医事課

(1) スタッフ

令和 3 年度の医事課スタッフは、課長、医事係 11 名（臨時事務 6 名含む）、診療情報管理係 13 名（臨時職員 2 名含む）、情報システム推進係 3 名、合計 28 名となりました。

また、総合受付、各科受付、外来算定、入院業務、電算オペレーター業務は業務委託、医師事務作業補助は一部派遣業務で運営しております。

(2) 年度報告

平成 27 年 1 月に稼働した電子カルテシステムが更新から 7 年以上経過し老朽化したため、令和 4 年 3 月 14 日に電子カルテシステムを更新いたしました。システム更新に当たっては「情報システム検討委員会」にて協議・検討を積み重ねてまいりました。

(3) 今後の目標

- ① 施設基準取得のための運用及び環境整備
- ② D P C の調整係数改定の研究
- ③ 増収への取り組みとさらなる費用削減の取り組み
- ④ 医師の負担軽減対策として医師事務作業補助者の増員および業務内容の充実
- ⑤ 未収金の発生防止と回収強化

係長 本田 英之

23-5 地域医療連携室

(1) スタッフ

室長（兼副院長兼脳神経外科部長）、主幹（兼副看護部長）、地域医療担当看護師 9 名（うち患者支援窓口担当 3 名）、地域連携係 6 名（うち臨床心理士 1 名、臨時職員 2 名）、医療相談係 3 名（うち社会福祉士 3 名）で業務を行っています。

(2) 年度報告

「地域医療支援病院」として、紹介率 65%及び逆紹介率 45%以上の維持確保と地域の医療機関との連携強化を図っています。また、オンライン検査予約システム「桐生おりひめネット」も活用され、院外からの共同利用による放射線検査は、令和 3 年度 計 944 件（CT 359 件、MRI 540 件、RI 45 件、骨塩定量 0 件）と前年度を大きく上回りました。地域医療連携室だより『きずな』は、診療の特集を始めエキスパートの紹介など病院内の情報を掲載、定期刊行に加え臨時号も刊行し、地域の医療機関に配付しています。また、地域の医療従事者向けの研修はコロナ禍の折、1 回の開催となりましたが、がん専門看護師による「がん患者さんの ACP を考える」をテーマに講演し好評をいただきました。

「地域がん診療連携拠点病院」としては、緩和ケア認定看護師と公認心理士を専従配置として相談機能の強化を図りました。また、昨年開催できなかった緩和ケア研修会を今年度は開催し、院内外から 30 名の医師・看護師に参加していただきました。がん地域連携パスは対象患者さんが少ない中、子宮頸がん 6 例、乳がん 6 例、前立腺がん 1 例を運用することができました。がん地域連携パスの運用効果として、地域との情報共有が密になるとともに、患者さんの基幹病院への通院負担が軽減することが挙げられ、患者サービス向上の一役を担っていると考えます。

入退院支援においては、予定・緊急入院患者さんの入院支援および病棟担当者への情報提供、早期から介入可能な退院支援体制を整えています。桐生市医師会と共同で作成した「桐生地域退院調整ルール」に則り、地域との連携のもと在宅療養支援につないでいます。

さらに、桐生市・みどり市の要保護児童対策協議会には、オブザーバーとして小児科医師とともに MSW が毎月参加しています。また、ハイリスク妊婦へ積極的に介入し、児童相談所や自治体保健師との連携をより強固なものとして、継続して地域の児童虐待対策に取り組んでいきます。

(3) 今後の目標

- ① 地域医療支援病院指定要件の維持
- ② 地域がん診療連携拠点病院指定要件の維持
- ③ 紹介元への速やかなご報告およびお返事の徹底
- ④ 集患へ向けての地域との連携と広報活動
- ⑤ 地域包括ケアシステムの推進における病病・病診・看看連携の強化
- ⑥ 専門知識（看護師、MSW 等）を有する職員の育成

主幹 上原 美奈子

23-6 健診室

(1) スタッフ

室長（兼院長補佐兼副院長兼放射線科診療部長）、主幹、主任、健診係 10 名（うち臨時看護師 5 名、臨時事務 1 名、派遣事務 4 名）で業務を行っています。

(2) 年度報告

一日（日帰り）ドック、健康診断等（企業健診、脳ドック、肺ドック等）多岐にわたる健診業務を行っています。各検査項目は専門の医師が判定を担当し、異常が認められた場合は、かかりつけ医もしくは当院で精密検査や治療を受けることができるよう運用しています。

ただし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一泊二日ドックは健診業務を休止し、肺機能検査も年度内中止となっています。また、システム更新もあり 3 月の受入れ制限により、受検者の方々にご迷惑をおかけし、ご理解、ご協力をいただきながらの運用となっています。

令和 3 年度の件数は、一日（日帰り）ドック 2,643 件、健康診断等 3,705 件で、前年度件数と比較して、健康診断等の件数は増加しています。令和 2 年度から経鼻内視鏡検査を実施しており、件数は 362 件で、前年度と比較すると 2 倍以上増加しています。新規項目のアミノインデックスは 18 件、ロックインデックスは 17 件、コロナ抗体検査は 9 件です。なお、平成 22 年度より乳がん啓発活動「ジャパン・マンモグラフィー・サンデー」事業に参加しており、今年度は 14 名が受検しています。また、平成 28 年度より開催いたしました「マンモコース」は 70 件です。

(3) 今後の目標

今後も、検査項目につきましても様々なご意見を取り入れ、受検をしやすいように、多くの方にご利用していただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

主幹 宮田 晋一

23-7 医師確保対策推進担当

(1) スタッフ

2名

(2) 年度報告

医師の確保に向けた取り組みとして、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響が更に拡大したことにより、群馬大学各教授へ挨拶文を送付し、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数等が減少した頃合いをみて、院長、総務課長、経営政策課長、状況に応じて管理者にもご同行いただき、オンライン面談等も活用しながら、積極的に働きかけを行いました。教授訪問後に各診療科部長と院長面談を実施し情報共有等を図りました。

民間医局等も積極的に活用し医師確保を図り、結果として、令和4年度採用として、育児短時間勤務制度を利用する耳鼻いんこう科の常勤医師1名の増員に至りました。

(3) 今後の目標

医師の確保については病院の最優先事項ですので、引き続き関係大学等に継続した要望活動と、退職後の医師に再就職依頼、民間医局が可能な診療科には紹介会社を利用した医師確保及び医師の働き方改革に伴う、育児短時間勤務制度を利用する医師の積極的な採用など、多方面から行っていきたいと考えています。

医師確保対策推進担当（副） 石井 理彦

XV 病院施設及び医療機器

1 建設改良工事等

(1) 地下1階サーバー室電源工事

外来病棟地下1階サーバー室に設置されているサーバーの更新に伴い、サーバー用電源及び、サーバー冷却用の空調機の電源工事を行いました。

(2) 地下1階サーバー空調工事

外来棟地下1階サーバー室に設置されているサーバーの更新に伴い、新サーバーを冷却する空調機設置工事を行いました。

2 病院施設設備の概要

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
空調設備	ボイラー	4	ガス貫流式ボイラー 三浦工業(株) SQ-2000AS 定格出力 2,000kg/H、最高使用圧力0.98Mpa ガス消費量 113.4m ³ N/H
		2	ガス貫流式ボイラー 三浦工業(株) SQ-1200ZS 定格出力 1,200kg/H、最高使用圧力0.98Mpa ガス消費量 69.4m ³ N/H
	冷凍機	1	蒸気吸収式冷凍機 QAW-HS100FS 蒸気圧0.78Mpa、冷凍能力 100Rt
		2	蒸気吸収式冷凍機 TSA-DW-HS400FS 蒸気圧0.78Mpa、冷凍能力 400Rt
		1	ターボ冷凍機 三菱重工(株) ETI-20 冷凍能力 703.3kW / 200USRT 冷水流量 120.7m ³ /h 冷却水流量 141.9m ³ /h 電源 3相 400V 50Hz 電源容量 117kW
	冷水一次ポンプ	4	片吸込渦巻型 80×65φ×1,010ℓ/min×14mAq 1台 150×150φ×4,040ℓ/min×14mAq 2台 150×100φ×2,012ℓ/min×14mAq 1台
	冷却塔	5	超低騒音型 角型 冷却能力 105Rt (SDW-P105ASS) 1台 200Rt (SDC-U200ASSD) 1台 400Rt (SDW-U405ASSD) 2台 100Rt (SDW-U100ASSD) 1台
	冷却水ポンプ	6	片吸込渦巻型 冷却水ポンプ 100×80φ×1,670ℓ/min×12mAq 1台 125×100φ×1,300ℓ/min×45mAq 2台 200×150φ×6,670ℓ/min×24mAq 2台 150×100φ×2,358ℓ/min×20mAq 1台
	冷水二次ポンプ	2	片吸込渦巻型 150×150φ×2,000ℓ/min×30mAq 1台 〃 (INV) 150×100φ×2,000ℓ/min×31mAq 1台
	熱交換器	3	蒸気温水交換熱量 1,320,000kcal/H シェルアンドチューブ式
	温水一次ポンプ	3	片吸込渦巻型 200×200φ×4,450ℓ/min×10mAq 3台
	温水二次ポンプ	2	片吸込渦巻型 150×100φ×1,500ℓ/min×30mAq 1台 〃 (INV) 150×100φ×1,500ℓ/min×32mAq 1台
	冷温水ポンプ	3	片吸込渦巻型 150×100φ×3,200ℓ/min×30mAq 2台 〃 (INV) 150×100φ×3,200ℓ/min×32mAq 1台

設備名	設 置 機 械	数量	規 格 及 び 内 容
空調設備	真空給水ポンプ	2	複式型、相当放熱面積500cm ²
	薬注装置	14	清缶剤用6台、脱酸剤用3台、防錆剤用5台
	空調機	70	冷水コイル、温水コイル、冷温水コイル、加湿器組込 39台、 パッケージ型空調機 31台
	フィルタユニット	5	RI密閉型サイトアクセスユニット他
	全熱交換器	12	380A 2台、150A 1台、100A 6台、65A 2台、30A 1台
	ファンコイルユニット	750	冷温水コイル、個別制御方式
	クリンフローユニット	69	天井カセットコイル組込型 HEPAフィルター使用 冷暖房能力、風量調節スイッチ
	ターミナルコイル	18	ダクト型冷温水コイル 3台、温水コイル 15台
	定風量装置	22	電気式 給気 11台、排気 11台
	給気、排気ファン	179	シロッコファン 他 給気ファン 35台、排気ファン 139台 (ブースターファン 2台) 排煙ファン (片吸込リミットロードファン型) 5台
電気設備	電力引込設備	2	本線 (清瀬線)、予備線 (三原線) 2回線受電 6.6kV 引込開閉器盤 (2面)
	受変電設備	1	主変電室、第二変電室、X線変電室、外来変電室 主遮断機 2-PC方式 受変電設備容量 6,000kVA、契約電力 1,360kW
	非常用 自家発電設備	1	ディーゼル16気筒、1,500rpm、 6.6kV50Hz、3φ3W、1,500kVA (1,200kW) 自動起動確立 40秒
	無停電電源装置	1	CVCF装置 150kVA、100V、対処時間5分 蓄電池 MSE-800、UP400-12R
	電話配管設備	1	端子盤 (MDF含) 46面、回線口 478口
	院内PHS設備	1	PHS 313台
	放送設備	3	一般及び非常用放送アンテナ 1,200W 各所ローカルアンテナ装置、非常時25回線一斉
	ナースコール設備	1	ナースコール制御機10台、ナースコールボート型親機Z型60局5台、 80局5台、ナースコール子機535台、メディカルアンテナ 55台
衛生設備	給水設備	10	上水受水槽 180m ³ 1基
			中間水槽 (除鉄除マンガン処理後) 21m ³ 1基
			処理水槽 (井水処理装置設備) 2m ³ 1基
			MF膜ろ過装置 (井水処理装置設備) 1基
			雑用水槽及び消防用水槽 370m ³ 1基
			上水高架水槽 36m ³ 1基
			雑用水高架水槽 27m ³ 1基
			感染症系統上水高架水槽 1.1m ³ 1基
			感染症系統雑用水高架水槽 0.65m ³ 1基
			消防用補給高架水槽 0.5m ³ 1基
	給湯設備	13	ストレージタンク (鋼板製内面プレート) 5,000ℓ 3基 電気式湯沸器 (1φ×200V×3kW) 10基

設備名	設 置 機 械	数量	規 格 及 び 内 容
衛生設備	排水設備	1	(屋内)汚水雑排水分流式 (屋外)汚水雑排水雨水一管式 汚水集中ポンプ 10台、湧水ポンプ 12台、 雑排水ポンプ 20台、雨水ポンプ 4台 ※(排水処理施設)接触酸化方式 RI排水処理施設24.6m ³ /d 処理水量 厨房、化学排水処理施設56m ³ /d 処理水量 感染排水処理施設30m ³ /d 処理水量(散水3方式)
	都市ガス	1	中圧ガス 100φ(ボイラー用) 低圧ガス 100φ(厨房、検査用)
	中央集じん設備	1	乾式濾布方式集じん機、吸引弁 288個
	医療ガス設備	1	液体酸素タンク 1,690m ³ 1基、警報機 14基、 シャットオフバルブ 36個、アウトレット(ベッドユニット含む) (壁付、天吊、リール式、シーリングモジュール) 1,144個
	人工空気	1	人工空気タンク 4m ³ 1基
	吸引機	3	吸引装置 2台、歯科用吸引装置 1台
消防用設備	自動火災 報知設備	1	R型受信機(R-24C) 予備電源内蔵 550回線、表示機30回線13台、発信機P型一級 熱感知器、差動式 273個、定温式 267個 煙感知器、光電式 928個
	院内非常電話設備	1	電話機 59台(地下火災通報装置防災センター直通)
	屋内、屋外 消火栓設備	1	屋内消火栓 43台、屋外消火栓 5台 900ℓ/min×78m×18.5kW(屋内ポンプ 1台) 750ℓ/min×53m× 11kW(屋外ポンプ 1台)
	スプリンクラー設備	1	ヘッド数 3,265個、流水作動弁 12個、ポンプ 1台 900ℓ/min×99m×30kW、ヘッド溶解72°
	ハロゲン化物消火 設備	1	ハロゲンガス 1301 容器 19本、FK-5-1-12 容器 1本、 噴射ヘッド数 18個、スプレーカー 12個
	防火、防排煙 設備	1	連動制御器 1台 自動開閉装置 245個(ダンパー、排煙口含む) 自動起動装置 119個(煙感知器、熱感知器) 音響装置(電子ブザー) 23個
	簡易粉末消火設備	1	厨房ダクト消火用 簡易自動消火装置 12台

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
昇降機設備	エレベーター	8	乗用 750kg 11名 90m/min 9stop 1台 450kg 6名 60m/min 9stop 1台 寝台用 1,000kg 15名 60m/min 9stop 2台 1,000kg 15名 45m/min 4stop 1台 荷物用 1,000kg 60m/min 9stop 1台 非常用 1,150kg 17名 90m/min 10stop 1台 " 2,000kg 30名 90m/min 10stop 1台 自家発電連動、火災地震停電時自動着床、 遠隔監視(東京)
	タムウォーター	3	30kg 30m/min 2stop 2台、7stop 1台
中央監視設備	中央監視装置	1	Savic-net FX 監視用PC、23.8インチディスプレイ、カラーレーザープリンター、 グラフィックパネル、システム制御盤

3 主な医療機器購入一覧

申請部署	設置場所	医療機器名（規格）	製造会社名等	数量
内科	循環器内科	体外式ペースメーカー	Ospyka	1
	7階西病棟	超音波画像診断装置	キヤノン	1
外科	手術室	3D先端湾曲ビデオスコープ	オリンパス	1
外科・乳腺外科	外来	超音波画像診断装置	富士フィルム	1
	4階西病棟	頭皮冷却装置	センチュリー メディカル	1
整形外科	外来	超音波画像診断装置	コニカミノル タ	1
	手術室	コードレスドライバークラウチングピース	日本ストライ カー	1
脳神経外科	6階東病棟	セントラルモニタ	フクダ電子	1
泌尿器科	外来	膀胱用超音波画像診断装置	大塚製薬	2
	腎センター	個人用多用途透析装置	日機装	1
	腎センター	個人RO装置	日本ウォー ターシステム	1
	外来	ウロダイナミクス装置	ラボリー	1
産婦人科	4階西病棟	CTGデータPDF変換システム	アトムメディ カル	1
眼科	外来	スリットランプ一式	ハーグストレ イト	1
耳鼻いんこう 科	外来	OAEスクリーナー	リオン	1
麻酔科	ICU・GCU	ベッドサイドモニタ	日本光電	1
リハビリテー ション科	リハビリテー ション室	コードレスバイク	セノー	1
	6階西病棟	能動型下肢用他動運動訓練装置	CPM	1
放射線科	X線テレビ室	据置型デジタル式汎用X線透視診断装置	島津製作所	1
	核医学室	核医学診断用装置	GEヘルスケア ジャパン	1
中央検査部	採血室	自動採血管準備装置	テクノメディ カ	1
臨床工学科	臨床工学科	パルスオキシメータチェッカ	メッツ	1
	医療機器セ ンター	搬送用人工呼吸器	ドレーゲル	1
薬剤部	抗がん剤調 製室	バイオハザード対策用キャビネット	日科ミクロン	1

XVI 図書

1 受入図書

(1) 図書

	図 書 名
1	今日の治療薬 2021 (3冊)
2	病気がみえる vol. 1 消化器 第6版
3	病気がみえる vol. 13 耳鼻咽喉科 第1版
4	病気がみえる vol. 14 皮膚科 第1版
5	病気がみえる vol. 2 循環器 第5版
6	病院感染対策ガイドライン 2018年版 【2020年3月増補版】
7	新臨床腫瘍学 がん薬物療法専門医のために 改訂第6版
8	知っておきたい乳房の画像診断
9	当直医マニュアル 2021 第24版 (2冊)
10	肝内胆管癌診療ガイドライン 2021年版
11	臨床・病理 胆道癌取扱い規約 2021年3月 第7版 (3冊)
12	I PMN 国際診療ガイドライン 2017年版 日本語版
13	肝硬変診療ガイドライン2020 改訂第3版
14	遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2020年版
15	大腸ポリープ診療ガイドライン2020 改訂第2版
16	膵癌診療ガイドライン 2019年版 第5版
17	患者・市民・医療者をつなぐ 膵がん診療ガイドライン 2019の解説
18	TVMテクニックⅡ ーより安全な骨盤臓器脱メッシュ手術を求めてー (DVD付)
19	病気がみえる vol. 4 呼吸器 第3版
20	病気がみえる vol. 5 血液 第2版
21	病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器 第3版
22	膵癌取扱い規約 2020年9月 第7版 【増補版】
23	臨床・病理 肺癌取扱い規約 2021年3月 第8版 【補訂版】 (2冊)
24	小児超音波検査法ー腹部編
25	心エコーハンドブック 心不全
26	マンモグラフィガイドライン 第4版
27	マンモグラフィ診断の進め方とポイント 第5版
28	エビデンスに基づく Q&Aでわかる皮膚感染症治療
29	歯科医師のための口腔顎顔面痛 脳と心と痛みの科学
30	日本病理剖検輯報第62輯
31	当直ハンドブック (2冊)
32	IRCADに学ぶ LSCテクニック 骨盤臓器脱・腹腔鏡下メッシュ手術の新スタンダード
33	エコーでできる評価と管理 バスキュラーアクセス超音波50症例
34	胃癌治療ガイドライン 医師用 2021年7月改訂 第6版 (2冊)
35	がんサポーターズケアのための漢方活用ガイド
36	ベーチェット病診療ガイドライン2020
37	改訂第6版 がん化学療法レジメンハンドブック
38	放射線関係法規概説 ー医療分野も含めてー 第9版

39	DPC点数早見表 2020年4月 2021年4月増補版
40	放射線・医療安全管理学
41	MR撮影技術学 改訂3版
42	泌尿器科・病理・放射線科 腎癌取り扱い規約 第5版 (3冊)
43	病院歯科医ポケットマニュアル
44	感染症プラチナマニュアル Ver. 7 2021-2022 Grande
45	MRI 応用自在 第4版
46	泌尿器・病理・放射線科 腎盂・尿管・膀胱癌取り扱い規約 第2版 (3冊)
47	現場で使える クリニカルパス実践テキスト 第2版
48	がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで 第2版
49	日本食品標準成分表 2020年版 (八訂)
50	日本食品標準成分表 2020年版 (八訂) アミノ酸成分表編
51	今日の治療薬 2022 (9冊)
52	新 小児薬用量 改訂第9版
53	質とスピードが劇的にレベルアップ！調剤業務の新常識 (調剤と情報 2021年10月臨時増刊号)
54	1年目薬剤師の強化書 (月刊薬事 2021年11月臨時増刊号)
55	腎臓病薬物療法コンサルテーション (月刊薬事 2021年7月増刊号)
56	新生児診療マニュアル 第6版
57	小児疾患の薬物治療ガイドライン総まとめ (月刊薬事 2020年5月臨時増刊号)
58	モダトレ X線、CT、心電図、エコー、MRI・MRAで薬物治療に強くなる！
59	こんなときどうする！？整形外科術後リハビリテーションのすすめかた
60	胸郭運動システムの再建法 第2版
61	神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略が決まる
62	リハに役立つ 治療薬の知識とリスク管理
63	リハで活用！わかりやすい運動器エコー
64	コンパスローズ英和辞典
65	国民衛生の動向 2021/2022
66	注射薬調剤監査マニュアル 2021
67	大腸癌治療ガイドライン 医師用 2022年版 (4冊)
68	NST・緩和ケアチームのための がん栄養管理完全ガイド
69	がん化学療法レジメンハンドブック 改訂第7版

2 購入雑誌

(1) 和雑誌

タイトル		配架	タイトル		配架
1	内科	図書室	47	皮膚科の臨床	図書室
2	胆と膵		48	臨床皮膚科	
3	臨床心理学(通常号のみ)		49	皮膚病診療	
4	こころの科学(通常号のみ)	図書室	50	西日本皮膚科	
5	脳神経内科	図書室	51	歯界展望	図書室
6	Heart View	図書室	52	デジタルハイジーン	
7	臨床眼科	図書室	53	理学療法ジャーナル	リハビリ テーション 科
8	あたらしい眼科		54	作業療法ジャーナル	
9	眼科手術		55	理学療法	
10	眼科ケア	眼科	56	Clinical Rehabilitation 臨床リハ	
11	Neurological Surgery 脳神経外科	脳神経外科	57	総合リハビリテーション	図書室
12	脳神経外科速報		58	救急医学	
13	胸部外科	図書室	59	病理と臨床	病理診断科
14	泌尿器外科	図書室	60	臨床検査	中央検査部
15	臨床泌尿器科		61	日本臨床検査医学会誌	
16	腎と透析		62	Medical Technology	
17	産科と婦人科	図書室	63	臨床と微生物	
18	周産期医学		64	検査と技術	薬剤部
19	産婦人科の実践		65	月刊薬事	
20	JOHNS	耳鼻	66	薬局	
21	Clinical Engineering	臨床工学科	67	調剤と情報	
22	みんなの呼吸器 Respica(レスピカ)(増刊 号は工学科のみ)	臨床工学科・7東	68	レシピプラス	食養科
23	ペインクリニック		69	臨床栄養	
24	LISA	麻酔科	70	Nutrition Care	図書室
25	臨床麻酔		71	日本医事新報	
26	救急・集中治療		72	病院	
27	INTENSIVIST		73	医学のあゆみ	
28	臨床放射線	放射線科	74	INFECTION CONTROL	看護部
29	画像診断		75	レジデントノート	
30	INNERVISION		76	癌と化学療法	
31	看護	図書室	77	月刊ナースマネジャー	手術室
32	看護展望		78	看護人材育成	ICU
33	看護管理		79	オペナーシング	腎センター
34	菅儀部長通信	看護部	80	重症集中ケア	NICU
35	外科	図書室	81	透析ケア	
36	手術		82	赤ちゃんを守る医療者の 専門誌with NEO	GCU
37	臨床外科		83	小児看護	
38	消化器外科		84	泌尿器 Care&Cure Uro-Lo	3F
39	整形外科	図書室	85	地域連携 入退院と在宅支援	4 東
40	臨床整形外科		86	助産雑誌	4 東西
41	整形・災害外科		87	整形外科看護	5 西
42	日本整形外科学会誌		88	ブレインナーシング	6 東
43	小児科診療	図書室	89	リハビリナース	6 西
44	小児内科		90	ハートナーシング	7 西
45	小児科		91	エキスパートナース	外来
46	病院安全教育	医療安全対策室	92	MTJ(メディカルテスト ジャーナル)*情報誌(タブ ロイド)	中央検査部

(2) 洋雑誌

タイトル		配架
1	Gastroenterology	図書室
2	JAMA (The Journal of the American Medical Association)	
3	New England Journal of Medicine	
4	Diabetes Care	
5	GIE (Gastrointestinal Endoscopy)	
6	The Lancet	
7	Hepatology	オンライン
8	Liver Transplantation	図書室
9	Annals of NEUROLOGY	
10	Journal of Neurosurgery/J. Neurosurgery: Spine	脳神経外科
11	Neurosurgery	
12	Obstetrics & Gynecology	図書室
13	Journal of Minimally Gynecology	オンライン
14	Radiology	放射線科
15	The Bone & Joint Journal	図書室
16	JBJS (The Journal of Bone and Joint Surgery. American Vol.)	
17	The Journal of Orthopaedic Science	
18	Archives of Disease in Childhood (including Fetal and Neonatal Edition)	
19	The Journal of Pediatrics	
20	Pediatrics	

XVII 病 院 行 事

1 主な行事

実施年月日	行 事 名
R3 4. 1	新規採用職員辞令交付・昇格辞令等交付
7. 27	献血
8. 4	令和2年度病院事業 第4四半期及び決算監査
9. 17	防災避難訓練及び防火訓練
10. 22	第 187 回桐生地域医療組合議会（定例会）
11. 16	令和3年度病院事業上半期（第1、第2四半期会計監査）
12. 9	洪水時等の避難訓練
R 4 2. 10	永年勤続職員表彰式
18	第 188 回桐生地域医療組合議会（定例会）
3. 16	防火訓練（夜間想定避難訓練）
23	献血
23	令和3年度病院事業 第3四半期会計監査
31	定年退職者感謝状贈呈式・定年退職者辞令交付
毎月 1 回（月末）	院内報告会

2 職員健康管理

実施年月日	行 事 名
R3 6. 1	がん予防検診（乳がん・子宮がん）
6. 11～17	職員定期健康診断（胸部X線撮影、血液・尿検査等）
5. 7	がん予防検診（胃がん・大腸がん）
8. 23～25	H B ワクチン接種（第1回）
9. 27～10. 1	H B ワクチン接種者抗体検査（1回接種者）
9. 27～29	H B ワクチン接種（第2回）
10. 15～21	インフルエンザ予防接種
11. 17	歯周病疾患検診
12. 1～7	職員定期健康診断（深夜業務従事者、放射線業務従事者）
R4 1. 24～26	H B ワクチン接種（第3回）
2. 28～3. 4	H B ワクチン接種者抗体検査（3回接種者）
毎月 1 回	食養科職員検便

3 職員共済会

(1) 目 的

地方公務員の規定に基づき、職員の福利厚生制度の適切な運営を図り、能率増進に資することを目的とします。

(2) 事 業

1. 共済給付事業

- (1) 傷病見舞金 (2) 死亡弔慰金 (3) 出産見舞金 (4) 災害見舞金
(5) 結婚祝金 (6) 退会給付金 (7) 勤続祝金 (8) 成人祝金

2. 福利厚生事業

- (1) 福利厚生事業

(3) 専門部

1. 総務部
2. 厚生部
3. 体育部
4. 文化部

(4) 実施行事

専門部名	行事名	実施日
総務部	○新年顔合わせ会	中止
厚生部	○職員旅行（日帰り）	中止
体育部	○ソフトバレーボール大会	中止
	○ボウリング大会	中止
文化部	○クリスマスリース作成	中止
	○日帰り旅行	中止

(5) 臨時事業

令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、職員共済会主催の事業が軒並み中止となっていることから、当院の医療維持を継続する職員を慰労する目的で、福利厚生観点から職員共済会員へクオカードの配付を臨時事業として令和4年3月に実施しました。

XVIII 付 属 施 設 等

1 群馬県立赤城特別支援学校桐生厚生総合病院内教室

(1) 概要

当院の桐生厚生総合病院内教室は、群馬県立赤城特別支援学校の院内教室で、入院治療を要する児童生徒のために、継続して教育が受けられることを目的として設置されました。

設置に至る経緯は、昭和 48 年に入院治療中の一教師の献身さと、小児患者の保護者の熱意と病院の理解と協力により、開設されました。

(2) 沿革

昭和 49 年	3 月	桐生厚生総合病院敷地内の旧看護婦宿舍西側 1 階の 7 部屋及び洗面所等(延面積 175.5 m ²)を病弱学級として改装し提供
昭和 49 年	4 月 9 日	桐生市立昭和小学校病弱学級を開級(許可学級 1、教諭 2)
昭和 50 年	4 月 1 日	桐生市立昭和小学校(病弱学級)となる。(許可学級 2)
昭和 52 年	7 月 9 日	分校の後援会「みずはなびの会」が発足
昭和 53 年	3 月 27 日	分校初の卒業式(2 名)
昭和 54 年	3 月 3 日	中学部設置準備のため小学部の 2 階 7 部屋等(延面積 175.5 m ²)を改装し提供
昭和 54 年	3 月 31 日	昭和小学校分校が県移管のため廃校
昭和 54 年	4 月 1 日	群馬県立東毛養護学校桐生厚生総合病院分教室小・中学校設置(延面積 351 m ² 、認可学級 4、教諭 4)
昭和 55 年	4 月 1 日	群馬県立東毛養護学校桐生分校に昇格(認可学級 5、教頭・教諭 5)
昭和 55 年	7 月 18 日	音楽室の使用(1 階 1 部屋延面積 17.6 m ²)を開始する
昭和 61 年	4 月 8 日	入学式・始業式(認可学級 6、教頭・教諭 8)
昭和 61 年	8 月 28 日	桐生厚生総合病院増改築工事に伴う新校舎竣工(平屋 1 棟面積 582.71 m ²)
昭和 61 年	9 月 1 日	第 2 学期から新校舎で授業(使用)開始
平成 元年	4 月 1 日	認可学級 6(小学部 3、中学部 3)教頭・教諭 9 人となる
平成 9 年	4 月 1 日	東毛養護学校及び西毛養護学校の統合により群馬県立赤城養護学校に校名変更となる
平成 17 年	4 月 1 日	認可学級 5(小学部 3、中学部 2)教頭・教諭 8 人となる
平成 21 年	4 月 1 日	認可学級 5(小学部 3、中学部 2)教頭・教諭 7 人となる
平成 27 年	4 月 1 日	群馬県立学校設置条例改正により、群馬県立赤城特別支援学校に校名変更し許可学級 5(小学部 3、中学部 2)教諭 5 人となる

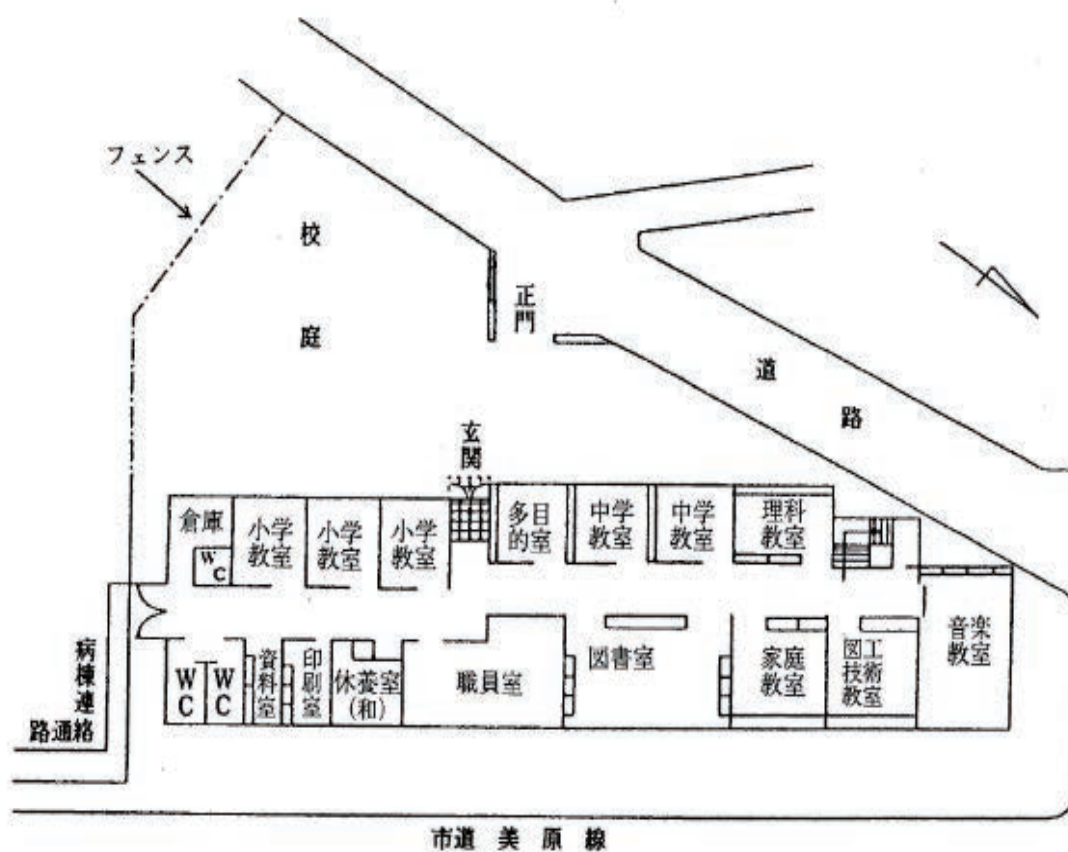
(3) 児童生徒数

年度 内訳	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
小学部	4 人	3 人	4 人	0 人	3 人
中学部	3 人	0 人	1 人	3 人	7 人
児童生徒数	7 人	3 人	5 人	3 人	10 人
延在学者数	7 人	3 人	5 人	3 人	11 人

(4) 連絡会議

桐生厚生総合病院内教室の円滑的運営に資するため、学校病院連絡会議を毎月(年 11 回)開催して相互理解を深め、児童・生徒の学校及び病院での生活、病状などの諸事項にわたり連携して指導、育成につとめています。

群馬県立赤城特別支援学校 桐生厚生総合病院内教室



2 感染症病床

(1) 病床の現況

平成 11 年 4 月 1 日から感染症及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 38 条第 2 項の規定に基づき群馬県知事から第二種感染症指定医療機関として 4 病床指定され、二次医療圏の中核病院として感染症患者の受入を行っています。

平成 14 年 12 月から翌年 2 月まで、群馬県の補助を受け感染症病棟の改修工事を着工し、平成 15 年 2 月 3 日から新病床の使用許可を受けました。

平成 15 年 12 月 20 日に桐生保健福祉事務所と合同による県内初の S A R S 対策シミュレーションを感染症病床にて試行いたしました。

平成 27 年 6 月 29 日及び 7 月 2 日に中東呼吸器症候群 (M E R S) 患者及び疑似症例来院時対応シミュレーションを同じく試行いたしました。

令和元年 9 月 19 日に桐生保健福祉事務所と合同で、新型インフルエンザ等医療提供訓練を実施し、患者受入れ時のシミュレーションを実施いたしました。

また、令和 2 年 2 月から、新型コロナウイルス感染症の診察に協力しています。

(2) 過去の受入状況

平成 12 年 9 月 21 日～平成 12 年 9 月 23 日 (腸チフス疑似)

平成 13 年 4 月 22 日～平成 13 年 5 月 8 日 (腸チフス)

平成 16 年 12 月 6 日～平成 16 年 12 月 8 日 (細菌性赤痢)

令和 2 年 2 月 11 日～ (新型コロナウイルス感染症)

XIX 編集委員・部員名簿

【編集委員】

役 職 名	職 名	氏 名
委 員 長	院 長	加 藤 広 行
委 員	内 科 部 長	菅 間 一 乃
〃	整 形 外 科 部 長	斯 波 俊 祐
〃	副 院 長	曲 澤 聡
〃	リハビレリテーション技術科 長	勝 山 典 年
〃	放 射 線 技 術 科 長	磯 昌 宏
〃	中 央 検 査 科 長	梶 田 幸 夫
〃	栄 養 管 理 科 長	小 林 誠
〃	臨 床 工 学 科 係 長	三 木 康 正
〃	薬 剤 科 長 補 佐	細 谷 潤
〃	看 護 部 長	粕 川 由貴子
〃	医 療 安 全 管 理 者	高 橋 紀 子
〃	感 染 対 策 室 看 護 師	山 田 あゆり
〃	事 務 長	関 口 宏
〃	総 務 課 長	新 井 教 弘
〃	契 約 管 財 課 長	宇津野 貴
〃	医 事 課 長	宮 田 晋 一
〃	地 域 医 療 連 携 室 主 幹	上 原 美奈子

【編集部員】

役 職 名	所 属	職 名	氏 名
部 会 長	整 形 外 科	診療部長	斯 波 俊 祐
部 会 員	リハビレリテーション技術科	主 査	石 川 有 理
〃	放 射 線 技 術 科	科長補佐	小 林 誠
〃	中 央 検 査 科	主 任	中 野 桜 子
〃	栄 養 管 理 科	主 任	岩 崎 博 貴
〃	臨 床 工 学 科	主 査	加 藤 優 典
〃	薬 剤 科	主 任	下 山 遥
〃	看 護 部	副看護部長	鈴 木 由美子
〃	看 護 部	看護師長	深 井 昌 美
〃	総 務 課	課長補佐	石 井 理 彦
〃	経 営 政 策 課	課長補佐	杉 原 真 一
〃	経 営 政 策 課	課長補佐	藺 田 達 也
〃	契 約 管 財 課	係 長	石 原 孝 泰
〃	契 約 管 財 課	主 査	福 田 豊 和
〃	医 事 課	係 長	本 田 英 之
〃	医 事 課	主 査	古 舘 千 秋
〃	地 域 医 療 連 携 室	室長補佐	金 子 孝 進

【事務局】

総務課課庶務係長	剣 物 裕 司
総務課課庶務係主事	大 津 恵